RX500h / RX350h

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方..... 11
検索のしかた..... 12
イラスト目次..... 13

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ..... 31
排気ガスに対する注意 37
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 38
チャイルドシート..... 39
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 53
ハイブリッドシステムの注意 58
1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 63
オートアラーム..... 64

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 70
計器類 74
マルチインフォメーションディスプレイ 82
ヘッドアップディスプレイ 84
ディスプレイの表示内容 87

3 運転する前に

3-1. キー
キー 98
デジタルキー 103
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア..... 106
パワーバックドア 112
スマートエントリー＆スタートシステム..... 127
3-3. シートの調整
フロントシート 133
リヤシート 135
ヘッドレスト 140
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 143
デジタルインナーミラー..... 144
ドアミラー 152
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 155
パノラマムーンルーフ..... 158
3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能..... 162
マイセッティング 166

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 171
荷物を積むときの注意..... 178
4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 180
EV ドライブモード..... 184
オートマチックトランスミッション 186
ハイブリッドトランスミッション 192
方向指示レバー 198
パーキングブレーキ..... 199
ブレーキホールド 202
ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 205
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 209
AHB（オートマチックハイビーム）..... 212
フォグランプスイッチ..... 214
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 215
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 219

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 221

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ [渋滞時支援]）..... 224
Lexus Safety System + ... 226
ドライバーモニター..... 235
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 237
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 246
LCA（レーンチェンジアシスト）..... 251
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 255
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 260
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 265
発進遅れ告知機能..... 267
RSA（ロードサインアシスト）. 269
レーダークルーズコントロール. 272
クルーズコントロール..... 282
ドライバー異常時対応システム. 286
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）..... 289
ITS Connect..... 293
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 299
後方車両接近告知..... 304
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）..... 306
後方車両への接近警報..... 309
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 311
安心降車アシスト 313
クリアランスソナー..... 318
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 326
RCD（リヤカメラディテクション）..... 331
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 334
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 338
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 341
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 343
Lexus Teammate Advanced Park 344
ドライブモードセレクトスイッチ..... 376
Trail Mode 378
運転を補助する装置..... 379
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 387

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 392
寒冷時の運転 394

5 室内装備・機能

5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ..... 398

5-2. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン..... 399
リヤエアコン 407
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター 408

5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 412
5-4. 収納装備
収納装備一覧 415
ラゲージルーム内装備 420
5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 423
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 434
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 443

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 448
内装の手入れ 452
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 454
ガレージジャッキ 456
ウォッシャー液の補充 457
タイヤについて 458
タイヤの交換 467
タイヤ空気圧について 473
エアコンフィルターの交換 474
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 . 477
電子キーの電池交換 480
ヒューズの点検・交換 483
電球（バルブ）の交換 485

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 488
非常点滅灯（ハザードランプ） ... 489
発炎筒 489
車両を緊急停止するには 490
水没・冠水したときは 491
車中泊が必要なときは 492
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 493
警告灯がついたときは 498
警告メッセージが表示されたときは 506
パンクしたときは 522
ハイブリッドシステムが始動できないときは 531
キーをなくしたときは 533
電子キーが正常に働かないときは 533
ドア開スイッチでドアを開けることができないときは 536
補機バッテリーがあがったときは 538
オーバーヒートしたときは 545
スタックしたときは 550

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 554
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧 .. 560
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 581
8-4. フリー／オープンソースソフトウェア
フリー／オープンソースソフトウェア情報 582

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 584
車から音が鳴ったときは（音さくいん） 586
アルファベット順さくいん 589
五十音順さくいん 591

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

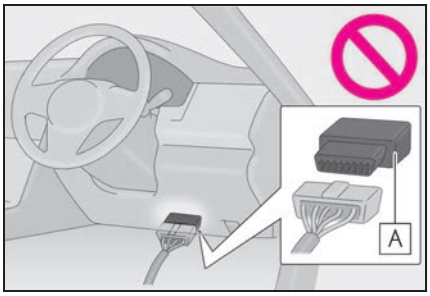
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ※1

※1グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）※2

※2車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはレクサス販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Lexus Safety System + によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Lexus Safety System + により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- ●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ●警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ●トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- ●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- ●自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- ●地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ●道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ●交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- ●レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、レクサス販売店にて、消去することが可能です。

また、画像データを記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System + によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）★

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付

け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.387）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO2 排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：
お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。
URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されてい

る場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

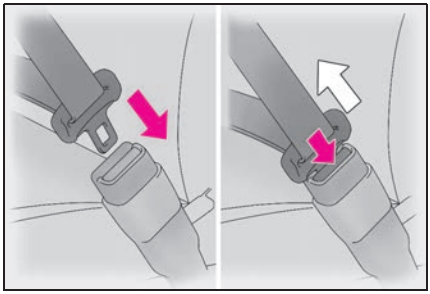
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

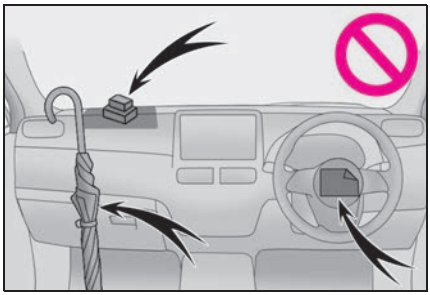
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

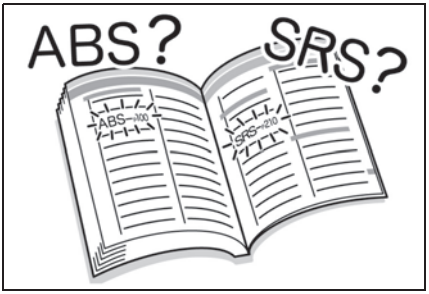


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

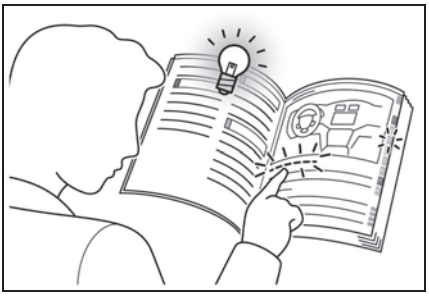
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.591
●アルファベット順さくいん：P.589



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.13

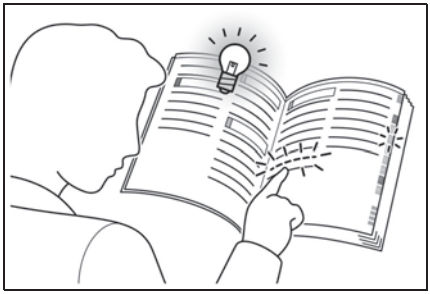


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.584
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.586

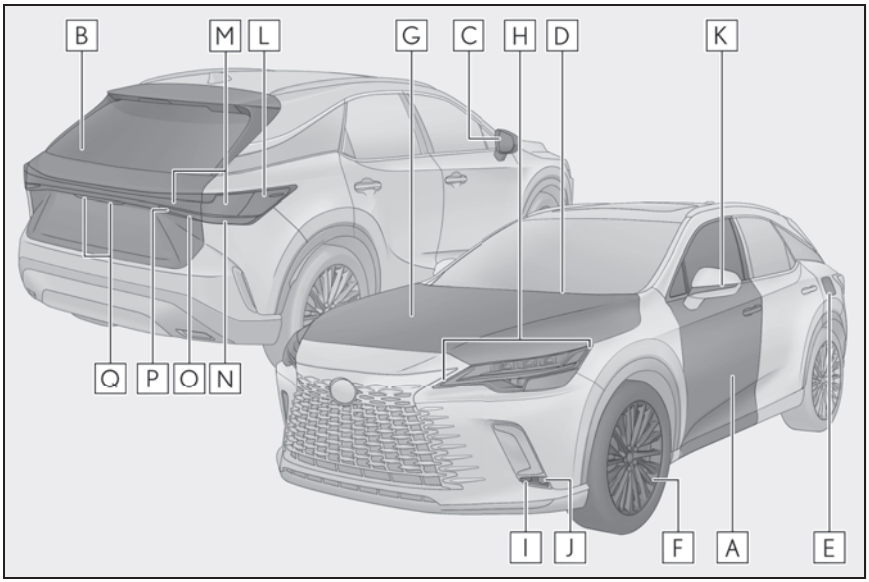
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■外観



A ドア.....P.106

施錠／解錠.....P.106

ドアの開閉.....P.110

ドアガラスの開閉.....P.155

メカニカルキーでの施錠／解錠.....P.533

警告メッセージ.....P.506

B バックドア.....P.112

施錠／解錠.....P.113

車内から開ける.....P.114

車外から開ける.....P.114

警告メッセージ.....P.506

C ドアミラー.....P.152

鏡面の角度調整.....P.152

ミラーの格納.....P.153

調整位置の登録.....P.162

曇りを取る（ミラーヒーター）.....P.404

D ワイパー.....P.215

冬季の注意.....P.394

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）.....P.404

洗車時の注意.....P.450

E 給油口.....P.221

給油方法.....P.221

燃料の種類・燃料タンク容量.....P.554

F タイヤ.....P.458

サイズ・空気圧.....P.458, 559

冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P.394

点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P.458

パンク時の対処.....P.522

G ボンネット.....P.454

開け方.....P.454

エンジンオイル.....P.554

オーバーヒート時の対処.....P.545

警告メッセージ.....P.506

走行に関わる外装のランプバルブ

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイタイムランニングランプ・フロント方向指示灯P.198, 205

I コーナーリングランプ.....P.208

J フロントフォグランプ.....P.214

K サイド方向指示灯.....P.198

L リヤサイドマーカーランプ.....P.205

M 尾灯／制動灯.....P.205

緊急ブレーキシグナル.....P.380

N リヤ方向指示灯／制動灯.....P.198, 205

緊急ブレーキシグナル.....P.380

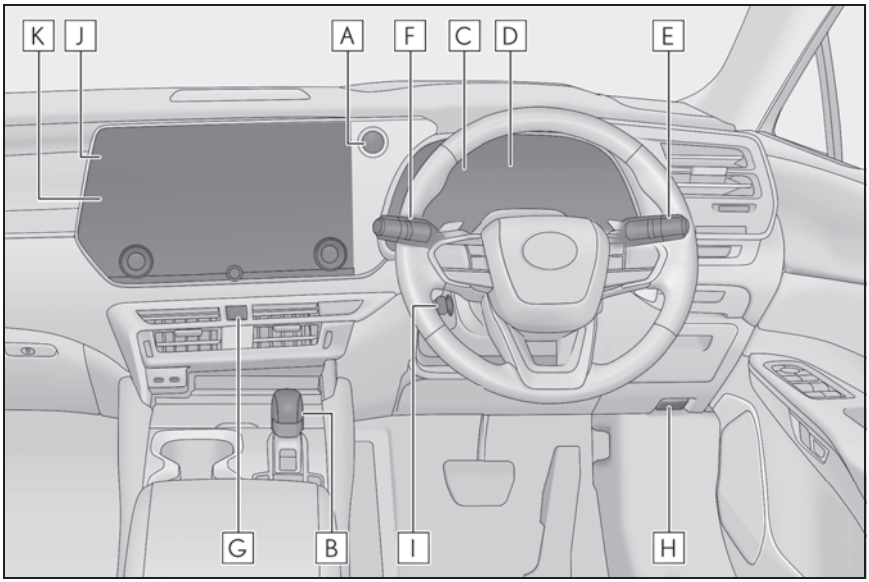
O 後退灯

シフトポジションを R にする P.187, 193

P リヤフォグランプ P.214

Q 番号灯.....P.205

■インストルメントパネル



A パワースイッチ P.180

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.180

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.490

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処.....P.531

警告メッセージ P.506

B シフトレバー P.186, 192

シフトポジションの切りかえ.....P.187, 193

けん引時の注意 P.493

C メーター.....P.74

見方・明るさの調整 P.74, 82

警告灯／表示灯 P.70

警告灯点灯時の対処 P.498

D マルチインフォメーションディスプレイ P.82

表示内容.....P.82

エネルギーモニター P.90

警告メッセージ表示時の対処.....P.506

E 方向指示レバー P.198
ランプスイッチ P.205

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・リヤサイドマーカーランプ・番号灯・LED デイタイムランニングランプ P.205

フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.214

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ.....P.215, 219

使い方.....P.215, 219

ウォッシャー液の補充 P.457

警告メッセージ P.506

G 非常点滅灯スイッチ P.489

H ボンネット解除レバー P.454

I ハンドル位置調整スイッチ.....P.143

調整方法.....P.143

調整位置の登録 P.162

J オートエアコン P.399

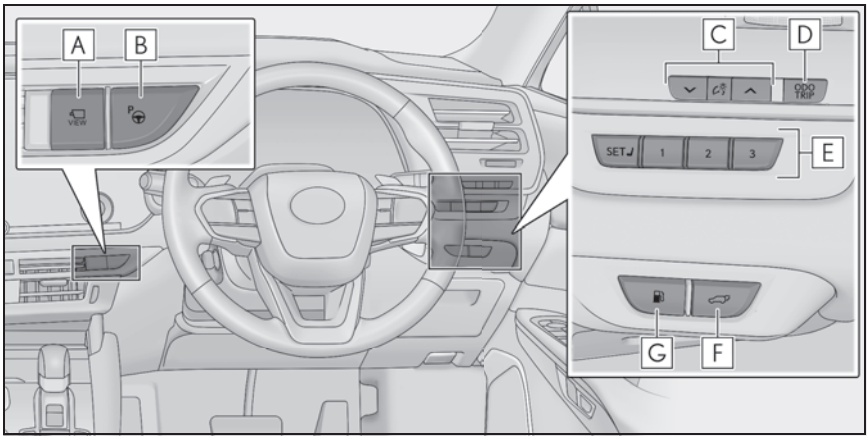
操作方法.....P.399

リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....P.404

K オーディオ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



A カメラスイッチ※

B Advanced Park（駐車支援システム）メインスイッチ P.344

C インストルメントパネル照度調整スイッチ P.82

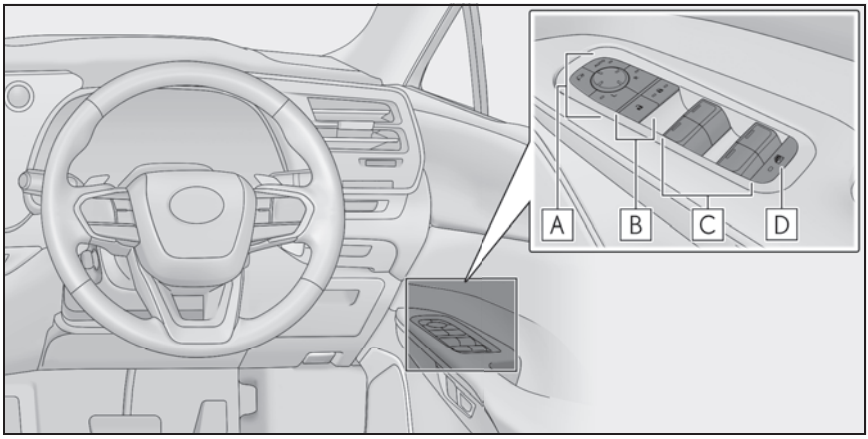
D “ODO TRIP” スイッチ.....P.80

E ポジションメモリースイッチ.....P.162

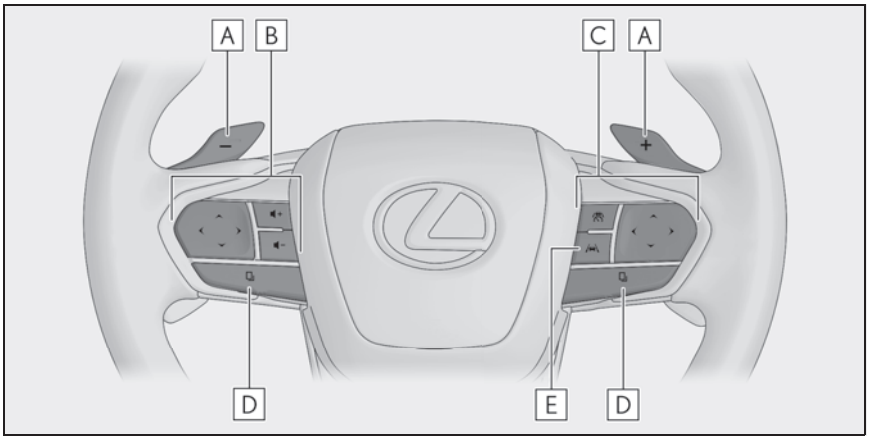
F パワーバックドアスイッチ.....P.114

G 給油扉オープナースイッチ.....P.222

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

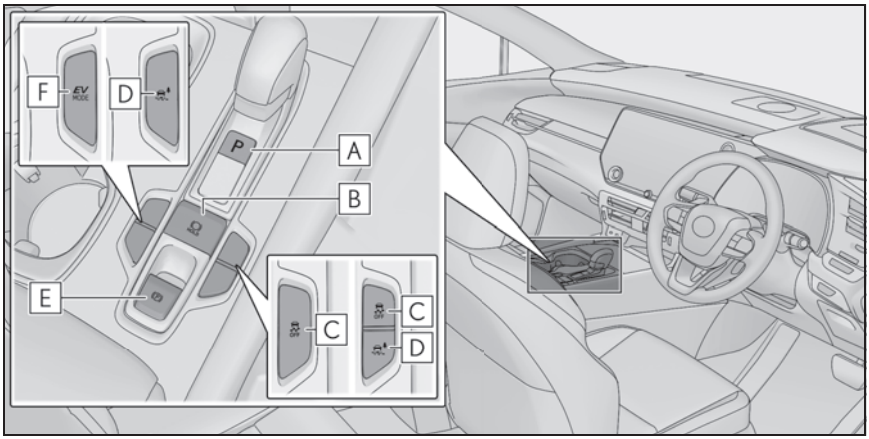


A ドアミラースイッチ P.152
B ドアロックスイッチ P.109
C パワーウインドウスイッチ.....P.155
D ウインドウロックスイッチ.....P.157



A パドルシフトスイッチ P.190, 196
B オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ※
C クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール.....P.274
クルーズコントロール P.282
D 機能切りかえスイッチ P.87
E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ.....P.248

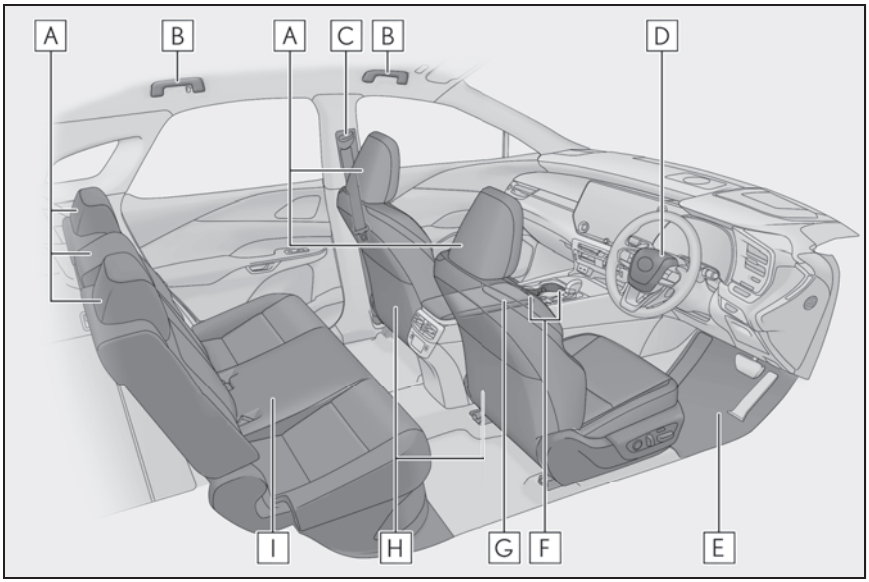
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A Pポジションスイッチ.....P.187, 193
B ブレーキホールドスイッチ P.202
C VSC OFF スイッチ.....P.381
D Trail Mode スイッチ★ P.378
E パーキングブレーキスイッチ.....P.199
かける・解除する P.199
冬季の注意.....P.395
警告ブザー・警告メッセージ.....P.506
F EV ドライブモードスイッチ★.....P.184

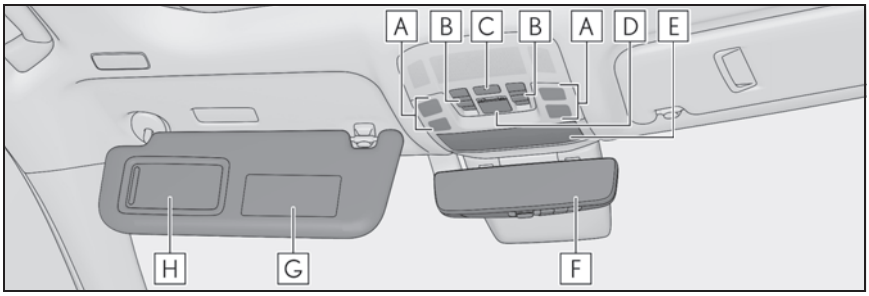
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■室内



A ヘッドレスト P.140
B アシストグリップ P.431
C シートベルト P.27
D SRS エアバッグ P.31
E フロアマット P.24
F カップホルダー P.417
G コンソールボックス P.416
H フロントシート P.133
I リヤシート P.135

■天井



A インテリアランプ P.413
パーソナルランプ※1 .....P.413
B パノラマムーンルーフスイッチ★ P.158
C インテリアランプドア連動スイッチ P.413
D ヘルプネットスイッチパネル※2
E 小物入れ.....P.418
F デジタルインナーミラー P.144
G サンバイザー※3 .....P.432
H バニティミラー P.432

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※3やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.41）

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ 31
排気ガスに対する注意 37

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 38
チャイルドシート 39

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 53
ハイブリッドシステムの注意 58

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 63
オートアラーム 64

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

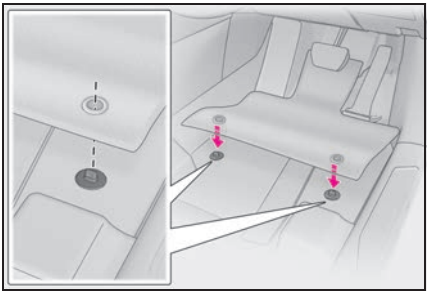
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

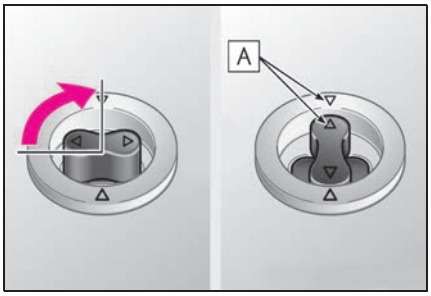
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

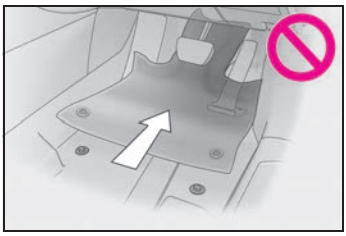
■運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

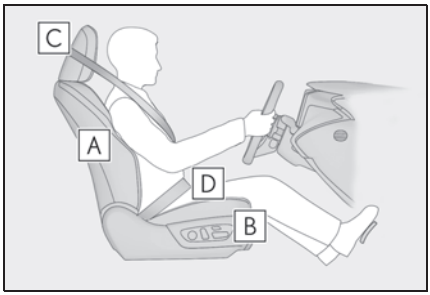


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.133）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.133）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.140）

D シートベルトを正しく着用する（→P.27）

⚠ 警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.27)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.39)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.144, 152)

シートベルト

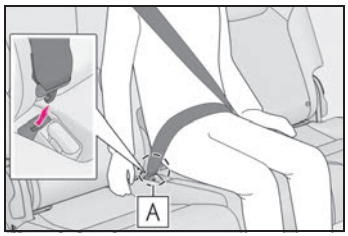
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

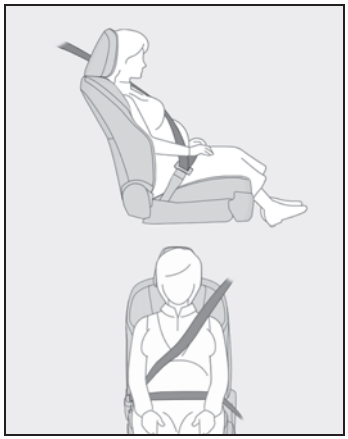
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、図のA部が結合されていることを確認する
  結合されていない場合は結合してから使用する



■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.50

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

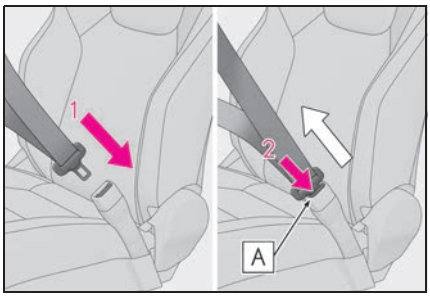
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.39)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

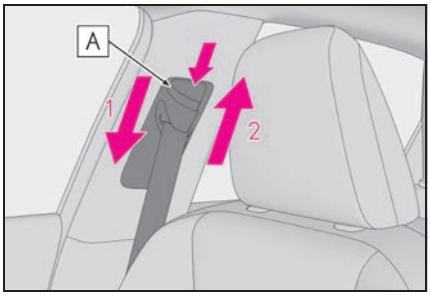
2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

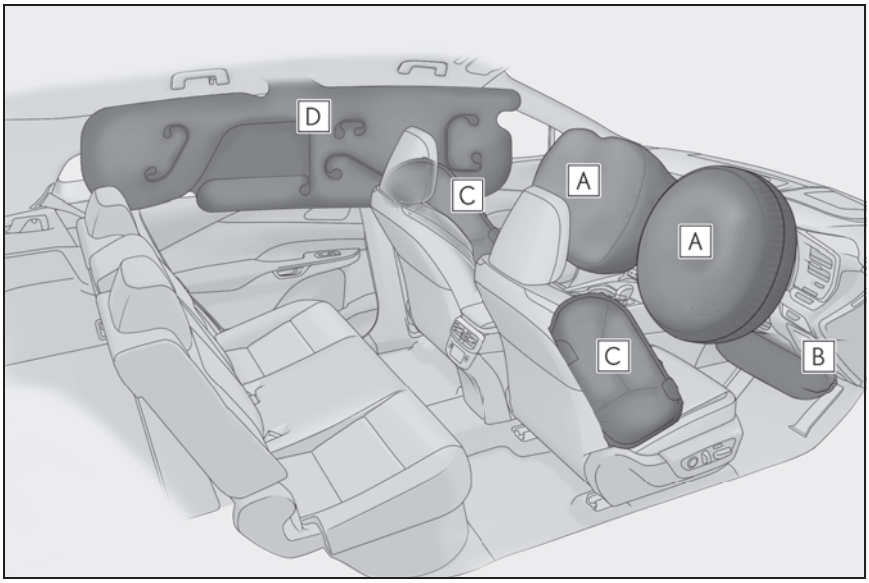
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

・ フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.61）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.108）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.380）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.414）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.489）

■緊急通報について

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
・ SRS エアバッグが作動した
・ シートベルトプリテンショナーが作動した
・ 車両に一定以上の衝撃を受けた

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・ シートベルトプリテンショナー

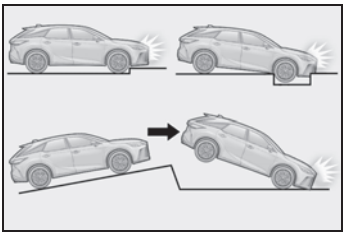
●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

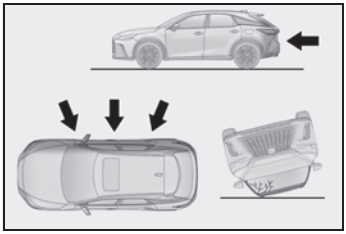
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



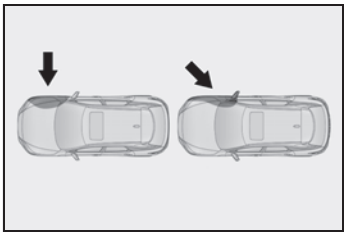
■SRS エアバッグが作動しないとき

●次の SRS エアバッグは、側面や後方か

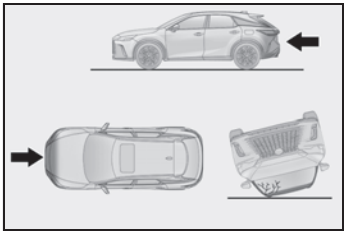
らの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



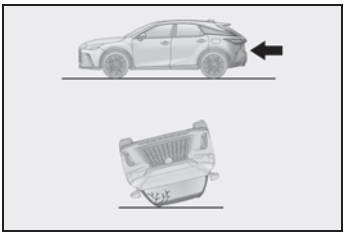
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

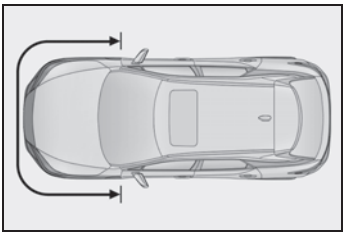


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

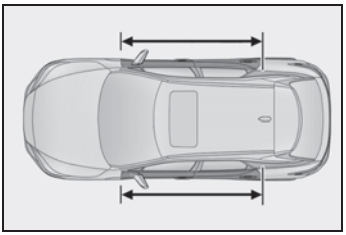
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボー

ドの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

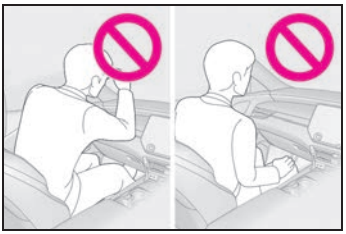
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

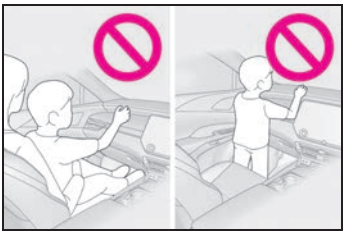
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.39)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



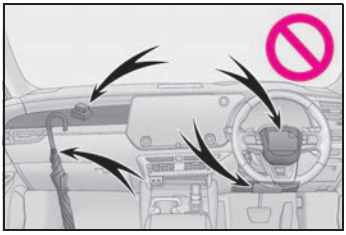
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P.525）

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ ハンドル
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード
・ シート
・ シート表皮
・ フロントピラー
・ センターピラー
・ リヤピラー
・ ルーフサイドレール
・ フロントドアパネル
・ フロントドアトリム
・ フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理・改造

・ フロントフェンダー
・ フロントバンパー
・ 車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・ グリルガード
・ 除雪装置
・ ウインチ
・ ルーフキャリア

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.39)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.110)・ウインドウロックスイッチ(→P.157)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.39 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.39

チャイルドシートを使用するときは：P.40

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.43

チャイルドシートの取り付け方法：P.48

・ シートベルトで固定する：P.48

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.50

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.51

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→P.43）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

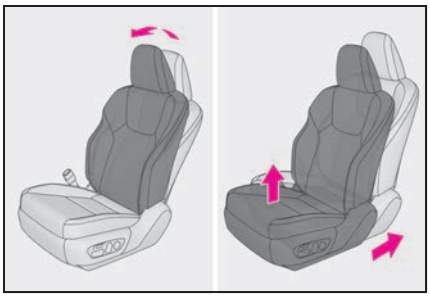
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

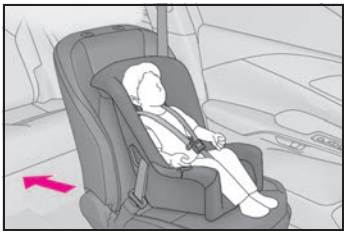
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



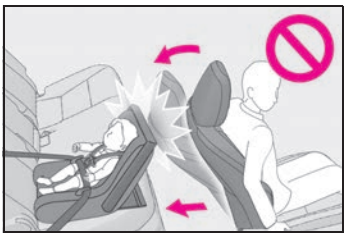
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

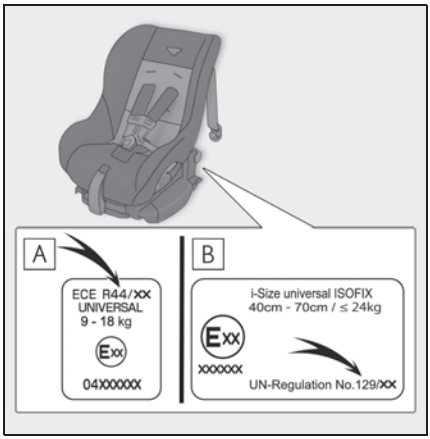
■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.47）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



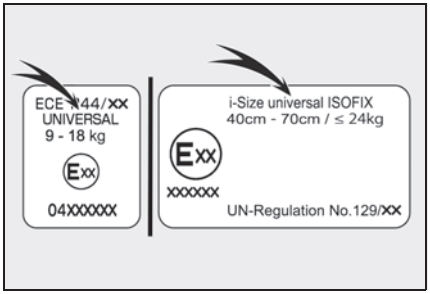
法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

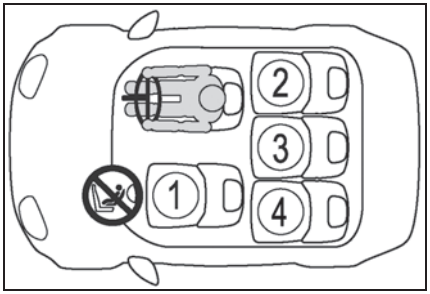
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U　L
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3	U　L

U　車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF　車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L　推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.47）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

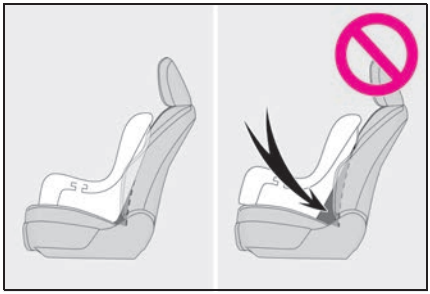
トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態

で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3）	×	R1、R2X、R2、R3	×	R1、R2X、R2、R3

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、F3	×	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	B2、B3 シートベルト固定のみ	B2、B3	B2、B3 シートベルト固定のみ	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

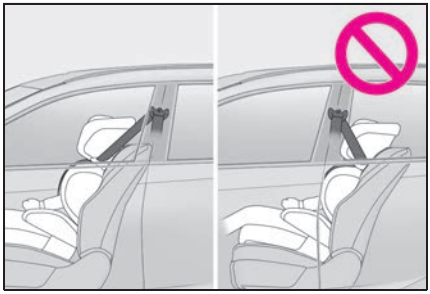
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	うしろ向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	×	○
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

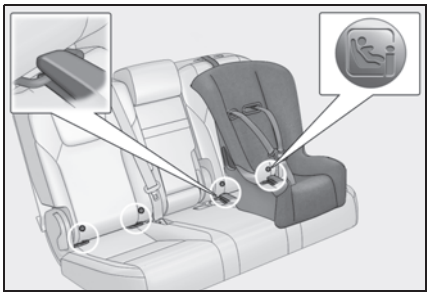
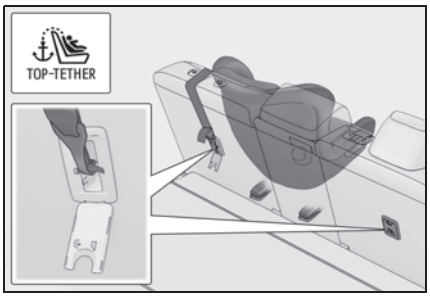


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。ま

た、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.48
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.51

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユ

ニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.40）

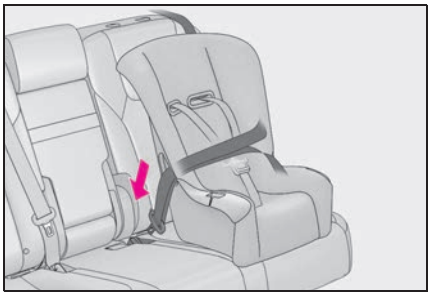
2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.140）

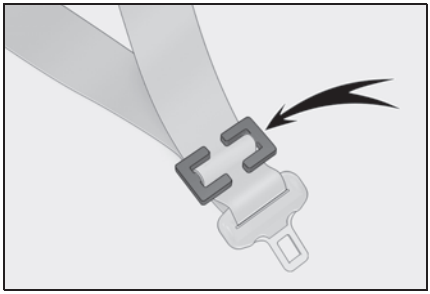
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.50）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

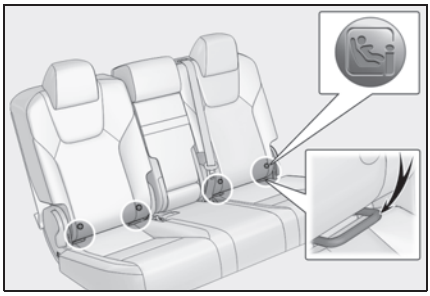
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.43、44)

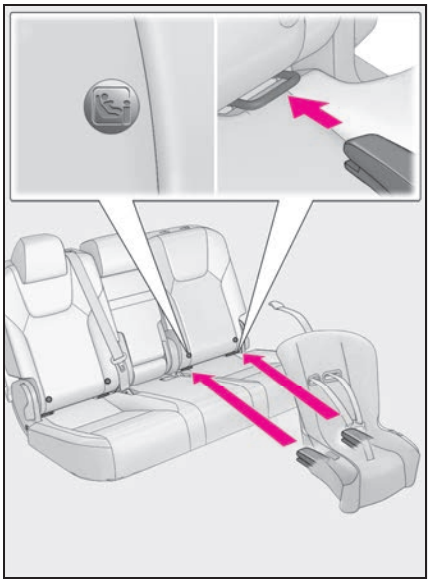
1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれと チャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.140)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.50）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

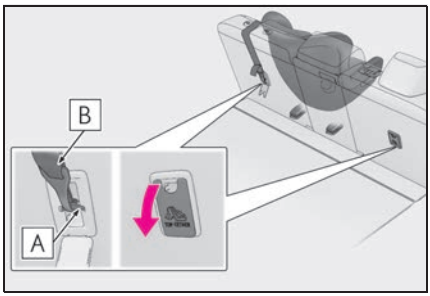
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

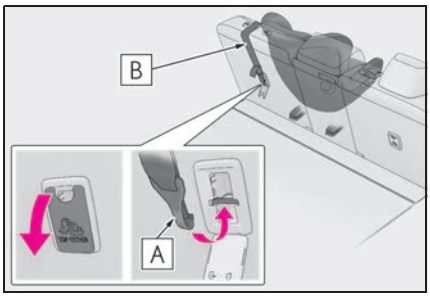
1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→P.140）

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.50)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

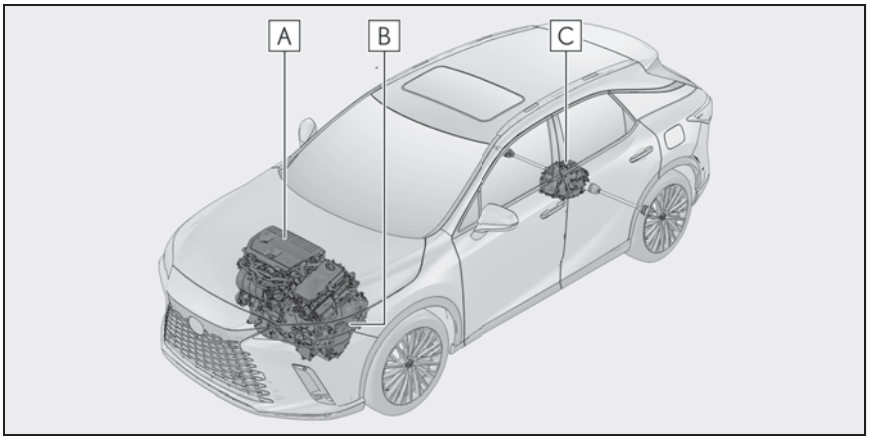
使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

▶ RX350h



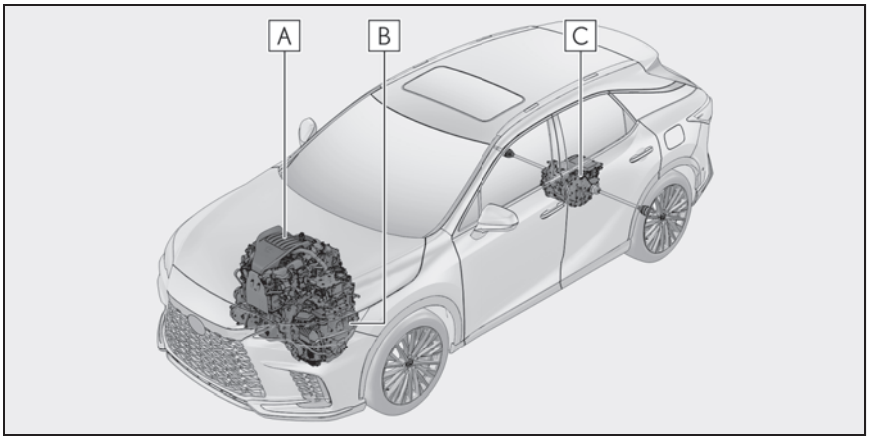
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（AWD 車）

▶ RX500h



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

RX350h：シフトポジションがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P.55)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

AWD車：走行状態によっては、フロント電気モーターで発電した電力を用いてリヤ電気モーターを駆動します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エ

ネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●RX350h：シフトポジションがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

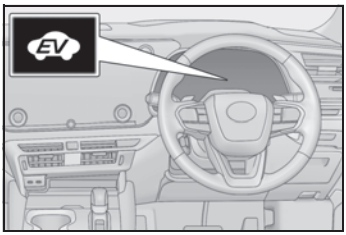
●RX500h：シフトポジションがDまたはMで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●RX350h：シフトポジションがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

●RX500h：シフトポジションがDまたはMで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあり、燃費が低下する場合があります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

●READY インジケーターが点灯中にボンネットを開けたとき

●急加速・急減速をくり返したとき

●長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき

●長い下り坂を走行したとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.542

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に後席下から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。この音は、車内にも聞こえることがあります。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

■マルチインフォメーションディスプレイに “車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください” が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

先読みエコドライブ（RX350h）

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

過去のドライバーの行動をデータベースに蓄積し、どこで減速・停止をするかを予測します。減速・停止行動を蓄積した地点に対して減速支援を行うことで、駆動用電池の充電量を増やすことができます。

登録された減速支援地点に車両が近づくと、アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高めます。

■ 先読み SOC※ 制御

※ SOC は駆動用電池残量です。

電力を効率よく使用して走行するた

めに、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

知識

■先読み SOC 制御について

本機能はナビの案内稼働中、かつそのルート上に車両がいる場合に実施されます。（駐車場などでは実施されません）

ハイブリッドシステムの注意

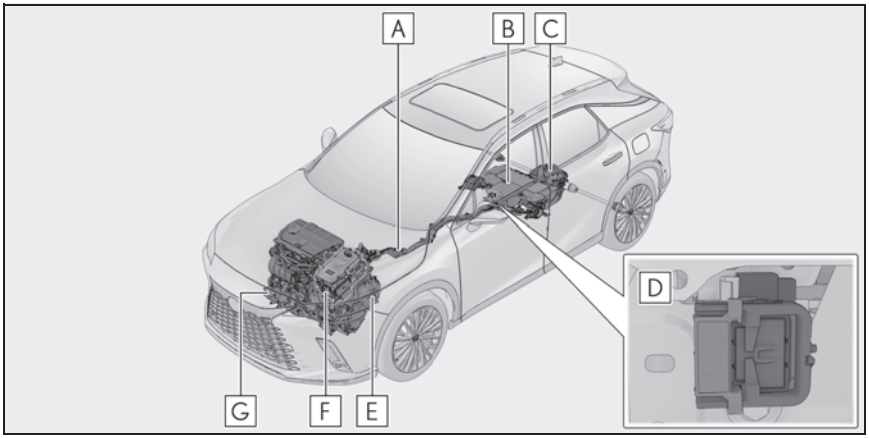
ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V※1 または約 393.6V※2）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠表示を含んだラベルが貼付されています。

※1RX350h

※2RX500h

システムの構成部品

▶ RX350h



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 高電圧ケーブル（オレンジ色）

B 駆動用電池

C リヤ電気モーター（AWD 車）

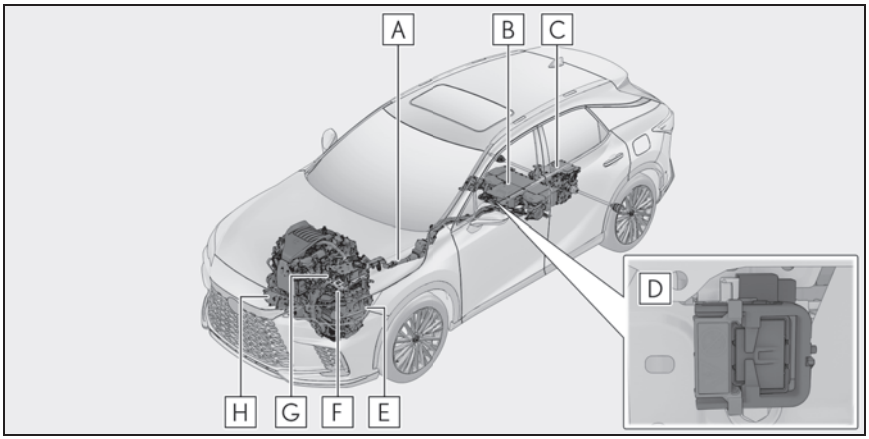
D サービスプラグ

E フロント電気モーター

F パワーコントロールユニット

G エアコンコンプレッサー

▶ RX500h



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 高電圧ケーブル（オレンジ色）

B 駆動用電池

C リヤ電気モーター／インバーター（リヤ）

D サービスプラグ

E フロントト電気モーター

F インバーター（フロント）

G DC ／ DC コンバーター

H エアコンコンプレッサー

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.500）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 9.8 L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合

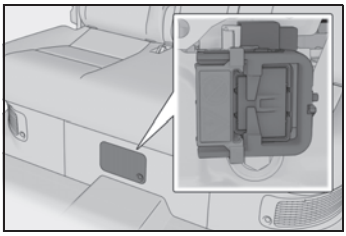
しています。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する。
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪（FF 車）または 4 輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.493）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

⚠ 警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動用電池について

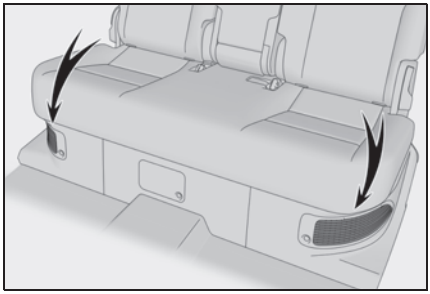
駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤ席下部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。
駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。(→P.477)

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

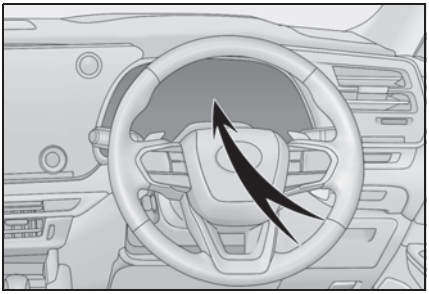
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを

再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

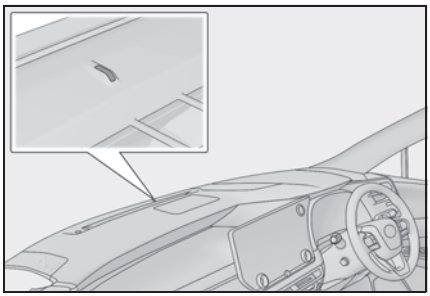
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

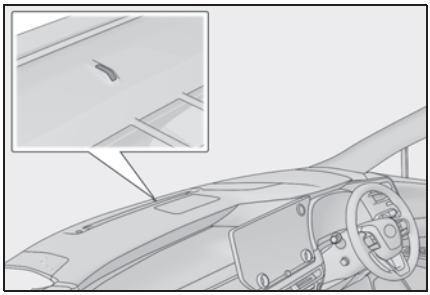
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

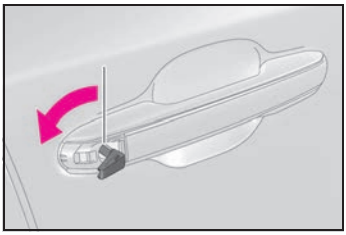
G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラームの作動について

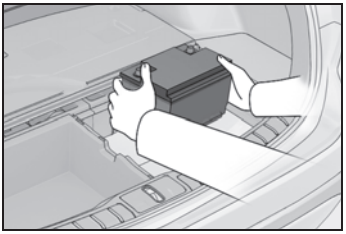
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.538）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.64)

■ 侵入・傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 ショートカット画面表示スイッチを選択する

2 を押す

操作したシンボルが白色に変わり、侵入・傾斜センサーが停止します。

もう一度タッチすると、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON にするたびに、センターディスプレイのシンボルが変化します。

知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

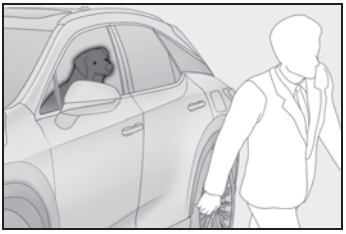
●侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

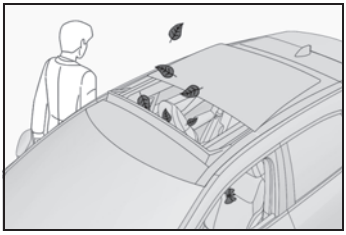
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



●ドアガラスやパノラマムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。

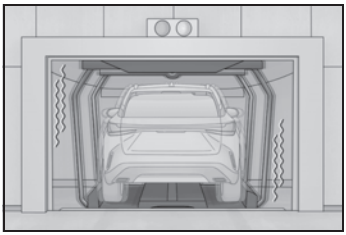
・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
・ 室外の歩行者の動き



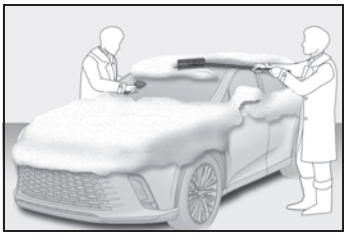
●蜾や ハエなど小さな虫が車内にいる場合

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■傾斜センサーについての留意事項

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

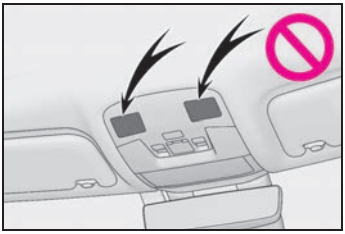
●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

⚠ 注意

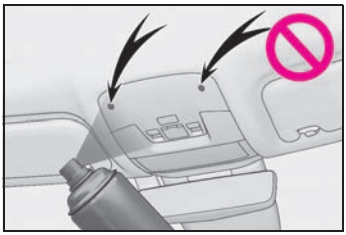
■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



⚠注意

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 70
計器類 74
マルチインフォメーションディスプレイ 82
ヘッドアップディスプレイ 84
ディスプレイの表示内容 87

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯や表示灯で車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

メーターの表示状態によって、一部の警告灯／表示灯の位置が異なります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

- ブレーキ警告灯 ※1 (→P.498)（赤色）
- ブレーキ警告灯 ※1 (→P.498)（黄色）
- 高水温警告灯 ※2 (→P.498)
- ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2 (→P.498)
- 充電警告灯 ※2 (→P.499)
- 油圧警告灯 ※2 (→P.499)
- エンジン警告灯 ※1 (→P.499)
- SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1 (→P.499)
- ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1 (→P.499)
- ペダル誤操作警告灯 ※2 (→P.500)
- パワーステアリング警告灯 ※1 (→P.500)（赤色）
- パワーステアリング警告灯 ※1 (→P.500)（黄色）
- 燃料残量警告灯 (→P.500)

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.500）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.501）

タイヤ空気圧警告灯 ※1（→P.501）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.501）

PCS 警告灯 ※1（→P.501）

（黄色）
LTA 表示灯（→P.502）

（黄色）
LDA 表示灯（→P.502）

（黄色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.502）

（黄色）
クルーズコントロール表示灯（→P.502）

（黄色）
PDA 表示灯（→P.502）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.503）

（点灯）
スリップ表示灯 ※1（→P.503）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.503）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.504）

※1作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.198）

尾灯表示灯（→P.205）

ハイビーム表示灯（→P.208）

AHS 表示灯（→P.209）
AHB 表示灯（→P.212）

フロントフォグランプ表示灯（→P.214）

リヤフォグランプ表示灯（→P.214）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.246）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯（→P.282）

（白色）
クルーズコントロール表示灯（→P.282）

（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.274）

（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.274）

（緑色）
LDA 表示灯（→P.258）

（白色）
LDA 表示灯（→P.258）

（黄色［点滅］）
LDA OFF 表示灯 ※2（→P.258）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.249）

（白色）
LTA 表示灯（→P.249）

ドアミラーインジケーター ※3（→P.299, 313, 326）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.319）

クリアランスソナー検知表示灯★（→P.319）

運転支援情報表示灯 ※1, 2（→P.299, 313, 326, 331, 334）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1（→P.381）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.381）

READY インジケーター（→P.180）

パーキングブレーキ表示灯（→P.199）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.202）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.202）

EV インジケーター（→P.55）

低温表示灯 ※4（→P.74）

ITS Connect アイコン（→P.294）

ITS Connect アイコン（→P.294）

ITS Connect アイコン（→P.294）

プラスサポート表示灯★（→P.387）

（白色）
PDA 表示灯（→P.263）

（緑色）
PDA 表示灯（→P.263）

制動灯表示灯（→P.73）

● 走行モード表示

EV ドライブモード表示灯（RX350h のみ）（→P.184）

エコドライブモード表示灯（→P.376）

スポーツ表示灯（→P.376）

カスタマイズモード表示灯（→P.376）

Trail Mode 表示灯★（→P.378）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受け

てください。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

※4外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

センターディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

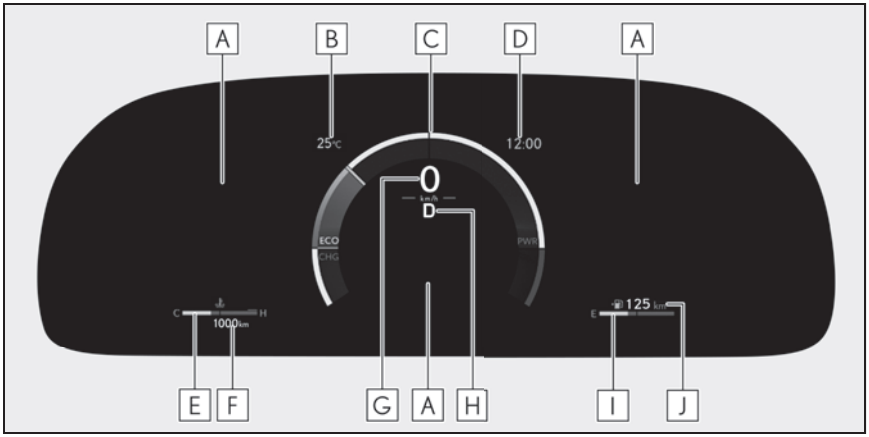
計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

シフトポジションや走行モード、設定などに応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。設定はセンターディスプレイで変更することができます。(→P.560)

▶ 表示タイプ 1（F SPORT 以外／F SPORT［スポーツモード以外］）



A マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→P.82)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.506)

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター ※

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.79)

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.80）

G デジタルスピードメーター

H シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示（RX500h）（→P.186, 192）

I 燃料計

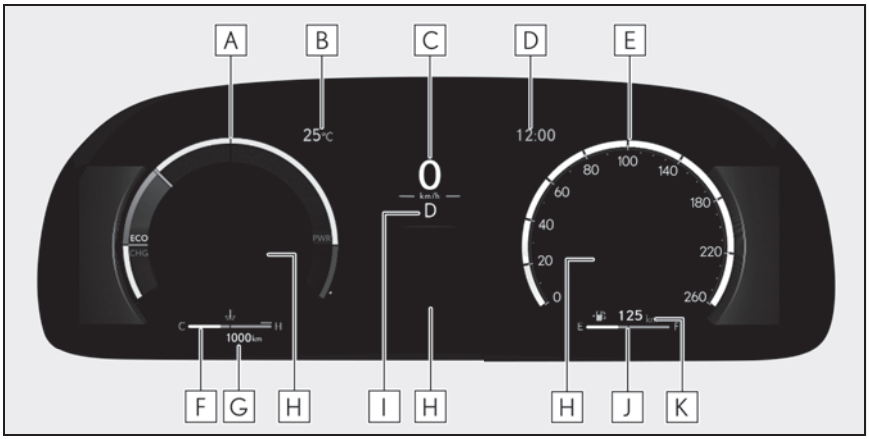
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 15L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ 表示タイプ 2



A ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター ※

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.79）

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E アナログスピードメーター ※

F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.80）

H マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.82）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.506）

I シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示（RX500h）（→P.186, 192）

J 燃料計

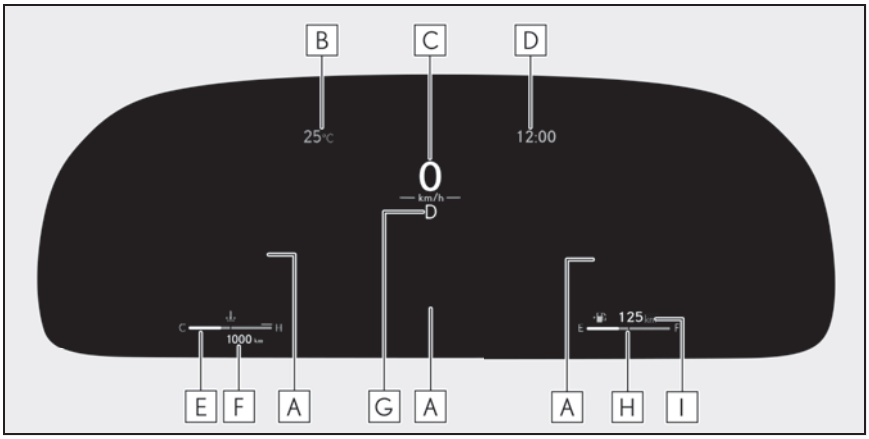
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 15L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

K 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ 表示タイプ 3（F SPORT 以外）



A マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.82）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.506）

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊

「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.80）

G シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示（RX500h）（→P.186, 192）

H 燃料計

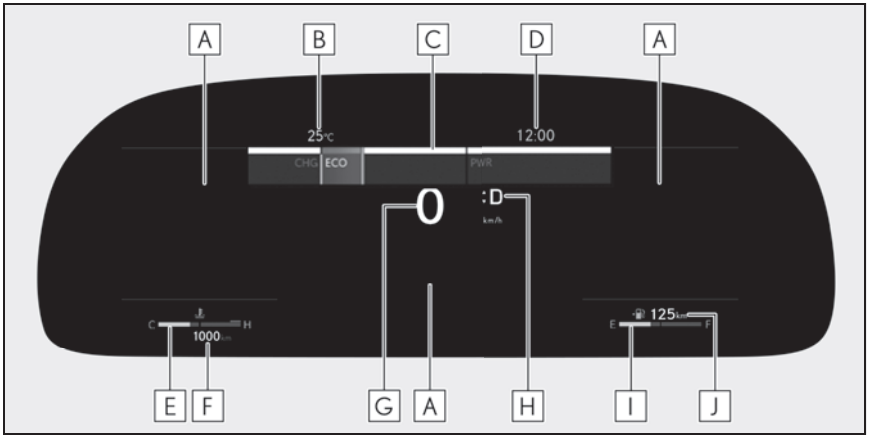
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 15L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

I 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ 表示タイプ 1（F SPORT ［スポーツモード］）／表示タイプ 3（F SPORT）



A マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.82）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.506）

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター ※

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.79）

走行モードや設定によって表示が切りかわります。

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.80）

G デジタルスピードメーター

H シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示（→P.186）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 15L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

※ マルチインフォメーションディスプレイの表示項目や運転支援システムの作動状態によっては表示されません。

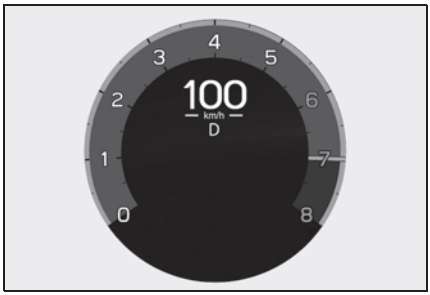
■ REV インジケーター（F SPORT）

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーターを強調表示します。

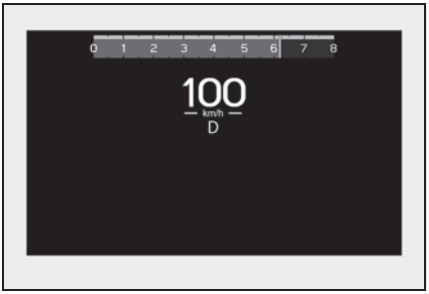
設定したエンジン回転数に到達したときは橙色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

センターディスプレイで、表示を開始するエンジン回転数を設定できます。（→P.560）

▶ ダイヤル表示状態



▶ バー表示状態

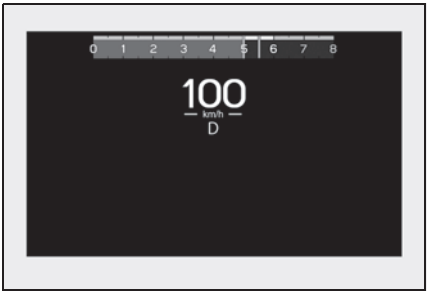


■ REV ピーク（F SPORT）

4000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーターの残像を約 1 秒間表示します。

▶ ダイヤル表示状態

▶ バー表示状態

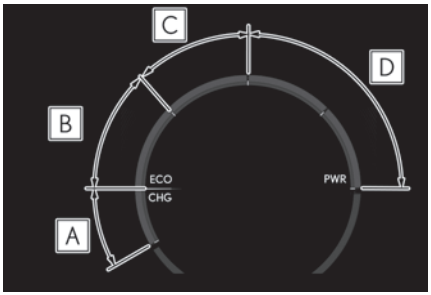


知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

A チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

- インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち

密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 15L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.81）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターが表示されているときは、タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときや、“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.545）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

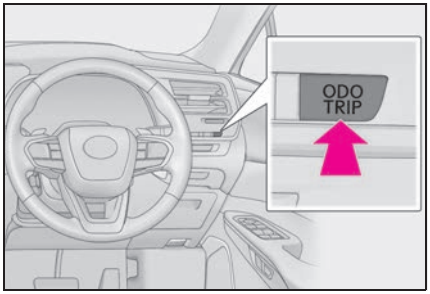
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター／スピードメーターの表示の切りかえ

走行モードや設定に応じて、次のように表示が切りかわります。設定はセンターディスプレイで変更できます。(→P.560)

● タコメーター

メーター表示タイプの設定がタイプ 1 のときに表示されます。

F SPORT：タイプ 3 の状態で、次のときにも表示されます。

・ タコメーター切りかえの設定が常時タコメーター表示のとき

・ タコメーター切りかえの設定が自動切りかえの状態で走行モードがスポーツモードのとき

● ハイブリッドシステムインジケーター

メーター表示タイプの設定がタイプ 1 のときに表示されます。

F SPORT：タイプ 3 の状態で、次のときにも表示されます。

・ タコメーター切りかえの設定が常時ハイブリッドシステムインジケーター表示のとき

・ タコメーター切りかえの設定が自動切りかえの状態で走行モードがスポーツモード以外のとき

● スピードメーター

デジタルスピードメーターが常に表示されます。

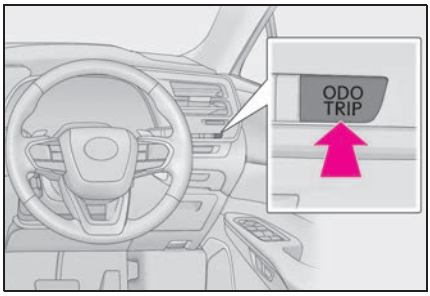
メーター表示タイプの設定がタイプ 2 のときは、アナログスピードメーターも表示されます。

燃料計・航続可能距離を更新するには

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる



3 パワースイッチを OFF にする

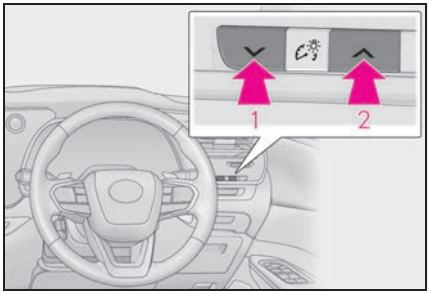
4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする

5 そのまま約５秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約５秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

●昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

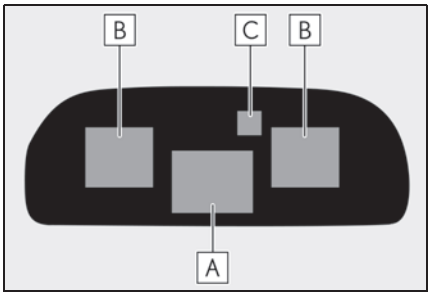
●夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示

■ 表示エリア

走行に関するさまざまな情報を表示できます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



A コンテンツ表示エリア（中央）

B コンテンツ表示エリア（サイド）

C 走行支援システム表示エリア※

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

※ 設定や運転支援システムの作動状態によっては表示位置が変わることがあります。

■ コンテンツ表示エリアの表示項目

● コンテンツ表示エリア（中央）

・ ブランク（非表示）

・ 運転支援システム情報（→P.89）

・ 地図表示（→P.94）

・ 警告メッセージ（→P.506）

● コンテンツ表示エリア（サイド）

・ ブランク（非表示）

・燃費グラフ（→P.88）
・EV 走行比率／始動後走行時間（→P.89）
・運転支援システム情報（→P.89）
・ナビゲーションシステム連携表示（→P.89）
・オーディオシステム連携表示（→P.90）
・ドライブインフォメーション（→P.90）
・エネルギーモニター（→P.90）
・RX500h：スポーツゲージ（→P.91）
・RX500h：ブーストメーター（→P.91）
・G モニター（→P.92）
・RX500h：Gear Position（→P.92）

知識

■液晶ディスプレイについて

→P.80

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.80

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

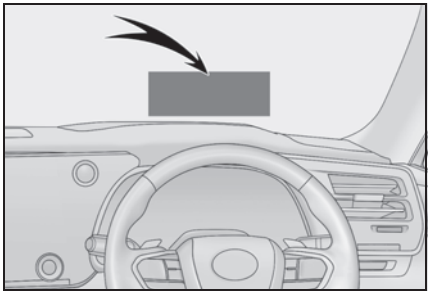
ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

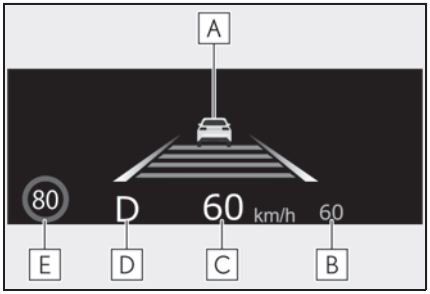
システムの構成部品

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。（→P.86）

表示内容は、走行状況やヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示します。



▶ フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア

次の内容を表示します。
・運転支援システム情報（→P.89）
・タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター（→P.79）

B 運転支援システム表示エリア（→P.89）

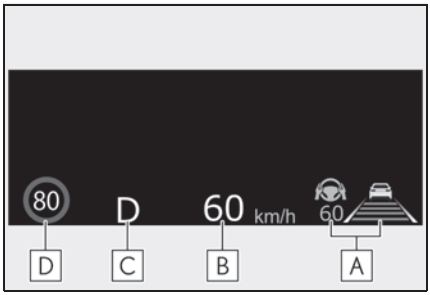
C スピードメーター

D シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示※（→P.186, 192）

E RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.269）

※ RX500h

▶ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア（→P.89）

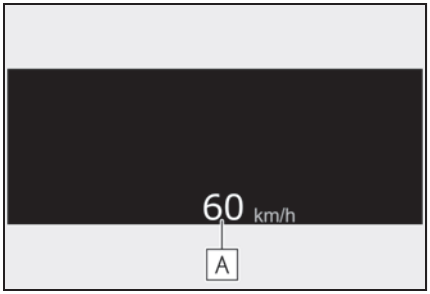
B スピードメーター

C シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示※（→P.186, 192）

D RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.269）

※ RX500h

▶ ミニマム



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A スピードメーター

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーターの表示条件

次の条件を満たしたとき、ヘッドアップディスプレイにタコメーターまたはハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。

- ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している（→P.560）
- LTA（レーントレーシングアシスト）を OFF にしている（→P.248）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を OFF にしている（→P.560）
- 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択した状態で制御を解除している（→P.283, 284）

警告

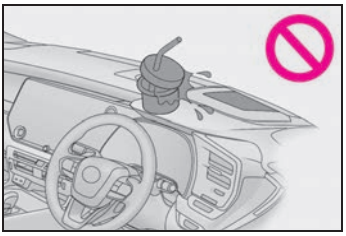
■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの設定

1 センターディスプレイの⚙を選択する
2 “車両カスタマイズ” を選択する
3 “ヘッドアップディスプレイ” を選択する

次の項目を設定できます。(→P.560)

- 表示 ON ／ OFF
- 表示モード
- 高さ
- 明るさ
- 角度

知識

■ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に次の項目が設定されているときは、ステアリングスイッチからヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

- ON/OFF：表示 ON ／ OFF
- MODE：表示モード
- ／：高さ
- ＋／－：明るさ

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

- 明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。
- ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高温になると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周辺の温度が下がると徐々に元に戻ります。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。

⚠警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

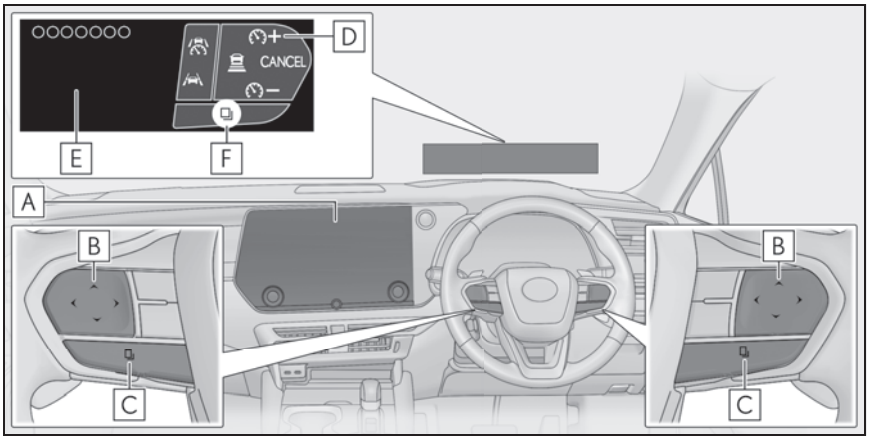
⚠注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

ディスプレイの表示内容

構成部品／操作について



A センターディスプレイ

B ステアリングスイッチ

状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

また、センターディスプレイでお好みの機能をスイッチに設定することができます。

C 機能切りかえスイッチ

スイッチを押すごとに、スイッチの機能が切りかわります。

D スイッチアイコン表示

各スイッチのアイコンを表示します。触れているスイッチは強調表示されます。（F）

E スイッチ機能ガイド表示

触れているスイッチの機能ガイドを表示します。

知識

■ステアリングスイッチに触れても反応しないとき

- スイッチに触れたまま指を動かすと、反応しやすくなります。
- スイッチの表面が汚れている場合は、パワースイッチを OFF にしてスイッチを清掃してください。
- 防寒手袋モードを ON にすることで、スイッチセンサーの感度を高くすることができます。（→P.560）

■ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に《DISP／DISP》を設定している場合

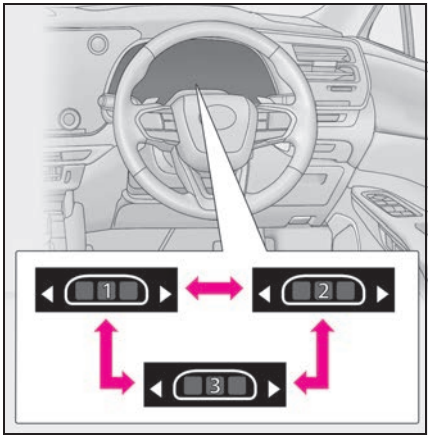
は、《DISP または DISP》を押すことで表示を切りかえることができます。

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえるには

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

メーター操作スイッチの《DISP または DISP》を押してページを切りかえます。



■ コンテンツ表示エリア項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの《DISP または DISP》を押してページを選択する

2 メーター操作スイッチの《DISP または DISP》を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

3 ＜ または ＞ を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する

4 ∧ または ∨ を押して表示項目を選択する

走行に関する情報について

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイ
- ヘッドアップディスプレイ
- センターディスプレイ

表示される項目は、ディスプレイによって異なります。

燃費グラフ

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

- 瞬間燃費

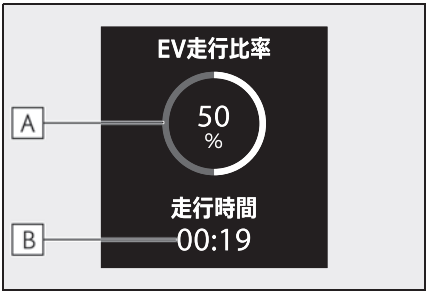
現在の瞬間燃費を表示します。

- 通算平均燃費 ※
- 始動後平均燃費

始動時からの平均燃費を表示します。

※ センターディスプレイの燃費履歴画面で “ 履歴削除 ” を選択すると、燃費データをリセットできます。(→P.92)

EV 走行比率／始動後走行時間



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

運転支援システム情報について

マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール（→P.272）
- クルーズコントロール（→P.282）
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.246）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.255）
- LCA（レーンチェンジアシスト）（→P.251）
- RSA（ロードサインアシスト）（→P.269）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.260）
- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.237）

知識

■表示位置について

ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアの運転支援システム情報表示は非表示になります。

ナビゲーションシステム連携表示について

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

- コンパス

知識

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

■表示位置について

ヘッドアップディスプレイの表示設定によっては、ヘッドアップディスプレイに表示され、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアは

非表示になります。

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ドライブインフォメーション

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

- 通算平均車速※
- 通算走行時間※

※センターディスプレイの燃費履歴画面で“履歴削除”を選択すると、データをリセットできます。(→P.92)

エネルギーモニター／EV走行比率

マルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターとEV走行比率を表示できます。

エネルギーモニターはセンターディスプレイにも表示できます。

■ センターディスプレイにエネルギーモニター画面を表示させるには

1 メインメニューの🚗を選択する

2 “エネルギーフロー”を選択する

■ エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

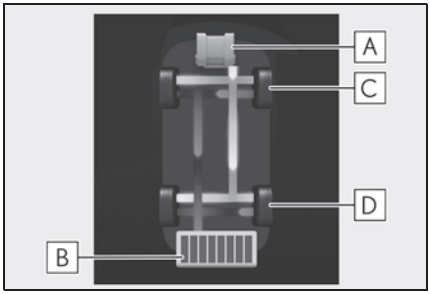
- 青：電気エネルギーを回収／充電しているとき
- 橙※1／緑※2：電気エネルギーを使用しているとき
- 赤※1／紫※2：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

※1マルチインフォメーションディスプレイ

※2センターディスプレイ

図は説明のためすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



A エンジン

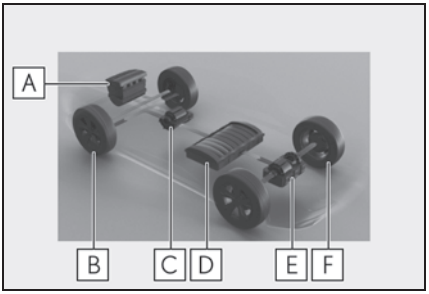
B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ

イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

▶ センターディスプレイ



A エンジン

B フロントタイヤ

C フロントモーター

D 駆動用電池

E リヤモーター★

F リヤタイヤ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。

ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

知識

■センターディスプレイ上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色がかわります。

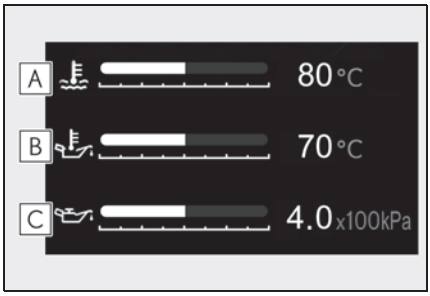
■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。(RX350h)

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

スポーツゲージ（RX500h）

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 ℃以上になると、表示が点滅します。

C 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。(→P.506)

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

ブーストメーター（RX500h）

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示色がかわります。

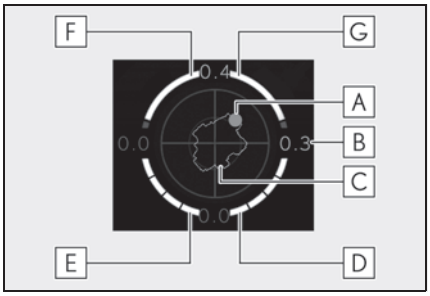
路面状況・気温・車速などによって実際

の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

G モニター

マルチインフォメーションディスプレイに車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。



A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

D アクセル開度量

E ブレーキ液圧

F 左側ステアリング操作量

G 右側ステアリング操作量

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

知識

■G モニターの表示について

- 傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。
- 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。
- 補機バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

Gear Position（RX500h）

シフトポジションが D または M のとき、現在選択されているシフトレンジ・ギヤ段をマルチインフォメーションディスプレイに表示することができます。

瞬間燃費／燃費履歴画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

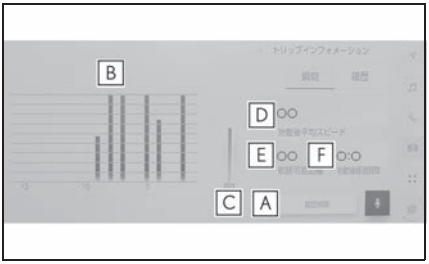
■ センターディスプレイに瞬間燃費／燃費履歴画面を表示させるには

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “瞬間” または “履歴” を選択する

■ **瞬間燃費画面**



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D ハイブリッドシステム始動後平均車速

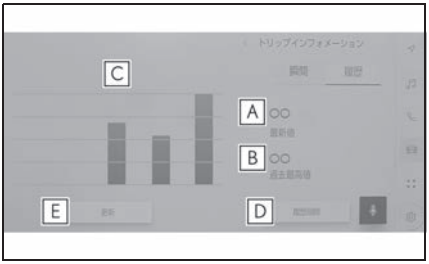
E 航続可能距離

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ **燃費履歴画面**



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■**過去の区間平均燃費の記録を更新するには**

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■**データのリセットについて**

センターディスプレイの燃費履歴画面で “履歴削除” を選択すると、通算平均燃費／通算平均車速／通算走行時間が全て同時にリセットされます。(→P.88, 90)

■**航続可能距離について**

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

AWD 作動状態表示（AWD 車）

AWD の作動状態がセンターディスプレイに表示できます。

■ **センターディスプレイに AWD 作動状態表示を表示させるには**

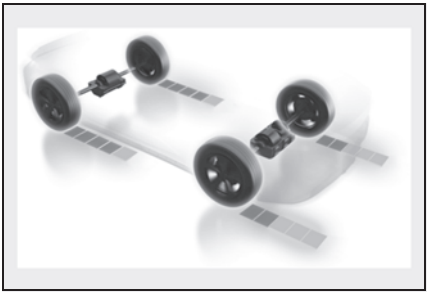
1 メインメニューの を選択する

2 “AWD” を選択する

■ **AWD 作動状態**

駆動力表示：0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。

■ センターディスプレイにタイヤ空気圧を表示させるには

1 メインメニューの を選択する

2 “タイヤ空気圧”を選択する

知識

■タイヤ空気圧表示について

→P.460

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報などを表示します。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■ 運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告・注意喚起・通知・作動状況を割り込み表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- RSA（ロードサインアシスト）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- 安心降車アシスト
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
- 発進遅れ告知機能
- 後方車両接近告知
- 後方車両への接近警報
- 周辺車両接近時サポート
- ITS Connect

■ 警告メッセージ

状況に応じて、警告メッセージが割り込み表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

■ 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル

上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

● パワーバックドア機能の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（センターディスプレイでパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

このとき “ はい ” を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

● 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “ はい ” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

● 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “ はい ” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ **ステアリングスイッチ操作表示**

ステアリングスイッチに触れると、各スイッチのアイコンとスイッチの機能ガイドが表示されます。

■ **ナビゲーションシステム連携情報**

状況に応じて、ナビゲーションシステムと連携した次の項目を表示します。

● 目的地案内

● レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目

パワースイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

● 始動後平均燃費 ※

● 始動後走行距離 ※

● 始動後走行時間 ※

● 始動後 EV 走行比率 ※

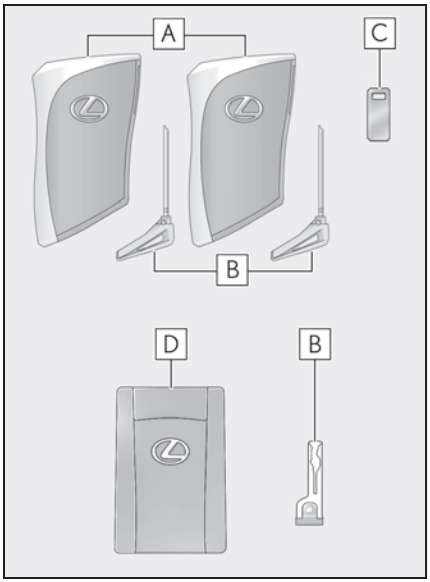
※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

3-1. キー
キー 98
デジタルキー 103
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 106
パワーバックドア..... 112
スマートエントリー＆スタートシステム 127
3-3. シートの調整
フロントシート..... 133
リヤシート 135
ヘッドレスト 140
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 143
デジタルインナーミラー 144
ドアミラー 152
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ..... 155
パノラマムーンルーフ 158
3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 162
マイセッティング..... 166

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→P.127）

・ ワイヤレス機能の作動（→P.101）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー★

スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→P.127）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カードキーについて★

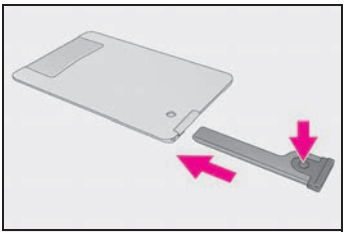
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●カードキーは非防水です。

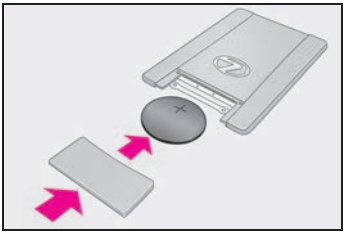
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーの電池は 1 ～ 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.128）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.480）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

■電子キーの取り扱いについて

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.106）

■電池の交換方法

→P.480

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

JP

・本機は電波法の認証に適合しています。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

00

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

本製品は電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・本製品を不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 1 週間程続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.533

■電子キーを紛失したとき

→P.533

⚠ 注意

■ カードキーの取り扱いについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

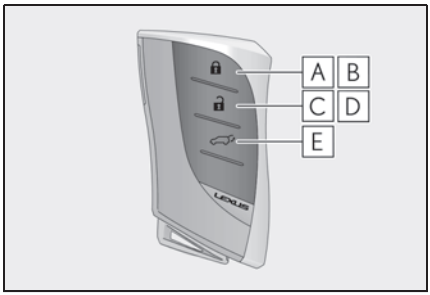
●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.106）

B ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を閉める※（→P.106）

C 全ドアを解錠する（→P.106）

D ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を開く※（→P.106）

E パワーバックドアを開閉する（→P.114）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

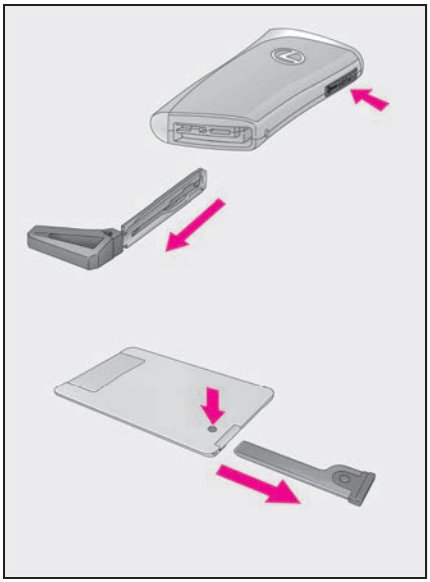
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿

し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.533)



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠(→P.416)します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.533

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：
https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

知識

■QR コード

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

■デジタルキーの取り扱い

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・ スマートフォンが故障した場合
・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

● サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。

● デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効

にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。

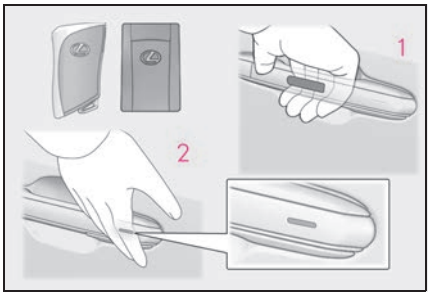
- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、パワーバックドアのクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する ※

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

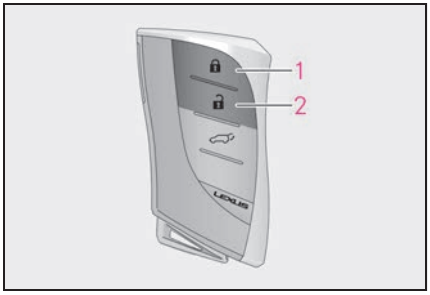
※ 解錠の設定を変更することができます。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する ※

必ず施錠されたことを確認してください。

※ 施錠の設定を変更することができます。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.127）でブザーが “ピピッ” と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.108）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中 ※1 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

※2レクサス販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ ピッピー ” と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能 ※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ ピッピー ” と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに🔒ボタンと同時に、🔓または🚗のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
車外：“ ピピッ ”（3 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ ピピッ ”（2 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（🔓ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.65）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、すべてのドアの手動リリースハンドルの作動が有効になります。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとパノラマムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

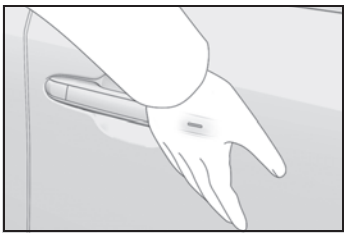
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.65)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.128

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.533)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.480)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.533)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

パワースイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ハイブリッドシステムが作動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

ドアを閉めるときは、少し勢いをつけて閉めてください。手で押すようにドアを閉めると、完全に閉まらないおそれがあります。

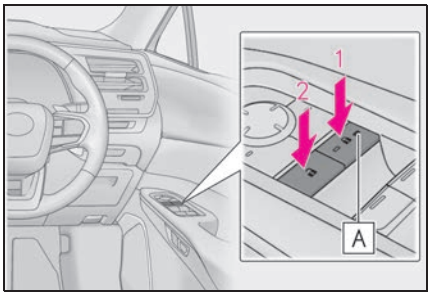
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する



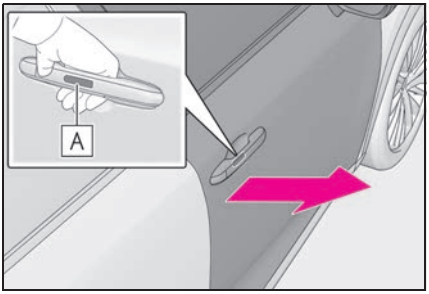
1 前席：全ドアを施錠する
後席：ドアを施錠する

ドアロックインジケーター A が点灯します。

2 前席：全ドアを解錠する
後席：ドアを解錠する

ドアロックインジケーター A が消灯します。

車外からドアを開けるには



ドアハンドルのドア開スイッチ[A]を押してドアを開く

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ[A]を確実に押してください。

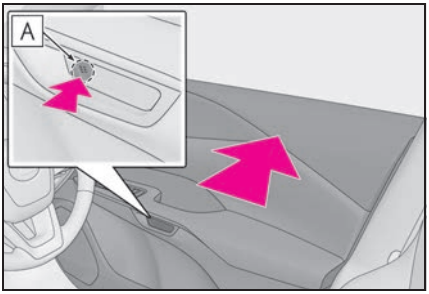
知識

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠／解錠することや、ドア開スイッチでの操作はできません。

メカニカルキーを使って手動リリースハンドルの作動を有効／無効にしてください。手動リリースハンドルの作動を有効にすることでドアを開くことができます。(→P.536)

車内からドアを開けるには



ドア開スイッチ[A]の前側を押してドアを開く

運転席：ドアが施錠されていても開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

知識

■車内のドア開スイッチの作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- 車速が 4km/h 未満で、パーキングブレーキがかかっているとき
- 車速が 4km/h 未満で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- シフトポジションがPの位置にあるとき

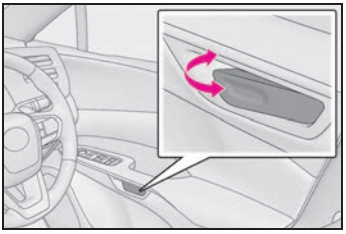
■車内からドアを開けるときは

半ドア状態になった場合は、ドア開スイッチを 2 回押してドアを開けてください。

■車内の手動リリースハンドルについて

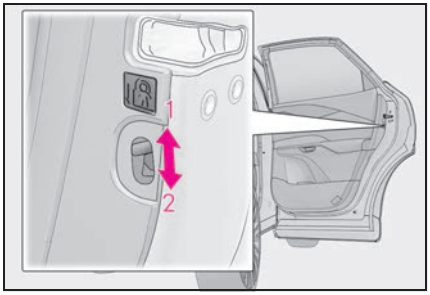
車内のドア開スイッチは、手動でドアを開けることもできます。

ドア開スイッチを押すと電動操作でドアが開き、ドア開スイッチを 2 回引くと手動リリースハンドルとしてドアを開けることができます。



チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.560 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 4km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

パワーバックドア

パワーバックドアはバックドアオープンスイッチやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はパワーバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にパワーバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーバックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。
開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。

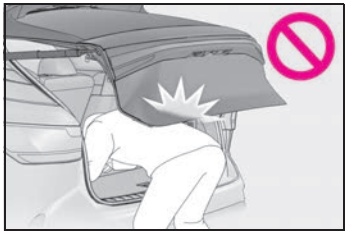
●パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

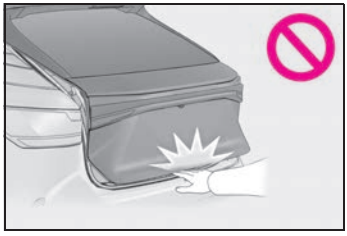
●強風時の開閉には十分注意してください。
パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告

●傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。



●パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

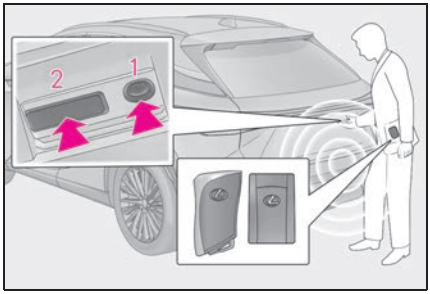
●スピンドルユニット（→P.124）を持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.101

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.109

パワーバックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

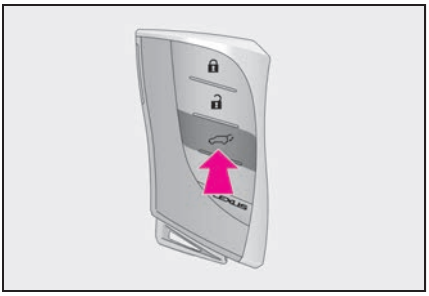
スイッチを約 1 秒長押しする

パワーバックドア解錠時※に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



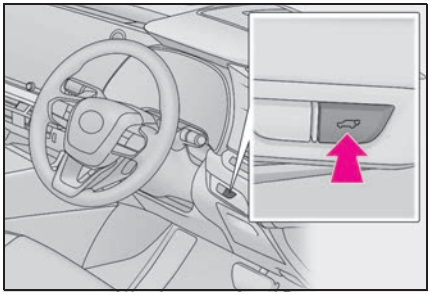
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

● 開ける

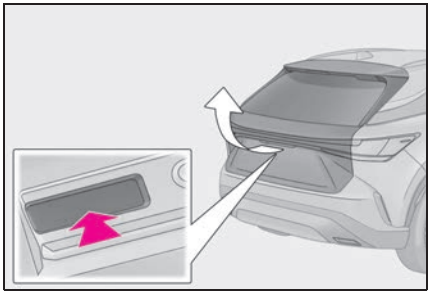
パワーバックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

パワーバックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開きます。

パワーバックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



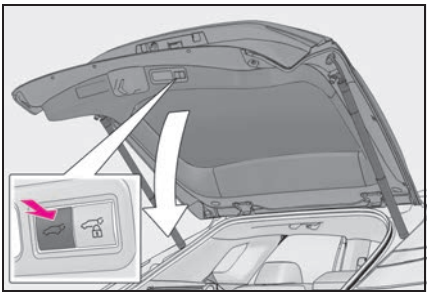
● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。

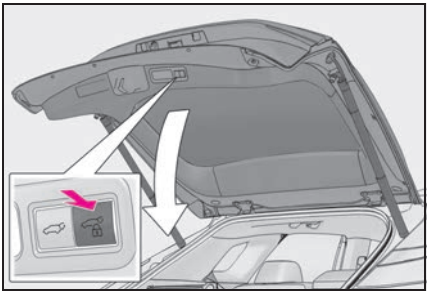


● バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部のスイッチを押す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。

作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、再びクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

● 閉じると同時に全ドアを施錠をする（クローズ＆ロック機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

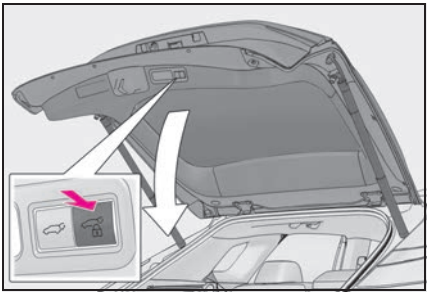
スイッチを押す

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

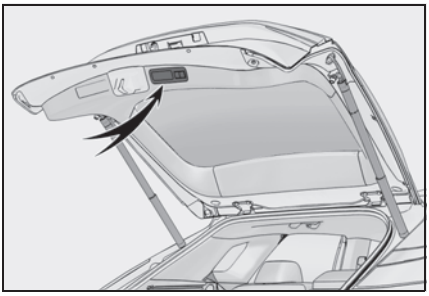
パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で閉まります。



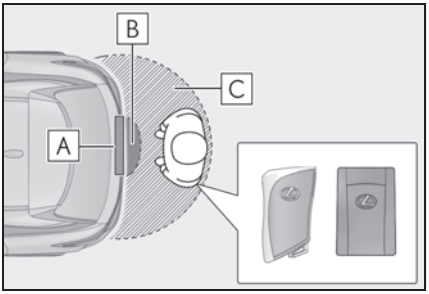
■ バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってパワーバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。



■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 50 ～ 60cm 離れた位置に立つ



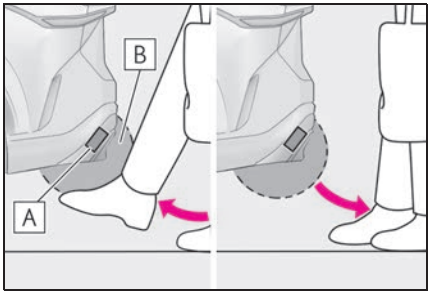
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.127）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

・ 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
・ ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

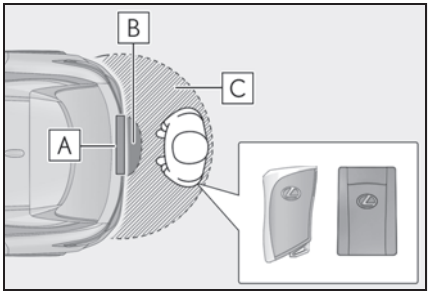
3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後パワーバックドアが自動で全開・全閉します。

パワーバックドアが作動途中に再度操作をすると、作動を停止します。

■ キックセンサーを使用してバックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（ハンズフリークローズ&ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 50 ～ 60cm 離れた位置に立つ



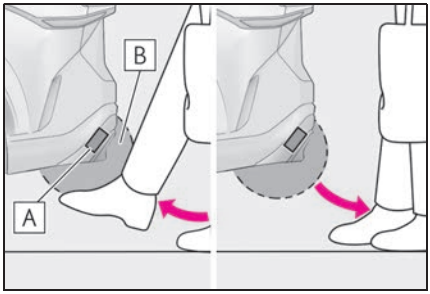
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア（→P.127）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

- 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
- ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知すると、通常ブザーとは異なるブザー音が鳴りハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

4 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉まる途中で電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合

図でお知らせします。作動が停止した状態から再度ハンズフリーパワーバックドアを作動させると、バックドアは自動で閉まります。

知識

■ラゲージルームランプ

●パワーバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチを OFF にしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■バックドアイージークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されているとき、ただし次のときはパワーバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動ができるように設定したとき

●パワースイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 以下で、次のいずれかの条件で作動します。
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトポジションが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

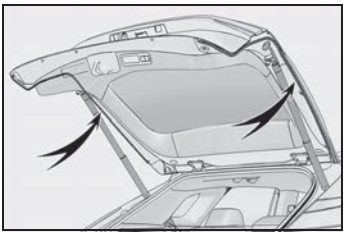
●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、パワーバックドア開作動中はすぐに停止、パワーバックドア閉作動中は自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■バックドア予約ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンの施錠操作を行う (→P.101) または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う (→P.106)

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。(→P.108)

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ & ロック (ウォークアウェイ) 機能※ の作動条件

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能の作動の設定が ON のとき

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能※ が正常に作動しない状況

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では作動しないことがあります。

●スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ&ロック機能が正常に作動しないとき

●クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■クローズ & ロック機能※ の作動条件

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

●パワースイッチが OFF のとき

■**クローズ&ロック機能※が正常に作動しない状況**

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部のスイッチ (→P.114) を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のスイッチ (→P.114) を押したとき

●パワーバックドア下部のスイッチ (→P.114) から離れた位置から押したとき

■**ハンズフリーパワーバックドアの作動条件**

●ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定が ON のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■**ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況**

次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.128）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■**ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために**

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの脱着作業したとき

●けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※の作動条件

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の作動条件をすべて満たしているときに作動します。

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動の設定が ON のとき

●ハンズフリーパワーバックドアの作動条件を満たしているとき

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※が正常に作動しない状況

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●ハンズフリーパワーバックドアの機能が正常に作動しないとき

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■パワーバックドアが自動で作動しなくなったときは

パワーバックドアを開いた状態で長時間放置すると、パワーバックドアが自動で作動しなくなる場合があります。

この場合は、パワーバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパワーバックドアを手動で一度完全に閉めて解錠操作をしてください。

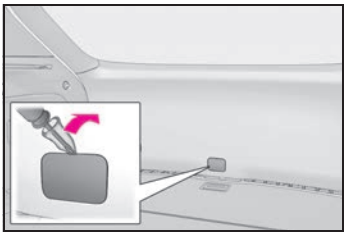
■パワーバックドアが開かないときは

パワーバックドアを内側から開けることができます。

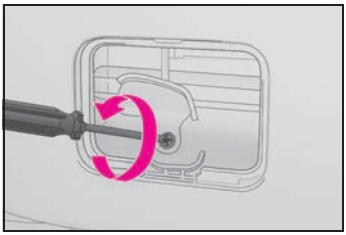
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

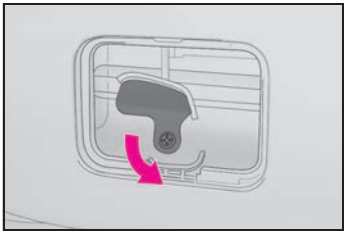
ください。



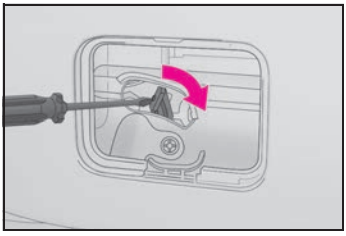
2　ネジをゆるめる



3　カバーをまわす



4　レバーを押す



5　取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

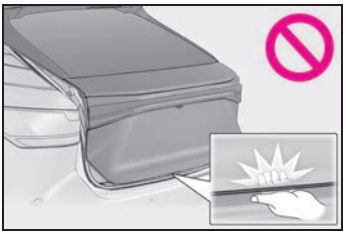
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

⚠警告

■バックドアイージークローザーについて

●パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

⚠ 警告

●自動開閉中に作動可能条件（→P.118）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※・ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※について

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

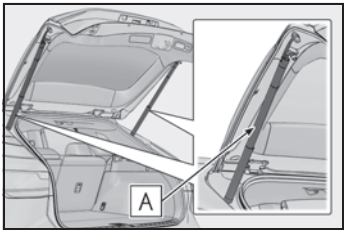
バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠注意

■スピンドルユニットについて

パワーバックドアにはパワーバックドアを支えるためのスピンドルユニット[A]が取り付けられています。スピンドルユニット[A]の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- パワーバックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

- バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。
- パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.118）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能※について

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

⚠ 注意

●リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近づけない

リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

パワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには

センターディスプレイからパワーバックドアの ON ／ OFF の切りかえができます。(→P.560)

1 センターディスプレイの⚙を選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “ドアコントロール” を選択する

4 “パワーバックドア” を選択する

5 ⬤ (ON)・◯ (OFF) を選択する

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

ハンズフリーパワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには

センターディスプレイからキックセンサーの ON ／ OFF の切りかえができます。(→P.560)

1 センターディスプレイの⚙を選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “ドアコントロール” を選択する

4 “ハンズフリー” を選択する

5 （ON）・（OFF）を選択する

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

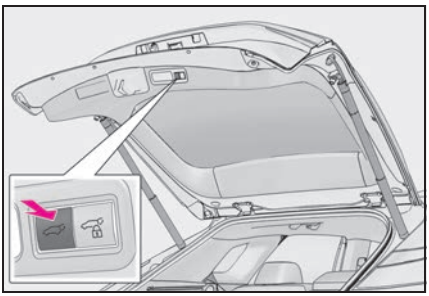
パワーバックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる (→P.114)

2 パワーバックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックドアが停止します。

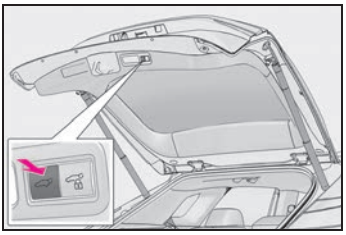


知識

■パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

パワーバックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

センターディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

スイッチまたはセンターディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

（カスタマイズ一覧：→P.560）

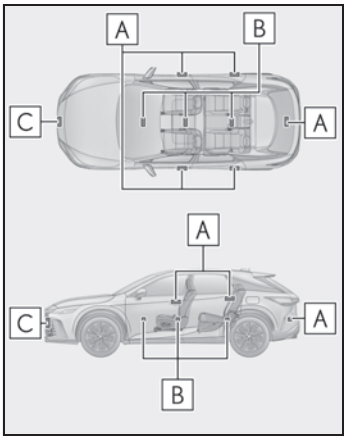
スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.106）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.113）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.180）

知識

■アンテナの位置

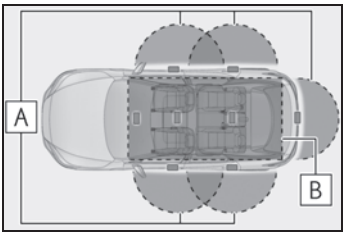


A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C 車外アンテナ（Lexus Teammate Advanced Park リモート機能付車のみ）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.506）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

・車の外約 3.5m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・数日間スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.533）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード

・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キー、自車のもう一つの電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.533）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、→P.534 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
・ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施

錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.128）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能 ※1 についてご留意いただきたいこと

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。（→P.107）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●全てのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む ※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
・ブレーキペダルを踏んだとき
・パワースイッチを押したとき
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠したとき

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動も含む ※2）してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。※2

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※2

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.107）とき、ブザーが 2 回鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開けたとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・パワースイッチを押したとき

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.107）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握っ

てください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.107）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※1レクサス販売店での設定変更が必要です。

※2パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.106）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.128）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠ができないとき、またはパワーバックドアが開けられないときは、次の方法を行ってください。

・電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
・電子キーをパワーバックドアにあるスイッチ（→P.113）に近づけてスイッチを押す
・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.533）なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.65）

●ハイブリッドシステムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.534）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.106, 114, 533）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.534

●ハイブリッドシステムの停止：→P.182

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.127）から約 22cm 以内にに植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**(→P.25)**

⚠ 警告

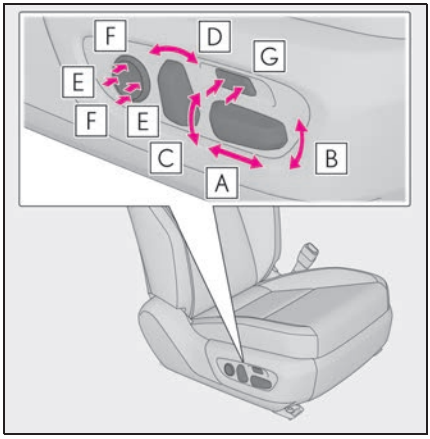
■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整のしかた



A 前後位置調整

B クッション前端の上下調整

C シート全体の上下調整

D リクライニング調整

E 腰部硬さ調整（ランバーサポート）

F 腰部高さ調整（ランバーサポート）★

G クッションの長さ調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。
- ヘッドレストが天井やサンバイザー等にあたらないように注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。

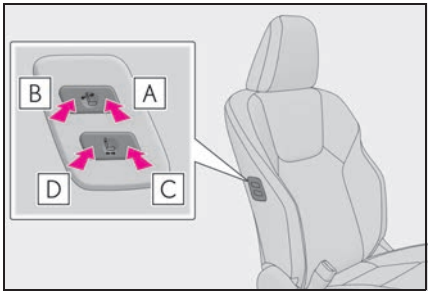
(→P.162)

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろに異物の挟み込みを感知すると、作動を停止し前方に少し移動します。

助手席側面スイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 背もたれを前に傾ける

B 背もたれをうしろに傾ける

C シートを前方に動かす

D シートを後方に動かす

⚠警告

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。

足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

⚠注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

リヤシート

⚠警告

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。
- 前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に倒れる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

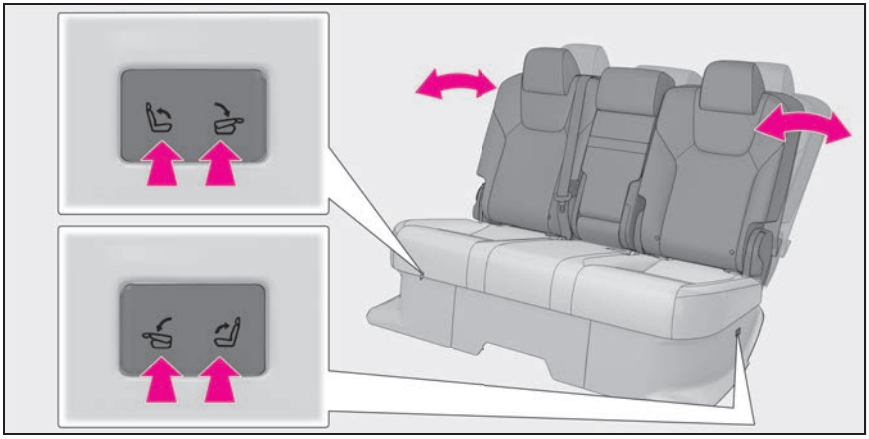
注意

■背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。(→P.430)

調整のしかた

スイッチを押して、背もたれを調整します。

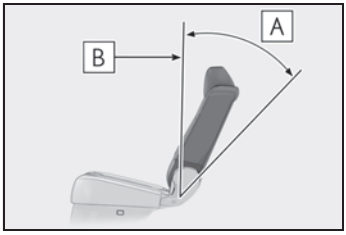


知識

■リクライニング調整の作動条件

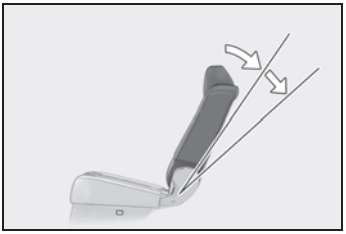
背もたれの位置が図のAの範囲のとき、リヤ席スイッチ操作でリクライニング調整が可能になります。

Bは直立位置を示しています。



■リクライニング調整について

リヤ席スイッチを操作すると、背もたれは途中で止まります。いちばんうしろまで倒すには、再度スイッチを押してください。



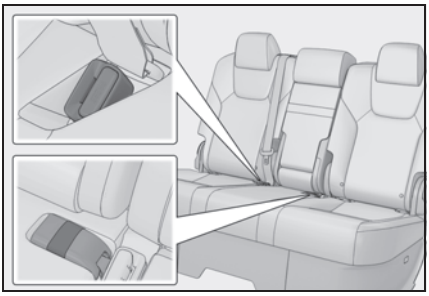
背もたれを倒す

■ 操作する前に

1 リヤ席のシートベルトバックルを格納する

中央席のバックルは、バンドで固定して

ください。



2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.140）

■ **背もたれを前に倒すときは**

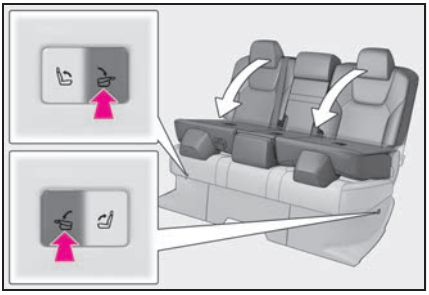
スイッチを長押しして背もたれを倒す

ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

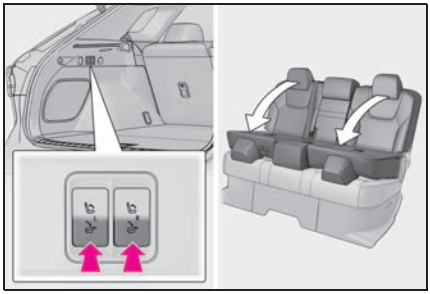
途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

▶ リヤ席スイッチ

背もたれがうしろに倒れている場合は、背もたれを直立位置にし、再度スイッチを押してください。

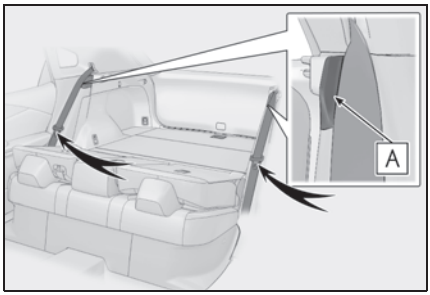


▶ ラゲージルーム内スイッチ



■ **背もたれをもとにもどすときは**

1 シートベルトをシートベルトガイド[A]にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。

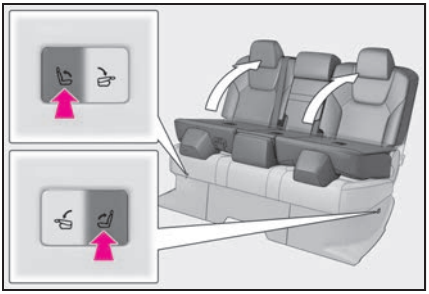


2 スイッチを長押しして背もたれをもとにもどす

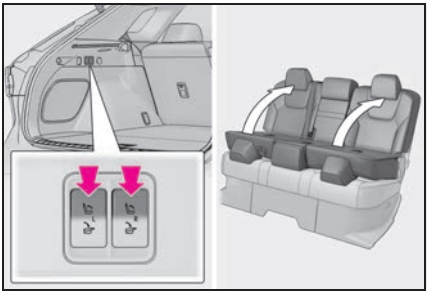
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

▶ リヤ席スイッチ



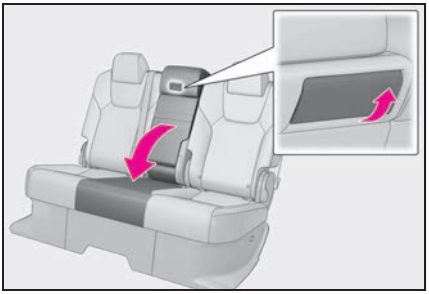
▶ ラゲージルーム内スイッチ



■ 中央のシートだけを倒すときは

レバーを引いて背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。



知識

■パワーシートの作動条件

次のいずれかの条件を満たしたとき、スイッチで背もたれを操作することができます。

●パワースイッチがOFFまたはACCのとき

●パワースイッチがONで、次のいずれかの条件を満たしているとき
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトポジションがPの位置にある

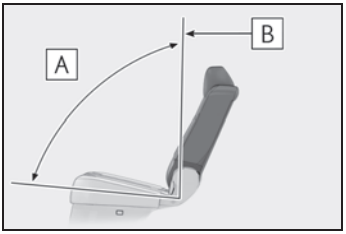
■背もたれを前に倒すときの作動条件

次の条件をすべて満たしたとき、背もたれを前に倒すことができます。

●リヤ席スイッチ：背もたれの位置がA の範囲かつ操作するシート側のリヤドアが開いているとき（B は直立位置を示しています）

●ラゲージルーム内スイッチ：バックドアが開いているとき

●操作するシート以外のスイッチが同時に押されていないとき



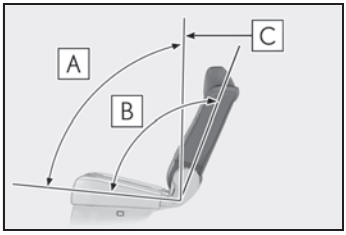
■背もたれをもとにもどすときの作動条件

次の条件をすべて満たしたとき、背もたれをもとにもどすことができます。

●リヤ席スイッチ：背もたれの位置がA の範囲かつ操作するシート側のリヤドアが開いているとき（C は直立位置を示しています）

●ラゲージルーム内スイッチ：背もたれの位置がB の範囲かつバックドアが開いているとき

●操作するシート以外のスイッチが同時に押されていないとき



■パワーシートの作動について

シートにカバーや座布団を装着すると、正常に作動しない場合があります。また、前倒しするときは、シートの上に作動のさまたげになるものがないことを確認してください。

■背もたれの挟み込み防止機能

背もたれを前に倒すとき、もとにもどすときに、背もたれとシートクッションのあいだもしくは背もたれに異物を感知すると、背もたれが反転もしくは作動が停止します。

反転作動中は断続的にブザーが鳴り、作動が停止すると連続的にブザーが鳴ります。

フロント席からリヤ席を操作するには

センターディスプレイを使用して、リヤ席を操作することができます。

▶ 選択したシートを操作する

1 センターディスプレイの🚗を選択する
2 “シート” を選択する
3 “リヤアレンジ” を選択する
4 調整したいシートを選択する
5 操作ボタンを選択する

ボタンを選択するとブザーが鳴り、作動を開始します。

途中で作動を止めるには、センターディスプレイに表示される “停止” を選択してください。

▶ すべてのシートを操作する

1 センターディスプレイの🚗を選択する
2 “シート” を選択する
3 “リヤアレンジ” を選択する
4 操作ボタンを選択する

ボタンを選択するとブザーが鳴り、作動を開始します。

途中で作動を止めるには、センターディスプレイに表示される “停止” を選択してください。

知識

■センターディスプレイでリヤ席を操作するときの作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作で背もたれを操作することが可能になります。

操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

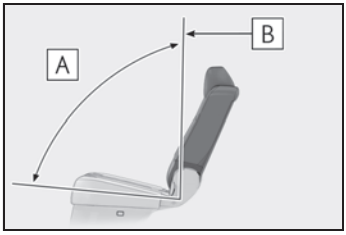
パワースイッチが ON のときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

●パーキングブレーキがかかっている
●ブレーキペダルを踏んでいる
●シフトポジションが P の位置にある

■背もたれをもとにもどすときの作動条件

背もたれの位置がAの範囲にあるとき、背もたれをもとにもどすことができます。

Bは直立位置を示しています。



警告

■フロント席からリヤ席を操作するとき

リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

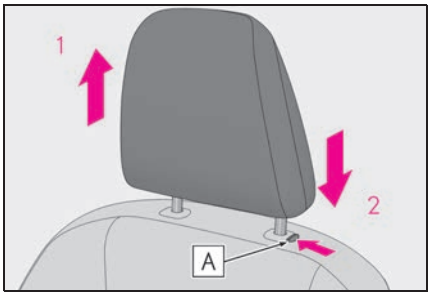
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロントシート

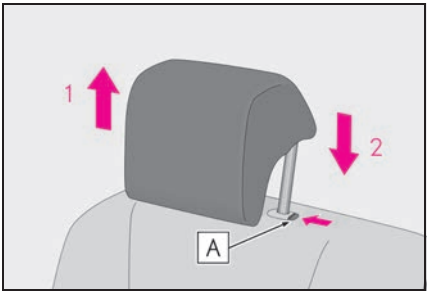


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤシート（外側席）

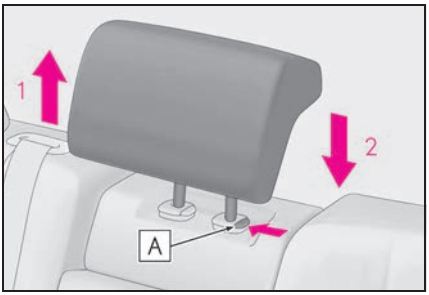


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤシート（中央席）



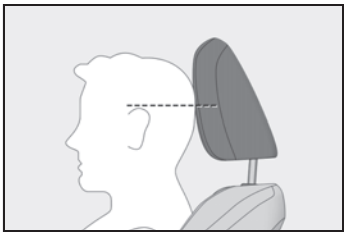
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤシートについて

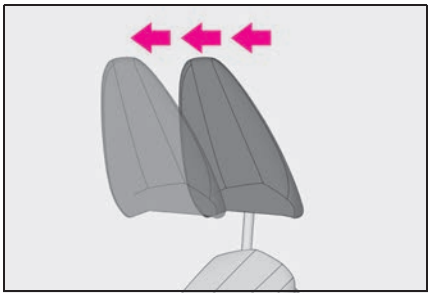
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントシートのヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

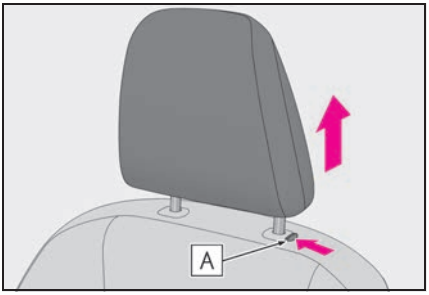


ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート・リヤシート（外側席）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

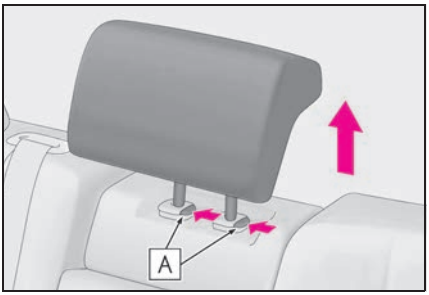
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.133, 135)



■ リヤシート（中央席）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.133, 135)

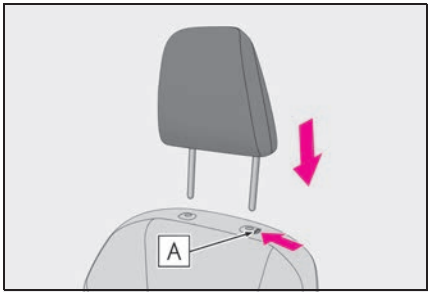


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロントシート・リヤシート（外側席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

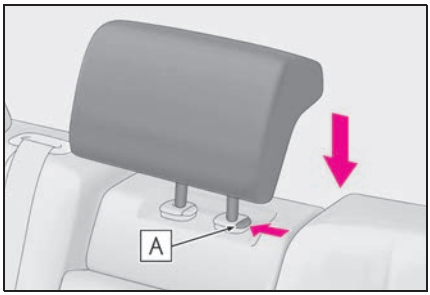
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤシート（中央席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

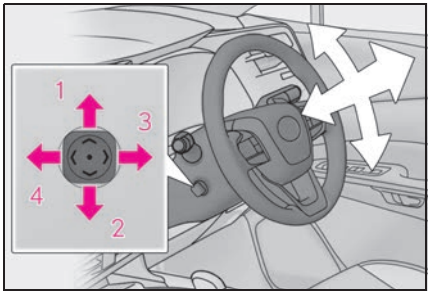
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.162)

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルと運転席シートが動きます。(→P.162)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

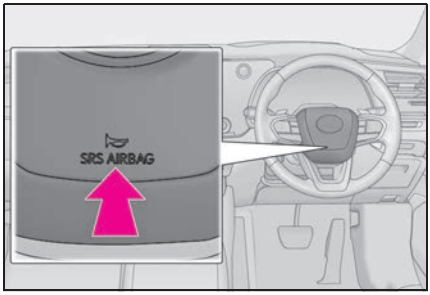
⚠警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

ドライブレコーダー装着車：車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

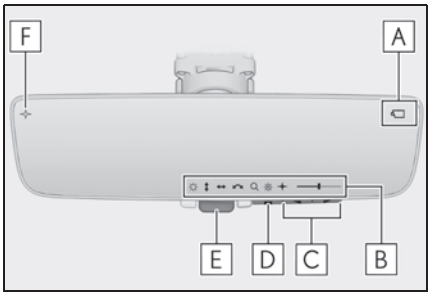
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.146)

・光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.146）・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

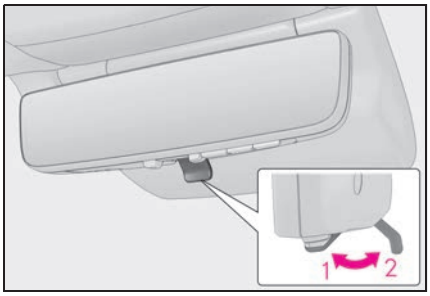
F デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。(→P.146)

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、

デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

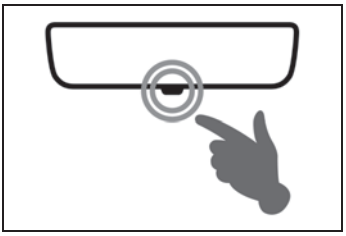
- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- 雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リアワイパを作動させてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェード（パノラマムーンルーフ装着車）を閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 映像の色と実際の色が異なって見える
  - 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
  - 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

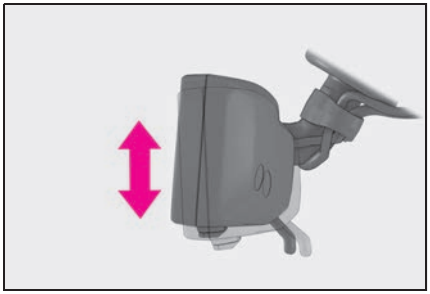


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

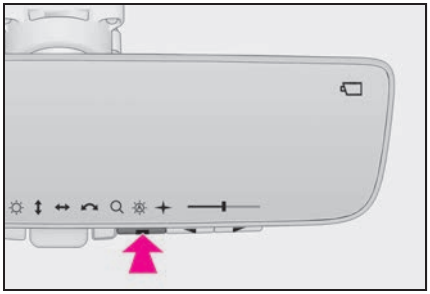


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 または を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	デジタル防眩モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

※ 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON／OFF 切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能の自動防眩機能の ON／OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

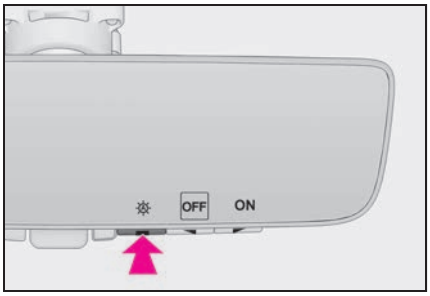
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.146

▶ 光学ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 または を押して自動防眩機能の ON／OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

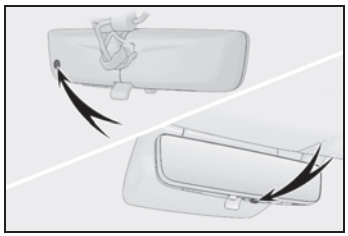
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。
- ドライブレコーダー装着車：デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

お手入れについて

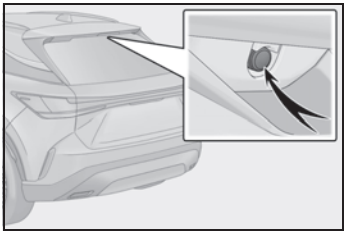
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



注意

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

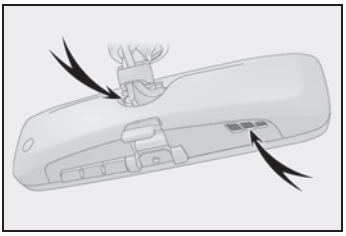
・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

・ 有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・ リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

●ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。 （パノラマムーンルーフ★からの光があたっているときは、電動サンシェードを閉めてください）
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・ 排気ガスが映り込んでいる	光学ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	レクサス販売店で点検を受けてください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	●光学ミラーモードに切りかえてください。 ●荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガー（→P.404）を使用し、曇りを取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に ⚠ が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると ⚠ が消えます） ミラーの温度が下がっても ⚠ が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠警告

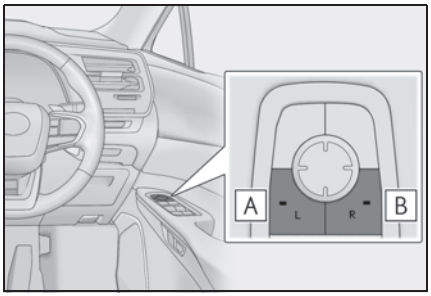
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

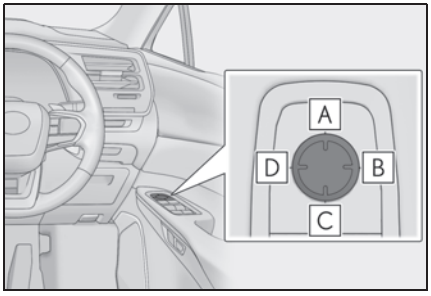


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがACCまたはONのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させ

ると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.404)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.162)

■ 自動防眩機能

デジタルインナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.146)

⚠ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

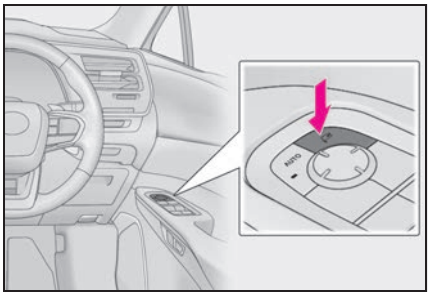
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



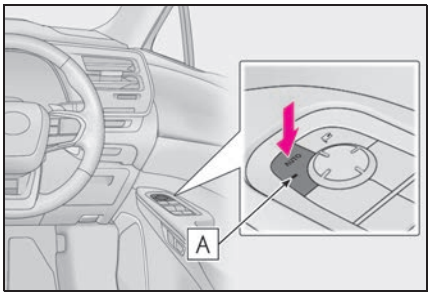
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

⚠ 警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトポジションを R にした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

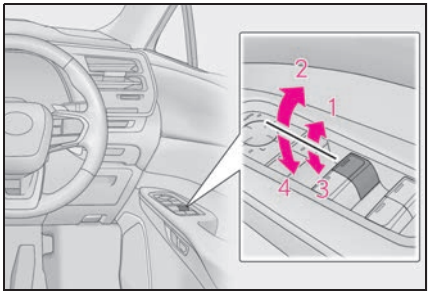
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

2 自動全閉 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.533）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.106）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.64）

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ただし、窓閉め提案サービスが ON の場合は、作動しません。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●すべての席の窓の開閉

●各席の窓の開閉

（ウィンドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.563）

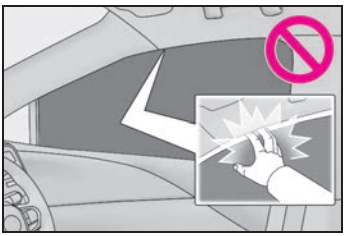
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.157）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

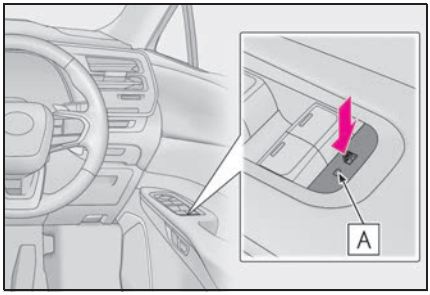
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

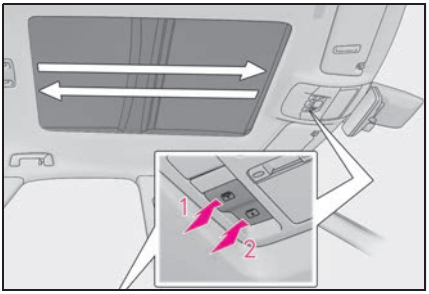
パノラマムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

パノラマムーンルーフを操作するには

■ **電動サンシェードを開閉する**



1 開ける

スイッチを長押しすると、自動で全開します。※1

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※2

※1途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

※2途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

■ **パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンする**

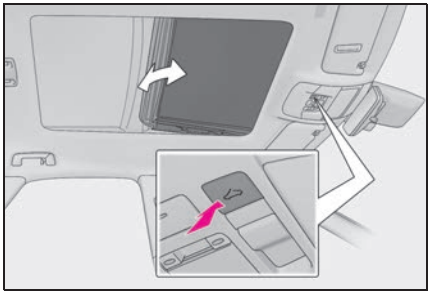
チルトアップ（短押し）※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

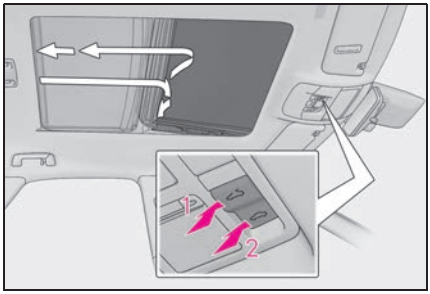
※途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

チルトダウン（長押し）

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



■ **パノラマムーンルーフを開閉する**



1 開ける ※1

スイッチを押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。チルトアップした状態からでも開くことができます。

2 閉める ※2

パノラマムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。

全閉にするときは、スイッチをもう一度押します。

※1途中で停止するときは、スイッチ

をもう一度押します。

※2途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき

●電動サンシェードを閉めるとき

■ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.534）

●ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.106）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.64）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

スイッチを押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まった後、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 パワースイッチを ON にする

3 スイッチまたはスイッチを押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※

4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■パノラマムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、パノラマムーンルーフを開閉することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■カスタマイズ機能

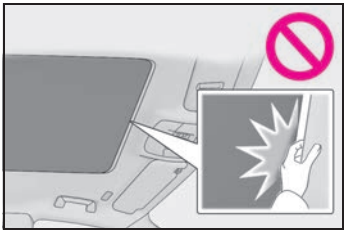
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

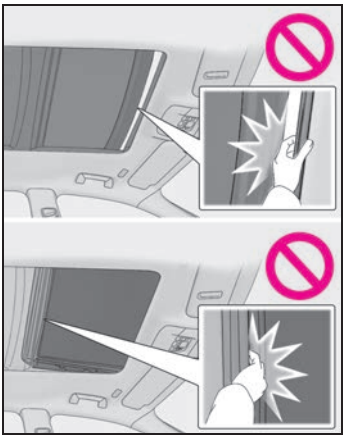


●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■パノラマムーンルーフを開閉するときは

●運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れる時はパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

警告

●挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

注意

■パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●パノラマムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

●パノラマムーンルーフが全開・全閉したあとに スイッチまたは スイッチを押し続けないでください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。
そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でフロントシート★・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）を登録できます。

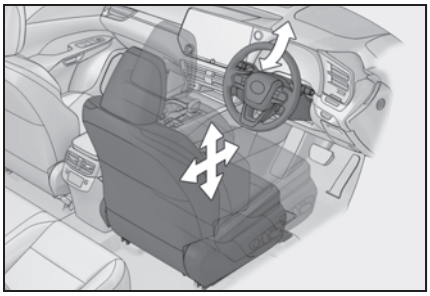
マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

マイセッティングについては、P.166 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P する
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステム作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

警告

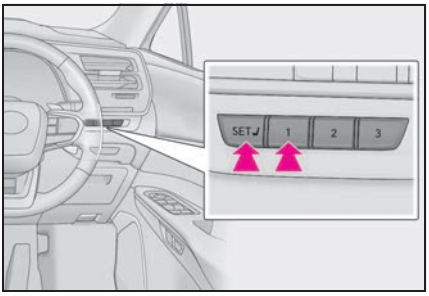
■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションを登録するには

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のスイッチで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■登録できるシート位置（→P.133）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

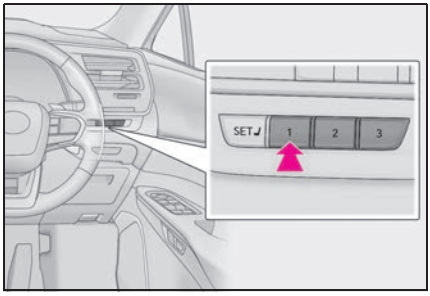
警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席側：運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側：助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●ドライビングポジションの登録

●ドライビングポジションの呼び出し

（シフトレバーが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠警告

■挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

■ マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（→P.166）

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

1 電子キーで個人を特定：マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディス

プレイ表示（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する

初期化方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが顔情報で個人を特定する場合

顔認証システムに顔情報を登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

パワースイッチを ACC または ON にする

顔認証に成功したあと、シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

● メモリーコール機能の解除方法

顔認証システムで顔情報を消去する

消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

警告

■ 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー／デジタルキー★

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。（→P.127, 103）

● 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。（→P.235）

電子キーまたは、デジタルキー★で個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

● Bluetooth® デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を認識したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジションメモリー（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けたとき
- デジタルキー★で個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムで解錠して運転席ドアを開けたとき
- 顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチを ACC または ON にする

● メーター表示※／ヘッドアップディスプレイ表示※／マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生

します。

● 安全運転支援機能 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 一部の設定を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 171

荷物を積むときの注意..... 178

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ..... 180

EV ドライブモード..... 184

オートマチックトランスミッション..... 186

ハイブリッドトランスミッション..... 192

方向指示レバー..... 198

パーキングブレーキ..... 199

ブレーキホールド..... 202

ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 205

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 209

AHB（オートマチックハイビーム）..... 212

フォグランプスイッチ..... 214

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 215

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 219

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 221

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ [渋滞時支援]）..... 224

Lexus Safety System +..... 226

ドライバーモニター..... 235

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 237

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 246

LCA（レーンチェンジアシスト）..... 251

LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 255

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 260

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 265

発進遅れ告知機能..... 267

RSA (ロードサインアシスト)..... 269

レーダークルーズコントロール..... 272

クルーズコントロール..... 282

ドライバー異常時対応システム..... 286

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）..... 289

ITS Connect..... 293

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 299

後方車両接近告知..... 304

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）..... 306

後方車両への接近警報..... 309

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 311

安心降車アシスト..... 313

クリアランスソナー..... 318

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 326
RCD（リヤカメラディテクション）..... 331
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 334
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 338
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 341
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 343
Lexus Teammate Advanced Park 344
ドライブモードセレクトスイッチ 376
Trail Mode 378
運転を補助する装置..... 379
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 387

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 392
寒冷時の運転 394

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.180

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P.186, 192）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.199）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.199）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.187, 193）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.199）

3 シフトポジションを P にする（→P.187, 193）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.199）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.199）

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.392）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなっ

たりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について（RX500h）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ハイブリッドシステム停止前のアイドル運転について（RX500h）

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからハイブリッドシステムを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■環境に配慮した運転

→P.92

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

⚠ 警告

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.490 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.186, 192)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。
やむを得ず砂地やぬかるみを走行する際は慎重に運転していただき、連続走行をしないでください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

⚠ 警告

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
  READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために（RX500h）

- 高負荷走行直後は、ハイブリッドシステムを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからハイブリッドシステムを停止してください。（→P.172）
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- ハイブリッドシステムが冷えているときは、不要なアクセルペダルの踏み込みや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.522 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

⚠ 注意

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御のON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.560）
  - パワースイッチをONにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON（作動）になっています。
  - 後退速度の抑制制御をOFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・トノカバー

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは★

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

警告

- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 70kg以上の荷物を積まないでください。

注意

■荷物を積むとき

パノラマムーンルーフ★に荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.199）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションがNと表示されている時は、ハイブリッドシステムを始動できません。

ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションをPにしてください。（→P.187, 193）

3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READYインジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

4 READYインジケーターが点灯したことを確認する

READYインジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、→P.387も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはパワースイッチをACCまたはONからOFFにしたときは、パワースイッチ照明が暗く点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が明るく点灯します。
- パワースイッチがACC、またはONのときは、パワースイッチ照明が点灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.63）レクサス販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、→P.533 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.109）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.53

■電子キーの電池の消耗について

→P.99

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.128

■ご留意いただきたいこと

→P.129

■マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.62

■電子キーの電池交換

→P.480

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズメニューでスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、→P.533 を参照してください。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかける（→P.199）
3 P ポジションスイッチを押す（→P.187, 193）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの “アクセサリー” や “パワー ON” 表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

■ハイブリッドシステムを停止したときは（RX500h）

パワースイッチを OFF にしても、しばらくのあいだ冷却ファンが作動する場合があります。

警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

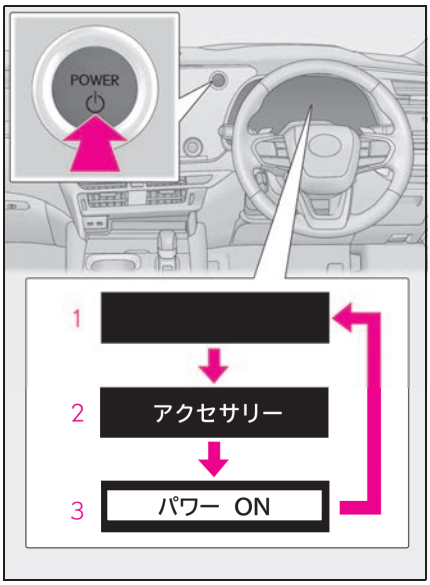
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.490）
  ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
  走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 警告

- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。

メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
メーターに “パワー ON” が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.560）

知識

■ACC カスタマイズが OFF のとき

- パワースイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、数分以上 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV ドライブモード（RX350h）

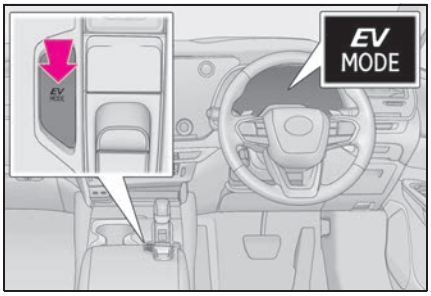
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0°C を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.90）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.90）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに 現在 切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。
EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが 解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠ 警告

■走行中は

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

オートマチックトランスミッション（RX500h）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 （→P.191）

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■オートマチックトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “トランスミッション オイル 高温 安全な場所に停止し 取扱書を確認” が表示されます。レクサス販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を

行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●Dポジションで走行中にD5またはD4レンジにシフトダウンしたとき（→P.190）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.376）

■急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

→P.177

■AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているとき自動的に作動します。（シフトポジションを M にすると機能が解除されます）

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.542

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

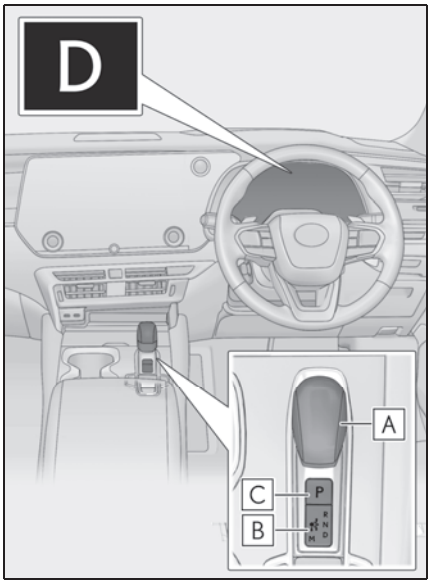
■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.507）

●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（ ● ）にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■P から他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを M に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、M を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から M を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
・パワースイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.538 を参照してください。

⚠警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

警告

■P ポジションスイッチについて

●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

走行モードの選択

■ ドライブモード

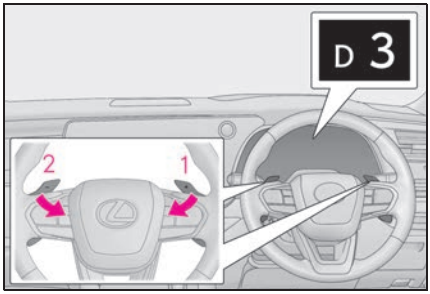
→P.376

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のレンジより 1 つ上のレンジに切りかえます。

レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D6	スピードや走行条件に応じて、1 速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

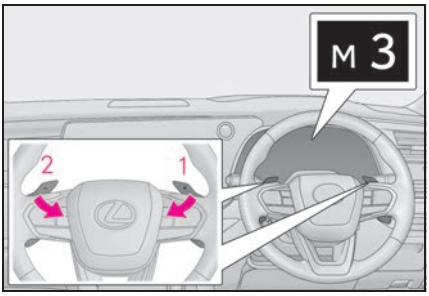
●シフトポジションを D 以外にしたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M6 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

● 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

● 車速が増加した場合（シフトアップのみ）

● アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

● トランスミッションフルードが高温または低温のときなど、トランスミッションの保護が必要な場合

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（ ● ）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッ

ドシステムが停止します※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを 押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください
- 必ずハイブリッドシステムが始動している状態で操作してください。
  ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

注意

■自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ずハイブリッドシステムが始動状態であることを確認してください。
ハイブリッドシステム始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

ハイブリッドトランスミッション（RX350h）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2（→P.197）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2 S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Dポジションまたは S モードで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき（→P.196）
- Dポジションで走行中に走行モードをス

ポーツモードにしたとき（→P.376）

■急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

→P.177

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.542

⚠警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠注意

■駆動用電池の充電について

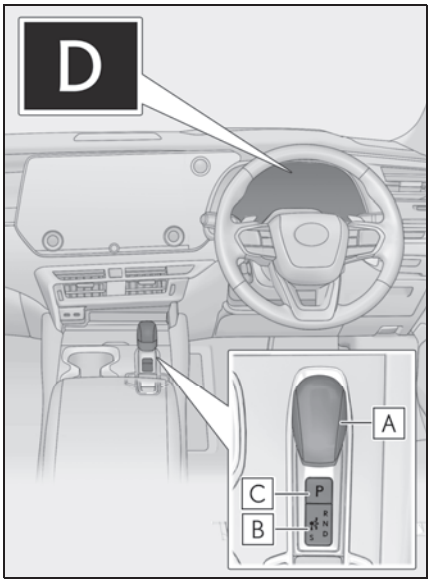
シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.507）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Sへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・S・R

からPへ、またはD・SからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C Pポジションスイッチ

Pポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、Pポジションスイッチを押してください。

シフトポジションをPにすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯がPであることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチがOFFまたはACCのときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチがONで、READYインジケーターが消灯しているときは、Nのみに切りかえが可能です。
- READYインジケーターが点灯中は、Pから、D・N・Rを選択できます。
- READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、Pから他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READYインジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをSに切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、Pからシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、Pからシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき
- PまたはNから、Sを選択した
- 走行中に、Pポジションスイッチを押した

極低速走行時は、Pに切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションがNに切りかわったことをお

知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時はRに切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時はDに切りかわることがあります。

●RからSを選択した

■走行中にNを選択した場合

一定以上の速度で走行中にNを選択した場合、シフトレバーをNの位置で保持しなくてもNに切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、Nにかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションがPに切りかわります。

●パワースイッチがON、かつシフトポジションがP以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります）※

●シフトポジションがP以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチがON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがPに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがP以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.538を参照してください。

⚠警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであること、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

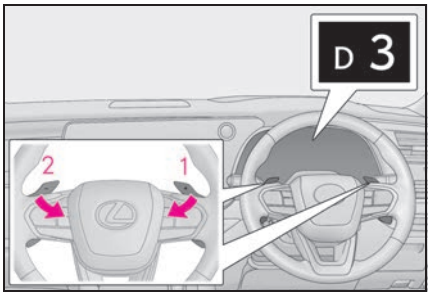
走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.376

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。
パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ
2 シフトダウン

D1 から D5 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速に応じて D2 から D4 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持、または D5 レンジでパドルシフトスイッチの “+” 側を操作します。

■ シフトレンジ機能

● エンジンブレーキ力は、5 段階から選択が可能です。

● シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■Dポジションでパドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

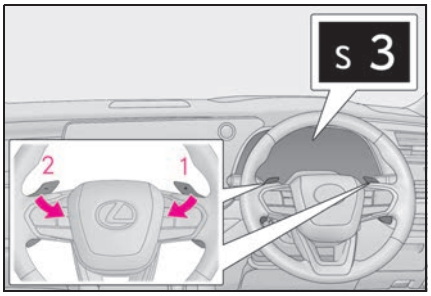
●シフトポジションを D 以外にしたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

S モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S2 から S4 に設定されます。

■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■S モードについて

- エンジンの過回転を防ぐために、S3 レンジ以下のとき、自動的にシフトアップする場合があります。
- S4 レンジ以下のとき、パドルシフトスイッチを “＋” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

- 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します ※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください

● 必ずハイブリッドシステムが始動している状態で操作してください。
ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

⚠ 注意

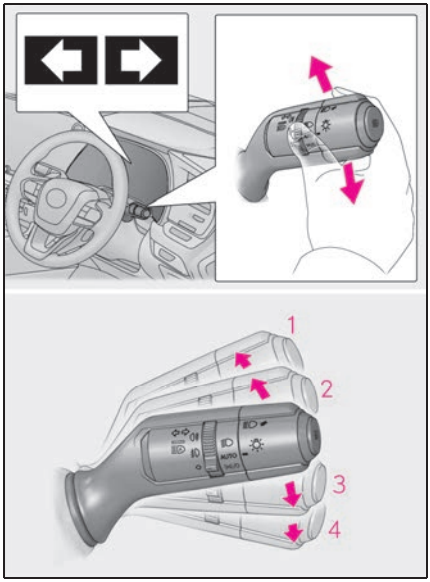
■自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ずハイブリッドシステムが始動状態であることを確認してください。
ハイブリッドシステム始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）
左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）
右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

レクサス販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

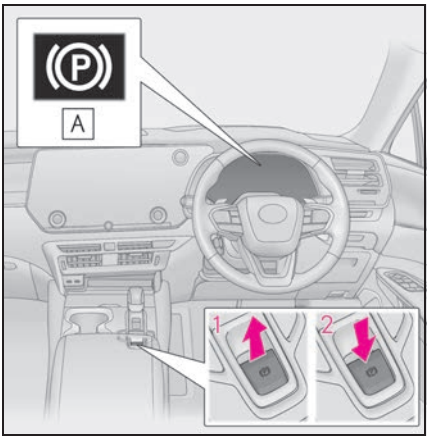
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.200)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.503)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.199)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチイ

ンフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席のドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●シフトポジションがPもしくはN以外の位置にある

（Advanced Park 作動中はシフトポジションが P のみ。）

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で 操作されました しばらく お待ちください” が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在 使用できません” が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパ

ワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.171

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.498

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.395

⚠警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.538）

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

▶ RX500h

シフトポジションが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

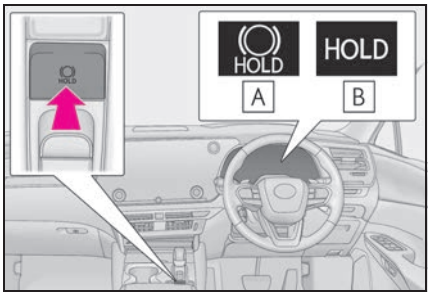
▶ RX350h

シフトポジションが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- ●運転席ドアが閉まっていない
- ●運転席シートベルトを着用していない
- ●パーキングブレーキがかかっている
- ●マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” や “EPB 故障 販売店で 点検してください” が、表示されている
- ●シフトポジションが R の時
- ●急坂路

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しブレーキを保持できません。ブレーキ保持中に、運転席ドアが閉まっていないことや運転席シートベルトを着用していないことを検出した場合は、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

ブレーキホールドシステムの ON および OFF 設定は、パワースイッチを OFF にしても維持されます。

■ブレーキ保持について

- ●ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しているときは、ブレーキを保持できません。
- ●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキ

をかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.199）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください” または “BrakeHold 故障 販売店で 点検してください” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.504

⚠警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC（アクティブサウンドコントロール）（RX500h）

ASC は、運転者が車の加速や減速といった走行状態を、より実感しやすくするためのシステムです。アクセル操作やシフト操作に対する車からのレスポンスを音で強調します。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

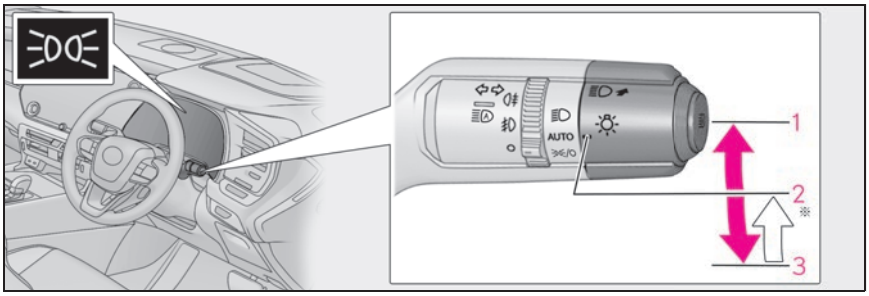
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯／消灯のしかた

■ 点灯する

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO	LED デイタイムランニングランプ（→P.206）が点灯 ※2	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※3

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 3 の状態に切りかえるには、 スイッチを下にまわした状態で約 1 秒保持してから、手を離します。約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2AUTOのまま変化しません。

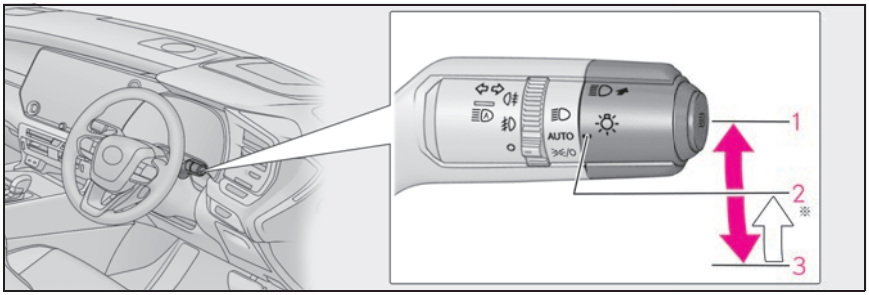
※2周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※3停車中から低車速での走行中にのみ、点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2AUTOでの点灯状態にもどります。

■ 消灯する

スイッチを 3 の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.206）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■LED デイタイムランニングランプ機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）

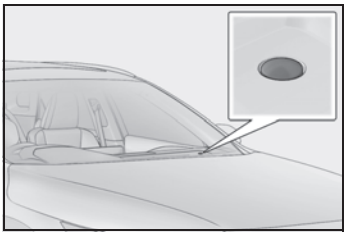
LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると、節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチがAUTOの位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯と尾灯が自動で点灯します。

■カスタマイズ機能

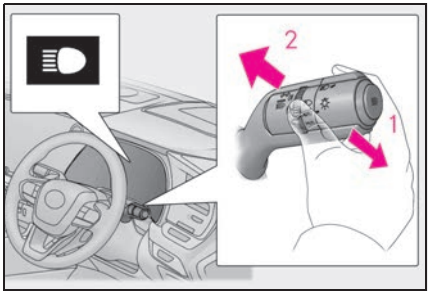
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにする



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションがＲのとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■コーナリングランプ制御について

- 車速が 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

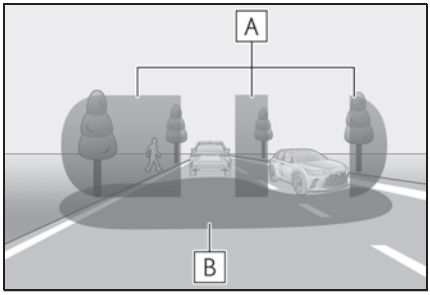
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



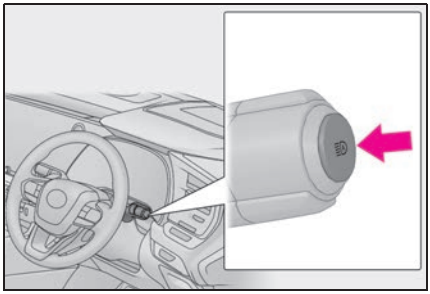
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

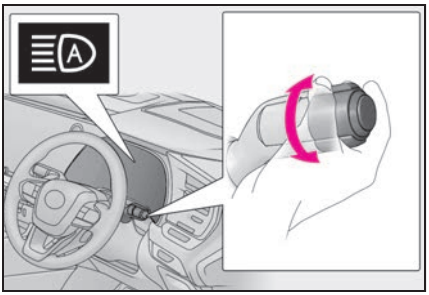


2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.227
・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

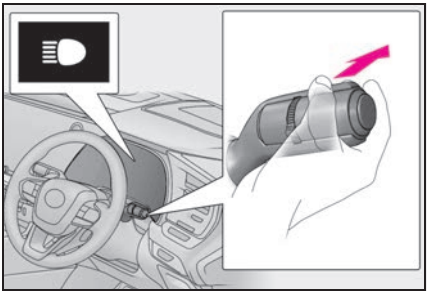
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

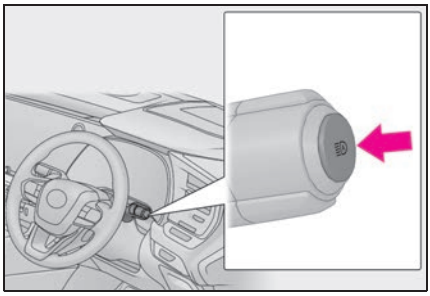


■ ロービームへの切りかえ

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

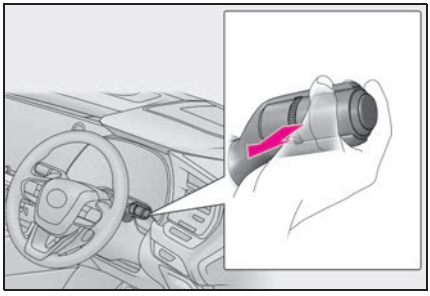


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

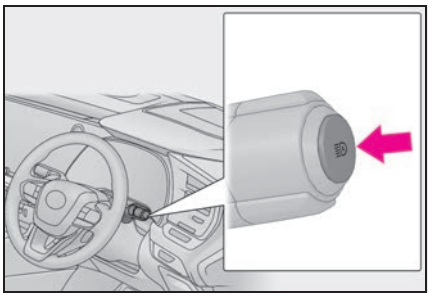
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

オートマチックハイビームを使うには

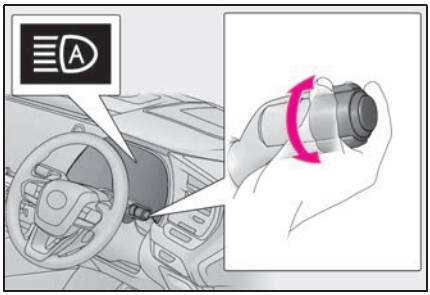
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.227
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

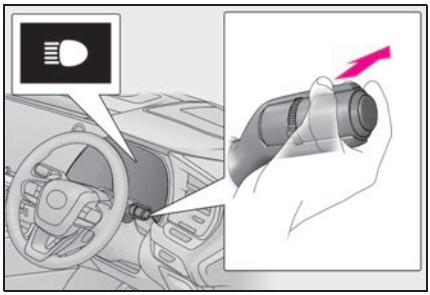
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



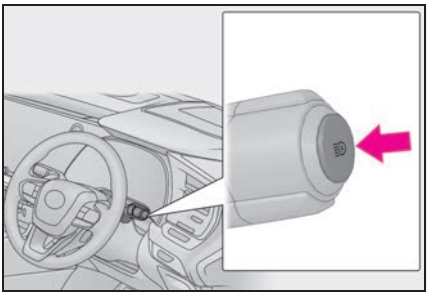
■ ロービームへの切りかえ

1 オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチ

を押します。

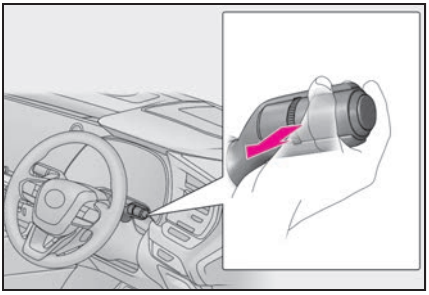


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

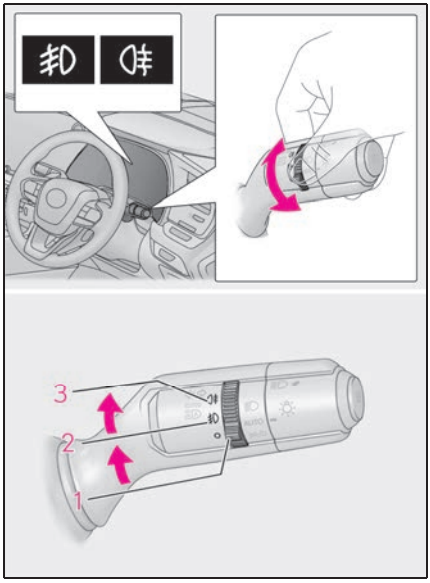
レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 O 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が黄色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注意

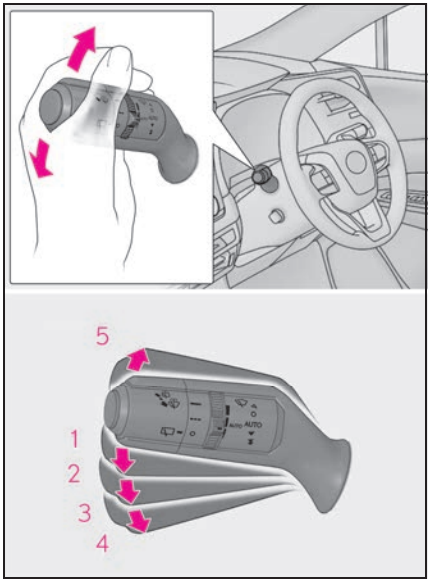
■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 O 停止

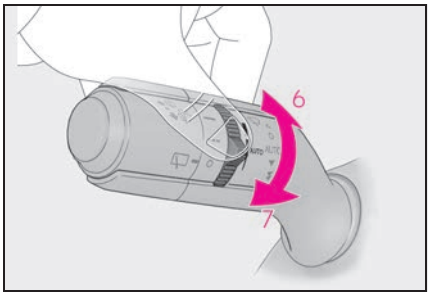
2 AUTOAUTO モード

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

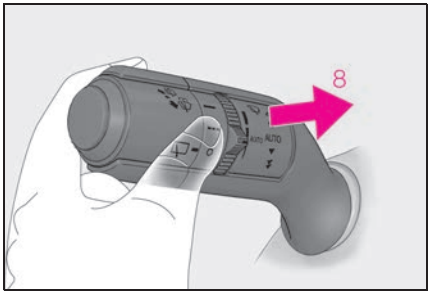
5 △ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。）

パワースイッチが ON の状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- フロントワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

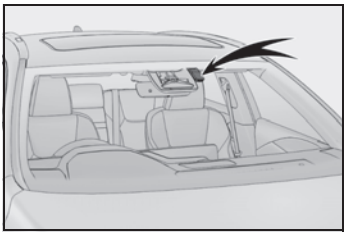
■車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調

整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONのときにワイパースイッチをAUTOにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

●AUTOモードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

AUTOモード選択中、パーキングブレーキがかかっている、またはシフトポジションがPの位置にある状態でワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

⚠警告

■AUTOモード時のワイパー作動について

AUTOモードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

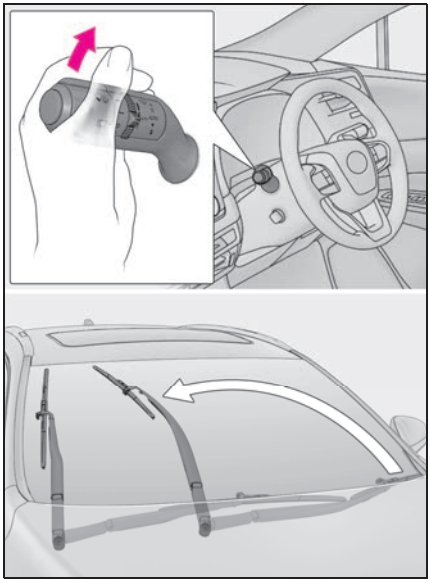
ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを

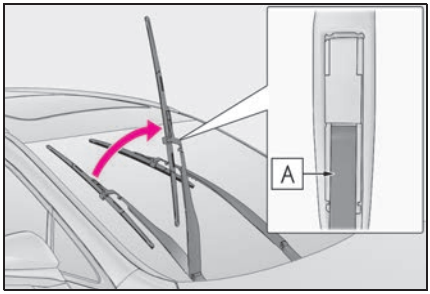
△ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



A フック部

知識

■ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

■音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、サービスポジションへ切りかえることができます。

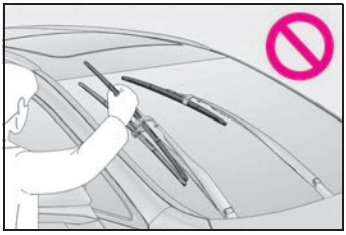
（停車中およびワイパースイッチが O の位置のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 注意

■ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

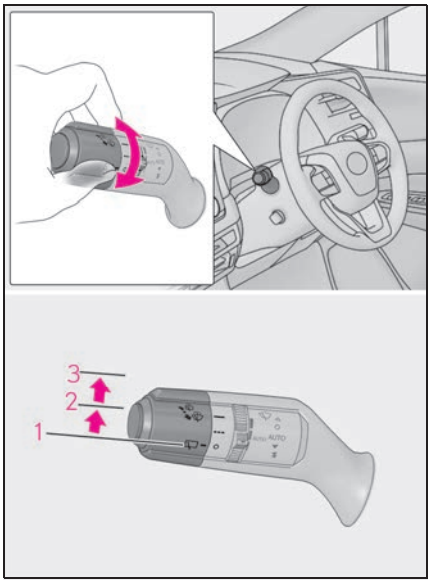
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

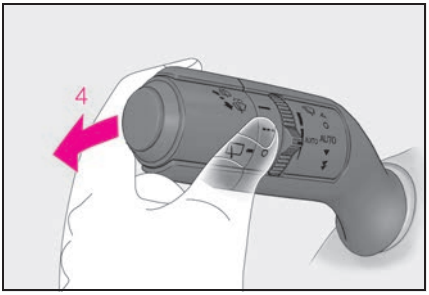
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 O 停止

2 --- 間欠運動

3 ― 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

カメラ洗浄システムも連動して作動します。※

※ カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- リヤワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

⚠警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき（RX500h）

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

●塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE の混合率 22%をこえるもの

■給油するとき（RX350h）

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。

・ エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ エンジンの出力が低下する

●その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。

・ エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ エンジンの出力が低下する

・ エンジンの始動性が悪くなる

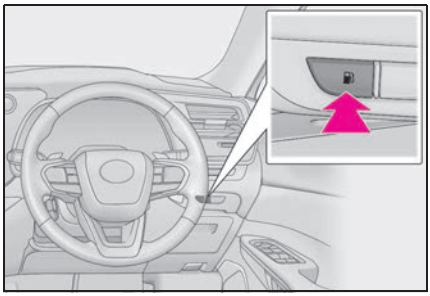
・ 排気制御システムが正常に機能しない

・ 燃料系部品が損傷する

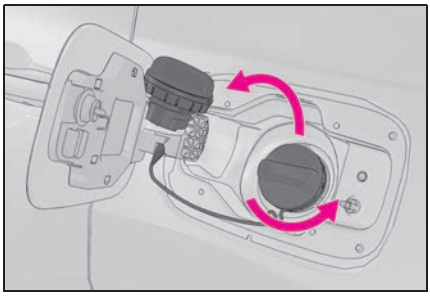
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE の混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

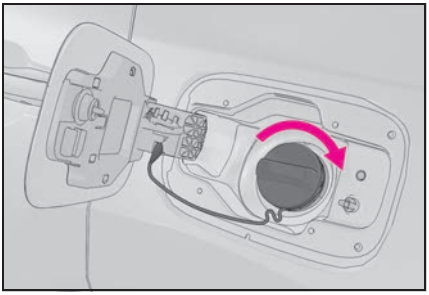
■給油扉が開かないとき

レクサス販売店にご相談ください。

給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ [渋滞時支援]）

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- G-Link 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、レクサス公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

センターディスプレイ／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアップリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 センターディスプレイの ⠿ にタッチします

2 “ 運転支援アップデート ” にタッチします

自車の Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.lexus.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、センターディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Lexus Safety System + ／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき※

・法規上の問題が発生したとき※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠ 警告

■Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

⚠ 警告

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●過積載やパンクで車両が傾いているとき

●過度な高速走行をしているとき

●けん引時

●トラック／船舶／列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●洗車機を使用するとき

●センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき

●センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

●事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）

→P.209

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.212

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.237

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.246

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.255

■ LCA（レーンチェンジアシスト）

→P.251

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

→P.265

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.260

■ 発進遅れ告知機能

→P.267

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.269

■ レーダークルーズコントロール

→P.272

■ クルーズコントロール

→P.282

■ ドライバー異常時対応システム

→P.286

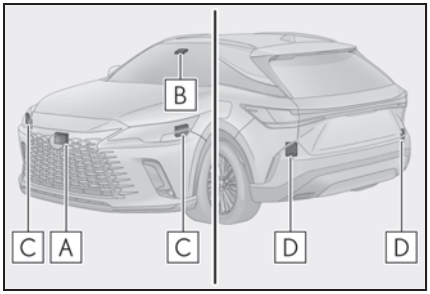
■ ドライバーモニター

→P.235

Lexus Safety System + で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー



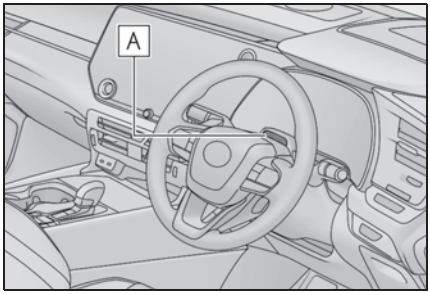
A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 前側方レーダー

D 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

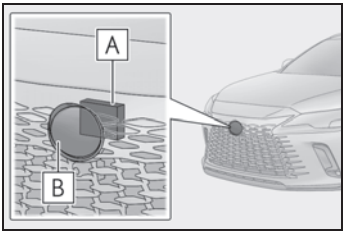
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

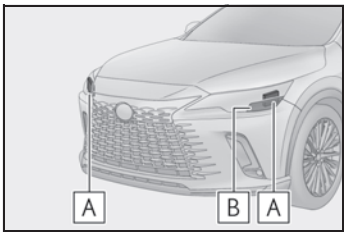
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

⚠ 警告



A レーダー

B レーダー専用カバー

- 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・ レーダーを脱着や交換したとき

・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

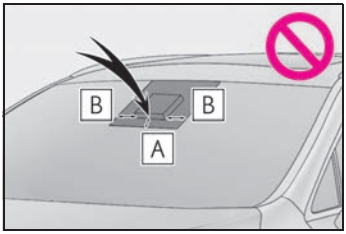
・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

警告

■ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。

- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

■センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき

・ トンネル
・ トラス橋
・ 砂利道
・ 轍のある雪道

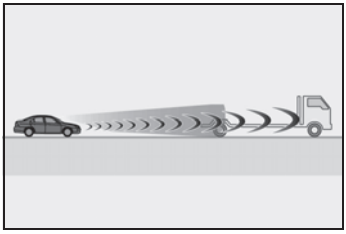
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

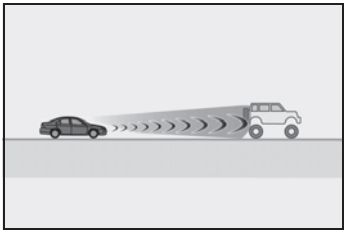
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれている場合

●対象車両に雪や泥などが付着している場合

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定な場合

●車線内での自車の位置が一定でない場合

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

●VSC、TRC 等の安全システムが作動時

●VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

●炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

●強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

●周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき

●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき

●眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき

●助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

●前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき

●ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき

●帽子を被っているとき

●眼帯を着用しているとき

●赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき

●コンタクトレンズをつけているとき

●マスクを着用しているとき

●笑ったり、眼を細めたりしているとき

●眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

●眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき

●眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき

●車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

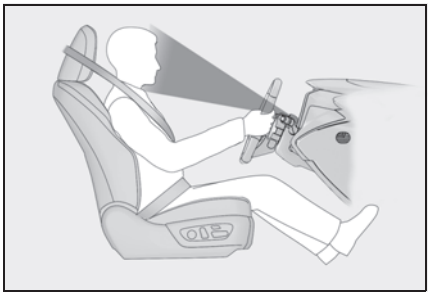
JP 01

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル / シートの位置を調整してください。

運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」を参照してください。(→P.166)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴

情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

●お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。

●数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。

●顔情報はお客様自身で削除することが可能です。

●顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。

・顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。

・顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。

・コンピューターに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。

●消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

●顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態

●眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している

●正面を向いていない場合

●髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリー等で顔の一部が隠れている

●目を閉じている

●双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.233

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.560）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.237）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.246）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 安全にお使いいただくために：→P.226

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

● 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

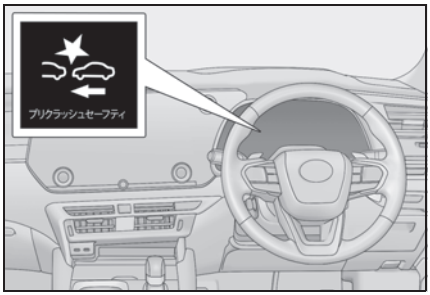
機能一覧

■ 衝突警報

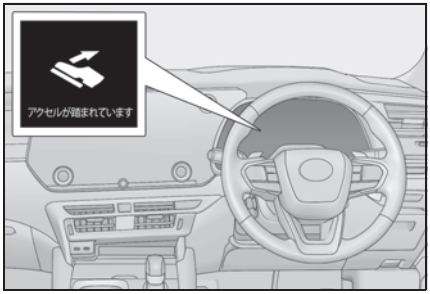
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をう

ながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ **プリクラッシュブレーキアシスト**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ **プリクラッシュブレーキ**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

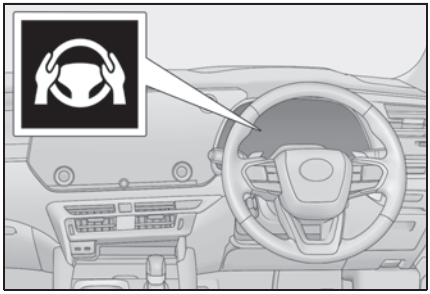
■ **緊急時操舵支援**

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった
- 運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

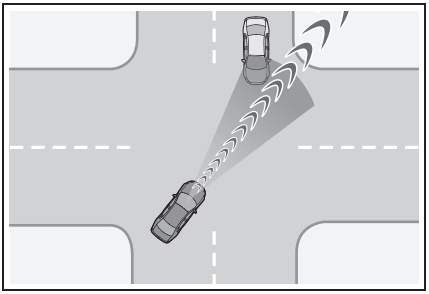


■ **交差点衝突回避支援（右左折）**

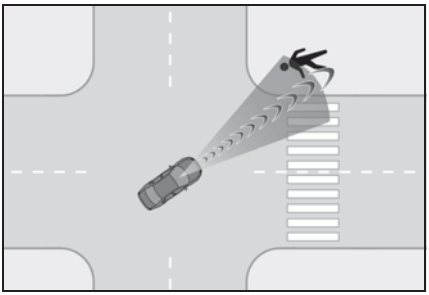
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



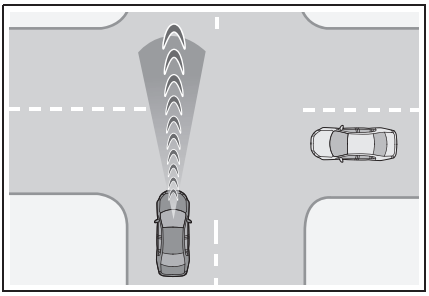
● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

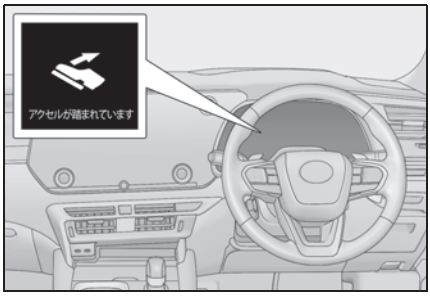
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ **低速時加速抑制**

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ **サスペンションコントロール★**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.380）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ **プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

⚠ 警告

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	約 50km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

相手車速度が自車速度以下の場合しか作動しません。

自車速度が約 40km/h 以上のときは、相手車速度が約 40km/h 以下の場合しか作動しません。

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

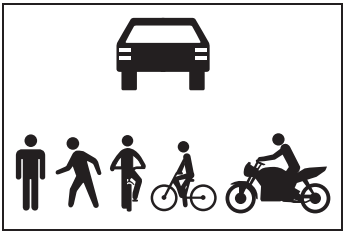
・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

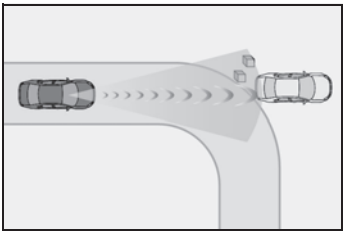
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき

・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき

・ 作動対象などに急接近したとき

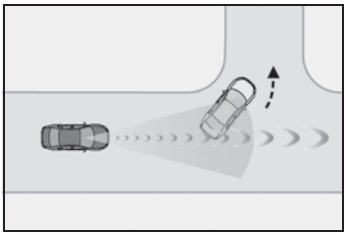
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

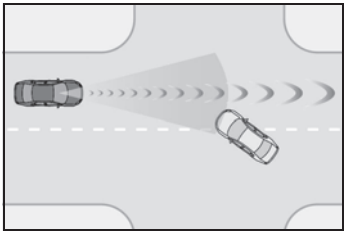


・ 自車の前方に作動対象との区別がつき

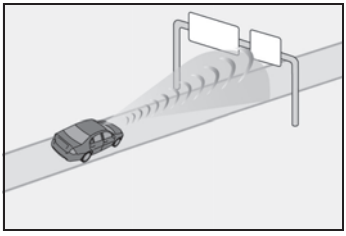
にくい模様・ペイントがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



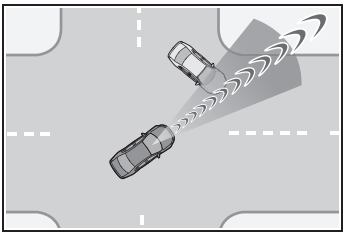
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



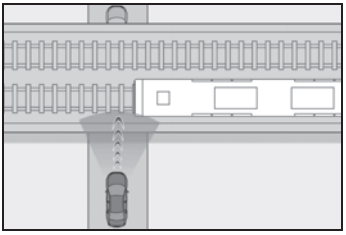
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



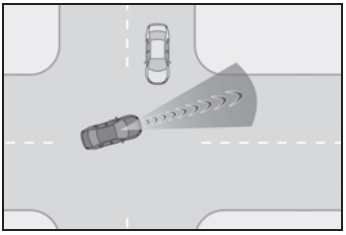
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路上方／下方を移動するものがあるとき



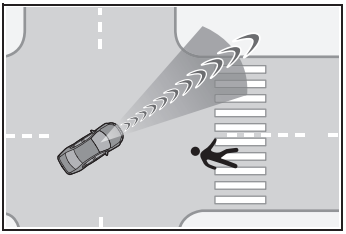
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.560)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.560)

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。“遅い”を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。

● 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が“早い”のタイミングで作動します。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

● アドバンスト ドライブ制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

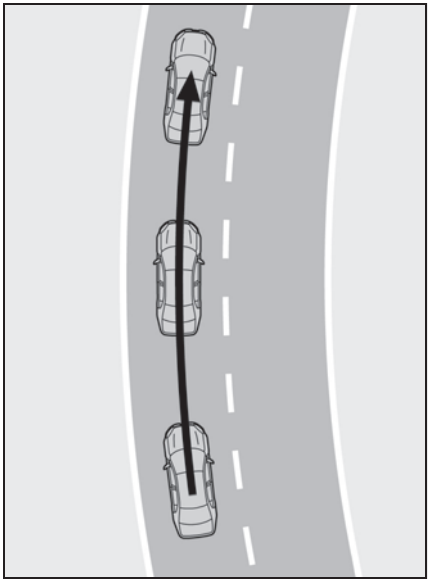
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

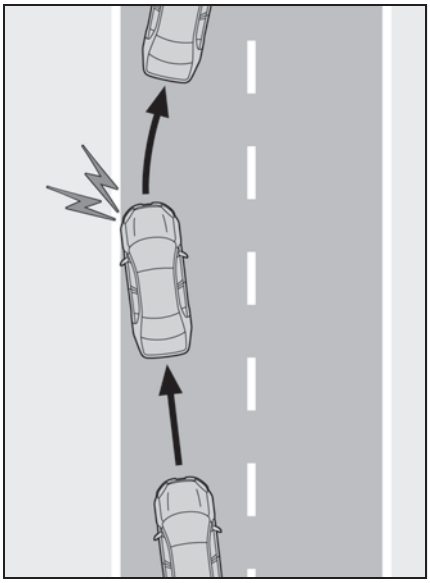
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.248）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.247）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したときハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

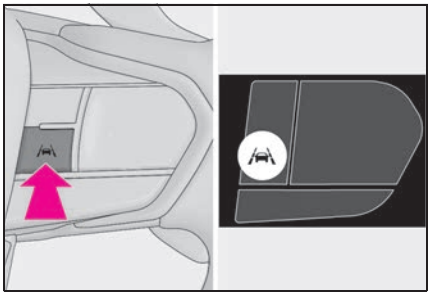
●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LTA の ON ／ OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

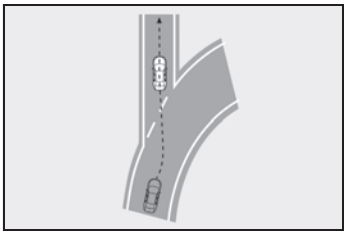


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.232
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色／白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
黄色 点滅	黄色 点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LCA（レーンチェンジアシスト）

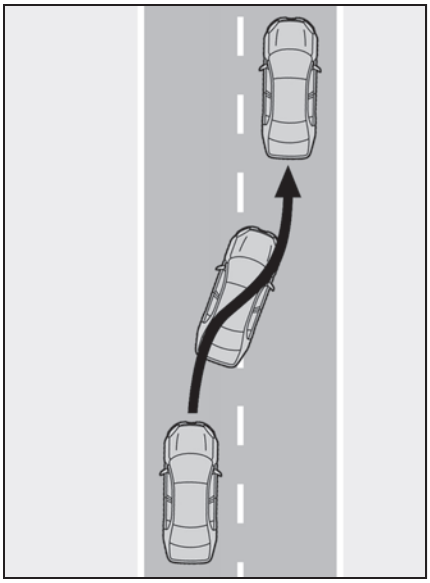
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



警告

■LCA をお使いになる前に

●LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LTA が作動しているとき

●カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき

●自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき

●システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき

●車線を変更する先に車両が存在しないとき

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.248）が行われていないとき

●ハイブリッドシステム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●作動条件が満たされなくなった場合（→P.251）

●システムが車線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを 2 段目の位置（→P.252）へ操作したとき

●方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき

●運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.252）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持を促すメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

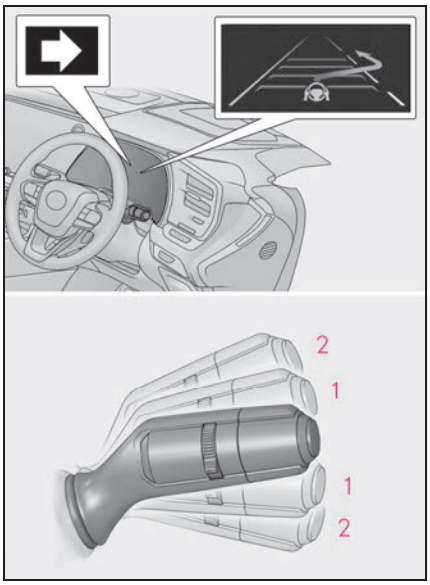
●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で “ピッ” とブザーが鳴るまで保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



1 1 段目：LCA 作動位置

2 2 段目：LCA 非作動位置

⚠ 警告

■LCA を使用してはいけない状況

●片側1車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LCA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
灰色矢印／緑色線	緑色	LCA がスタンバイ状態
青色矢印／白色線		LCA が作動中

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
 灰色線	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

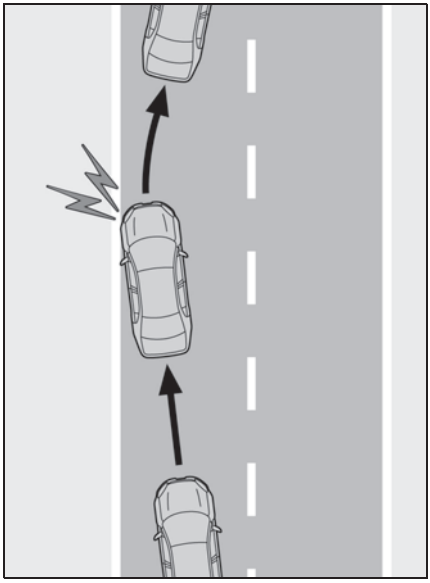
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



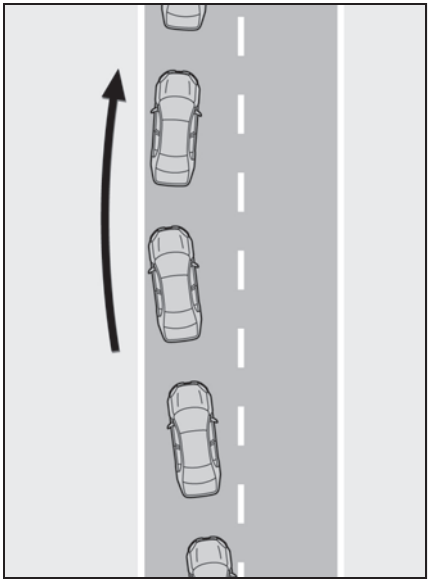
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

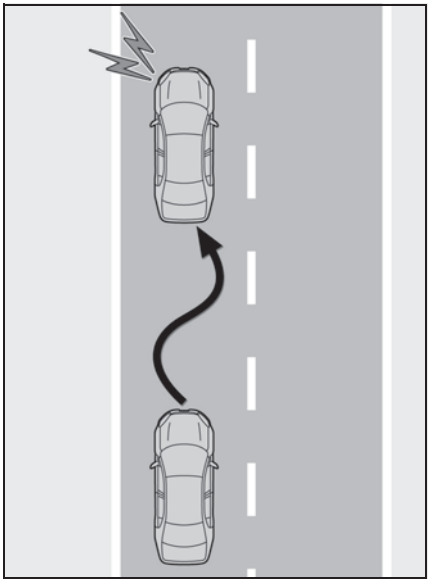
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にした時)

・ システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき

(方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)

・ 急カーブを走行していないとき
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・VSC または TRC を OFF にしていないとき

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.256）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

● カスタマイズ設定から、LDA の設

定を変更することができます。(→P.560)

⚠警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.232
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
黄色 点滅	黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
黄色 点滅	黄色 点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.260）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.262）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に

応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
減速アシスト	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233
・シフトポジションが P、R または N のとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.232

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

⚠ 警告

- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.560）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.560）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが

鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

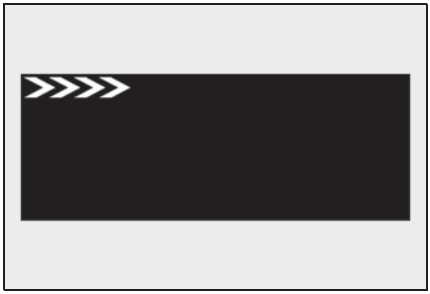
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

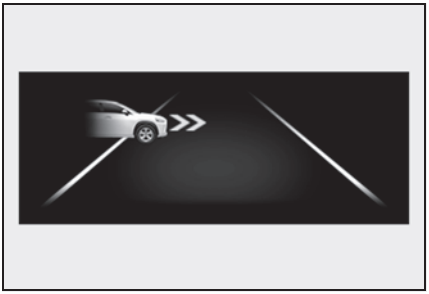
● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ヘッドアップディスプレイ



● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・マルチインフォメーションディスプレイ



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。

一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■FCTA システムの作動条件

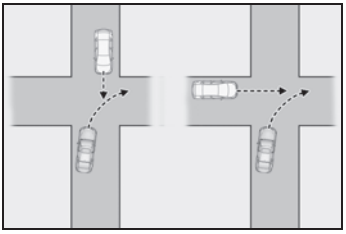
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15 km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき

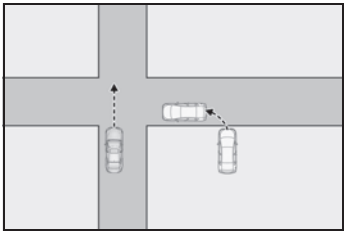
●自車が車両や歩行者と並走するとき

●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方レーダーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



●交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき

●交差車両が自車から遠方を交差するとき

●自車と交差車両の間に障害物があるとき

●複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233

FCTA の設定を変更する

● FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.560）

● カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.560）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合

●歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合

●交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合

●日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON ／ OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.560）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.231

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知 (例えば、強調表示やブザー吹鳴) します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。
・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

● RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.560)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.277

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

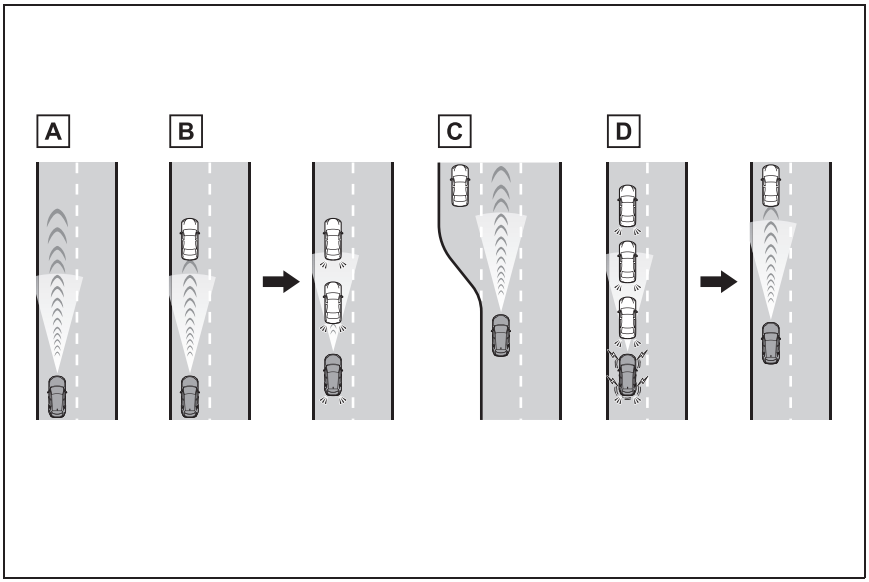
⚠ 警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.277
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

基本機能



A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

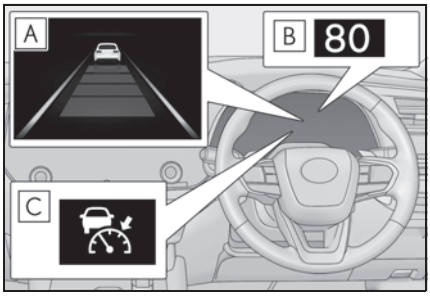
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。(再発進可能時間延長)

システムの構成部品

■ メーター表示

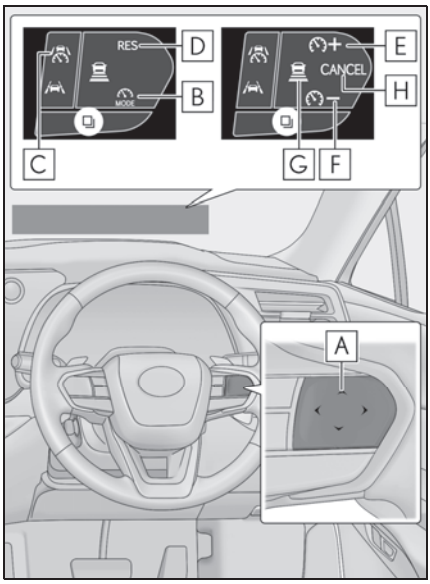


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイがOFFのときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

B 走行支援モード選択スイッチ

C 走行支援スイッチ

D “RES” スイッチ

E “+” スイッチ

F “-” スイッチ

G 車間距離切りかえスイッチ

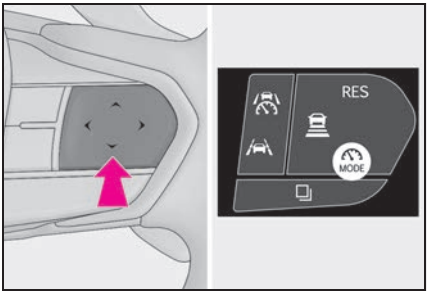
H キャンセルスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

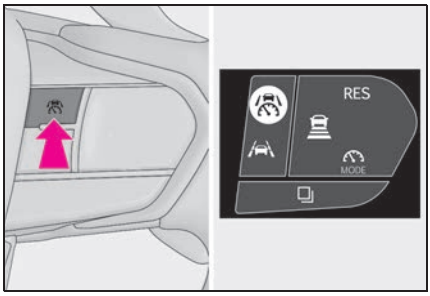
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

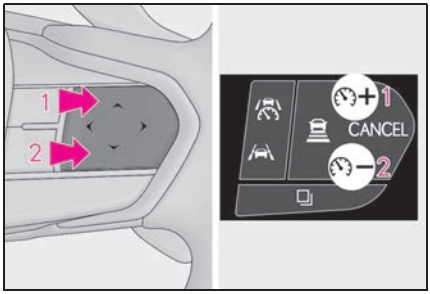
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の

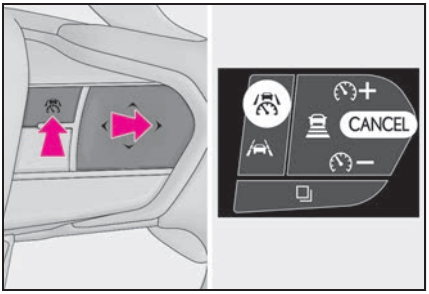
変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

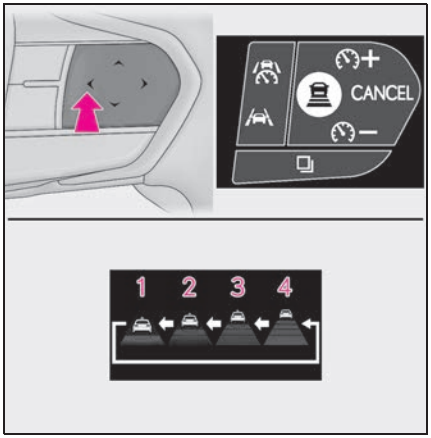
(制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用して、次の操作を音声で行うことができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

● 設定速度の変更

● 車間距離の変更

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.226

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.278）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけた場合

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

■再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●自動車専用道路など限定された道路を走行中。

●先行車が存在し、システムが先行車を検知できている

●先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない

●先行車が入れかわっていない

●クリアランスソナーおよび前側方レーダが前方の物体を検知していない

●運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している

●ハンドルを操作していない

●ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

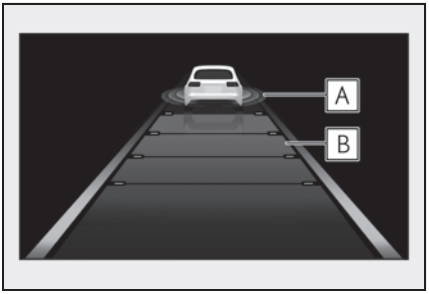
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

知識

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

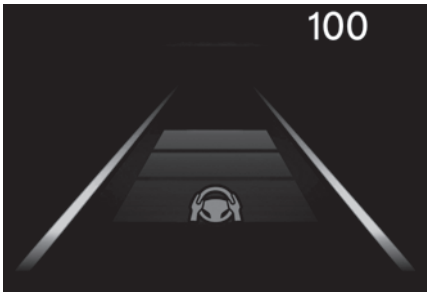
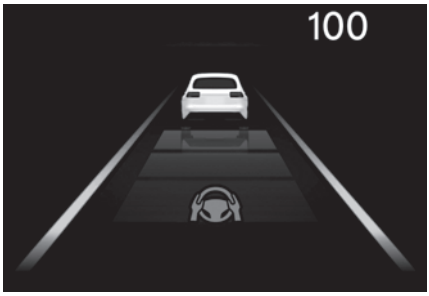
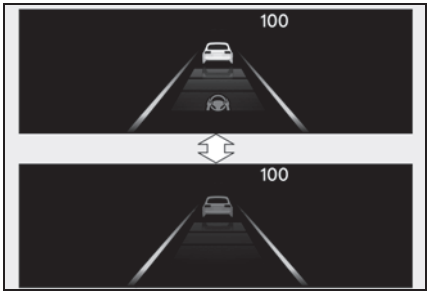
- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

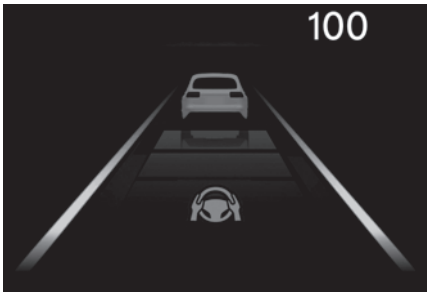
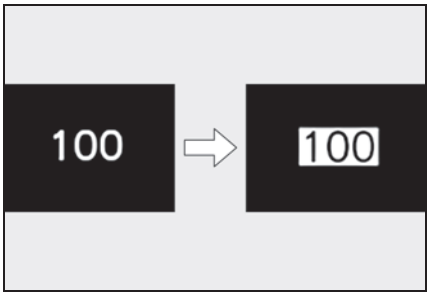
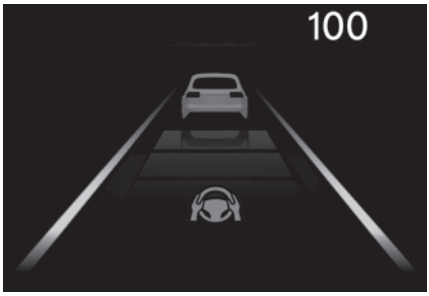
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

● レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.560）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

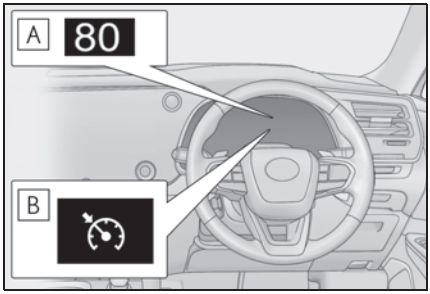
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.227

システムの構成部品

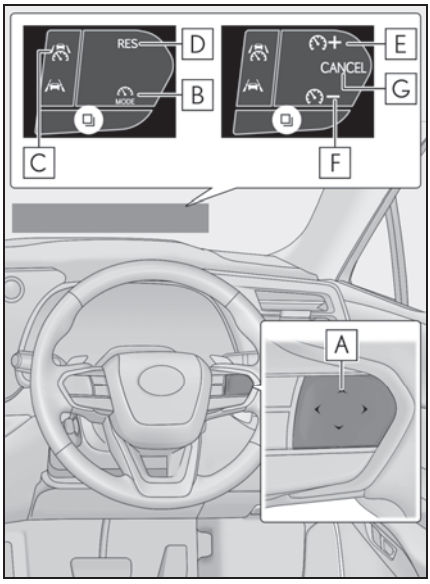
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

B 走行支援モード選択スイッチ

C 走行支援スイッチ

D “RES” スイッチ

E “+” スイッチ

F “-” スイッチ

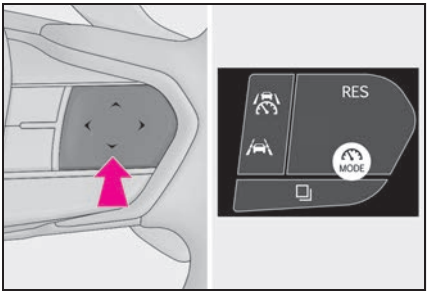
G キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

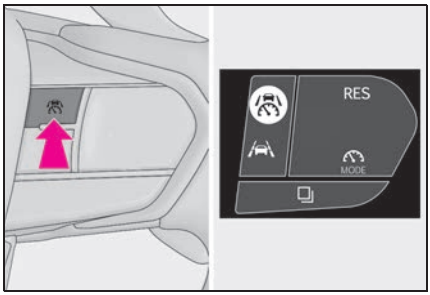
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

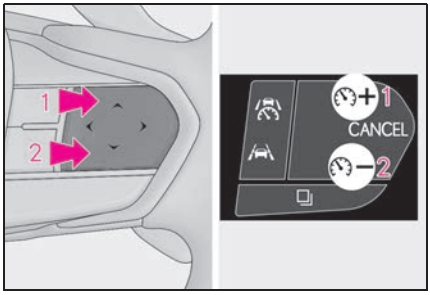
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

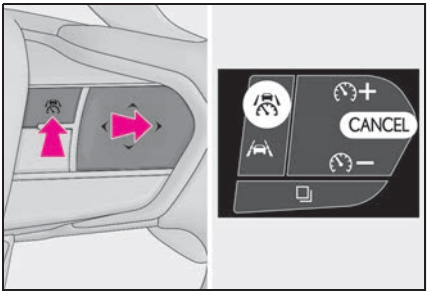
大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるには、“RES”スイッチを押す

知識

■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

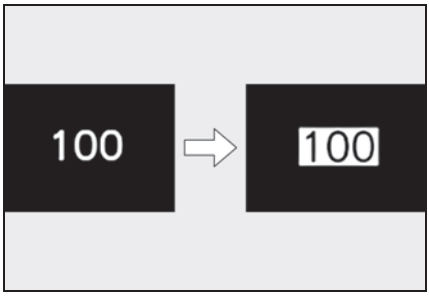
- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.233

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システ

ムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき

●自車速が約 50km/h 以上

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバ操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバ異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、

ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

機能概要

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.228）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.228）

知識

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.233

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.233

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.233

ドライバー異常時対応システム

→P.286

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.277

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。（→P.291）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。
  本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

⚠ 警告

- 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。
- 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ 路上落下物

・ 車線外（路肩など）にいる車両

・ くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路

・ 工事区間

・ 隣接する並走車両や壁

・ 動物

■機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

→P.227

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.231

- 車線を検知できないおそれがあるとき

→P.232

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 水しぶきがかかったとき
- 外気温が高温または低温のとき

⚠ 警告

- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいとき
- 地図情報が正常に更新されていないとき

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.228

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.229

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.230

知識

■機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよびLTA（レーントレーシングアシスト）が作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき
- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを締めている
- アドバンスト ドライブカスタマイズが OFF に設定されていないとき
- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- PCS カスタマイズが OFF に設定されていないとき
- レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズが OFF に設定されていないとき

■機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.292）

■制御走行中の運転操作について

- アクセルペダル

通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。約 10km/h 以上で走行中にアクセルペダルを踏んだときには、機能が解除されます。

●ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

●ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

■ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

● “Advanced Drive使用できません 販売店で点検 ”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

● “Advanced Drive使用できません 停車支援機能 作動履歴有 ”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、パワースイッチをOFF にしたあとで再度 ON にしてください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
（灰色）	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
（橙色）	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
（赤色）	レーダークルーズコントロール／LTA（レーントレーシングアシスト）の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
（黄色）	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

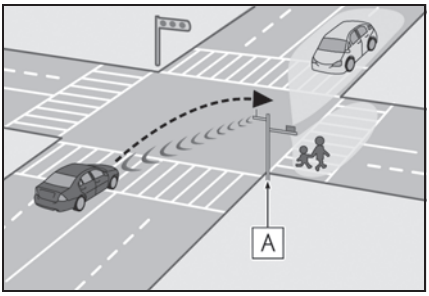
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

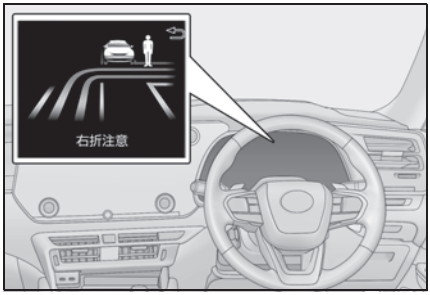
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.279 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名：DTU-1030
  型式認定番号：10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.297）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.295）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。
ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なと

き、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイに割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

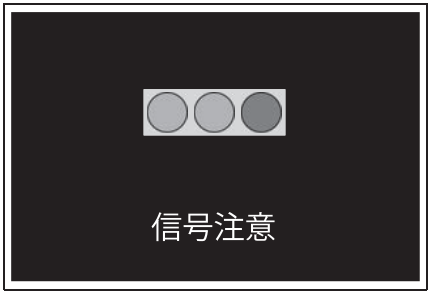
地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

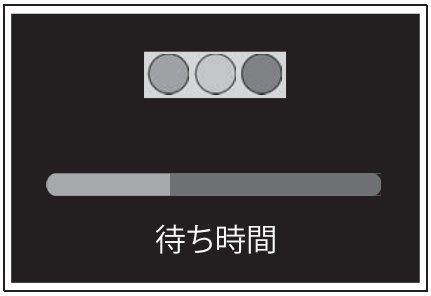
赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近く

に緊急車両がいることを表します。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・ トンネルや高架下を通過しているとき
・ ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・ 他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 遅い速度で走行しているとき
・ 停車しているとき
・ 交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき

・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

■出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

各機能の設定変更

センターディスプレイのカスタマイズ設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング (早い／遅い) を切り替えることができます。(初期設定：早い) ※1

・赤信号注意喚起
・出会い頭注意喚起
・右折時注意喚起

● 信号情報

次の機能の ON ／ OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON) ※2

・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON ／ OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON) ※2

・右折時注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※3

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON ／ OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

● 通信利用型クルーズ

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

※1各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※2信号情報または道路環境情報に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※3FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

BSM（ブラインドスポットモニター）

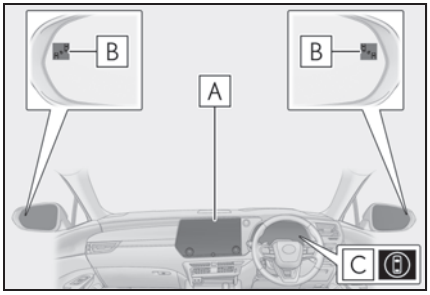
ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A センターディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.71）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

C5-000-1

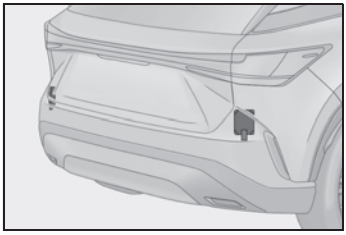
⚠警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.302）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。
塗装修理の際はレクサス販売店にご相談下さい。

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

ブラインドスポットモニターのON／OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

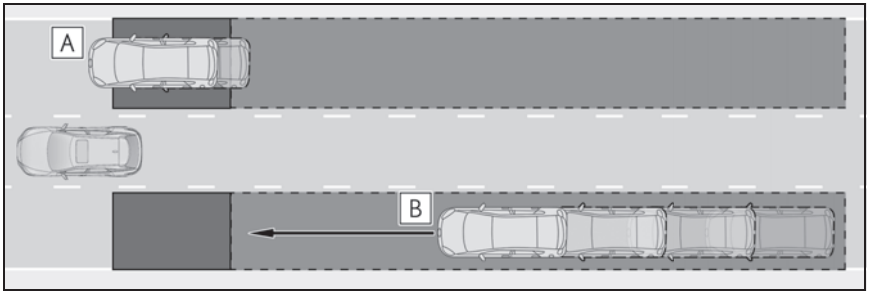
ブラインドスポットモニターがOFFになると、運転支援情報表示灯（→P.71）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチがONになるたび、ブラインドスポットモニターはONになります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

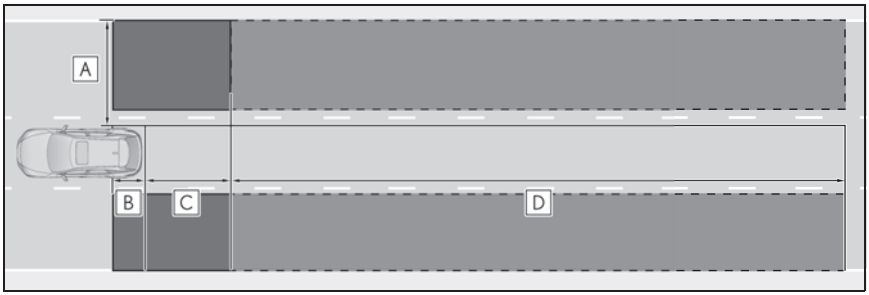


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※3

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※3自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.255 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあ

ります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

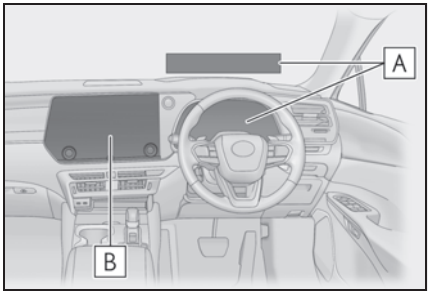
■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.300

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B センターディスプレイ

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.560)

知識

■ブザー音の聞こえ方について

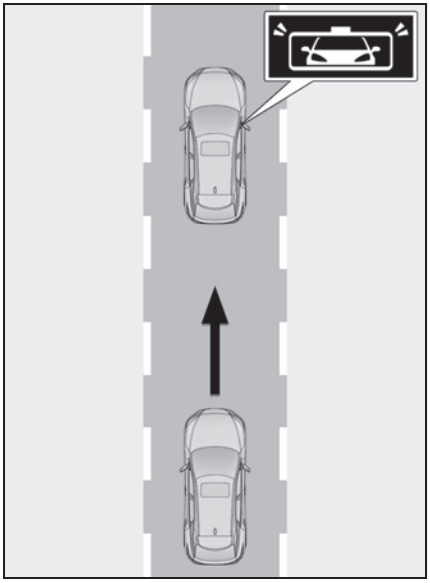
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

■後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●後方車両接近告知が ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約5分以上経過していること

■センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追い越そうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- カーブ中に隣接車両がいるとき
- 他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）

周辺車両接近時サポートは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。
ドライブレコーダー（前後方）※が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

⚠ 警告

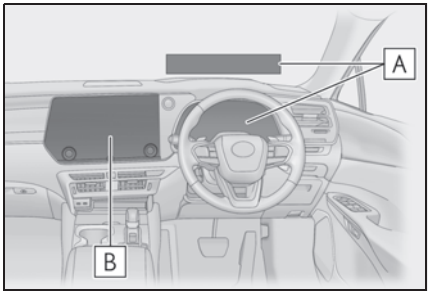
■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.300

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B センターディスプレイ

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.560)

知識

■音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。
ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。
通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで “ はい（YES）" を選択してください。
ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。
通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。
ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ イベント録画（ドライブレコーダー [前後方] 装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。
ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■イベント録画の通知（ドライブレコーダー [前後方] 装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●パワースイッチが ON のとき
- ●周辺車両接近時サポートが ON のとき
- ●シフトポジションが R 以外のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●方向指示レバーを操作していないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●前回作動から約 10 分以上経過していること

■通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

- ●携帯電話の電波が圏外でないとき
- ●携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ヘルプネット接続提案の作動条件

- ●通報提案がされていないとき
- ●ヘルプネットの契約がされている

■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ●対向車
- ●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

- ●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセン

サーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

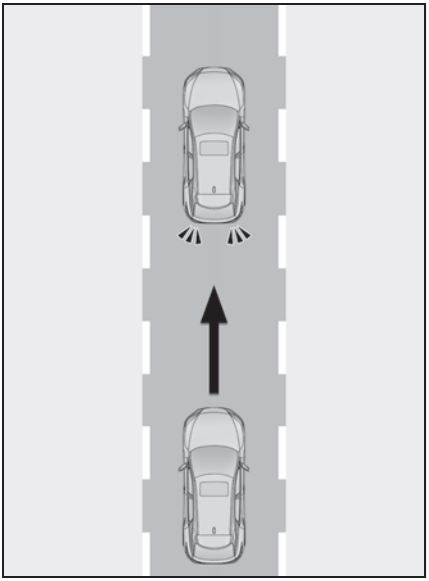
■システムを正しく作動させるために

→P.300

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車

両の接近を運転者に知らせます。



知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・ けん引しているとき
・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

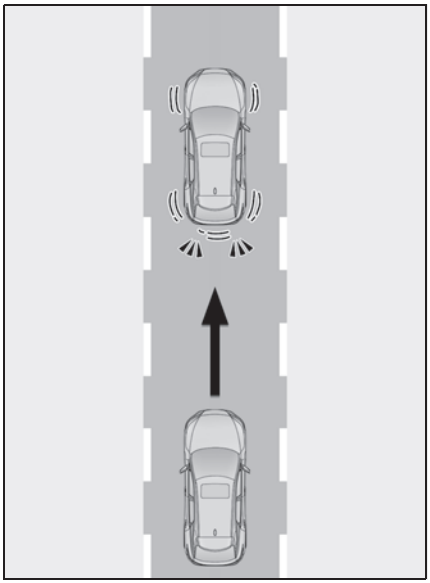
■システムを正しく作動させるために

→P.300

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ

（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき ※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過していること
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間
- 自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・ けん引しているとき

・停車した直後に後方車両が接近したとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
・洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシスト（ドアオープン制御付）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援、およびドア開放をキャンセルすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

⚠警告

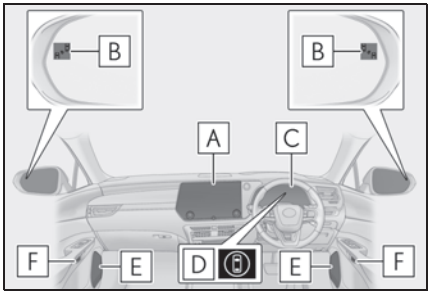
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A センターディスプレイ

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.70）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合やドア開放をキャンセルした場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合やドアの開放がキャンセルされた場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

F ドア開スイッチ（手動リリースハンドル）

ドアミラーインジケーターが点灯中、ドア開スイッチでドアを開けようとしたときに、降車時のドアと車両・自転車の衝突の可能性が高い場合は、ドア開放がキャンセルされます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、ハイブリッドシステムを始動するまで
- ハイブリッドシステム停止後3分以上経過した場合
- センターディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されている場合
- 外部より全ドアが施錠されている場合
- ハイブリッドシステム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続している場合
- センターディスプレイの ACC カスタマイズ（→P.560）が ON の状態で、ハイブリッドシステムが停止しているとき
- センターディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっている場合

※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■ドア開放キャンセルについて

車内側ドア開スイッチを押下した時のみ、ドア開放をキャンセルします。車外側ドア開スイッチでのドア開放はキャンセルされません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.300

安心降車アシストの ON／OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON／OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.560)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

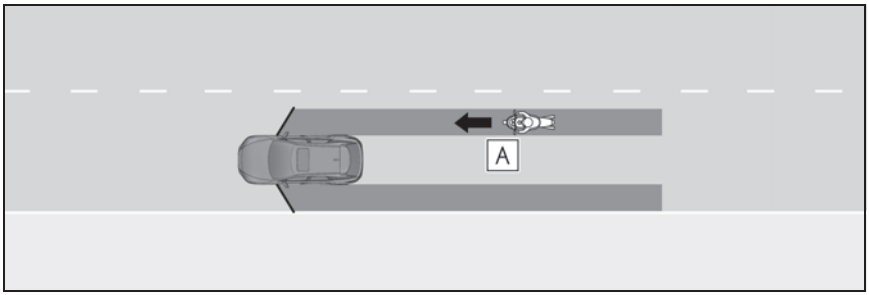
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

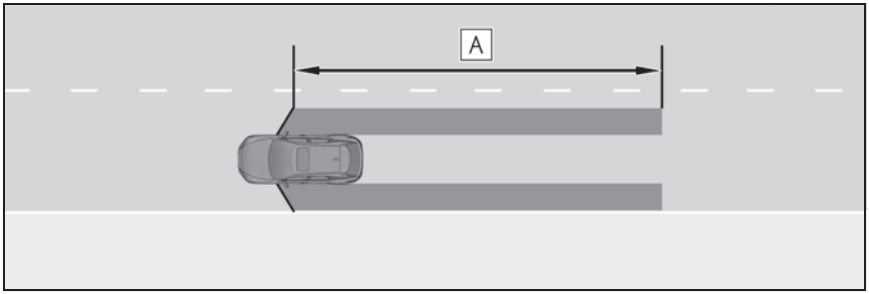
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア(バッグドアを除く)を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

●安心降車アシストが ON のとき

●停車中

●シフトポジションが R 以外のとき

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■システムが車両を検知しない条件

●安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※
・ ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※
・ 真うしろから接近する車両・自転車 ※
・ 前方から接近する車両・自転車 ※
・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
・ 歩行者、動物など ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

・ ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
・ 自車が完全に停車していないとき

■システムがドア開放をキャンセルしたときの開き方

次の操作で、ドアを開くことができます。

接近してくる車両・自転車が通過または進路変更した後、周囲を確認してから再度車内のドア開スイッチを押して下さい。緊急時など警報中にドアを開きたい場合のみ、周囲の安全を確認したうえで下記の操作を実施してください。

●車内のドア開スイッチを約3秒以上押し

続ける

●車内のドア開スイッチを3回以上連続で素早く押す

●手動リリースハンドルを引く

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・発進した直後の車両や自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

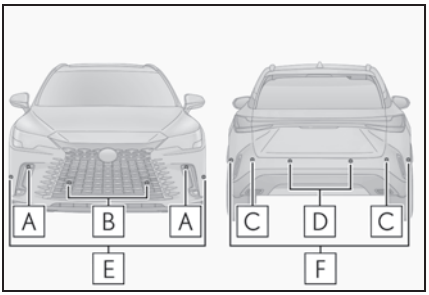
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

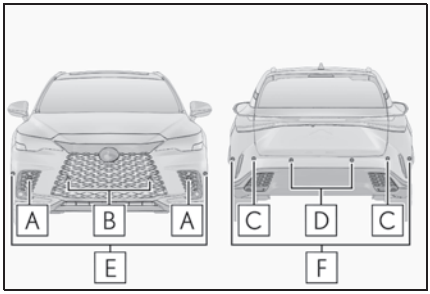
■ **センサーの種類**

▶ F SPORT 以外



A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー
E フロントサイドセンサー
F リヤサイドセンサー

▶ F SPORT

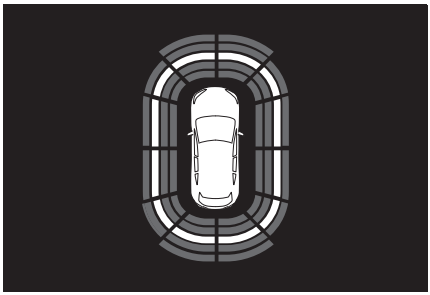


A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー
E フロントサイドセンサー
F リヤサイドセンサー

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

壁などの静止物を検知すると、センターディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。



■ **クリアランスソナー検知表示灯★**

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.319）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.71）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.560）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON(作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

警告

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON のとき

●クリアランスソナー機能が ON のとき

●車両の速度が約 10km ／ h 以下のとき

●フロントコーナーセンサー：
・ シフトポジションが P 以外にあるとき

●フロントセンターセンサー：
・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき

●リヤコーナ ー、リヤセンターセンサー：
・ シフトポジションが R にあるとき

●サイドセンサー：
・ ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
・ シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
・ シフトポジションが R のとき
・ VIEW が押され、センターディスプレイが表示されているとき
・ フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

●クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

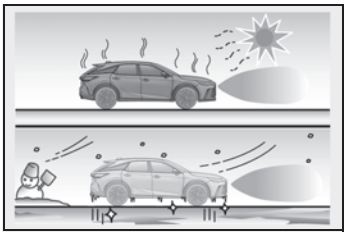
●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時

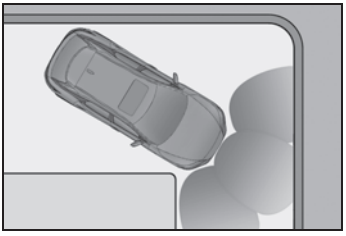


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

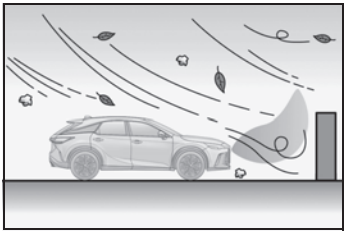
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

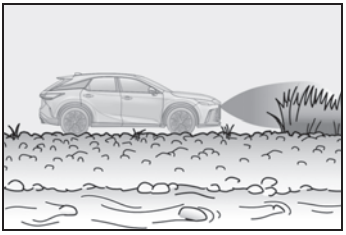
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

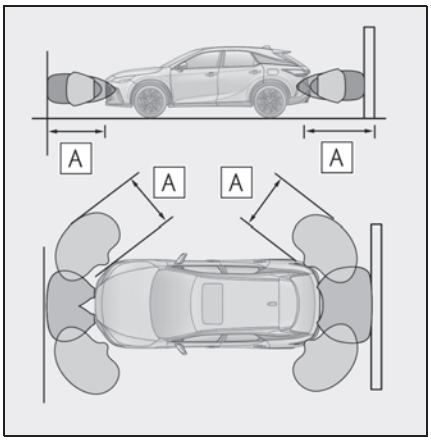


●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
フロント / リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
フロント / リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.323）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.560）

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

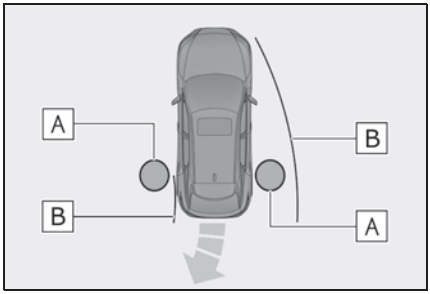
センターディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

●次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
・ シフトポジションを切りかえたとき
・ 車速が一定値以上になったとき
・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・ 使用中の機能を OFF にしたとき
・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

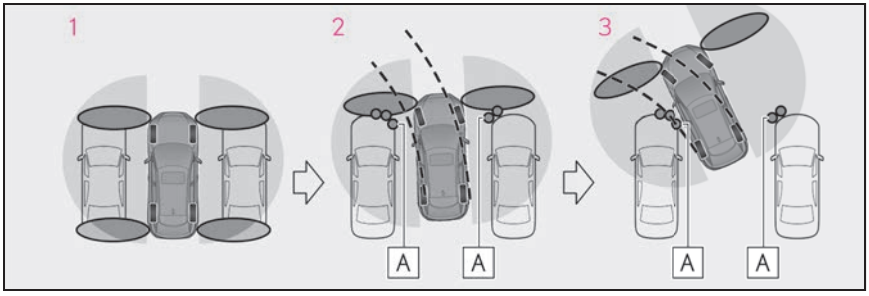
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VIEW が押され、センターディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

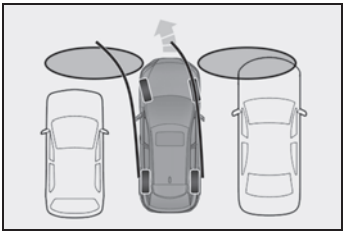
- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
  下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

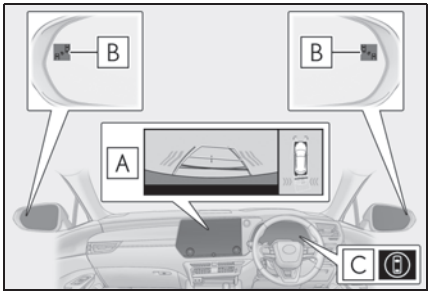
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.300

システムの構成部品



A センターディスプレイ

センターディスプレイ上で RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。
また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.327）が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.71）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.560）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.71）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレ

イにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

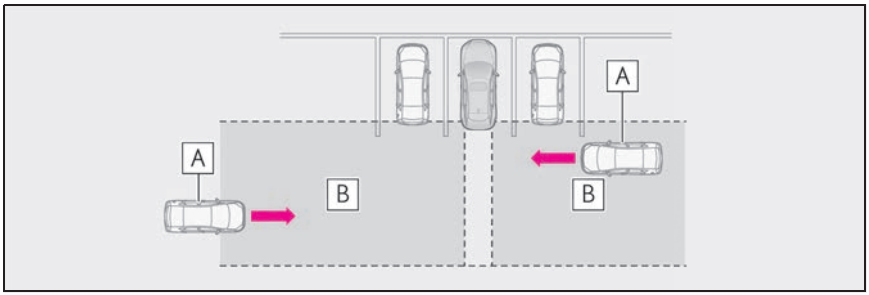
■後側方レーダーセンサーについて

→P.300

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



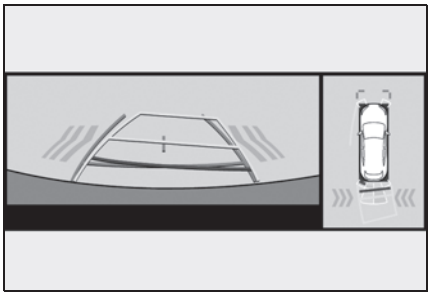
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

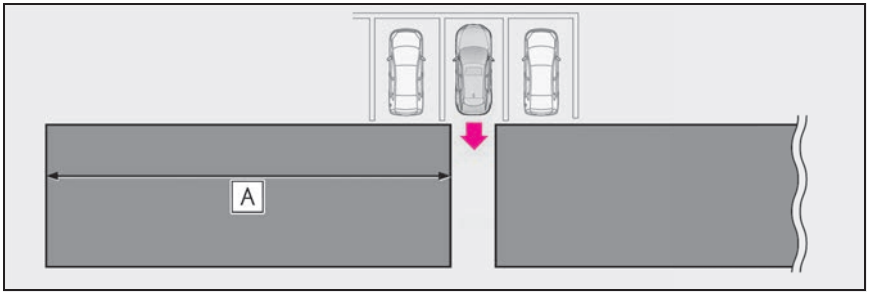
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.560）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

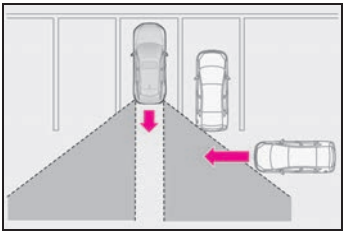
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

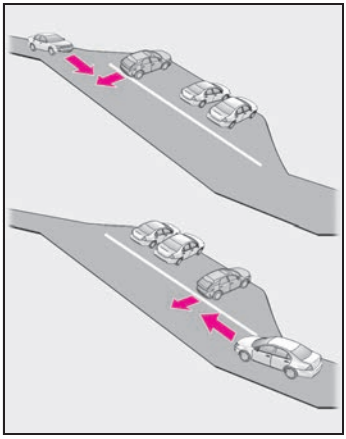
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

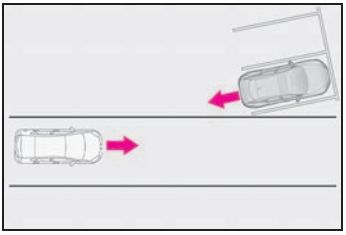
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

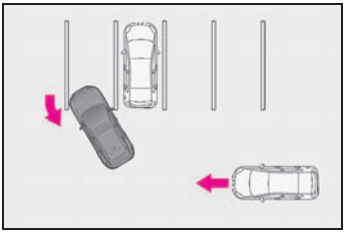
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

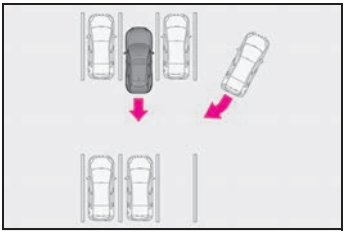
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



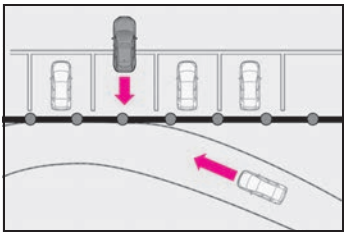
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



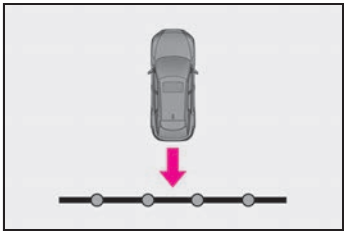
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

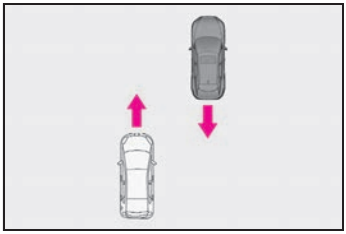


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

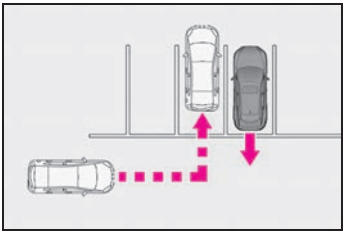


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

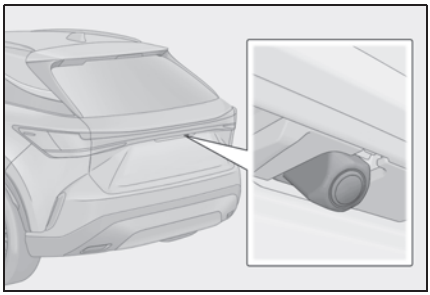
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

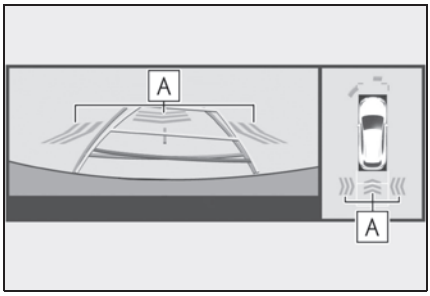
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

RCD の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることがで

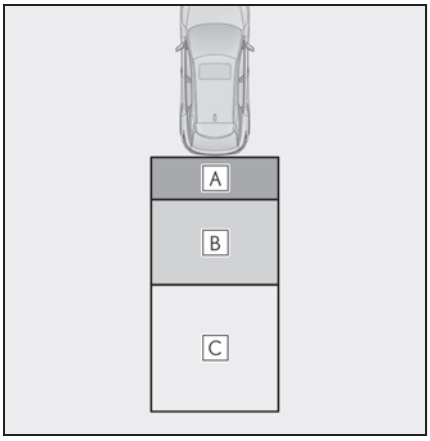
きます。(→P.560)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯(→P.71)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとセンターディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいるとき
ブザー:くり返し吹鳴
歩行者検知表示:点滅

B 歩行者がBエリアにいるとき
ブザー(自車静止時):3 回吹鳴
ブザー(自車移動時および歩行者接近時):くり返し吹鳴
歩行者検知表示:点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断したとき
ブザー:くり返し吹鳴
歩行者検知表示:点滅

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON のとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

●Advanced Park が作動中でないとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.560)

■ブザー音の一時ミュート(消音)

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート(消音)スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート(消音)されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート(消音)を解除します:

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人

・寝転んでいる人

・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボードなどに乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧など）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
・移動物（通行車両、バイクなど）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.338

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.341

- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

→P.343

- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）

→P.338

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

⚠ 警告

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.560)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.71）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.560）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例※：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例※：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示例※：“ブレーキを 踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれていますブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

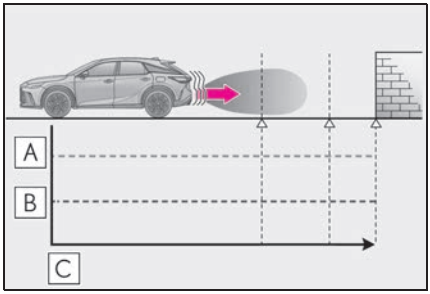
※ パノラミックビューモニターの仕様によっては表示されない場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

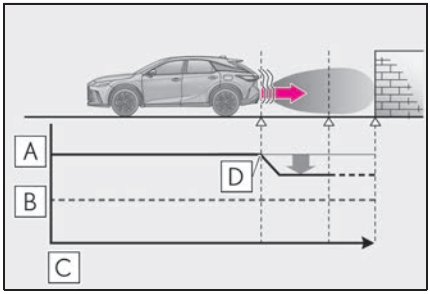


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



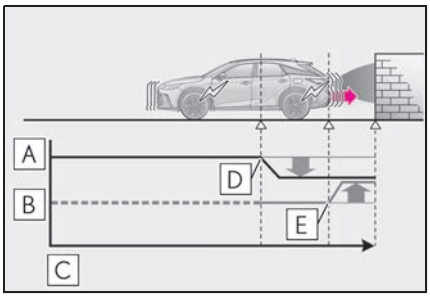
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.71）

●シフトポジションを P にする

●進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

●車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく （→P.319）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ （→P.335）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

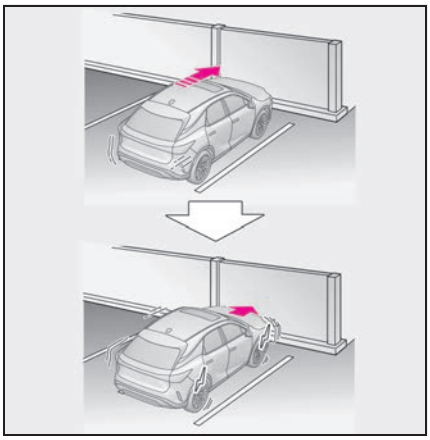
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

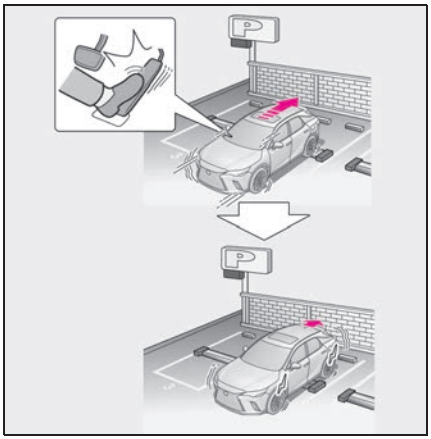
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

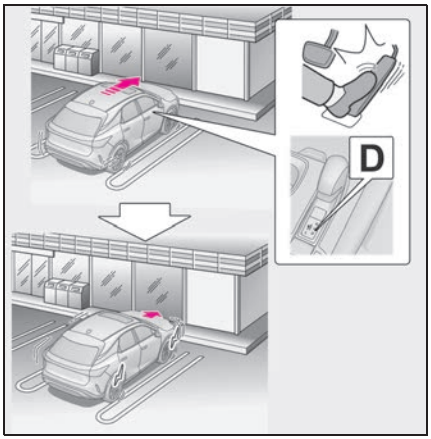
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



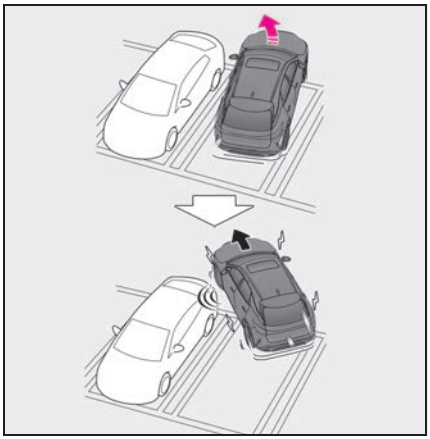
■ **誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき**



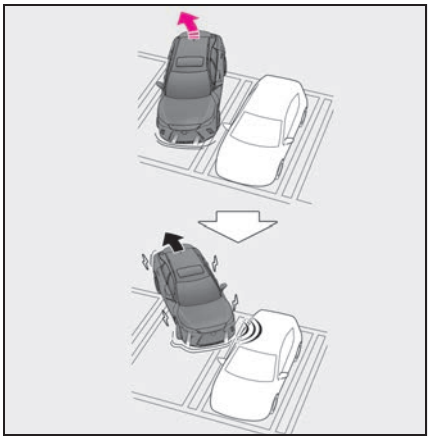
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.318

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.319

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.337

■ 洗車時の注意

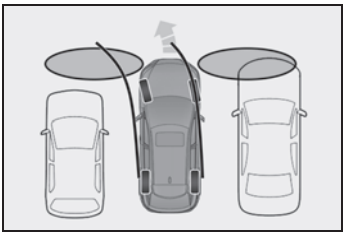
→P.320

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・ 車速が約 15km ／ h 以下
・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 前進するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.322）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.321

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.321

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

前後方静止物の作動条件（→P.340）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せするとき（→P.358）

■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し

ます。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

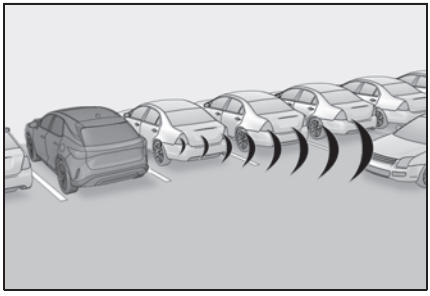
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.300

⚠ 警告

■ **システムを正しく作動させるために**

→P.300

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・ 車速が約 15km ／ h 以下
・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km ／ h 以上
・ シフトポジションが R のとき
・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.329

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

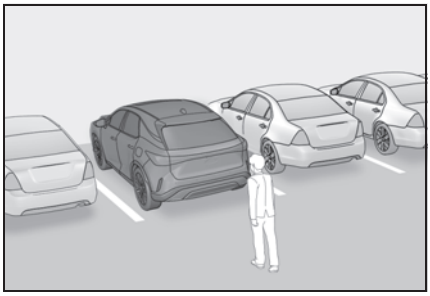
→P.330

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

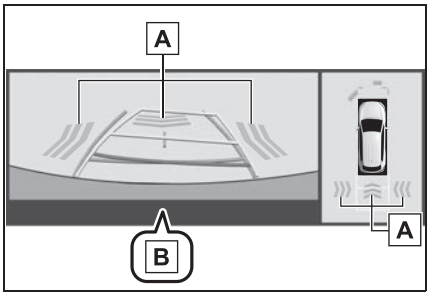
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にセンターディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.331

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が 15km／h 以下
- シフトポジションが R のとき
- 自車後方に歩行者がいるとき
- 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.337

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.332）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.332

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.333

Lexus Teammate Advanced Park

機能概要

Advanced Park は、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※ で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

Advanced Park は、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※ パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ リモート機能

Advanced Park のリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補

助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.371

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.354）

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.357）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.358）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.361）

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.363）

■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。（→P.368）

知識

■商標について

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。
その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。

- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

⚠ 警告

●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

・細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）

・音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）

・鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）

・背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）

・背が高く上部が張り出しているもの（梁など）

・地面に対し垂直でないもの

・障害物に対して斜めに接近する場合

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

●センターディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、Advanced Park による停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

⚠ 警告

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■Advanced Park を正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨のとき

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。Advanced Park が正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはレクサス販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

⚠ 警告

・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・ けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

・ 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■リモート機能を使用するとき

●リモート機能は Advanced Park の関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。

●専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。

●リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。

●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。

●ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。

●リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。

●リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。

●障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。

●スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。

●スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。

●走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。

●車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。

●万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

●リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。

アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。

⚠ 警告

●専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。

●リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay ／ Android Auto ™の接続を OFF にしてください。

・ Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

・ Android Auto ™は、Google LLC の商標です。

●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●リモート機能作動中は平坦で滑りにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。

●リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

・ アシストを中止する

・ 車両を停止する

・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける

・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）

・ 車両が施錠されたままになる

●リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

●リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近づくとリモート機能を再開できます。

●周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。

●異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

・ ドアを開く

・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

●以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

・ ハイブリッドシステム始動中に、アシストモードを選択後

・ パワースイッチが OFF の時

⚠ 注意

■Advanced Park をお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

■リモート機能を使用するとき

●使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。

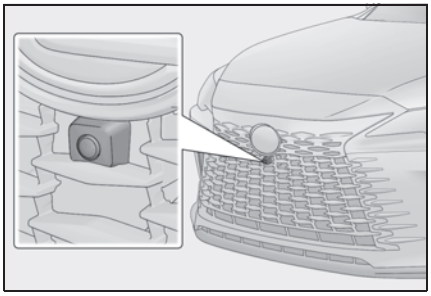
⚠ 注意

- 使用前にスマートフォンの Bluetooth® を ON にしてください。Bluetooth® 接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth® を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合はアシストを中止します。
- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P またはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF してシステムを中止することがあります。その場合は、レクサス販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結によりパーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

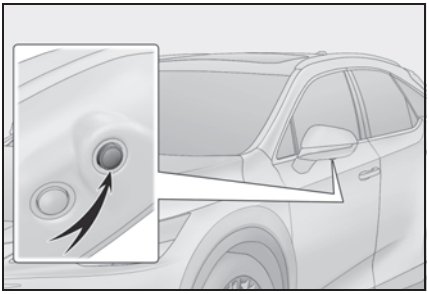
Advanced Park で使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

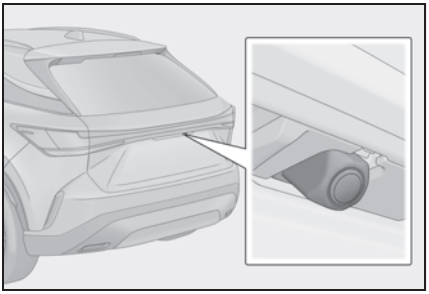
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.318

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニター（Lexus Teammate Advanced Park 装着車）を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を

誤認識する場合があります。
・ 路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・ 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・ 車両周辺が暗いときや逆光のとき
・ 路面の色や明るさが一様でないとき
・ 勾配がついている駐車場
・ ゼブラゾーンのある駐車スペース
・ 駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・ カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・ 区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■センサーの検知について

→P.320

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.320

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.321

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.321

⚠警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.319）

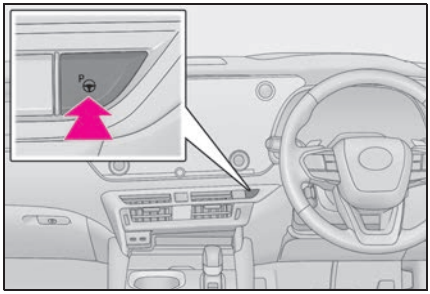
●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
・ センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

Advanced Park の ON／OFF を変更する

1 Advanced Park メインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■Advanced Park の作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

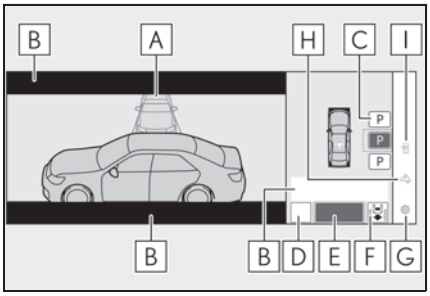
●ブレーキペダルを踏んでいる
●停車している
●運転席シートベルトを着用している
●ハンドルを操作していない
●アクセルペダルを踏んでいない
●ドアおよびバックドアが閉まっている
●ドアミラーが格納されていない
●パーキングブレーキがかかっていない
●レーダークルーズコントロールが作動していない
●ABS／VSC／TRC／PCS／PKSBが作動していない
●けん引していない
●急勾配でない
●TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、センターディスプレイのメッセージを確認してください。(→P.375)

Advanced Park のガイド画面を使う

センターディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

：縦列駐車機能への切りかえ

：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。(→P.365)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

Advanced Park の設定画面に切りかわります。(→P.374)

H 登録開始スイッチ

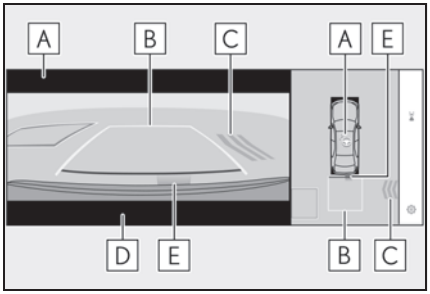
駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

Advanced Park が作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※ と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.318

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

Advanced Park 作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→P.319）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■Advanced Park 作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

Advanced Park 作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後は Advanced Park の作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■Advanced Park 作動中にセンターディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

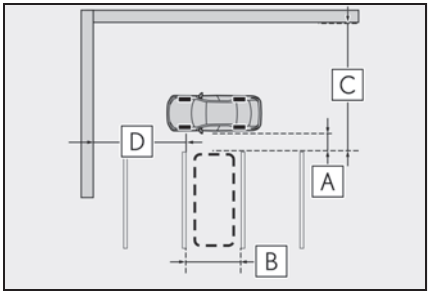
Advanced Park の並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

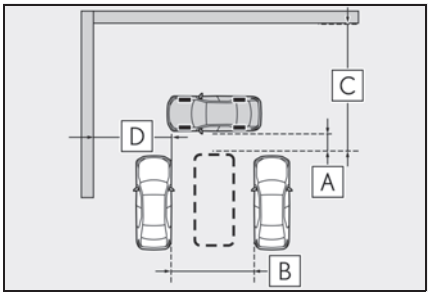
C 約 6m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上※

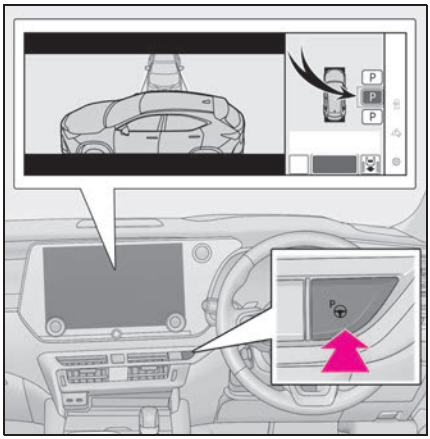
C 約 6m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Ⓟを選択すると縦列駐車機能に切りかわります。

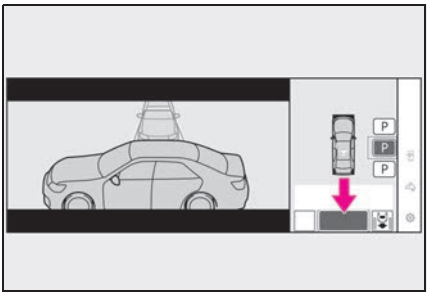
● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはを選択すると、駐車向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車ス

ペースで使用してください。

3 “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。
- アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

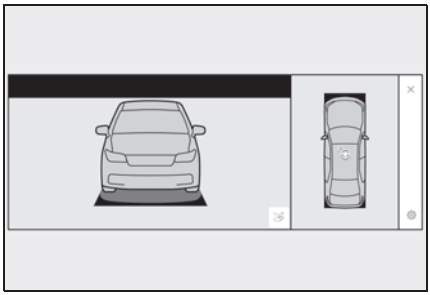
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.356

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイの を選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、センターディスプレイの “再開” スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

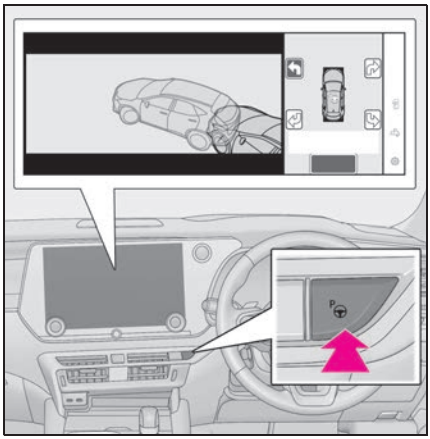
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを解除してください。

Advanced Park の並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態で Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

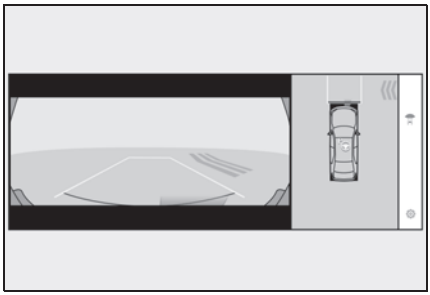


2 センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



アシストを中止するには Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近い

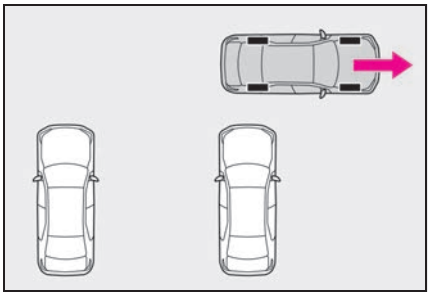
と感じたときは：→P.356

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると “ハンドルを操作すると終了できます” のメッセージが表示され、ハンドル操作すると “Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.356

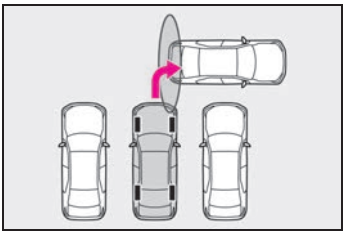
■並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

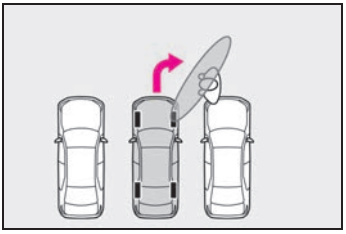
■並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



●フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ブレーキが作動したとき

→P.356

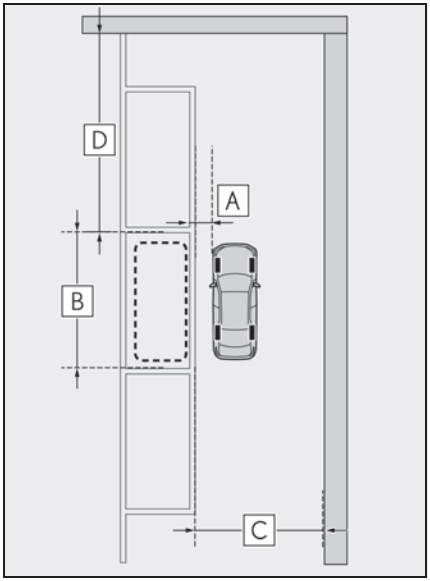
Advanced Park の縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

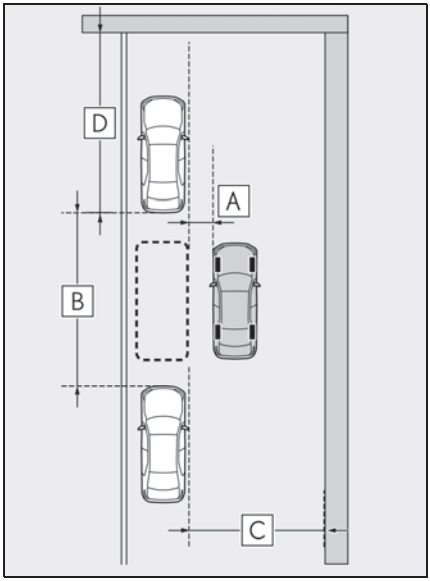
B 約 6m※

C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m※

B 約 7m 以上※

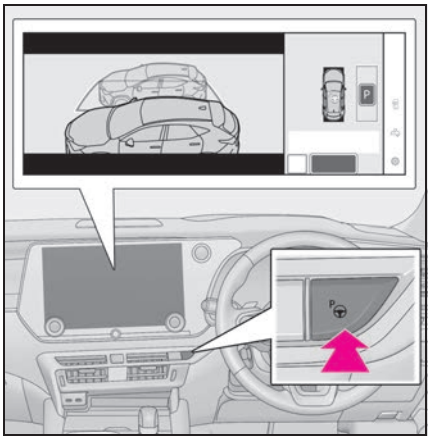
C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに

駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



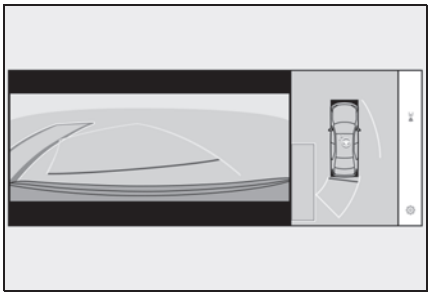
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き／バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、 を選択すると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

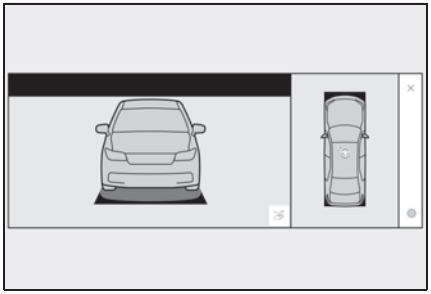
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.356

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイの を選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



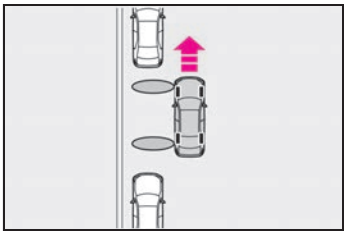
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.356

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



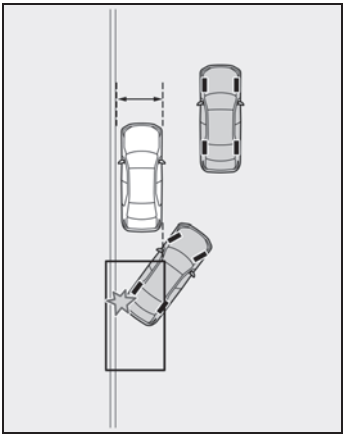
■ブレーキが作動したとき

→P.356

注意

■縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。
- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

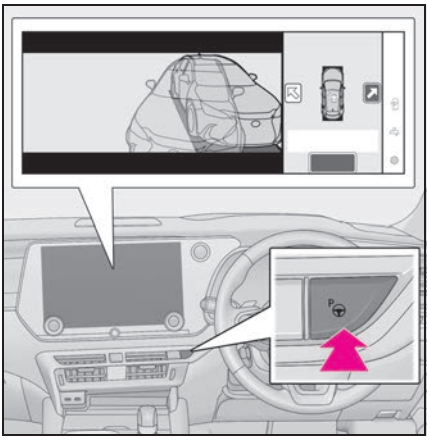
Advanced Park の縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態で Advanced Park メインスイッチを押し、センター

ディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するには Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

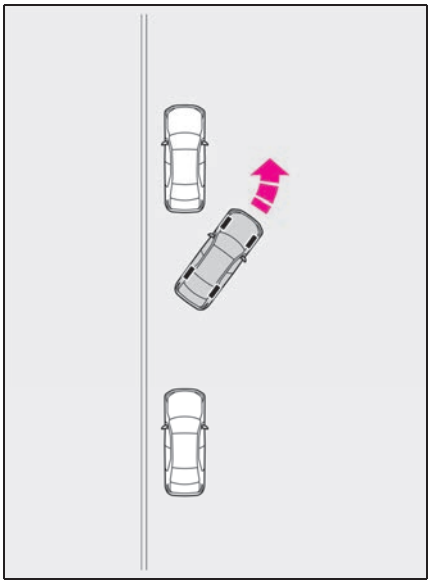
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.356

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると “ハンドルを操作すると終了できます” のメッセージが表示され、ハンドル操作すると “Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.356

■縦列出庫機能について

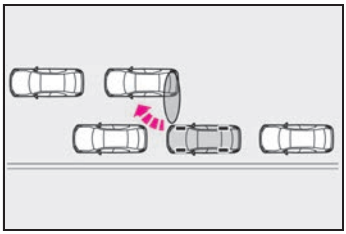
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

■縦列出庫機能が作動しない状況

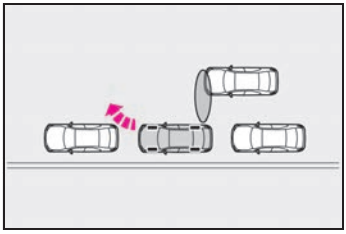
次のような状況では縦列出庫機能は作動

しません。

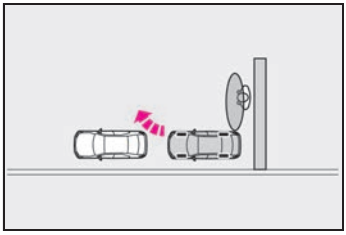
●出庫方向に信号待ちの車両があるとき



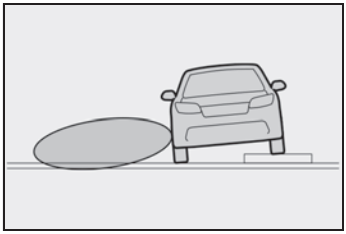
●出庫方向の後方に車両が待っているとき



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



●車両の前方に駐車車両がないとき

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎているとき

■**ブレーキが作動したとき**

→P.356

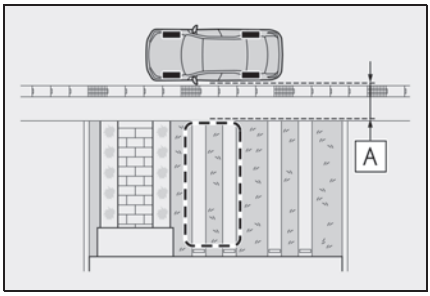
Advanced Park のメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

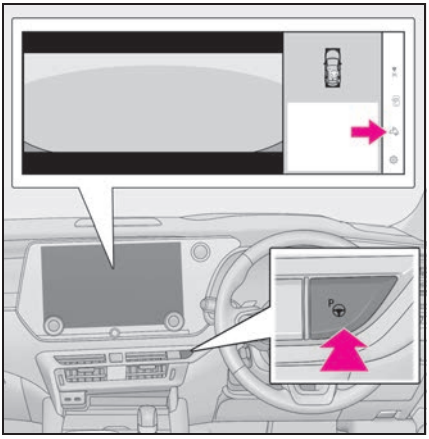


A 約 1m

2 Advanced Park メインスイッチを押し、P を選択する

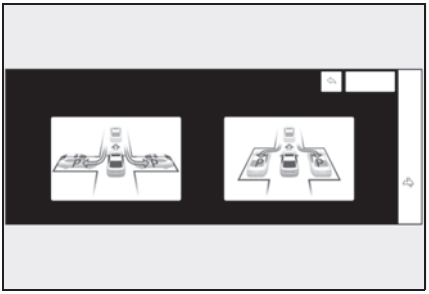
区画線や隣接車両のいない駐車スペースで Advanced Park メインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません” と表示されることがあります

が、続けて を選択してください。



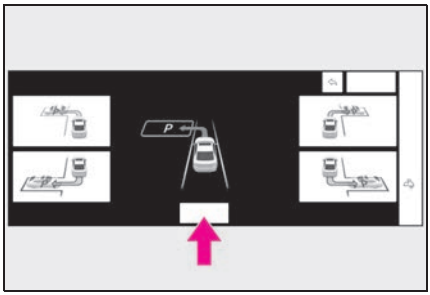
3 並列（前向き／バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

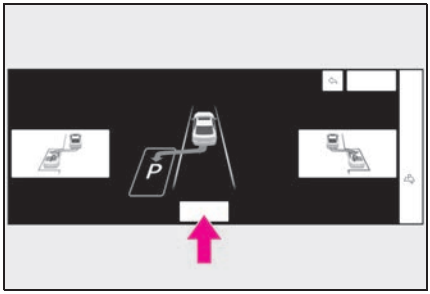


4 駐車の向きを選択し、” 次へ ” スイッチを選択する

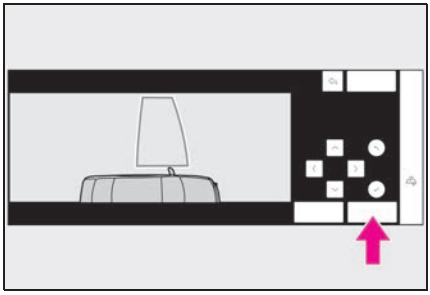
手順 3 で並列（前向き／バック）駐車を選択した場合：



手順 3 で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“ 設定完了 ” スイッチを選択する

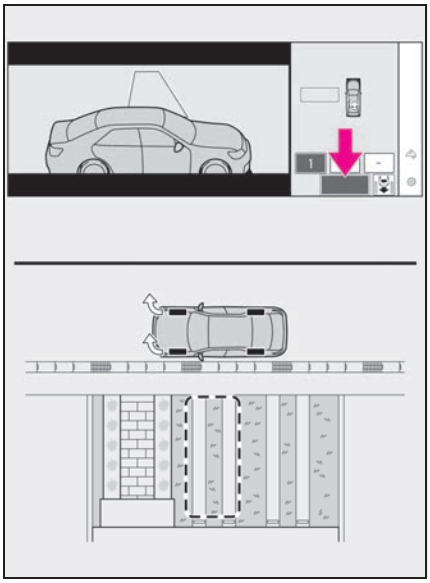


6 “ 開始 ” スイッチを選択する

“ ピッ ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

ブレーキペダルを離すと、“ 前進します ” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

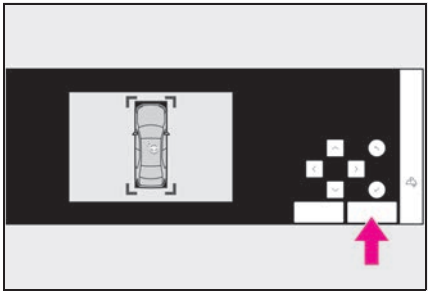
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.356



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチを選択する

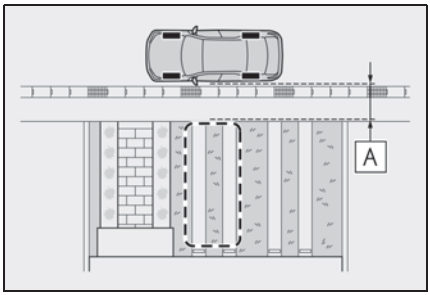
センターディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。



- 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 調整できる範囲には限りがありま す。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

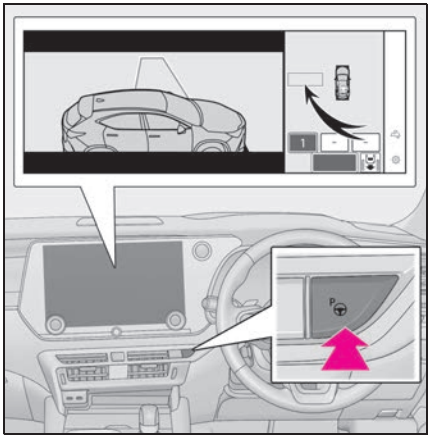
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチを選択することで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始” スイッチを選択する

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。(→P.354)

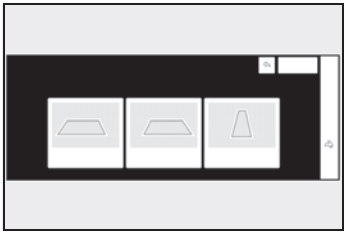
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.356

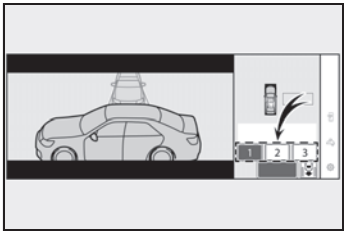
■登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で を選択すると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”を選択します。



■ブレーキが作動したとき

→P.356

注意

■メモリ機能を使用するときは(→P.356、361)

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（周囲が暗いとき）

●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

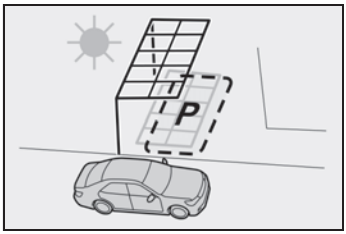
・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

⚠ 注意

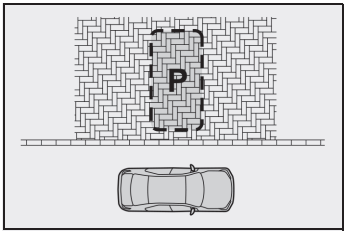
●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォームなど）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が 見つかりません” と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

⚠ 注意

- カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
- カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

Advanced Park のリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する（→P.355、358）

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する。（→P.355、358）

3 スイッチを選択し、“並列駐車／縦列駐車”を選択する

4 “設定完了”を選択する

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。障害物は降車後に移動させることもできます。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■障害物があっても駐車機能を使用できる場合

- 白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが

置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

●Advanced Parkでの並列駐車では片側3枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

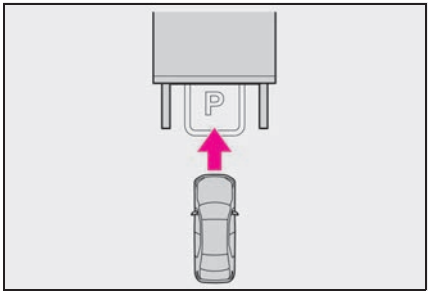
■ブレーキが作動したとき

→P.356

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



2 Advanced Park メインスイッチを押す

3 スイッチを選択し、“前後に移動”を選択する

4 必要に応じて方向キーで調整し、“設定完了”を選択する

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

8 スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行う

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面で進行方向の切りかえ操作を行って車両を少し前進させて荷物を入れた後、元の場所に戻すといった使い方ができます。

■ブレーキが作動したとき

→P.356

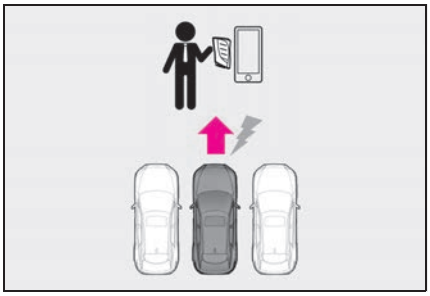
リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。

前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

1 駐車中の車両に近づき、電子キーで解錠してから専用アプリを起動する

専用アプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



2 スマートフォン画面で開始操作をする

車両のパワースイッチが ON になります。

3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■ブレーキが作動したとき

→P.356

リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操作することができます。

また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する（→P.365）

2 Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.365）

3 スイッチを選択し、“並列駐車／縦列駐車” を選択する

4 “設定完了” を選択する

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチを押すことでメモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ ブレーキが作動したとき

→P.356

リモート機能の使用前のご準備

■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから専用アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

3 専用アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

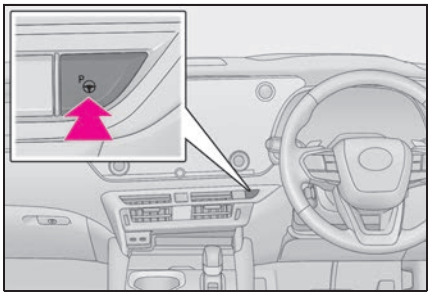
■ リモート機能の ON ／ OFF

1 センターディスプレイの⚙を選択して、“Advanced Park” を選択する

2 “Remote Park” の ON ／ OFF を選択する（初期設定は ON）

3 Advanced Park メインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 センターディスプレイに表示される P スイッチを選択する

注意

■ リモート機能について

● 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。

⚠ 注意

●電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。

●デジタルキー設定車：デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。

●車に乗り込んで リモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

●リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

●リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

●スマートエントリー＆スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき：→P.128

●近くにインバータ式蛍光灯があるとき

●電波が及ぼす影響について：→P.132

■電子キーの電池の消耗について

●リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

●電池が切れたとき：→P.480

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.321

●リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

・車両と車両の周囲が最もよく見えること

・車両の進路に人／動物、または物体がないこと

・車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと

・車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと

・必要に応じて、リモート機能を中止すること

Advanced Park を中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● Advanced Park メインスイッチを押した

● シフトポジションを P に変更した

● パーキングブレーキをかけた

● ドアまたはバックドアを開けた

● 運転席シートベルトをはずした
● ドアミラーを格納した
● TRC ／ VSC を OFF にした
● TRC ／ VSC ／ ABS が作動した
● けん引している
● パワースイッチを押した
● システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
● システム異常
● 停止中にセンターディスプレイ上で “ 中止 ” を選択した

■ **アシストが中断されるとき**

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中断します。

センターディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。

ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

● ハンドルを操作した
● アクセルペダルを踏んだ
● シフトポジションを変更した
● 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
● カメラスイッチを押した

■ **リモート機能のアシストが中止されるとき**

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● Advanced Park のアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトを外した場合は中断します。
● リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
● 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
● スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
● スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行ったとき
● 専用アプリが強制終了されたとき
● 急勾配のとき
● リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
● 外気温がマイナス 10 ℃以下のとき

■ **リモート機能のアシストが中断されるとき**

次のとき、アシストを中断します。

● スマートフォンとマルチメディアシステムとの Bluetooth® 通信が切断されたとき
● スマートフォンの操作が中断されたとき

- 専用アプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

Advanced Park の設定を変更する

Advanced Park メインスイッチを押し、センターディスプレイの⚙を選択して、“Advanced Park” を選択します。

■ Remote Park

リモート機能の ON ／ OFF を設定できます。

■ 音声案内

音声案内の ON ／ OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

⚠ 注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

専用アプリの設定を変更する

■ クリアランスソナー警告音の ON ／ OFF（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の ON ／ OFF を設定できます。

■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

センターディスプレイに表示される Advanced Park のメッセージ

Advanced Park の作動状態や操作のアドバイスなどをセンターディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “ 障害物を検知しました ” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、センターディスプレイの “ 再開 ” スイッチを選択してください。

■ “ 登録に必要な駐車目標が見つかりません ” が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で を選択したときに表示されます。

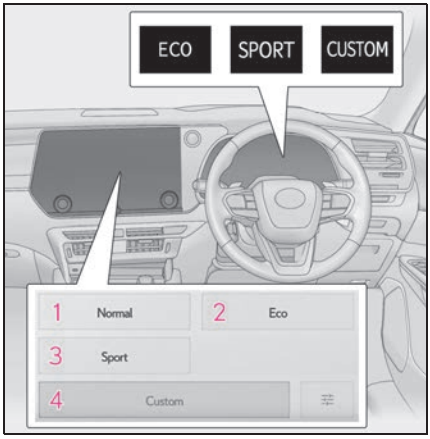
システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.363）

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

1 センターディスプレイの を選択する
2 “ ドライブモード ” を選択する
3 走行モードを選択する



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン (暖房／冷房) の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

AVS 非装着車：ステアリングの応答性、

およびハイブリッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

AVS 装着車：ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ表示灯が点灯します。

4 カスタムモード

パワートレーン制御・ステアリングフィール・サスペンション制御★・エアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。(→P.560)

カスタムモード表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ノーマルモード以外の走行モードを選択したとき（AWD 車）

AWD 制御は、選択した走行モードに適した制御に切りかわります。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

●風量を調整する（→P.399）

●エコドライブモードを解除する

■スポーツ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.560)

Trail Mode（AWD 車）

Trail Mode は、4WD・ブレーキ・駆動力などを統合制御し、タイヤの空転を抑えます。凹凸のある路面等を走行するときに、使用してください。

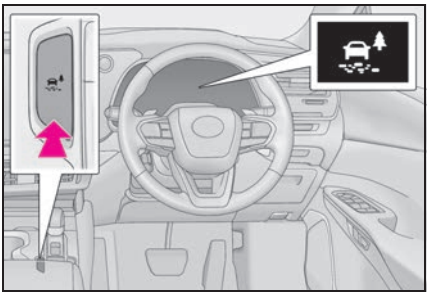
システムを作動させるには

Trail Mode スイッチを押す

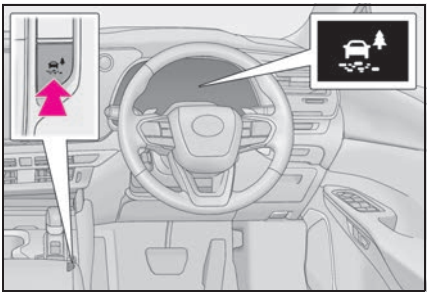
Trail Mode スイッチを押すと Trail Mode が ON になり、マルチインフォメーションディスプレイに Trail Mode 表示灯が点灯します。

もう一度、Trail Mode スイッチを押すとシステムが OFF になります。

▶ RX500h

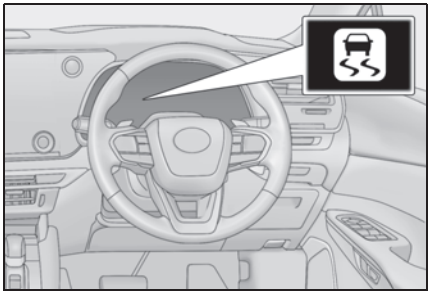


▶ RX350h



Trail Mode が作動しているとき

タイヤが空転しているときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



知識

■Trail Mode について

●Trail Mode は悪路の走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、Trail Mode が OFF の状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

●Trail Mode を長時間使用すると、走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されますが、通常走行は可能です。しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの“TRC OFF しました”が消灯したらシステムが正しく作動します。

■Trail Mode が解除されるとき

次の場合は、Trail Mode を選択していても自動で解除されます。

●走行モードを切りかえたとき（→P.376）

●ハイブリッドシステムを再始動したと

き

■Trail Mode の作動音と振動

Trail Mode が作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●車体やハンドルに振動を感じる

●エンジンルームからの音が聞こえる

■Trail Mode 表示灯が点灯しないとき

Trail Mode スイッチを押しても Trail Mode 表示灯が点灯しないときは、システムの故障のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■Trail Mode をお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Trail Mode は悪路を走行する場合のみに使用してください。

●Trail Mode 表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。

●Trail Mode は、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

⚠注意

■Trail Mode を正常に作動させるために

Trail Mode を長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト(ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作と車速に応じて後輪が切れる角度を制御することで、低速走行時の取り回し性、中速走行時の操舵応答性、高速走行時の安定性向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four※1 ／ DIRECT4※2（電気式 AWD システム）

※1RX350h AWD 車

※2RX500h

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて前後輪の駆動力配分を自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、優れたフラット感（安定性）と快適な乗り心地の確保に貢献します。
また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。（→P.376）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）★

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・DRS・AVS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を

検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。

知識

■TRC・VSC・ABS・DRS※ が作動しているとき

TRC・VSC・ABS・DRS※ が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

※ VDIM 作動中のみ

■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

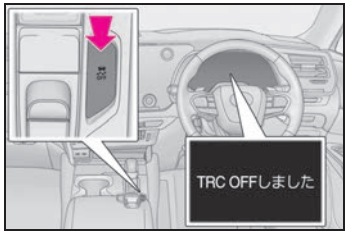
このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押す

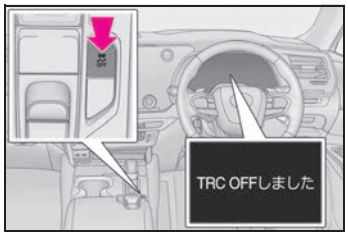
マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました ” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶ RX500h または RX350h（Trail Mode 非装着車）



▶ RX350h（Trail Mode 装着車）



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチイン

フォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.237)

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションの位置がPまたはN以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

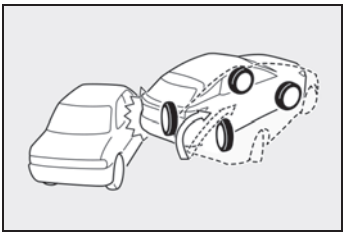
次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションをPまたはNのシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチが OFF

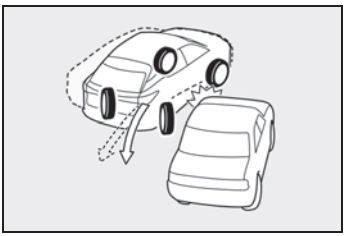
■DRS 作動時の車両の動き

低速走行時は後輪が前輪と逆方向に切れ、車両の旋回半径が小さくなります。このとき後輪は、DRS のない車両と比べて前進時は外側、後退時は内側を通過します。そのため、駐車場など狭い場所での前進時は車両後部、後退時は車両側面にもご注意ください。

▶ 前進時



▶ 後進時



■DRS の作動が停止する場合

次の状況では DRS が作動を停止することがあります。この場合、DRS 作動時に比べて最小回転半径が大きくなります。

- 極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルを操作した状態で短時間に発進・停止をくり返したとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

- 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子を接続後、しばらく走行すればシステムは復帰します。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後１～２分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能★

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

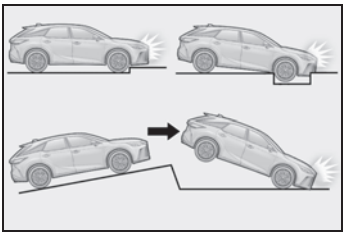
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに “DRS 故障 販売店で点検を 受けてください” と表示されたときは

DRS が正常に作動しないおそれがあります。このとき、DRS 正常作動時に比べて最小回転半径が大きくなることや、ハンドルが切れた状態で車両が直進する場合があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに AWD システムに関するメッセージが表示されたとき（AWD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

● “AWD システム高温 高負荷走行を 控えてください ”

AWD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

● “AWD システム高温 2WD 走行に 切替わりました ”

過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま

安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、AWD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “AWD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検 ”

AWD システムに異常が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ **機能の追加**

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■ **カスタマイズ初期値の変更**

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

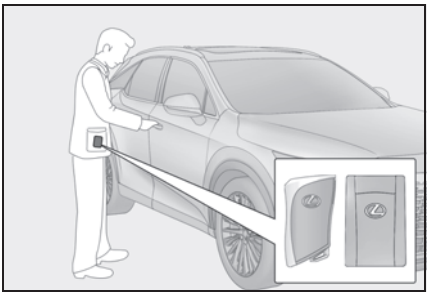
プラスサポートを使用するには

■ **プラスサポートを始動するには**

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.98, 106）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作

動可能になりません。

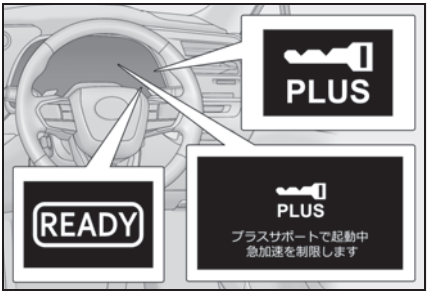


2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.180）

3 READY インジケーターが点灯し、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 ステアリングスイッチの を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

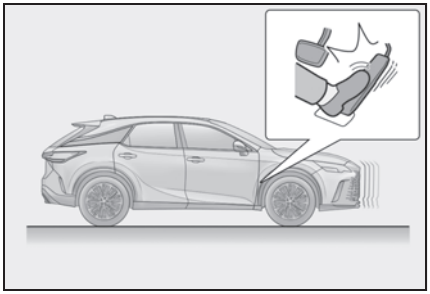
■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.71）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km ／ h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制

御します。



警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

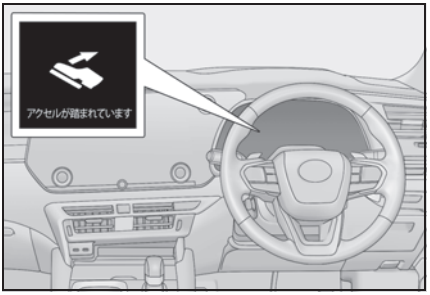
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km／h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km／h、後退時は約12km／h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間（前進時）

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変

化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.376）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P.79）

シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。

RX350h：N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.458）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
(タイヤについての詳しい説明はP.458 を参照してください)

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。
- 車外のドア開スイッチが固くなり押しづらい場合があります。強めにドア開スイッチを押してドアを開けてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動

し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ ブレーキホールドシステム

・ Advanced Park（リモート機能付）

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションを P にしたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.199）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.218）

5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ
レクサスクライメイトコンシェルジュ 398
5-2. エアコン・デフォッガーの使い方
フロントオートエアコン 399
リヤエアコン 407
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター 408
5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 412
5-4. 収納装備
収納装備一覧 415
ラゲージルーム内装備 420
5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 423
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 434
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 443

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、前席のシート空調がそれぞれ自動制御されます。

クライメイトコンシェルジュを使用する

クライメイトコンシェルジュはエアコン “AUTO” に連動して作動します。

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “クライメイトコンシェルジュ” スイッチを選択する

3 “AUTO” スイッチを ON にする

自動制御される機能

● エアコン（→P.399）

運転席／助手席の設定温度に応じて、エアコンを自動制御します。

● シートヒーター（→P.408）

運転席／助手席の設定温度に応じて、シートヒーターを自動制御します。

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

● シートベンチレーター（→P.408）

運転席／助手席の設定温度に応じて、シートベンチレーターを自動制御します。

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

● ステアリングヒーター（→P.408）

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、ステアリングヒーターを自動制御します。

知識

■乗員検知機能について

●助手席のシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。

●シートヒーター／シートベンチレーターのスイッチを操作して AUTO 設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

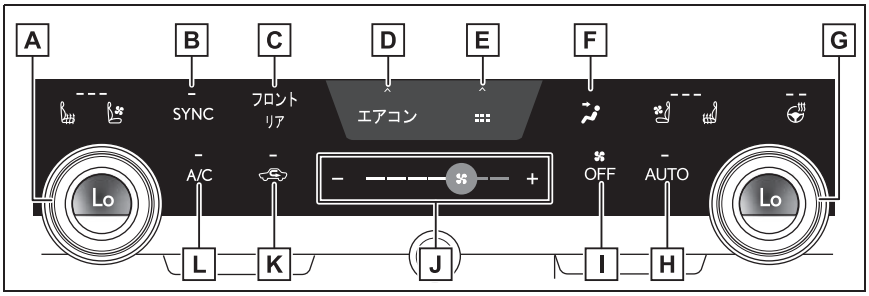
■リヤシートヒーターの作動について

クライメイトコンシェルジュによるリヤシートヒーターの自動制御はおこないません。

フロントオートエアコン

“AUTO” スイッチを ON にすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A 助手席側温度調整スイッチ

B “SYNC” （シンクロ）スイッチ（各席連動モード）

C フロント／リヤ切りかえスイッチ

D エアコンオプション画面表示スイッチ

E ショートカット画面表示スイッチ

いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。

F 吹き出し口切りかえスイッチ

G 運転席側温度調整スイッチ

H “AUTO” スイッチ

I “OFF” スイッチ

J 風量調整スイッチ

K 内外気切りかえスイッチ

L “A/C” スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

“SYNC” スイッチのインジケーターが点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度とリヤ席の設定温度が調整されます。

“SYNC” スイッチのインジケーターが消灯しているときに“SYNC” スイッチを選択する

と、“SYNC” スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度とリヤ席の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると“SYNC” スイッチのインジケーターが消灯し、助手席側の設定温度だけを調整できます。

リヤ席の温度設定を操作したときも“SYNC” スイッチのインジケーターが消灯し、リヤ席の設定温度だけを調整できます。

“A/C” スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

助手席およびリヤ席の設定温度操作により、運転席と助手席およびリヤ席の設定温度を別々に設定できます。（独立モード）

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの “+” を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの “-” を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

“OFF” スイッチを選択すると、ファンが止まります。

“-” スイッチを選択し続ける、または風量調整スイッチのアイコンを左方向へスライドすることでもファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを選択する

選択するたびに吹き出し口が切りかわります。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風／ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

内外気切りかえスイッチを選択する

スイッチを選択するたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気 24 ℃以上でのエアコン作動中の内外気切りかえについて

- エアコンによる消費電力を抑えるために自動で内気循環に切り替わる場合があります。これによりガソリンの消費も抑えることができます。
- パワースイッチを ON すると内気循環に切りかわります。
- 内外気切りかえスイッチ操作によ

り内気循環／外気導入をいつでも選択できます。

■ フロント席集中送風モード（S-Flow）

リヤ席への送風を止め、フロント席へ優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

S-FLOW を OFF にしても、長時間ハイブリッドシステムを停止した後にハイブリッドシステムを始動すると自動で ON になります。

S-FLOW が ON のとき、リヤドアを開くと S-FLOW は自動で OFF になります。

エアコンオプション画面内の S-Flow スイッチが （ON）になります。

また、スイッチ操作によりフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “S-Flow” スイッチを選択する

● スイッチが ON：フロント席のみへの送風

● スイッチが OFF：全席への送風

■ 送風の自動制御について

● 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

● ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

● リヤ席の乗員有無は、リヤドアの開閉によって検知されます。

長時間ハイブリッドシステムを停止した後にハイブリッドシステムを始動すると乗員無しと判断します。

1 度乗員を検知すると、ハイブリッドシステムを停止するまではリヤ席にも送風されます。

● 非常に暑いまたは寒いなど、車両全体を空調させる必要があるとシステムが判断した場合、S-FLOW が ON でも助手席やリヤ席に送風されることがあります。

● S-FLOW が ON のとき、荷物を積む等のためにリヤドアを開けると S-FLOW は自動で OFF になります。

S-FLOW を再度 ON にするには、エアコンオプション画面内の S-Flow スイッチを ON にします。

● フロント席集中送風モードを非作動にしても、長時間ハイブリッドシステムを停止したあとにハイブリッドシステムを始動するとフロント席集中送風モードが作動することがあります。

このときリヤドアを開けるとフロント席集中送風モードが非作動になります。

■ 乗員の検知について

リヤ席の乗員はリヤドアの開閉で検知します。

一度乗員ありと判定すると、その運転中は乗員なし判定になりません。

■ 送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。

2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

■ エコ空調モード

エコ空調モードに切りかえると、燃費を優先するために空調の効きを抑えます。

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “Eco Heat/Cool” スイッチを選択する

● エコ空調モードでは燃費性能を優先させるため、空調が次のように制御されます。空調の効きをよくしたいときは、エコ空調モードを解除してください。

・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

● ドライブモードセレクトのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードに切りかわります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが解除される場合があります。

● エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも “Eco Heat/Cool” を選択するとエコ空調モードを解除することができます。

■ 車内を急速に温める（Max heat）

“Max heat” を ON にすると、車内を急速に温めるために、空調設定が一括で切り替わります。

1 ショートカット画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “Max heat” スイッチを選択する

● エアコンの運転席側設定温度が “Hi” になり、“AUTO” スイッチが ON になります。

● 運転席側シートヒーターの設定が強になります。

● ステアリングヒーターの設定が強になります。

● 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が “AUTO” になります。

・ “クライメイトコンシェルジュ” が ON のとき

・ 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき

● “SYNC” のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度とリヤ席の設定温度も “Hi” になります。

■ 車内を急速に冷やす（Max cool）

“Max cool” を ON にすると、車内を急速に冷やすために、空調設定が一括で切り替わります。

1 ショートカット画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “Max cool” スイッチを選択する

● エアコンの運転席側設定温度が “Lo” になり、“AUTO” スイッチが ON になります。

● 運転席側シートベンチレーターの設定が強になります。

● 次の場合、ステアリングヒーターの設定が “AUTO” になります。

・ “クライメイトコンシェルジュ” が ON のとき

● 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が “AUTO” になります。

・ “クライメイトコンシェルジュ” が ON のとき

・ 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき

● “SYNC” のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度とリヤ席の設定温度も “Lo” になります。

■ ナノイー X※1、2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。※3

● ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。

● ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。

・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき

・ 運転席窓側の吹き出し口が開いているとき

● ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

● ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1 nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

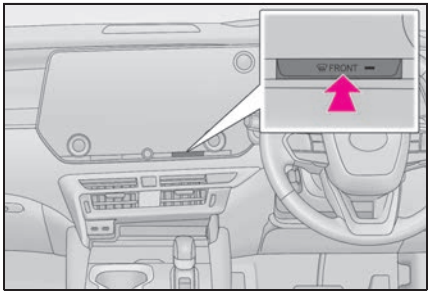
※2 ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスターは、フロントウインドウの曇りを取るために使用します。

フロントデフロススイッチを押す



除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

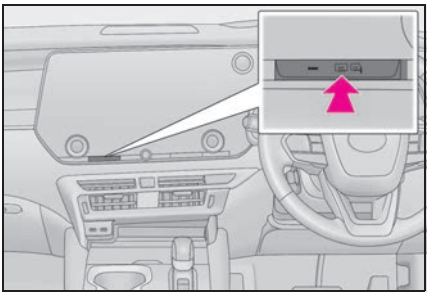
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロススース

イッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す



リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

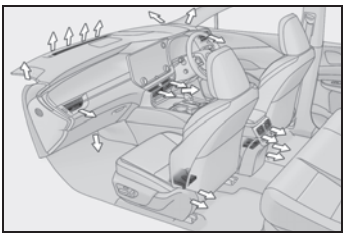
1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.399）

2 “ デアイサー ” スイッチを選択する

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

知識

■吹き出し口の位置



■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために：

・駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

・オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■ “Max heat” について

● “Max heat” スイッチでは設定をOFFにできません。

● “Max heat” スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。

● “クライメイトコンシェルジュ” がONの時は、 “AUTO” スイッチを ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。

●各機能をお好みで調整頂くこともできます。

■ “Max cool” について

● “Max cool” スイッチでは設定をOFFにできません。

● “Max cool” スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。

● “クライメイトコンシェルジュ”がONの時は、 “AUTO” スイッチを ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。

●各機能をお好みで調整頂くこともできます。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 “A/C” スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● “A/C” スイッチをONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.474

■カスタマイズ機能

センターディスプレイの “車両カスタマイズ” で、 “AUTO” スイッチが ON のときに連動する機能を設定できます。排ガスセンサの検知感度もカスタマイズ設定できます。（→P.560）

⚠ 警告

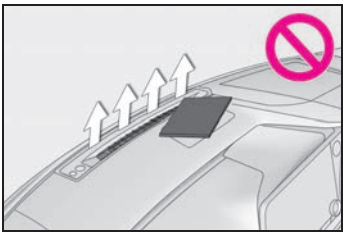
■ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ウインドシールドデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

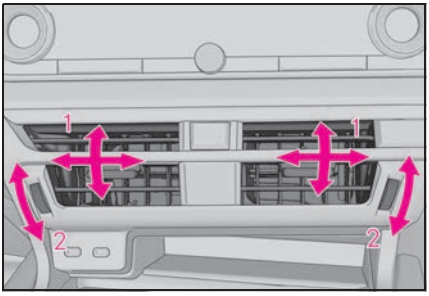
運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

吹き出し口の操作

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

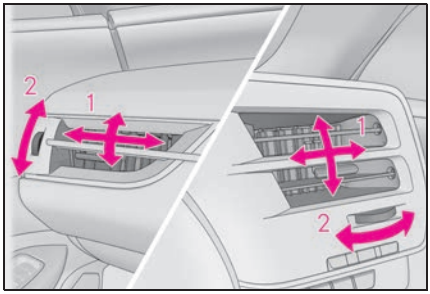
次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

▶ フロントセンター



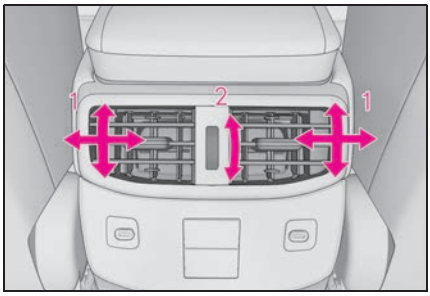
1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

▶ フロントサイド



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

▶ リヤ



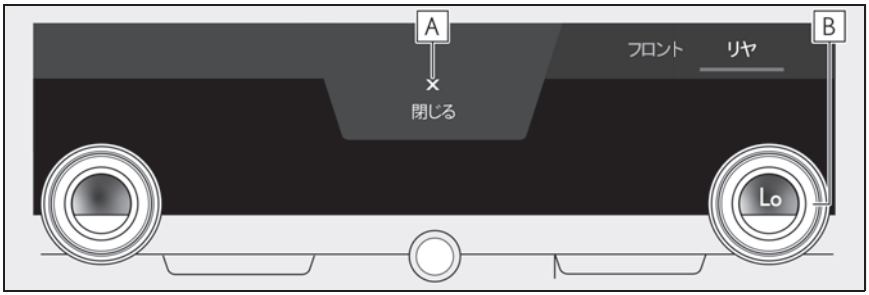
1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

リヤエアコン

センターディスプレイの “リヤ” を選択、もしくはリヤエアコン操作パネルで操作することができます。

リヤエアコン操作について

■ センターディスプレイ

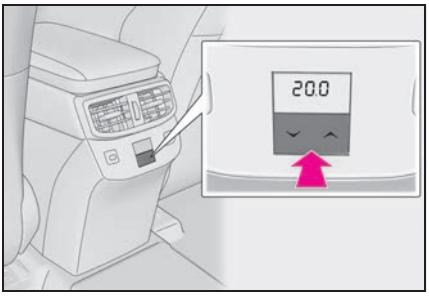


A リヤエアコン画面を閉じる

B 後席側温度調整スイッチ

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

■ リヤエアコン操作パネル



リヤ席の温度を調整する

設定温度を上げるときは∧を、下げるときは∨を押す

各席の温度を設定する

次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

- “SYNC” インジケーターが点灯しているときに運転席の温度を設定する

リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。

- センターディスプレイのリヤエアコン操作画面もしくはリヤエアコン操作パネルでリヤ席の温度を設定する

吹き出し口の配置・操作

→P.406

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター／輻射ヒーター

シートの表面や前席の足元を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ **警告**

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーター／輻射ヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■シートヒーター／輻射ヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

センターディスプレイの を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

センターディスプレイの “ 車両カスタマイズ ” で、ステアリングヒーターの温度を設定できます。（→P.560）

シートヒーター／輻射ヒーター

■ フロント

輻射ヒーター非装着車：センターディスプレイの または を選択する。

輻射ヒーター装着車：センターディスプレイの または を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

シートベンチレーター非装着車：作動中は、スイッチ上のインジケーターとレベルインジケーター（黄）が点灯します。

シートベンチレーター装着車：作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

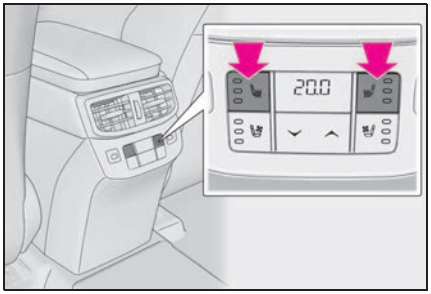
■ リヤ

スイッチを押す

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）が点灯します。



知識

■シートヒーターの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■輻射ヒーターの作動条件

パワースイッチが ON かつシートベルトを装着しているとき

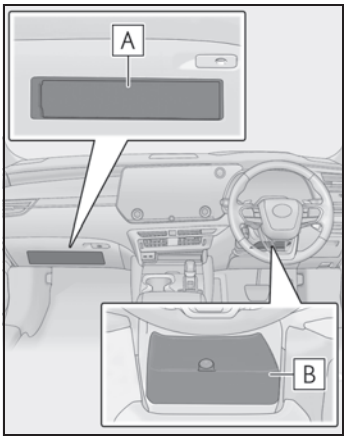
■輻射ヒーターの作動について

●ヒーター部に触り続けるなどによって、自動的に電源が切れることがあります。その場合は、センターディスプレイのシートヒーター／輻射ヒーターのス

イッチを入れなおしてください。

●ヒーター温度が上昇するまでに時間がかかる場合があります。

■輻射ヒーターの位置



A 助手席側輻射ヒーター

B 運転席側輻射ヒーター

■カスタマイズ機能

フロントシートヒーターのオート設定を変更できます。(→P.560)

⚠警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーター／輻射ヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

■走行中の警告

ハンドルから手を放したりペダルから足を放して、輻射ヒーターに触れたり手や足をかざす行為は行わないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベンチレーター

■ フロント

センターディスプレイの または を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（青）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

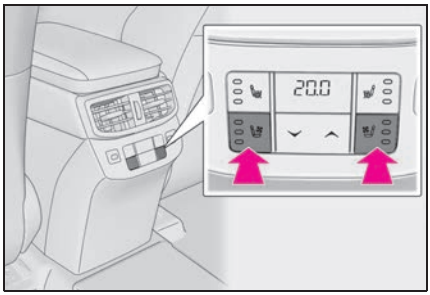
■ リヤ

スイッチを押す

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄緑）が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

フロントシートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてフロント

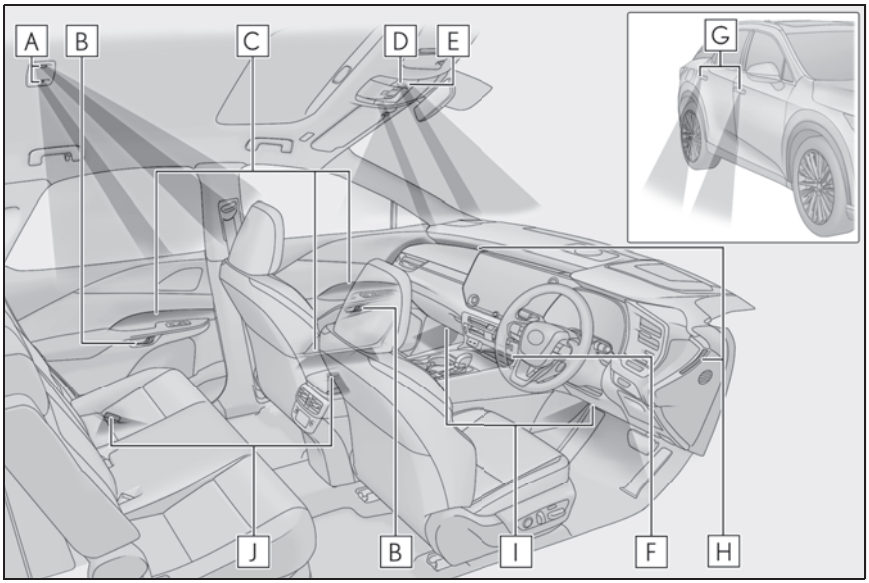
シートベンチレーターの風量が強くなります。

■カスタマイズ機能

フロントシートベンチレーターのオート設定を変更できます。(→P.560)

室内灯一覧

室内灯の位置



A リヤパーソナルランプ（→P.413）

B インサイドドアハンドル照明※

C ドアトリム照明※

D フロントパーソナルランプ（→P.413）

E インテリアランプ（→P.413）

F センターコンソールランプ※

G 室外足元照明

H インストルメントパネルオーナメント照明※

I 足元照明※

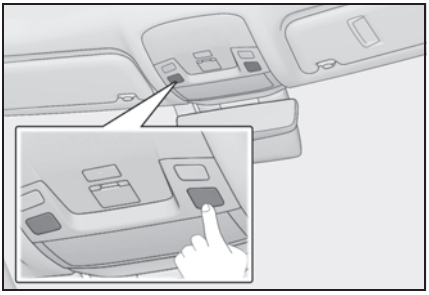
J ドアカーテシランプ

※照明色を変更することができます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

インテリアランプを操作するには

■ インテリアランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

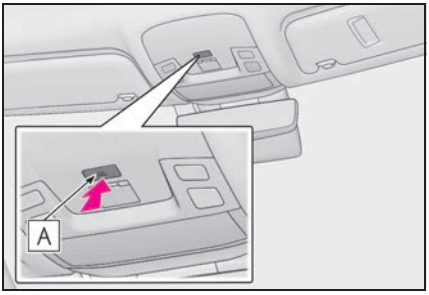


■ ドアポジション（ドア連動）をON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

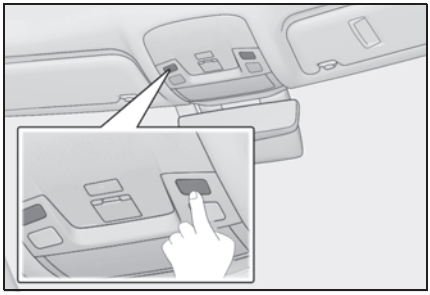
ON のときはインジケーターAが点灯します。



パーソナルランプを操作するには

■ フロントパーソナルランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

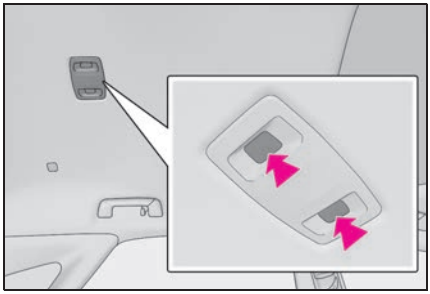


■ リヤパーソナルランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

フロントインテリアランプに連動しても点灯・消灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 10 分後に自動消灯します。

■インテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

次の場合は、インテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。

●レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

●濡れた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●各部の照明の ON ／ OFF の切りかえ

●各部の照明の照明色の変更★

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.560）

⚠注意

■ランプのレンズの取りはずしについて

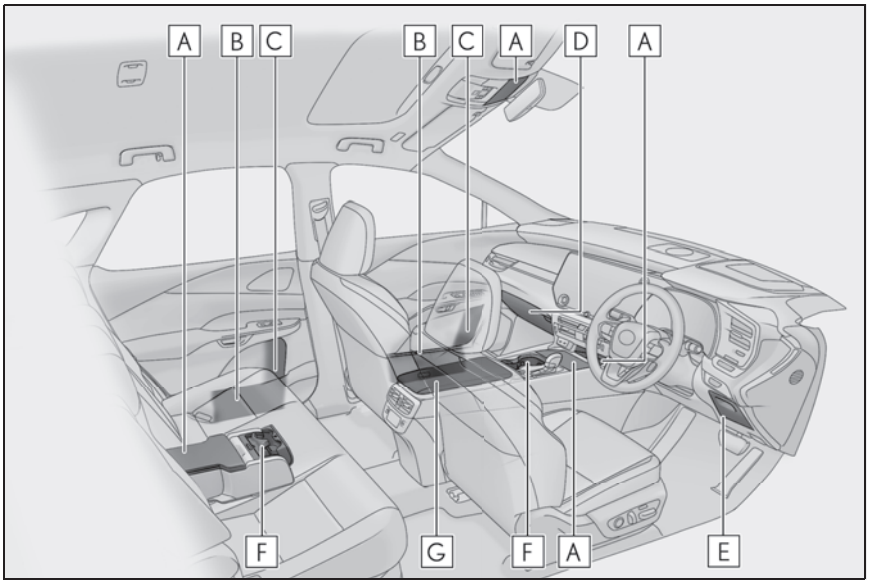
インテリアランプとパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A 小物入れ（→P.418）

B ドアポケット

C ボトルホルダー（→P.418）

D グローブボックス（→P.416）

E コインボックス（→P.418）

F カップホルダー（→P.417）

G コンソールボックス（→P.416）

⚠ 警告

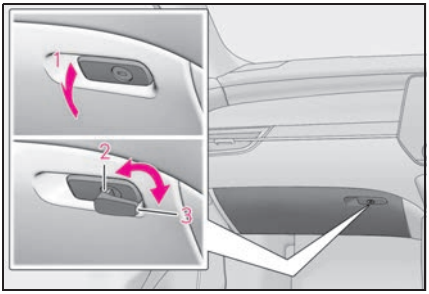
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



1 開ける（レバーを引く）
2 メカニカルキーで解錠
3 メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

警告

■走行中の警告

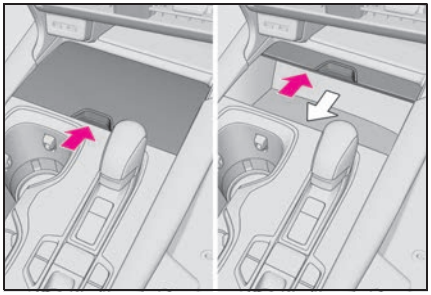
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

▶ タイプA

フタを押す

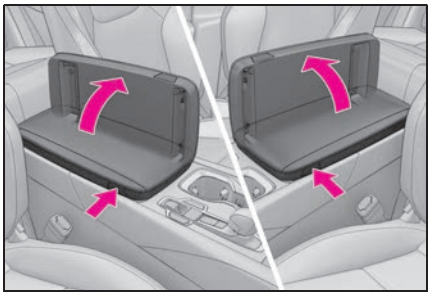
再び押すと閉まります。



▶ タイプB

ボタンを押してフタを持ち上げて開く

両側から開けることができます。



知識

■コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

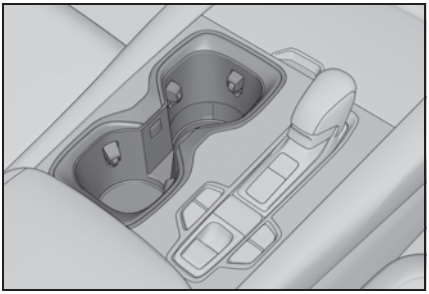
警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

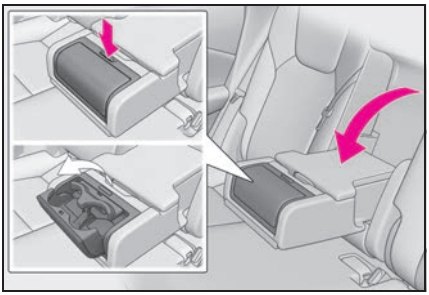
カップホルダー

▶ フロント



▶ リヤ

リヤアームレストを手前に倒し、ボタンを押す

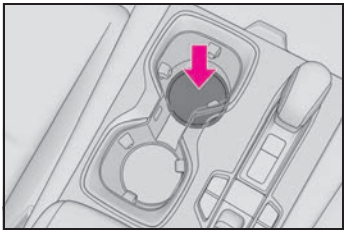


知識

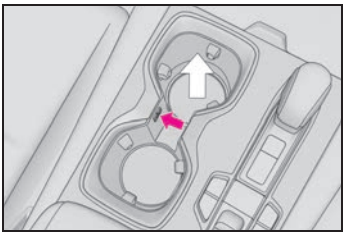
■フロントカップホルダーの深さを変えるとき

フロントカップホルダーの前側のカップホルダーは深さを変えることができます。

1 カップホルダーの底面を押すことで、背の高いペットボトルなども収納することができます。



2 底面の位置を元に戻すには、ボタンを押します。



⚠警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは（リアカップホルダー）

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

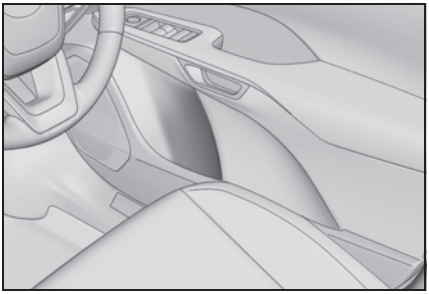
⚠注意

■リアカップホルダーの破損を防ぐために

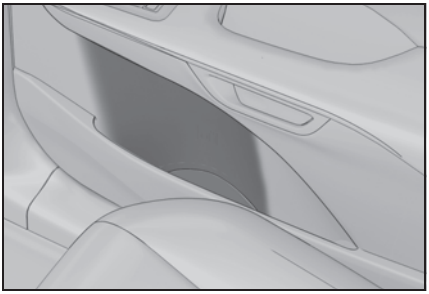
リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

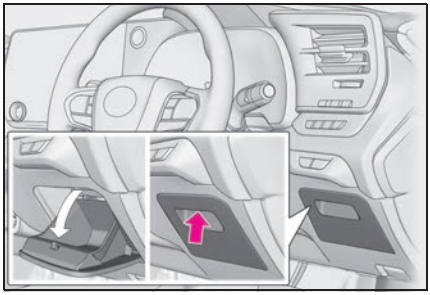
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コインボックス

ノブを上に押す



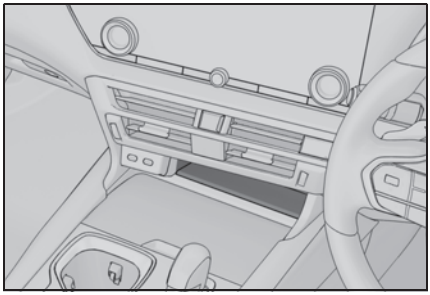
警告

■走行中の警告

コインボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたコインボックスが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

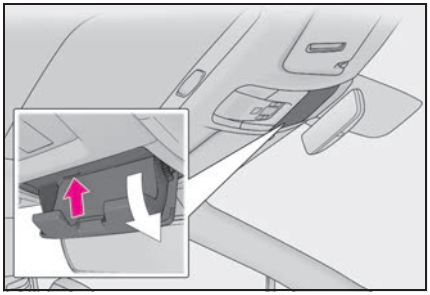
小物入れ

▶ インストルメントパネル



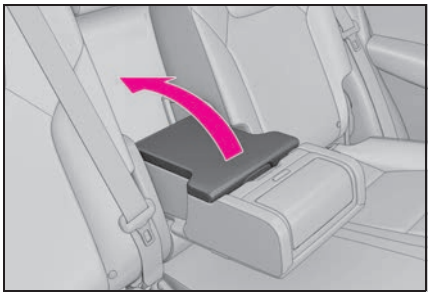
▶ 天井

フタを押す



▶ リヤアームレスト

アームレストを手前に倒しノブを押して開ける



⚠ 警告

■収納してはいけないもの（インストルメントパネル）

転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの（天井）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■走行中の警告

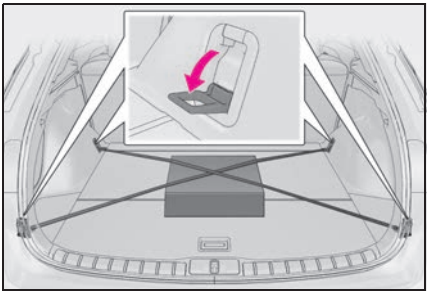
小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

デッキフックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



警告

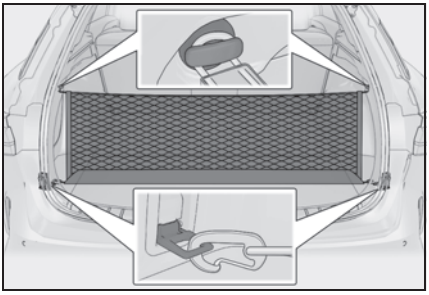
■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

後ろ側のデッキフックとネットフックを起こして使用する

フックを使って積荷ネットをかけることができます。



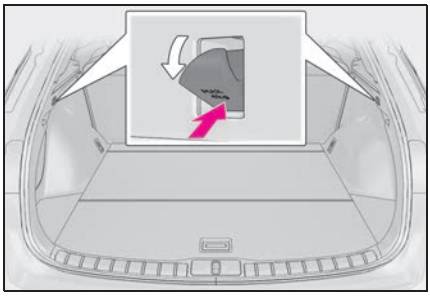
警告

■ネットフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

使用するときは買い物フックの下側を押す



注意

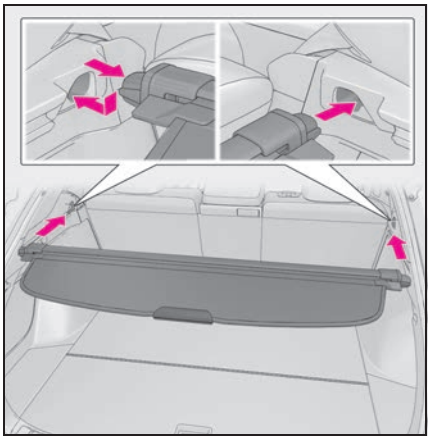
■買い物フックの破損を防ぐために

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

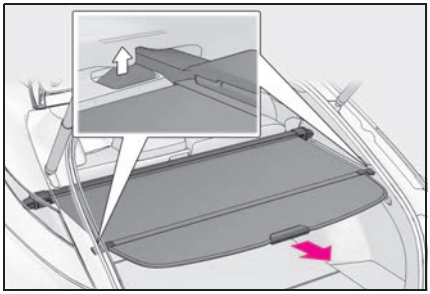
トノカバー

■ トノカバーを取り付けるときは

1 トノカバーの片側を取りつけ、トノカバーを取りつけた側へ押しながら反対側を取りつける

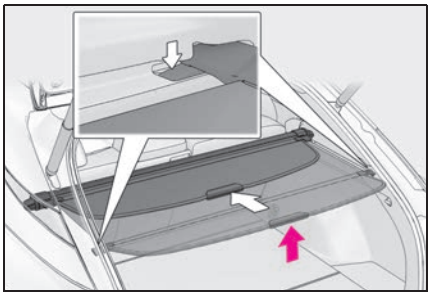


2 トノカバーを引き出し、カバー両側のフックを車両後方の左右の取りつけ部に引っ掛ける



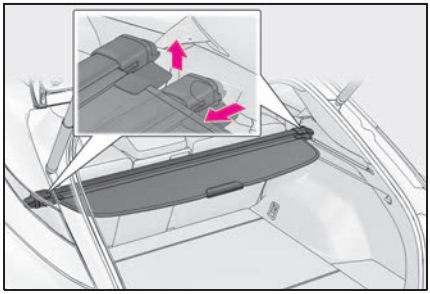
■ トノカバーを取り外すときは

1 トノカバーの車両後方の端を持ち上げて、トノカバー両側のフックを取りつけ部からはずし、カバーを巻き取る



2 トノカバーを片側に押さえつけながら、もう一方の側を水平に引き出すようにして取り外す

取りはずしたトノカバーは客室以外の場所に保管ください。



⚠ 警告

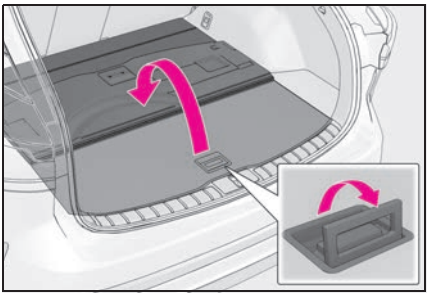
■ トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるなどして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

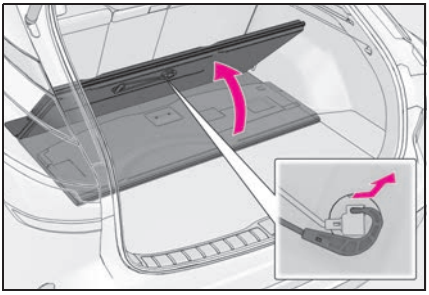
デッキボード

■ デッキボードを開けるには

1 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

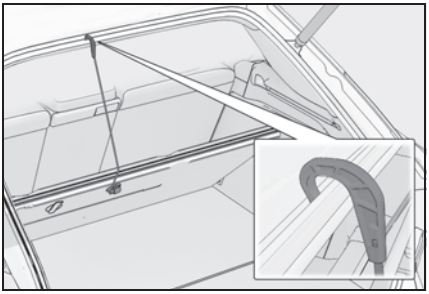


2 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



3 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。



警告

■デッキボードを開けたり取りはずしたときは

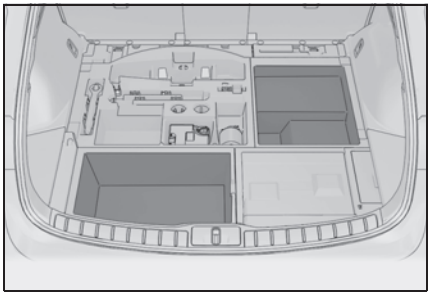
走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バックドアを閉じるときは

デッキボードのフックをバックドア開口部の上端に引っかけたままにしないでください。デッキボードのフックが破損するおそれがあります。

デッキアンダートレイ



その他の室内装備

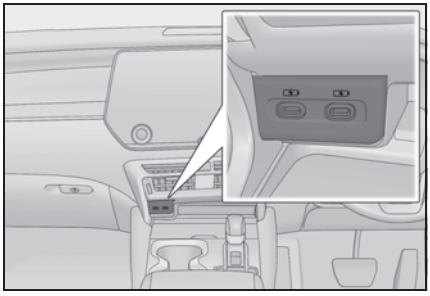
充電用 USB 端子

DC5V ／ 3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

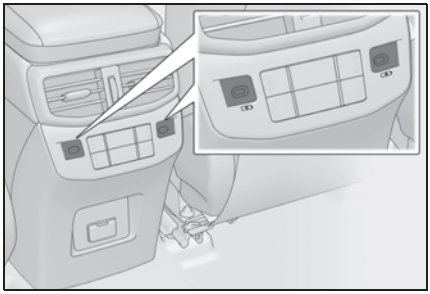
■ 充電用 USB 端子を使用するには

▶ インストルメントパネル



▶ コンソールボックス

▶ リヤコンソール



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V ／ 3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

⚠ 注意

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。適合機器は WPC のホームページ（https://www.wirelesspowerconsortium.com/）でご確認いただけます。

ワイヤレス充電器より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

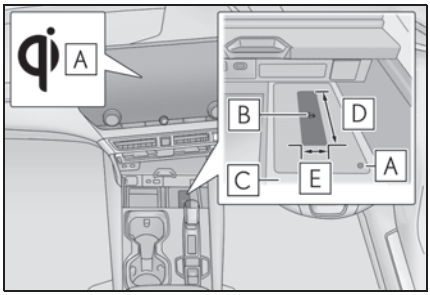
「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。Qi ID：14561

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

おくだけ充電

■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア※

C 充電トレイ

D 約 10 cm

E 約 2.5 cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイ

ルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

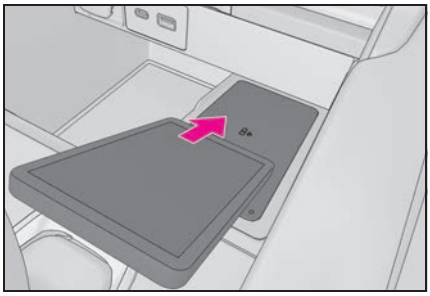
携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、(→P.428) をご確認ください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルの中心がある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

■ 急速充電機能

次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

● WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器

● 7.5W充電に対応したiOSを搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

● Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ	センターディスプレイ	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはパワースイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時 ※2
橙（点灯）	青	充電中

※1待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイ

に置いても、過熱されることはありません。

※2携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	センターディスプレイ	
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 **→ ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.180）
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 **→ ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.180）
緑（点灯）	青	AM 放送局を自動選局している **→ AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。**
		スマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行っている。 **→ キーの検出が完了するのをお待ちください。**

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	センターディスプレイ	
緑（点灯）	灰	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた **→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。**
		携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた **→ 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。**
		携帯機器のバッテリー保護機能 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した **→ 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。**
		電子キーの検出状態が継続 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された **→ パワースイッチをアクセサリーまたは ON にして、キーを確定させてください。**
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 **→ いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。**

知識

■使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降および Qi2 規格の MPP（Magnet Power Profile）に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証して

いるものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。

・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
・ Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対して、10W 以下の充電に対応しています。
・ WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

電子キーが車外に持ち出されたときなど、充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行うために、充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。また、Qi2 に対応していないため、Qi2 に対応したアクセサリーおよびカバーを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中の AM ラジオ放送連携機能

●充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。

●AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電についての留意事項

●車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は “ カチッ ” や “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.452

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電のとき

●有線接続で携帯機器を充電中のとき

●充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき

●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

●炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき

●携帯機器の充電面を上にして置いたとき

●折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき

●携帯機器が充電トレイよりも大きいとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが車内にないとき

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したとき
・厚みがあるケースやカバー
・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リングやストラップなどのアクセサリー
・カメラレンズを保護するカバー

●携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア
・金属製のデコレーション
・金属製のケースやカバー
・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき

●S ペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

⚠警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておく
- 充電中はフタを開けておく
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

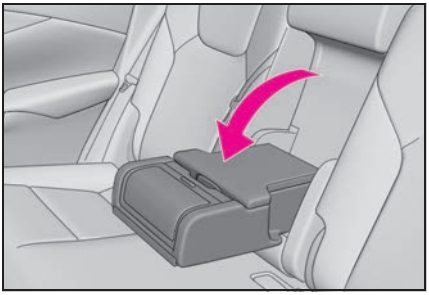
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレスト

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

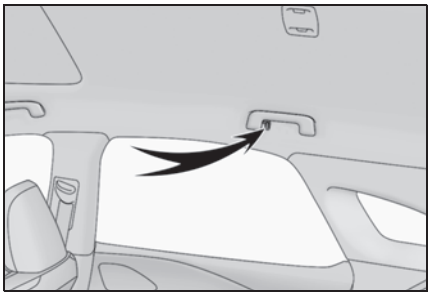
⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

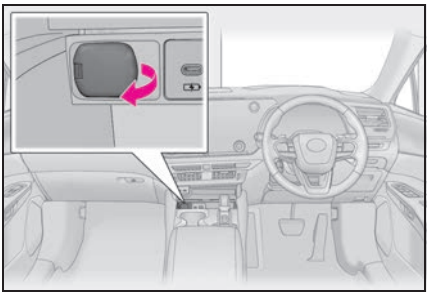
アクセサリーソケットを使うには

DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

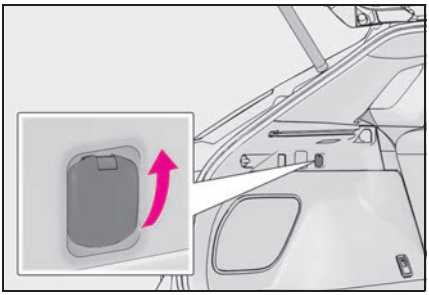
▶ コンソールボックス

フタを開けて使用する



▶ ラゲージルーム

フタを開けて使用する



知識

■使用条件

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

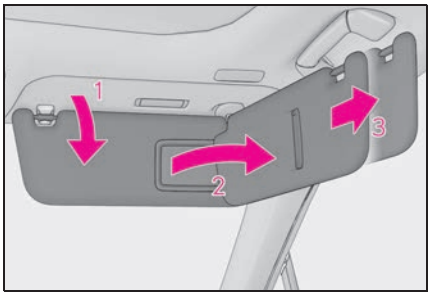
■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、キャップ・フタを閉じておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

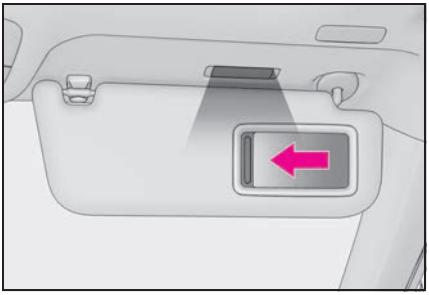
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

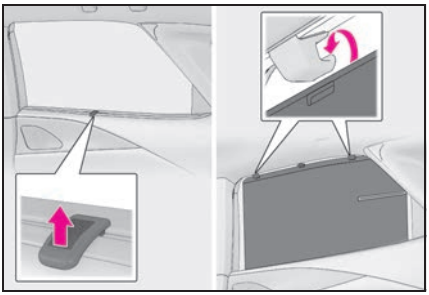
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

リヤドアサンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくりと収納します。



警告

■リヤサンシェード使用中は

リヤドアサンシェード使用中は、フックや溝に指などを置かないでください。巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■正常に機能させるために

- 操作の妨げになる部分にものを置かないでください。
- 破損を防ぐために、リヤドアサンシェードにものを貼ったり、過度の負荷をかけないでください。

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.435）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.436）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.436）

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

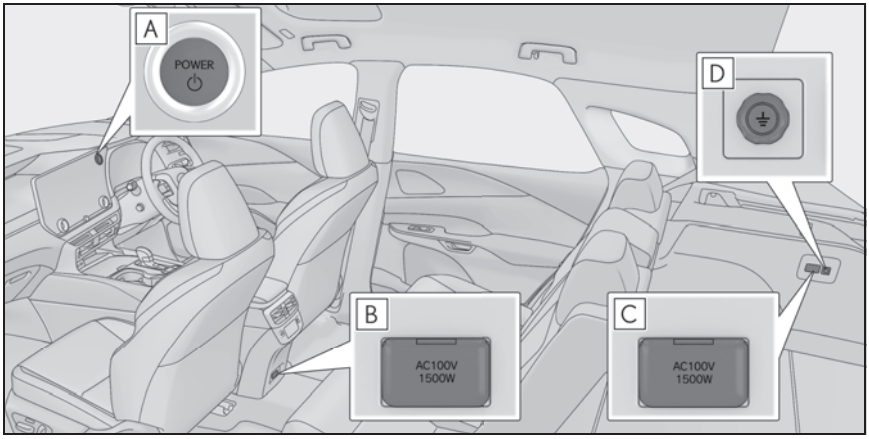
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A パワースイッチ（→P.180）

B コンソールボックス後方コンセント

C ラゲージルームコンセント

D アース端子

アクセサリーコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.180）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、センターディスプレイのショートカットスイッチにタッチする

3 “1500W コンセント” にタッチする

“1500W コンセント” をタッチするたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。

4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.436）

■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 センターディスプレイのショートカットスイッチをタッチする

3 “1500W コンセント” を押して OFF にする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

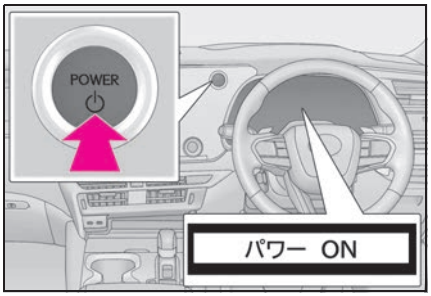
非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※）（→P.183）

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



2 センターディスプレイのショートカットスイッチをタッチする

3 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“1500W コンセント” を、約 1 秒間隔で 3 回連続でタッチする

マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

タッチする間隔が 2 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“1500W コンセント” を 4 回以上連続でタッチすると、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.436）

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 センターディスプレイのショートカットスイッチをタッチする

3 “1500W コンセント” をタッチする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

6 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

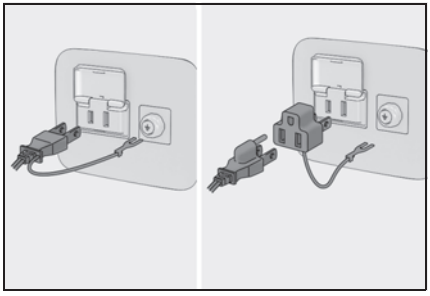
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

知識

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
  その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
  その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
  この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計

が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- メカニカルキー（→P.533）で施錠・解錠することができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “キーが見つかりません キーの所在を確認してください” と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては、P.205 を参照してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

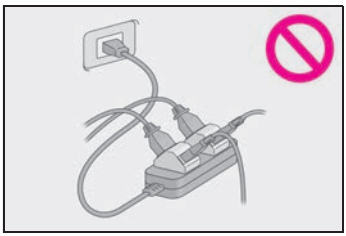
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

●給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

⚠警告

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

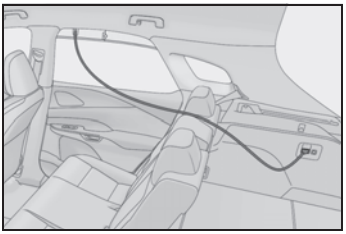
●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の浸入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。

●状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。

⚠ 警告

●エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■走行中に使用するとき

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■駐車中または停車中に使用するとき

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 “1500W コンセント” をタッチしてください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 “1500W コンセント” をタッチしてください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。“1500W コンセント” が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 “1500W コンセント” をタッチしてください。

考えられる原因	対処法
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 “1500W コンセント” をタッチしてください。 ●ピンなどの異物が挿さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.183) マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。
“1500W コンセント” を押す間隔が長すぎる、または “1500W コンセント” を 3 回よりも多くタッチしている	“1500W コンセント” は 2 秒以上間隔をあけずに 3 回連続でタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ●ピンなどの異物が挿さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により 給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 448
内装の手入れ 452

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 454
ガレージジャッキ..... 456
ウォッシャー液の補充..... 457
タイヤについて..... 458
タイヤの交換 467
タイヤ空気圧について 473
エアコンフィルターの交換 474
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 477
電子キーの電池交換..... 480
ヒューズの点検・交換..... 483
電球（バルブ）の交換..... 485

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ､効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.191、197 を参照してください。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.128）

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

●水洗いで早めに汚れを落としてください。
汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

●スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
・コーティング剤やワックスは使用しない
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT）

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

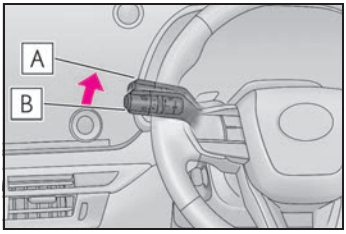
⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

●Lexus Safety System +

●BSM（ブラインドスポットモニター）

●後方車両への接近警報

●安心降車アシスト

●クリアランスソナー

●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）

●後方車両接近告知

●周辺車両接近時サポート

●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

⚠ 注意

・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.215)
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・ 駆動系部品

・ ステアリング部品

・ サスペンション部品

・ ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口・排出口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.61)
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.31)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）(→P.424) をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  ・ シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

⚠ 注意

・ シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

● 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

● 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

● 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

● ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
(→P.228)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

● 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

● 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

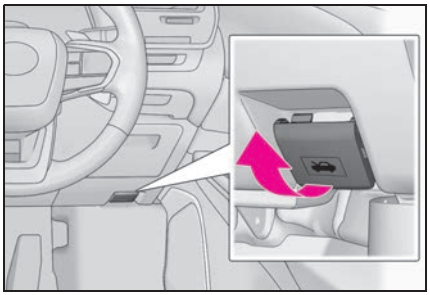
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

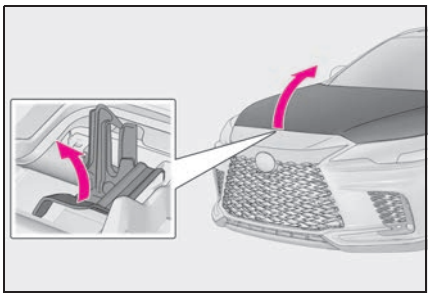
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

■ボンネットの閉め方

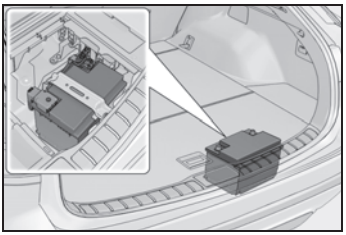
ボンネット閉めるときは、少し高い位置（約 20 cm）から必ず落として閉めてください。

手で押して閉めると、ボンネットが片側のみロックされるおそれがあります。

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
（→P.538）



⚠警告

■ボンネットを開けたときは（RX500h）

パワースイッチを OFF にしても、しばらくのあいだ冷却ファンが作動する場合があります。冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

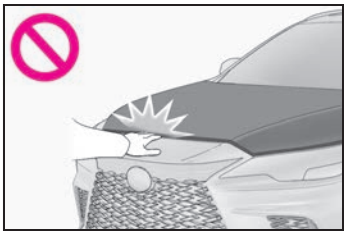
■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.538

⚠ 注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

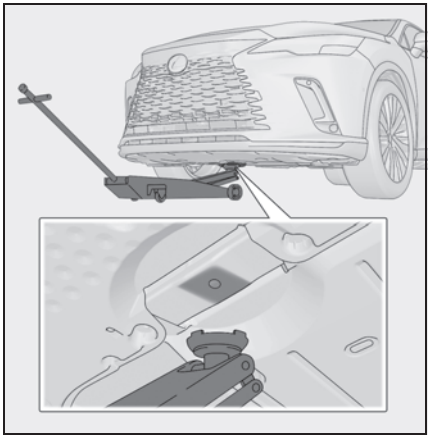
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

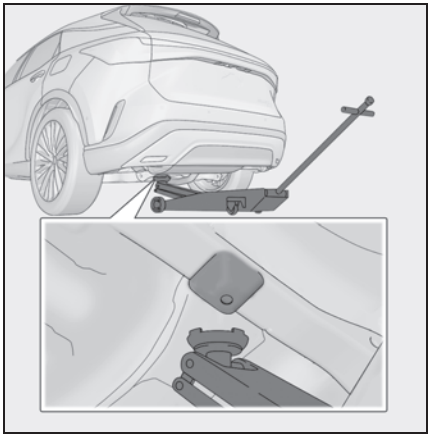
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側

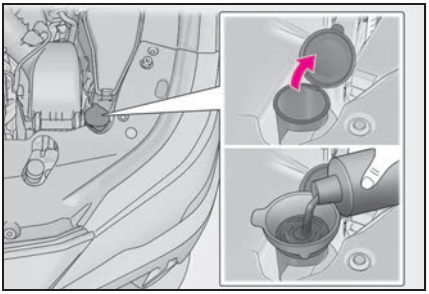


ウォッシャー液の補充

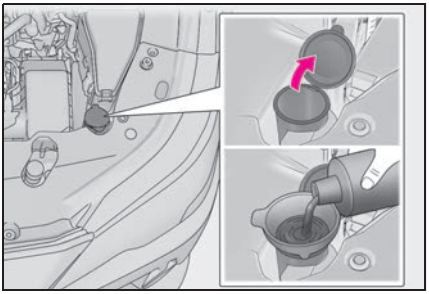
補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

▶ RX500h



▶ RX350h



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

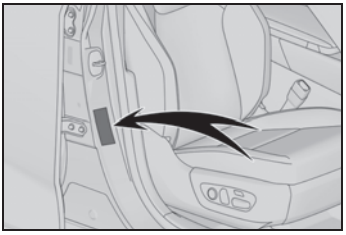
知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
前輪	後輪
230（2.3）	230（2.3）

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

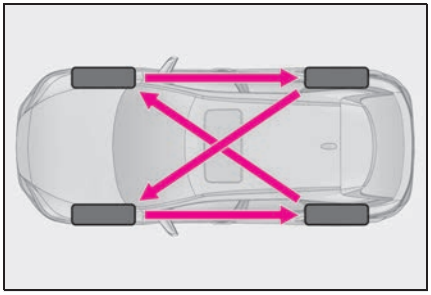
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

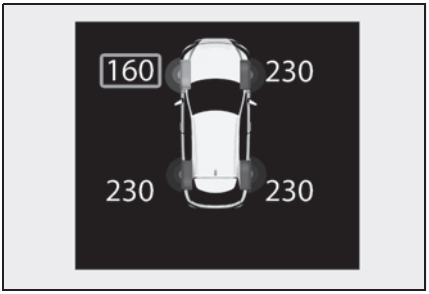
タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を確実に行ってください。（→P.461）

タイヤ空気圧警報システム

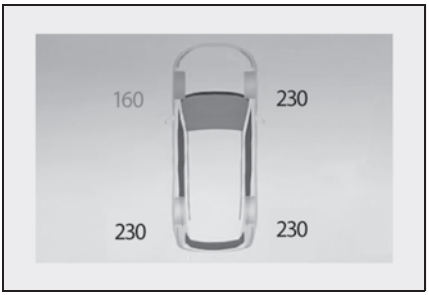
ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。（→P.501）

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



▶ センターディスプレイ



● マルチインフォメーションディスプレイに “ 空気圧を調整してください ” が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイに “ すみやかに安全な場所でタイヤ点検 ” が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。(→P.94)

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・ 純正ホイール以外を使用したとき
・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.464）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ位置を登録するには

■ タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 センターディスプレイの⚙を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

6 “タイヤローテーション” を選択する

7 “OK” を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が “---” になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■タイヤ位置を登録するとき

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

●車速が約40km/h以上のときに行われます。

■タイヤ位置登録の操作について

●タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ位置登録がうまくいかないとき

●次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。

・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

●タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● タイヤのサイズを変更するなどし

て、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。(→P.463)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.463)

■ **指定空気圧での設定のしかた**

1 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 センターディスプレイの⚙を選択する

3 “車両カスタマイズ” を選択する

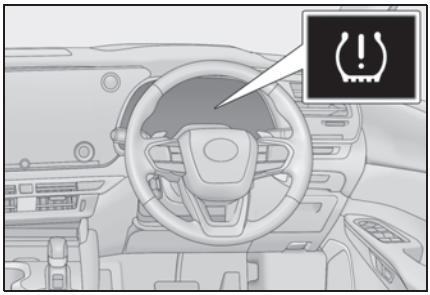
4 “タイヤ空気圧” を選択する

5 “指定空気圧設定” を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択する

6 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



■ **現在の空気圧での設定のしかた**

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 センターディスプレイの⚙を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

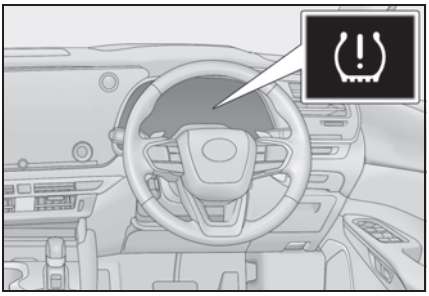
6 “現在の空気圧を設定” を選択する

7 “継続” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了

のメッセージが表示されます。



知識

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

●現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

●必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）

●空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。

●空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

●現在の空気圧で設定をする場合、通常約 3 分で終了します。

●空気圧設定操作時に警告灯が3回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠警告

■現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 センターディスプレイの⚙を選択する

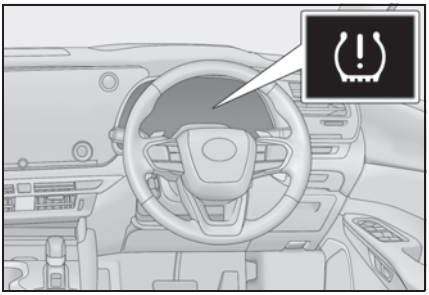
4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

6 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を確認する

表示されているセットに ID コードを登録します。
登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

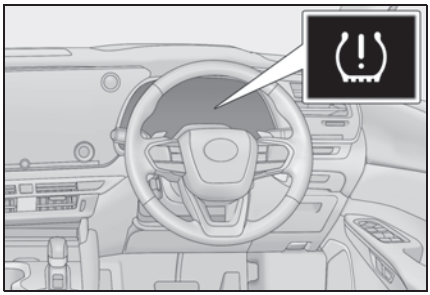


7 “新規タイヤ登録” を選択する

8 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。



9 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

10 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する（→P.462）

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

知識

■ID コードの登録をするとき

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

●すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.466)

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
・ 約 40km/h 以上で走行していない
・ 未舗装の場所を走行した
・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、レクサス販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイの “ 新規タイヤ登録 ” を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“ 新規タイヤ登録 ” を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

● この機能は 2 セット目 (セット 2) のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“ セット 2（未登録）” と表示され、選択しても切りかえはできません。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.464)

● ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

● ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コードの切りかえかた

1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する

2 センターディスプレイの⚙を選択する

3 “ 車両カスタマイズ ” を選択する

4 “ タイヤ空気圧 ” を選択する

5 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を選択する

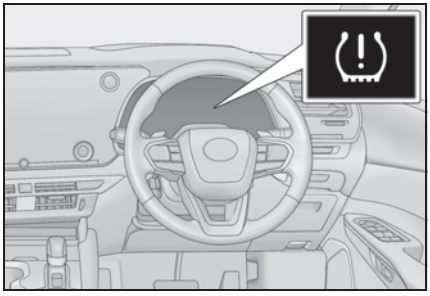
6 登録したいセットを選択し、“OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。
装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



7 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する（→P.462）

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

8 タイヤの位置を登録する（→P.461）

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

この車両はホイールボルトを使用しています。

工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用する必要があります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

知識

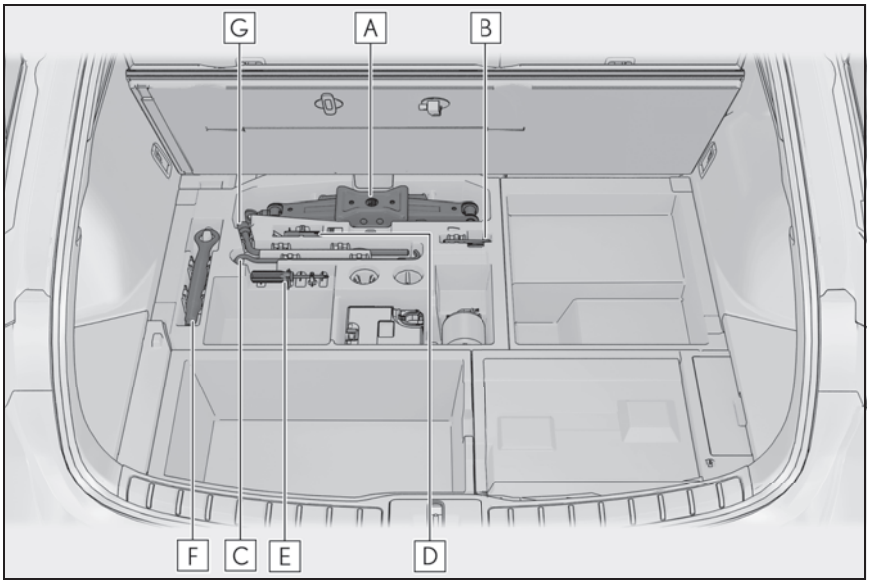
■工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールボルトソケット
- ドライバー
- ガイドピン

●ホイールボルトレンチ

工具とジャッキ位置



A ジャッキ★

B ガイドピン★

C ジャッキハンドル★

D ホイールボルトソケット★

E ドライバー★

F けん引フック

G ホイールボルトレンチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- この車両用のジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

⚠ 警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

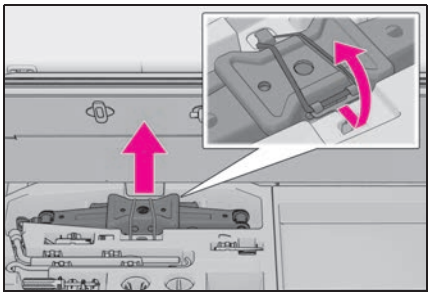
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、バックドアの作動を停止してください。(→P.125)
停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

ジャッキの取り出し方

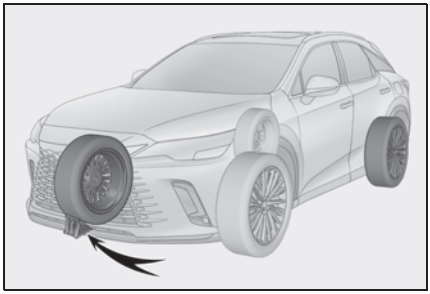
1 フックを使ってデッキボードを固定する（→P.422)

2 ゴムバンドをはずし、ジャッキを取り出す



タイヤの取りはずし

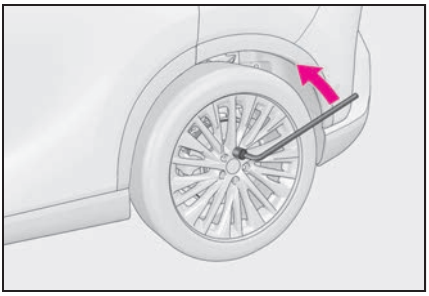
1 輪止め※をする



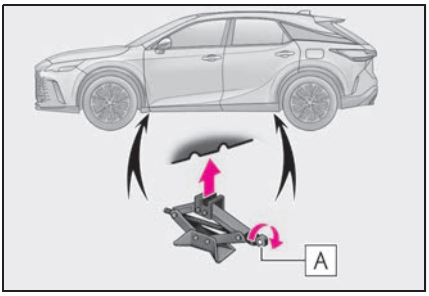
交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

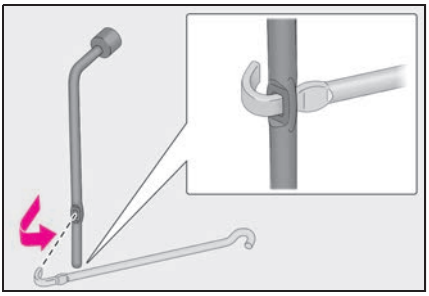
2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる



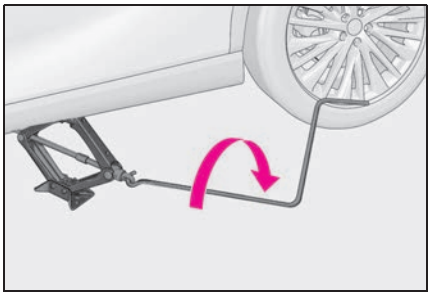
3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルにホイールボルトレンチを取り付ける

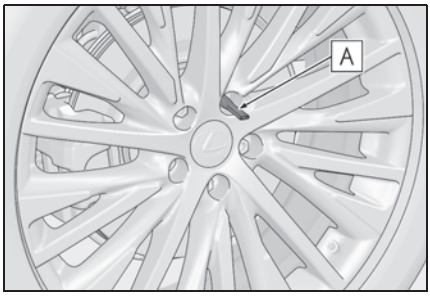


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



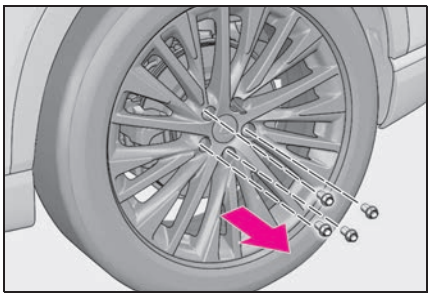
6 最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピンAを手で締め付ける

時計回りに回らなくなるまで締め付けます。



7 残りのホイールボルトをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

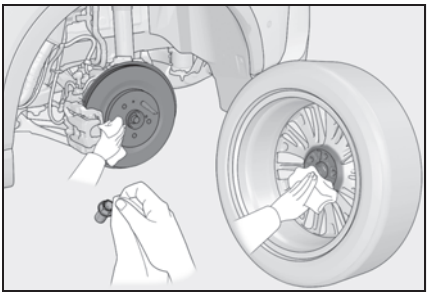
■タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

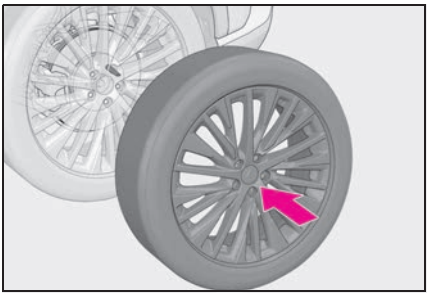
1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



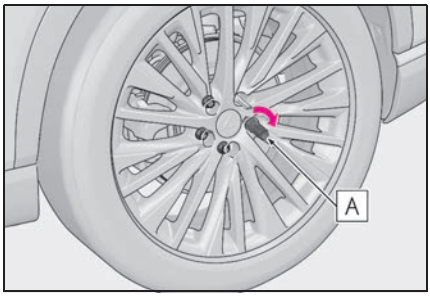
2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。

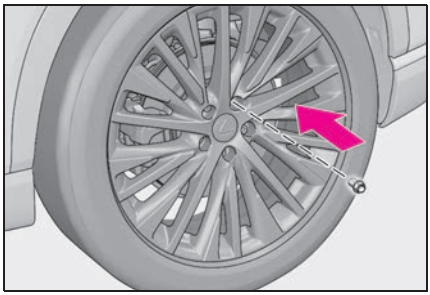


3 手または、ホイールボルトソケット[A]を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

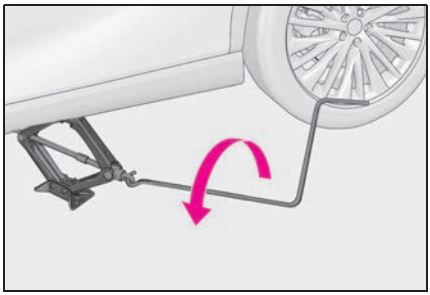
ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



4 ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順 **3** 同様に軽く締め付ける



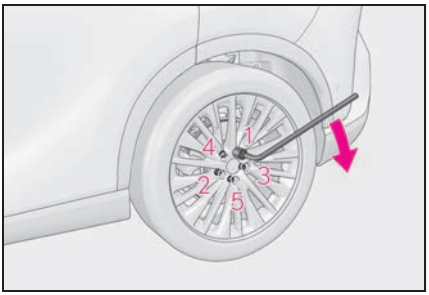
5 車体を下げる



6 ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

140N・m（1428kgf・cm）



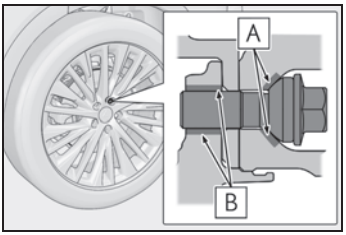
7 すべての工具・ジャッキを収納する

⚠警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用してください。
  なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。
  工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。
- ホイールボルトとホイールの球面座部A にオイルやグリースを塗らないでください。
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじB が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
  お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ホイールボルトを締め付けるときは

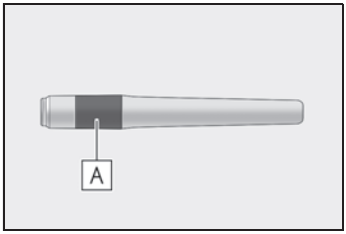
ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

警告

■ガイドピンについて

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のためA部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.461

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

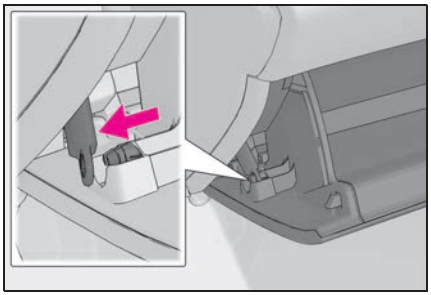
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

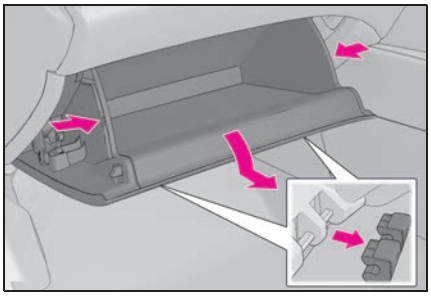
▶ 輻射ヒーター非装着車

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

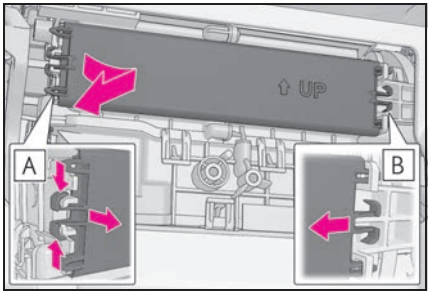


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



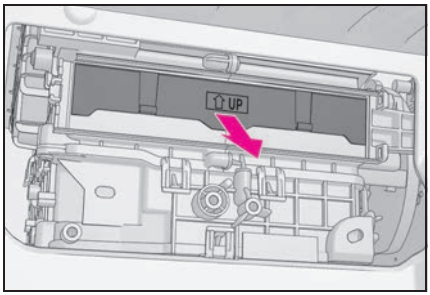
4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカ

バーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



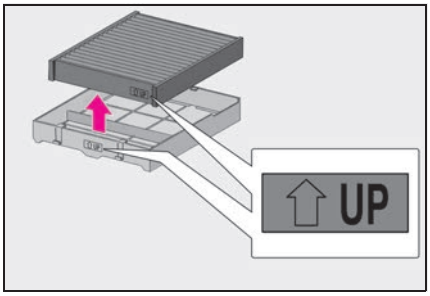
5 フィルターケースを取りはずす

フィルターの上に異物が付着している場合があります。



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

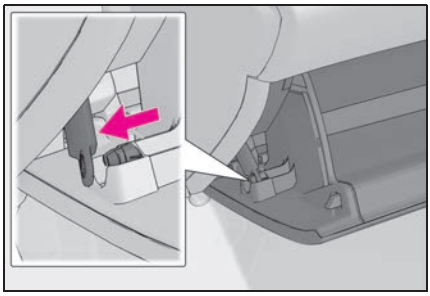
“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



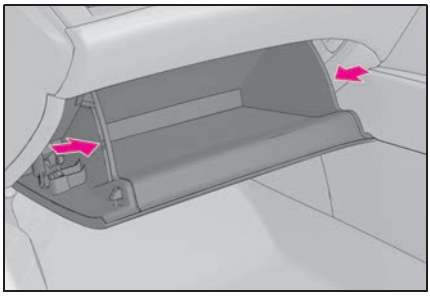
▶ 輻射ヒーター装着車

1 パワースイッチを OFF にする

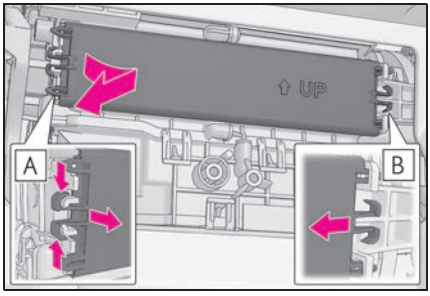
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす



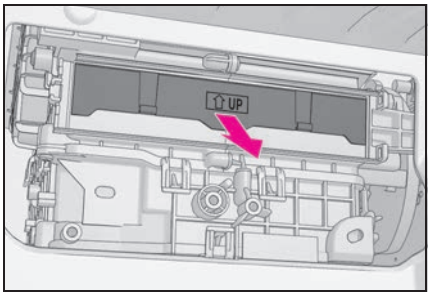
4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターケースを取りはずす

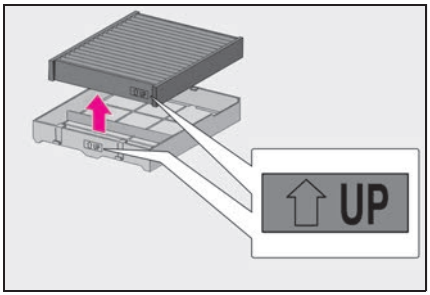
フィルターの上に異物が付着している場

合があります。



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

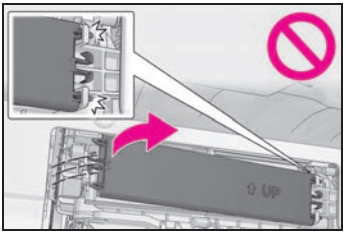
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

- フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。

ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは

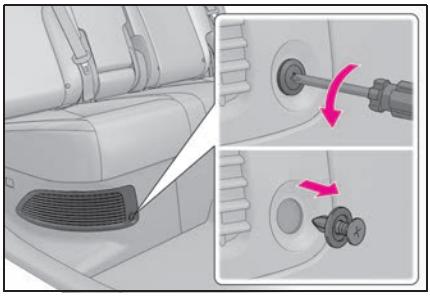
すみやかに清掃してください。

警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

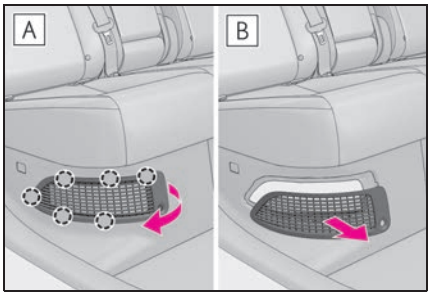
清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



3 吸入口カバーを取りはずす



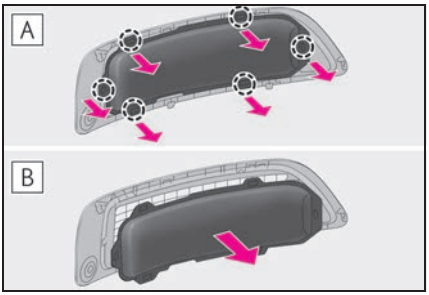
A 吸入口カバーを手前に引いて、図で示す 6ヶ所のツメを右側からはずす

B 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす

4 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっていると

きは、掃除機などで取り除いてください。

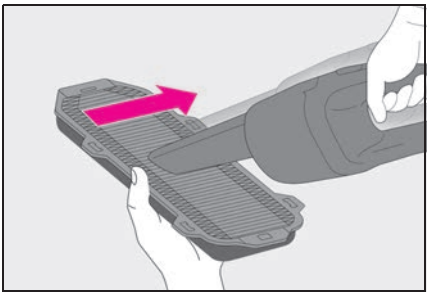


A 吸入口カバーのツメからフィルター（6ヶ所）をはずす

B 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

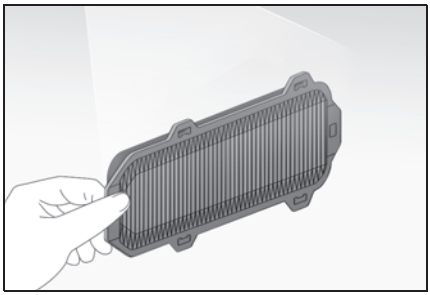
5 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。

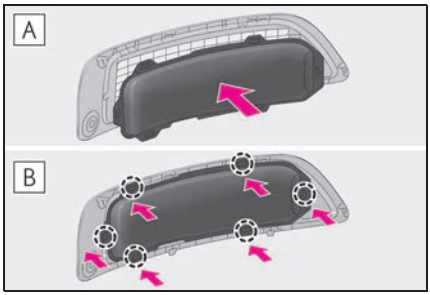


6 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、レクサス販売店にご相談ください。



7 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

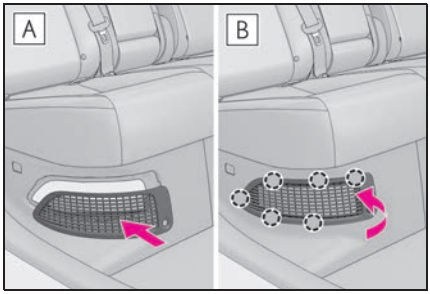


A フィルターを取り付ける

B 図で示す 6ヶ所のツメにフィルターを引っかける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

8 吸入口カバーを取り付ける

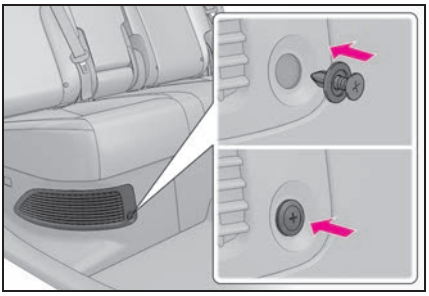


A 吸入口カバー左端のツメを差し込む

B 図で示す 6ヶ所のツメを取り付け

る

9 クリップを取り付ける



▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ 駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認 ” と表示されていたとき

10 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

⚠ 警告

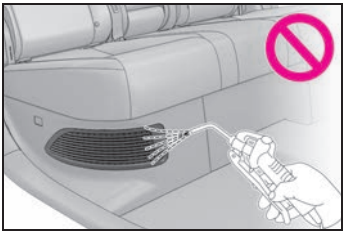
■吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。
ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、レクサス販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない

注意

- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。
電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池交換はレクサス販売店で実施してください。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池

・CR2032（Type A）
・CR2450（Type B）

知識

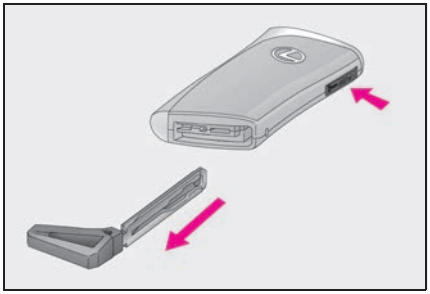
■リチウム電池 CR2032、CR2450 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

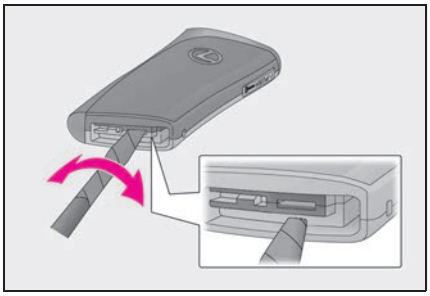
▶ Type A

1 メカニカルキーを抜く



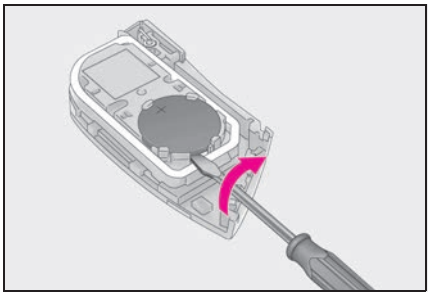
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



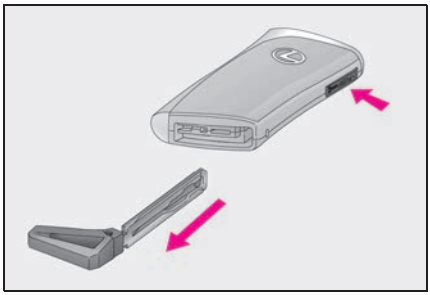
3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

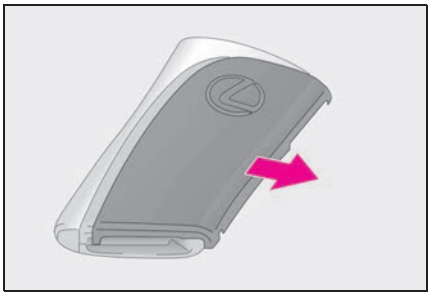


▶ Type B

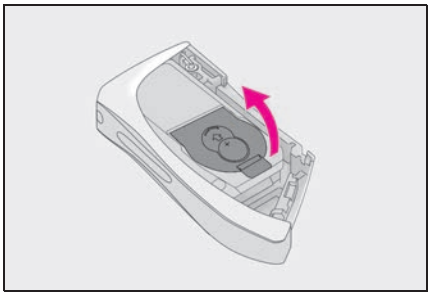
1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす



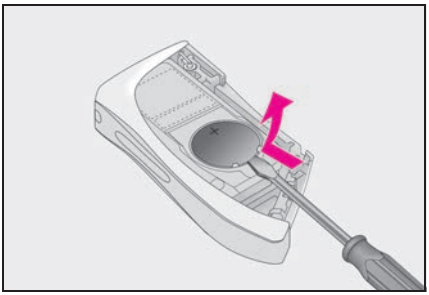
3 バッテリーカバーをはずす



4 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付け

ます。



⚠ 警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

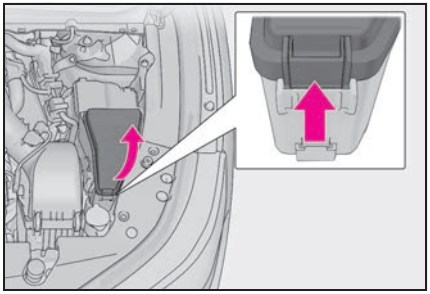
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

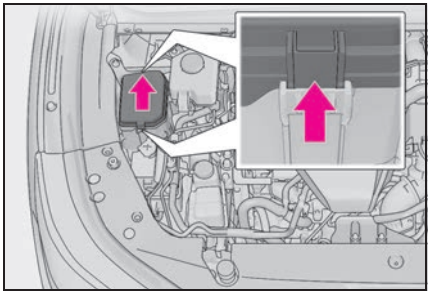
▶ エンジンルーム

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

・ タイプ A

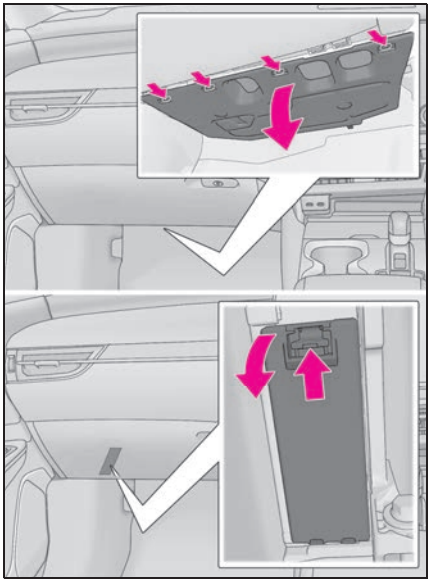


・ タイプ B



▶ 助手席足元

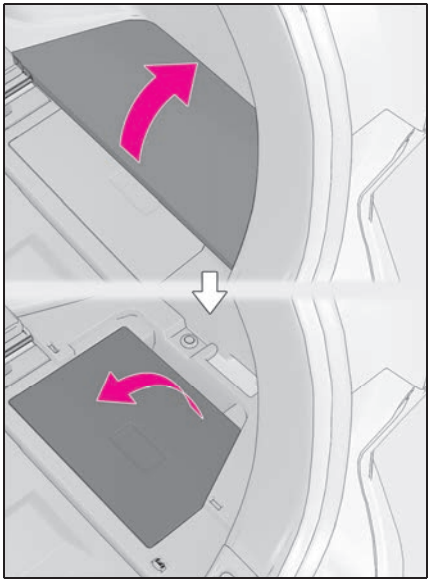
足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす



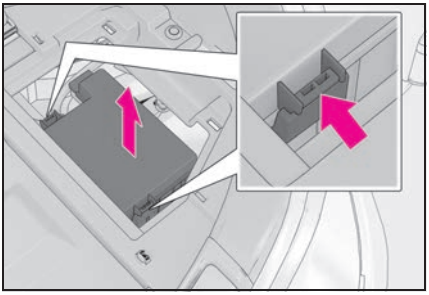
▶ ラゲージルーム

フックを使ってデッキボードを固定する (→P.422)

サイドボードとカバーを取り外す

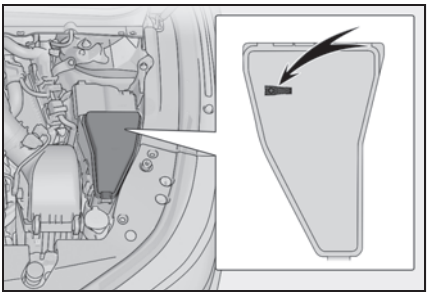


ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

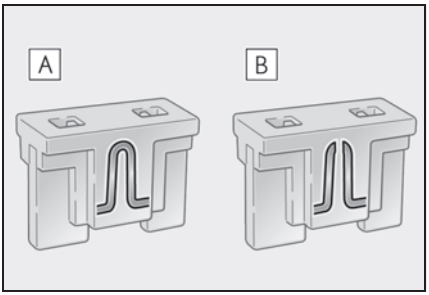


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.485)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。

警告

取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 488
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 489
発炎筒 489
車両を緊急停止するには 490
水没・冠水したときは 491
車中泊が必要なときは 492

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 493
警告灯がついたときは 498
警告メッセージが表示されたときは..... 506
パンクしたときは..... 522
ハイブリッドシステムが始動できないときは 531
キーをなくしたときは 533
電子キーが正常に働かないときは..... 533
ドア開スイッチでドアを開けることができないときは..... 536
補機バッテリーがあがったときは..... 538
オーバーヒートしたときは 545
スタックしたときは..... 550

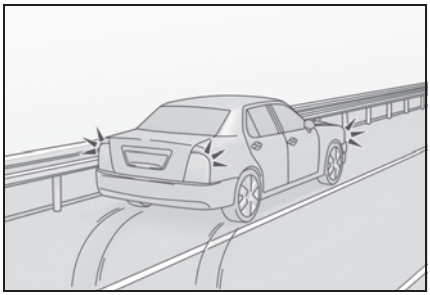
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.489）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

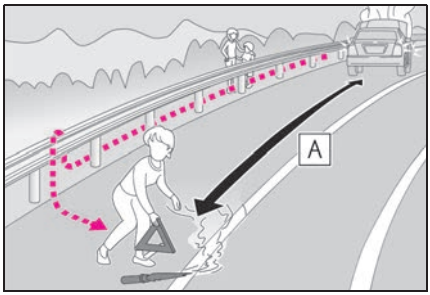
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.489）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

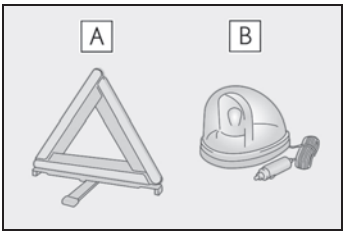
3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

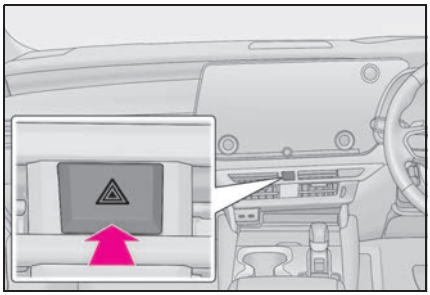
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

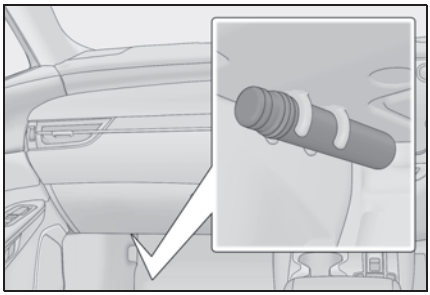
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

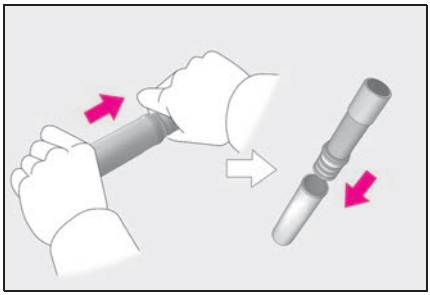
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



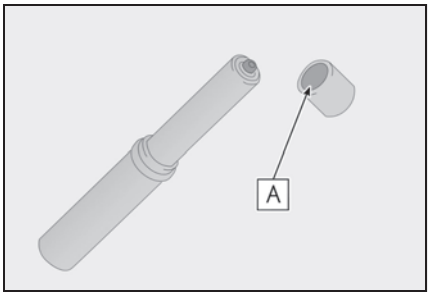
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

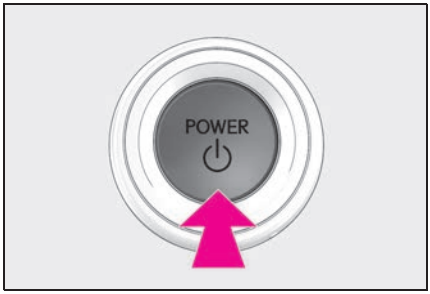
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。

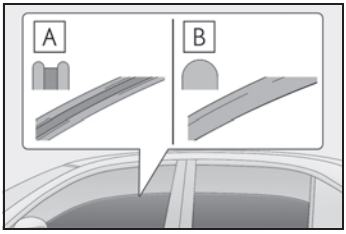
合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、２枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.182, 507）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.63）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.533）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.538）

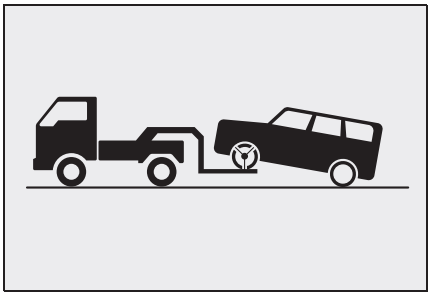
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

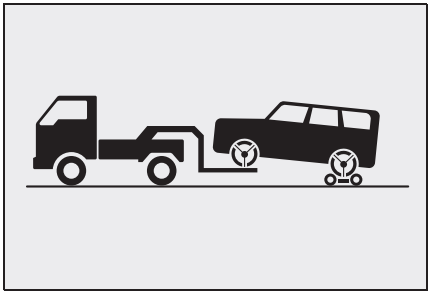
▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



パーキングブレーキを解除する

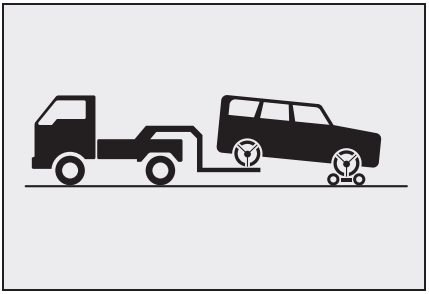
オートモードを OFF にしてください。（→P.199）

▶ 前向きにけん引するときは（4WD車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

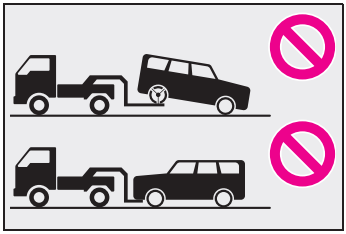
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

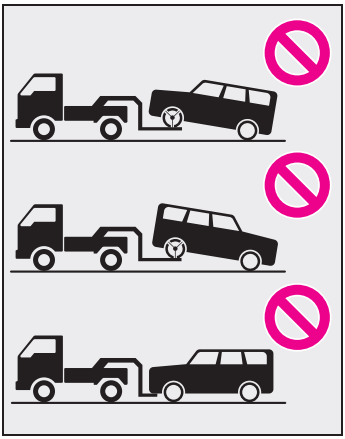
▶ FF（前輪駆動）

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ AWD（4 輪駆動）

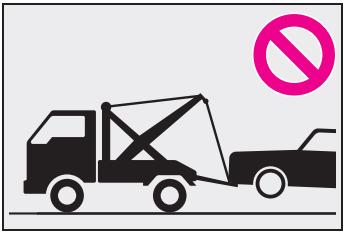
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

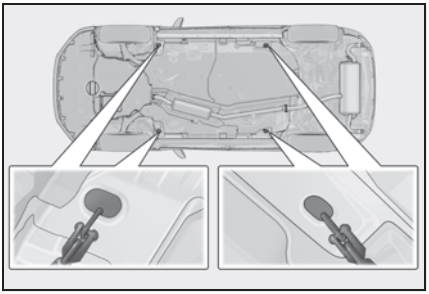
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

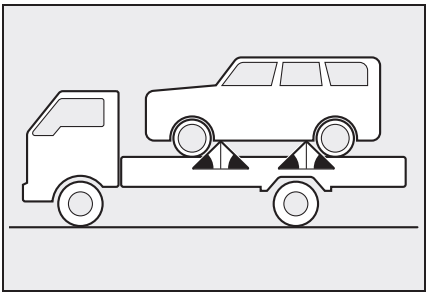


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

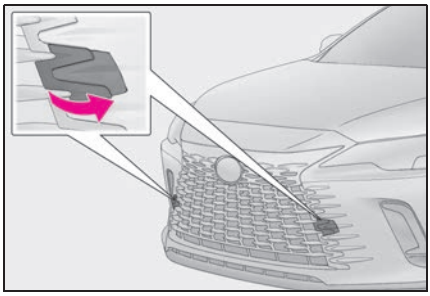
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.523）

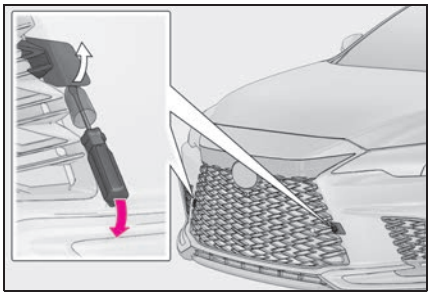
2 F SPORT 以外：フタをはずす
F SPORT：マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

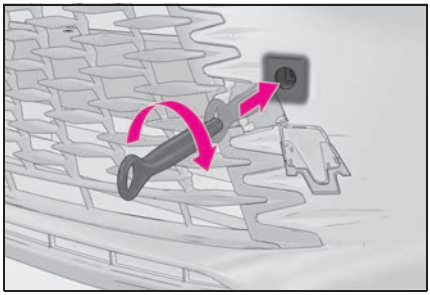
▶ F SPORT 以外



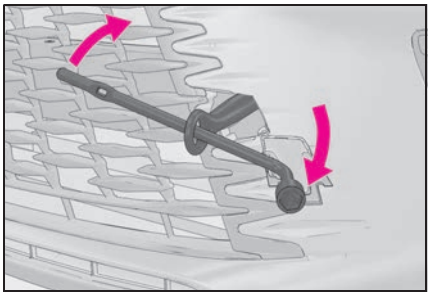
▶ F SPORT



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

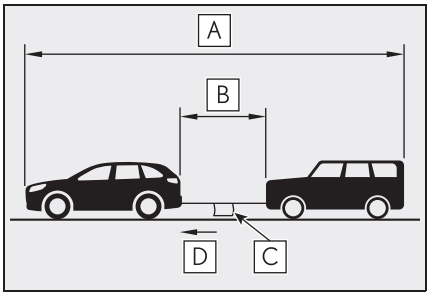


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.199）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

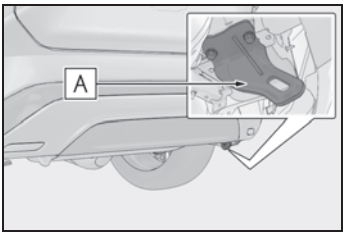
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールボルトレンチについて

レクサス販売店で購入することができます。

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



A 輸送用フック

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.545）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムが過熱 → **安全な場所に停車し、対処方法（→P.548）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●RX500h：トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： ●自然要因 **→ タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。** ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。** 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.513）**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点灯）	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●Trail Mode★の異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD（点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.522

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。（→P.462）

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.460

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
  タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.498）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

メッセージと警告作動

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

原因	対処方法
エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。 また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム 停止のため ハンドルが 重くなります” が表示されたときは

原因	対処方法
走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “バッテリー保護のため 自動で電源を OFFしました”が表示されたときは

原因	対処方法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。	次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “Nレンジです アクセルを緩めて 希望レンジに 切りかえてください”が表示されたときは

原因	対処方法
シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “ハイブリッドシステムが 高温になるため 停車時は ブレーキを 踏んでください” が表示されたときは

原因	対処方法
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。	そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “駆動用電池保護が必要 Pレンジにして 再始動してください” が表示されたときは（RX350h）

原因	対処方法
一定時間シフトポジションがNになっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。	車両を動かす場合は、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “駆動用電池保護が必要 Nレンジの使用を控えてください” が表示されたときは（RX350h）

原因	対処方法
シフトポジションがNのときにメッセージが表示されることがあります。	シフトポジションがNでは充電できないため、停車するときはシフトポジションをPにしてください。

■ “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは

原因	対処方法
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	→P.545

■ “切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
タイヤ空気圧警報システムのID切りかえができません。	装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。

■ “ヘッドランプシステム 故障 販売店で 点検してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムに異常があるおそれがあります。 ●LED ヘッドランプ ●ヘッドランプオートレベリングシステム ●AHB（オートマチックハイビーム） ●AHS（アダプティブハイビームシステム）	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” が表示されたときは

対処方法
→P.545

■ “スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “電力消費が大きいため 一部の空調･ヒータ作動を 制限中です” が表示されたときは

原因	対処方法
ひんぱんに表示されるときは、充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 販売店での点検を促すメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “駆動用電池の 冷却部品の メンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
駆動用電池の冷却用の吸入口／フィルターが目づまりしている、吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。	●駆動用電池の冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は、清掃してください。(→P.477) ●駆動用電池の冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” が表示されたときは

対処方法
●数秒後に表示が消えたときは、ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。 ●表示が消えないときは、「補機バッテリーがあがったときは」(→P.538) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。	画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “シフトシステム故障 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリ充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ● BSM（ブラインドスポットモニター） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両接近告知 ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ● 後方車両への接近警報 ● 周辺車両接近時サポート ● 安心降車アシスト ● クリアランスソナー ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●LCA（レーンチェンジアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●AHS（アダプティブハイビームシステム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ●後方車両への接近警報 ●周辺車両接近時サポート ●安心降車アシスト ●クリアランスソナー ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）	●センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。(→P.231, 303, 305, 308, 310, 312, 317, 321, 329, 332) ●補機バッテリー電圧を確認する ●Lexus Safety System+ で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.228) ●センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。(→P.300) ●センサーとカメラに付着物がないか確認し，ある場合には取り除いてください。(→P.318, 350) ●地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。(例：TV キャンセラーなど) ●センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。 ●RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●LCA（レーンチェンジアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●AHS（アダプティブハイビームシステム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ●エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。 ●ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●LCA（レーンチェンジアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●AHS（アダプティブハイビームシステム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる ●特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります ●極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● レーダークルーズコントロール ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.228） ●砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト） ● レーダークルーズコントロール ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●LCA（レーンチェンジアシスト） ●レーダークルーズコントロール ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.228） ●レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.251）	すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●レーダークルーズコントロール ●クルーズコントロール 走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。	走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムが停止しています。 ●ドライバーモニター ●アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）	ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “ドライバーモニター使用できません 取扱書確認ください” が表示されたときは

原因	対処方法
ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。	レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

■ “ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

原因	対処方法
クリアランスソナーのセンサーに水滴／氷／雪／泥などが付着していることが考えられます。	この場合はセンサーの水滴／氷／雪／泥などを取り除けば、正常に復帰します。 汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。
低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。	氷が解ければ、正常に復帰します。
水滴／氷／雪／泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられます。	レクサス販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）	後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “エンジン系故障”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “ハイブリッドシステム 故障”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “アクセル系故障”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー系故障”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “ハイブリッドシステム停止”が表示されたときは

原因	対処方法
ガス欠になっている可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。

■ “燃料残量不足 エンジン停止”が表示されたときは

原因	対処方法
ガス欠になっている可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。

⚠ 注意

■ **“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” がひんぱんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

- 短い距離の運転でも、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

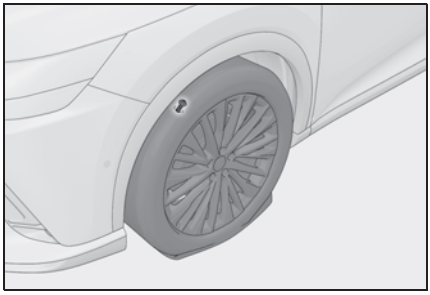
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.489)
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

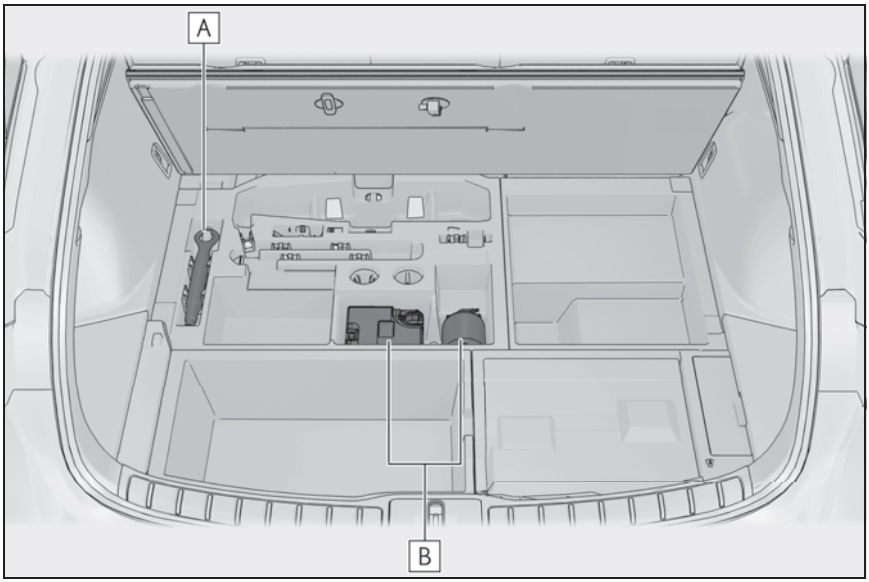
■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしているとき　　し傷があるとき
●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺　●補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

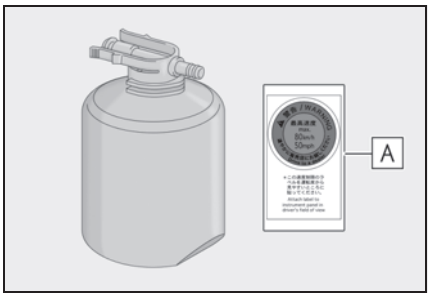


A けん引フック

B タイヤパンク応急修理キット

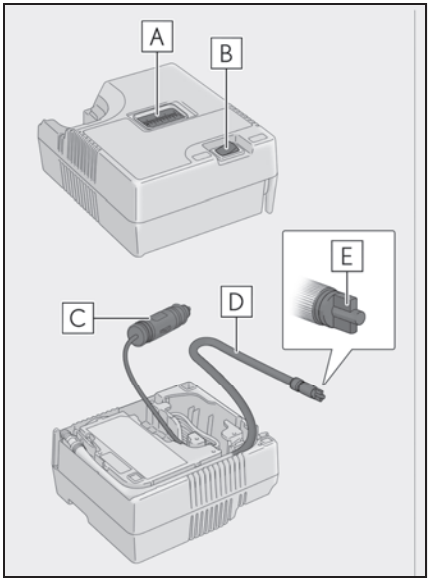
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。

●コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が−30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
応急修理が完全に行われないおそれがあります。

⚠ 警告

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 フックを使ってデッキボードを固定する（→P.422）

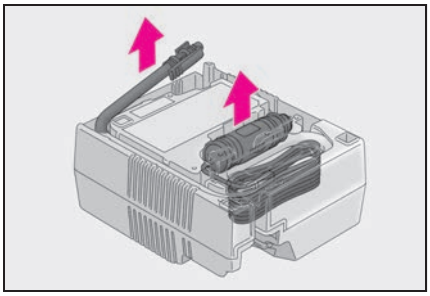
2 応急修理キットを取り出す

応急修理をするには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

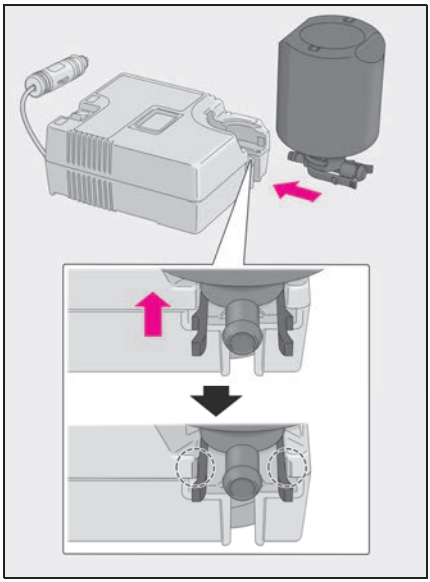
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



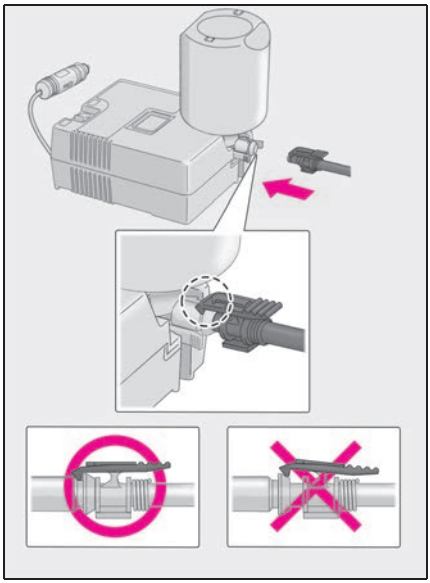
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

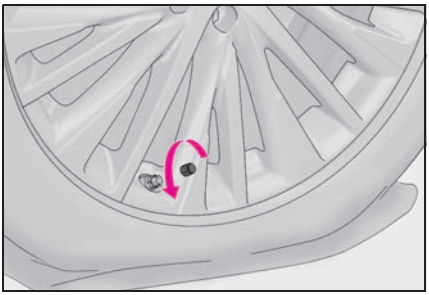


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

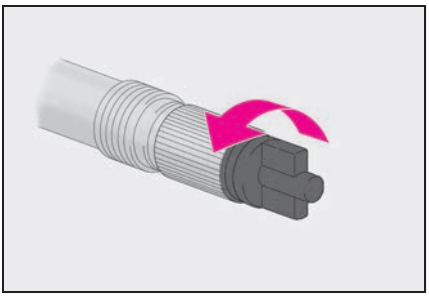


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



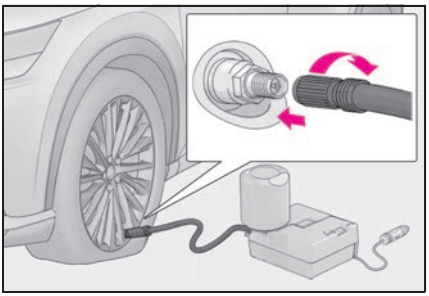
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

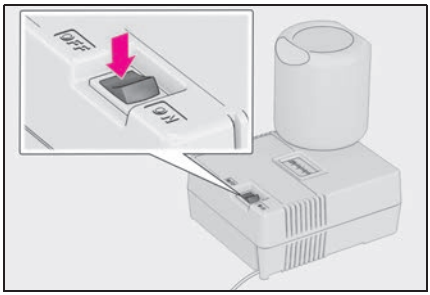


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

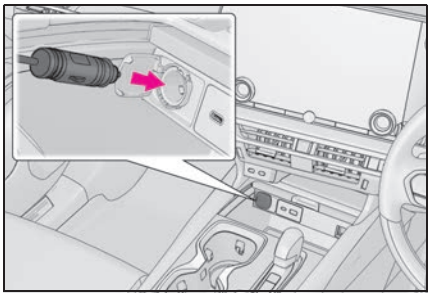
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



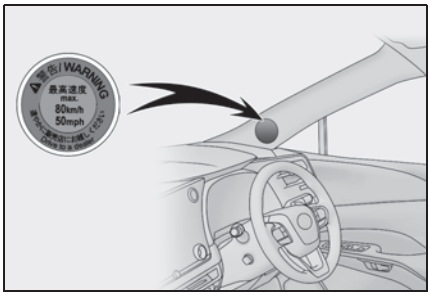
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.431）



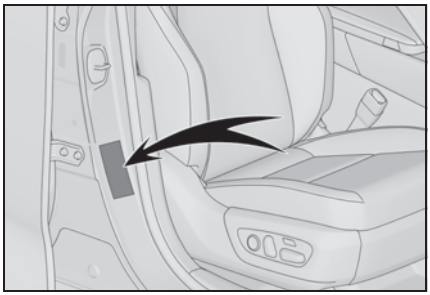
10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



11 タイヤの指定空気圧を確認する

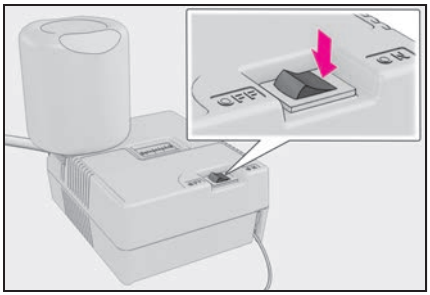
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.458)

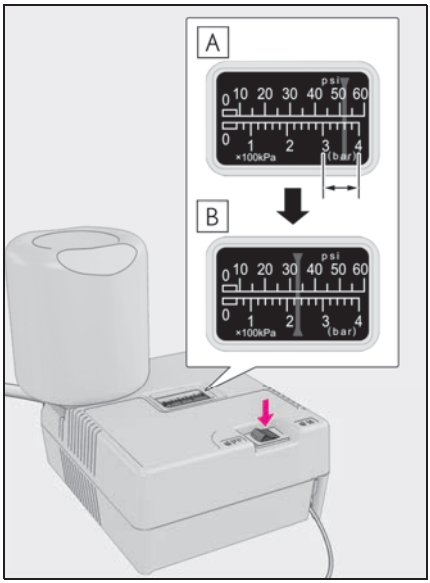


12 ハイブリッドシステムを始動する(→P.180)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa(3.0 ～ 4.0kg/cm^2)まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です(外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P.529, 559)

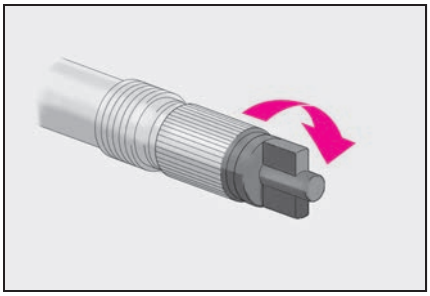
15 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

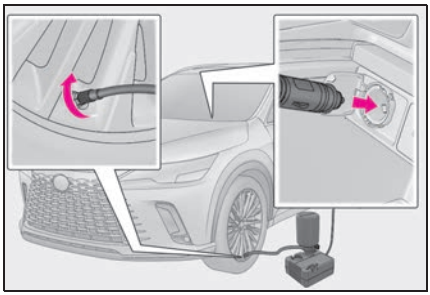


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

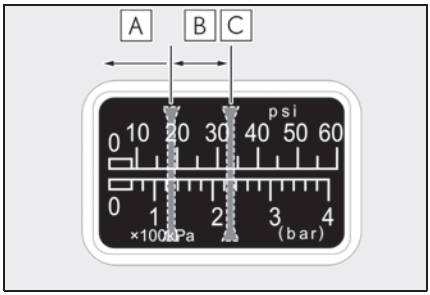
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

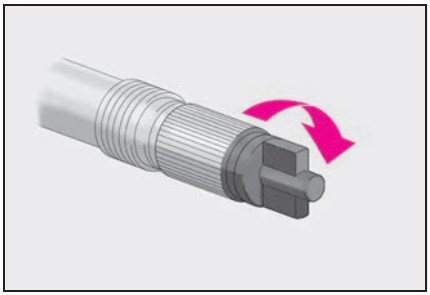
C 空気圧が指定空気圧（→P.559）の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れ

る可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■応急修理キットを使用したとき

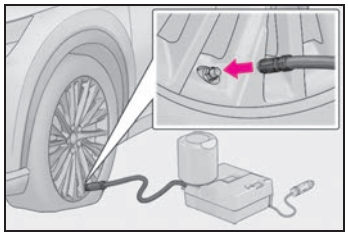
●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・ 空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

⚠ 注意

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.180）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.533）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.63）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.182, 507）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.532）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.538）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.538）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.199）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 パワースイッチを ACC[*1] にする[*2]

3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.560）

※2 ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順 3 を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.128）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かない場合

- センターディスプレイまたはレクサス販売店でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
  設定されている場合は解除してください。（→P.128）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.99）

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

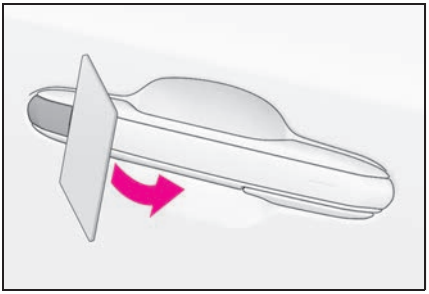
車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

ドアの施錠・解錠

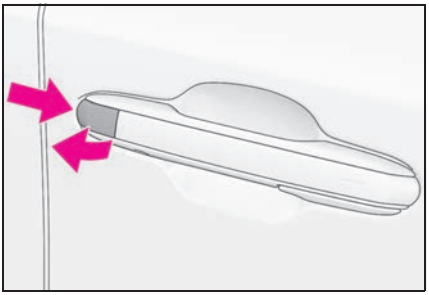
メカニカルキー（→P.101）を使って次の操作ができます。

1 ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせる

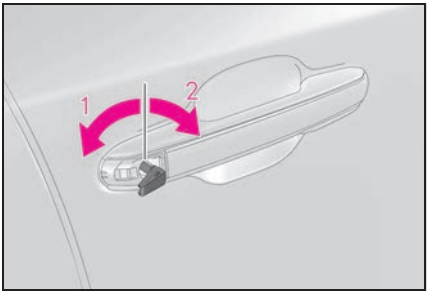
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 カバー後方を押しながら取りはずす



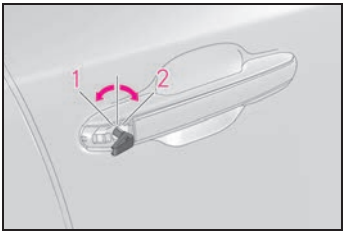
3 メカニカルキーを回す



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフを操作するとき

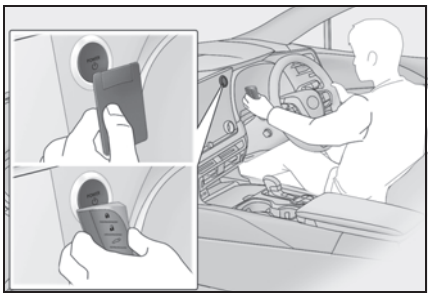
ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトポジションがPの状態でブレーキペダルを踏む
2 図のように、電子キーまたはカードキーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.480)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.64)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.183)

ドア開スイッチでドアを開けることができないときは

ドア開スイッチでドアを開けることができない場合、手動リリースハンドルを使用してドアを開けることができます。

⚠ 注意

■手動リリースハンドルについて

通常は手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

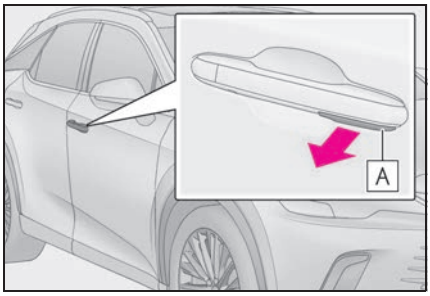
手動リリースハンドルでドアを開くには

■ 車外から手動リリースハンドルでドアを開くには

手動リリースハンドルAを手前に引いてドアを開く

通常は手動リリースハンドルでドアを開けることはできません。

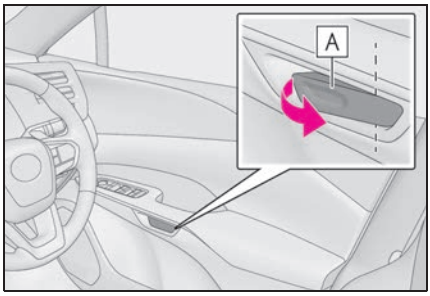
ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。(→P.537)



■ 車内から手動リリースハンドルでドアを開くには

手動リリースハンドルAを手前に2回引いてドアを開く

1回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアが開きます。



知識

■手動リリースハンドルの作動が有効になる条件

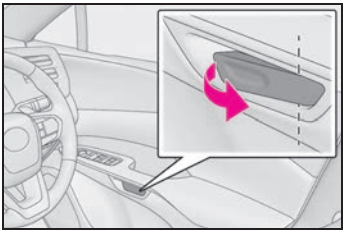
●衝突時など強い衝撃を受けたとき

衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

●ドアが解錠状態で補機バッテリー電圧が徐々に低下したとき

低下のしかたによっては、作動しない場合があります。

●車内から手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



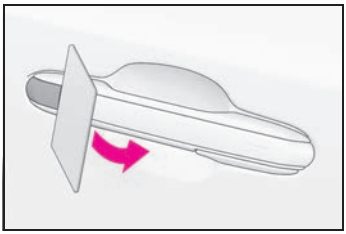
●車外からメカニカルキーで手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき

■メカニカルキーで車外手動リリースハンドルの作動を有効にするには

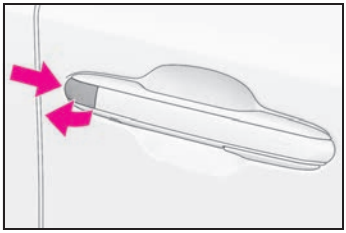
メカニカルキーを使ってドアを解錠することで手動リリースハンドルの作動を有効にすることができます。

1 ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせる

破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



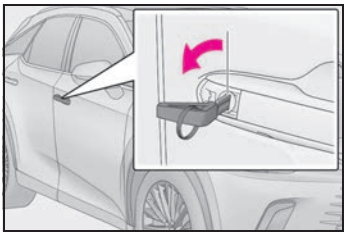
2 カバー後方を押しながら取りはずす



3 メカニカルキーを使って解錠側にまわし、手動リリースハンドルの作動を有効にする

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。

キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。



■手動リリースハンドルの作動が無効になる条件

●車外の手動リリースハンドルは、通常は作動が無効のためドアを開けることができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、施錠することで自動的に作動が無効になります。

●車内の手動リリースハンドルは、パワースイッチが ON のとき作動が無効のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、施錠することで自動的に作動が無効になります。

●車内の手動リリースハンドルは、意図せずドアを開けることを防ぐため、パワースイッチが ON のとき 1 回目の操作後、約 1 秒で自動的に作動が無効になります。

補機バッテリーがあがったときは

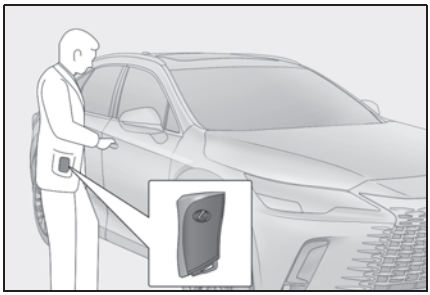
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

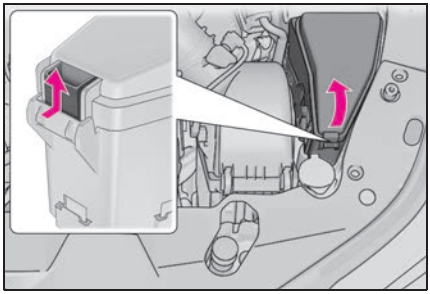
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.65)

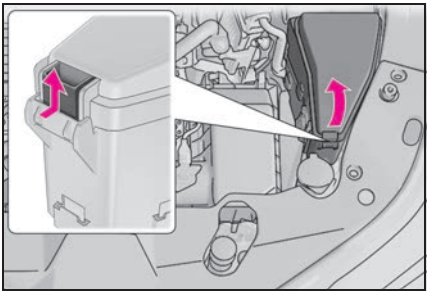


2 ボンネットを開けて（→P.454)、ヒューズボックスのカバーをはずす

▶ RX500h

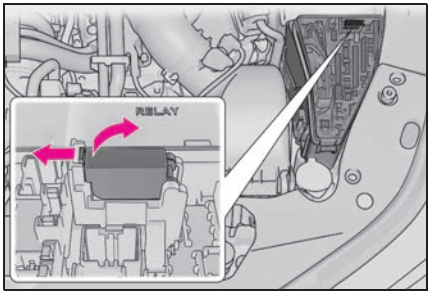


▶ RX350h

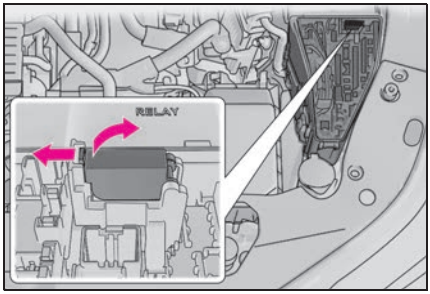


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

▶ RX500h



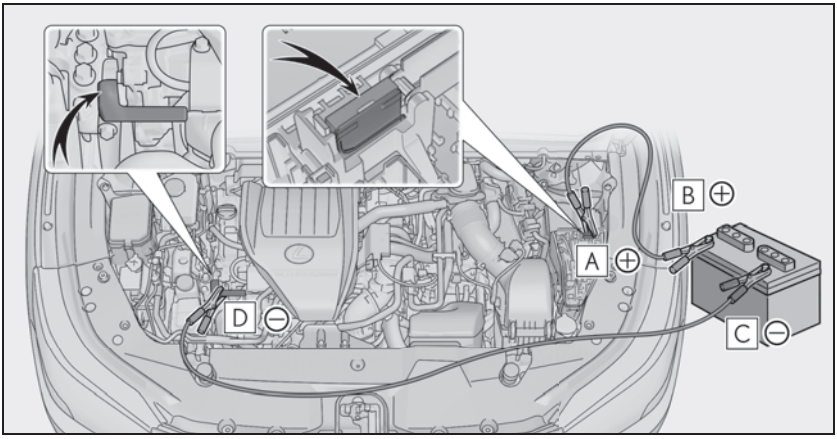
▶ RX350h



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーのー端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

▶ RX500h



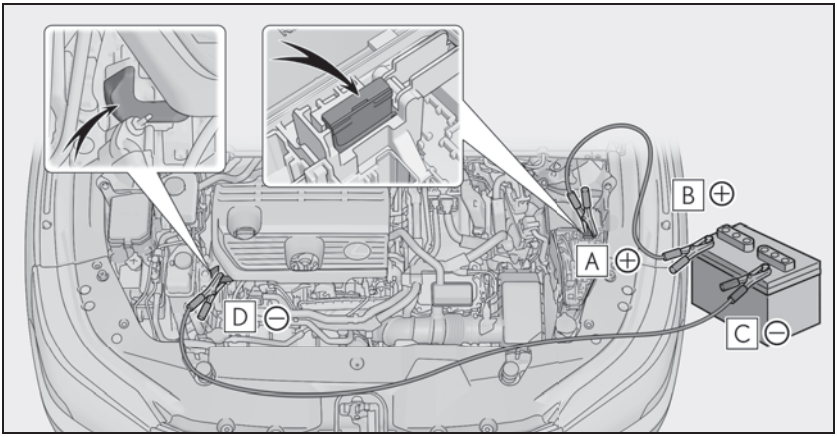
A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーのー端子（救援車）

D 図に示す金属部

▶ RX350h



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーのー端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイアレスリモコンでドアを開けることができないときは

手動リリースハンドルの作動を有効にすることでドアを開くことができます。(→P.537)

■補機バッテリーあがり時の施錠について

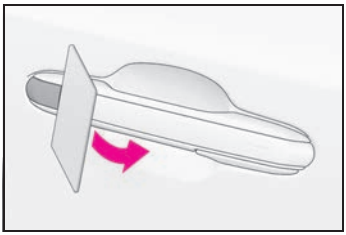
補機バッテリーあがり発生後は、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンでドアを施錠することができなくなります。

メカニカルキーを使ってドアを施錠することで手動リリースハンドルの作動を無効にすることができます。

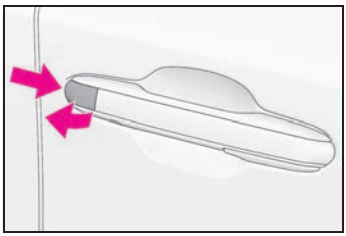
▶運転席ドア

1 ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを取りはずす

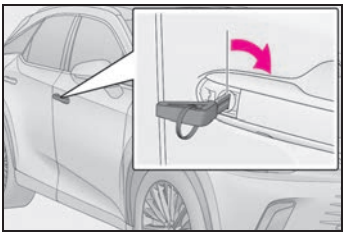
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 カバー後方を押しながら取りはずす



3 メカニカルキーを使って施錠側にまわし、ドアを施錠する

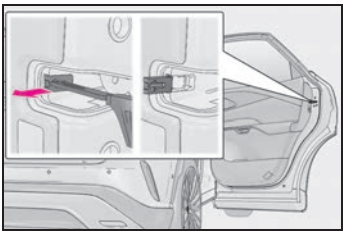


4 ドアが開かないことを確認する

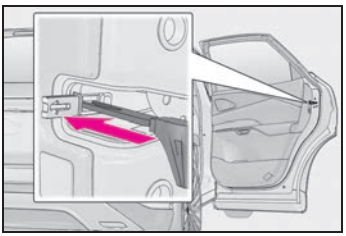
▶運転席以外のドア

1 ドアを開き、メカニカルキーを使ってカバーを矢印の方向にスライドする

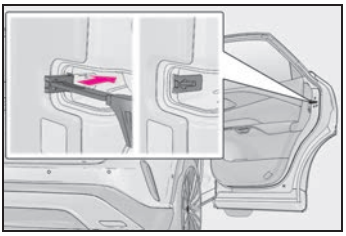
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 溝にメカニカルキーを挿し込む



3 メカニカルキーを抜いてからカバーを元の位置にもどす



4 全てのドアが開かないことを確認する

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

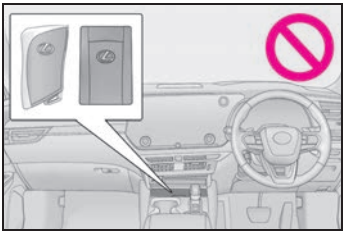
●初期設定が必要な機能があります。(→P.581)

■補機バッテリー端子をはずすときは

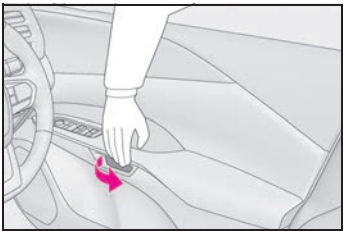
●補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

●補機バッテリー端子をはずすとドア開スイッチでドアが開かなくなり、電子キー（メカニカルキー）を車内に閉じ込める可能性があります。

電子キー（メカニカルキー）が車内に閉じ込められることを防止するため、補機バッテリー端子をはずす前に必ず電子キー（メカニカルキー）を携帯してください。



●電子キー（メカニカルキー）を携帯しないときは、窓を開けて車内の手動リリースハンドルを操作できるように注意してください。



■補機バッテリーについて

→P.454

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動で

きないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.581）

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（70Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（600A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。

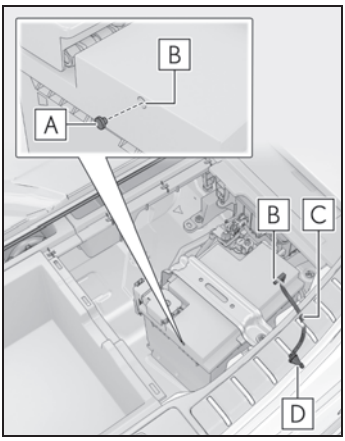
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

D 車両穴部

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（硫酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

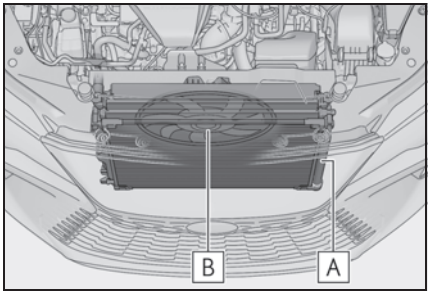
- 水温計（→P.74）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” または “ハイブリッドシステム高温出力制限中です” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

▶ 水温計がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” が表示されたとき

1. 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
2. 蒸気が出ている場合：
   蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
   蒸気が出ていない場合：
   注意してボンネットを開ける
3. ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

▶ RX500h

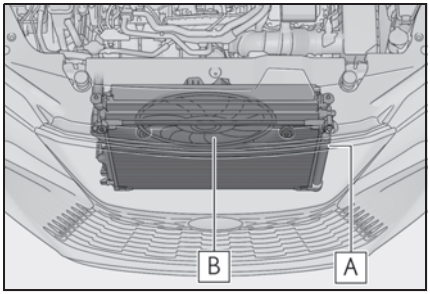


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

▶ RX350h



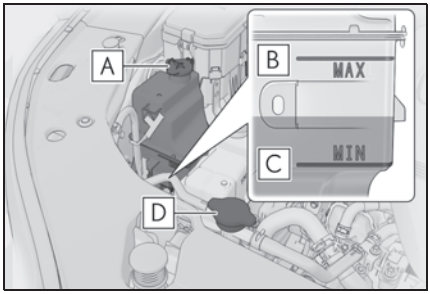
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン（RX500h）



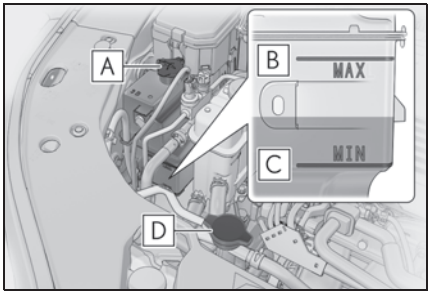
A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

D ラジエーターキャップ

▶ エンジン（RX350h）



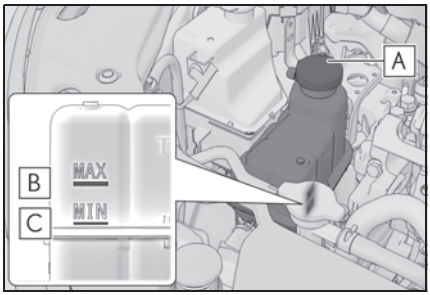
A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

D ラジエーターキャップ

▶ インタークーラー（RX500h のみ）



A リザーバータンク

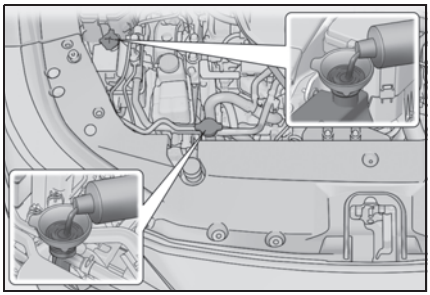
B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

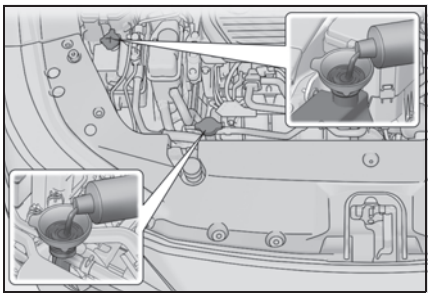
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

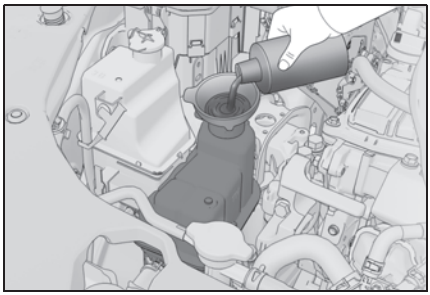
▶ エンジン（RX500h）



▶ エンジン（RX350h）



▶ インタークーラー（RX500h のみ）



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” 表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
表示が消えてる場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

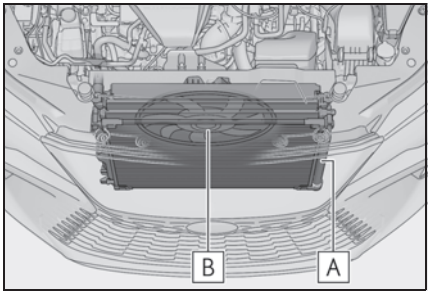
▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ ハイブリッドシステム 高温出力制限中です ” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

▶ RX500h

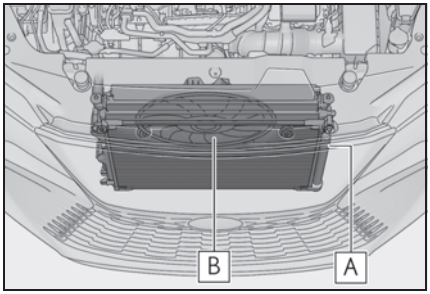


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

▶ RX350h



A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “MAX” ／ “FULL” （上限）と “MIN” ／ “LOW” （下限）のあいだにあるかを点検する

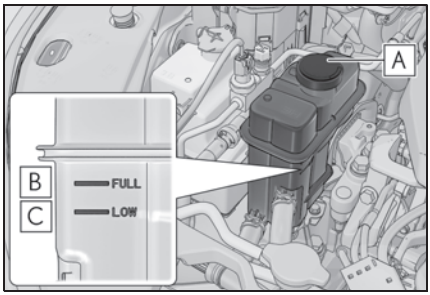
▶ RX500h

A リザーバータンク

B “MAX” （上限）

C “MIN” （下限）

▶ RX350h



A リザーバータンク

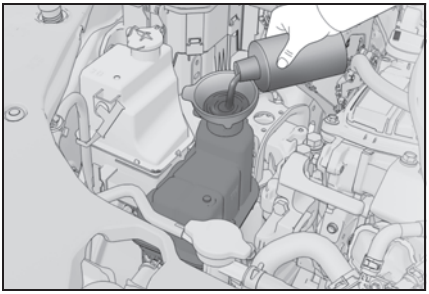
B “FULL” （上限）

C “LOW” （下限）

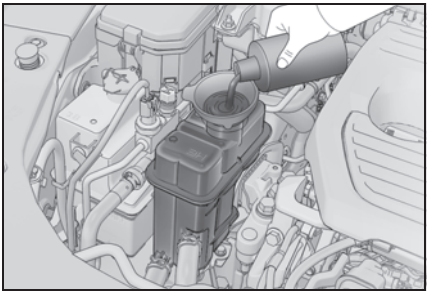
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ RX500h



▶ RX350h



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する
表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- RX350h：ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- RX500h：ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。また冷却ファンは、ハイブリッドシステム停止後もしばらくまわり続けることがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

脱出するには

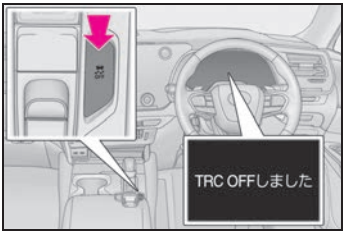
1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2 前輪周辺の土や雪を取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

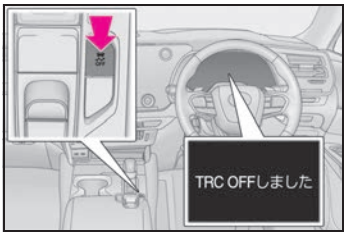
■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

▶ RX500h または RX350h（Trail Mode 非装着車）



▶RX350h（Trail Mode 装着車）



⚠警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 554

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 560

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 581

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報 582

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※1 ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2	65

※1RX350h：無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※2エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

▶ RX500h

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	5.0	5.3

▶ RX350h

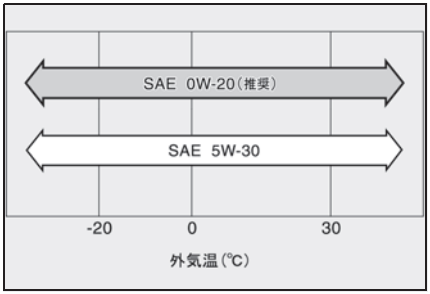
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-16 —API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.0	4.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

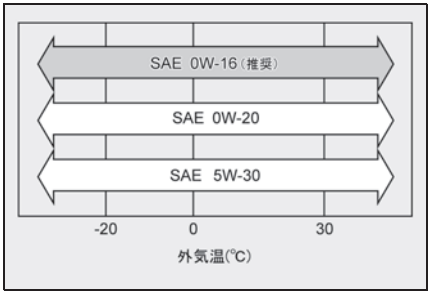
■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

▶ RX500h



▶ RX350h



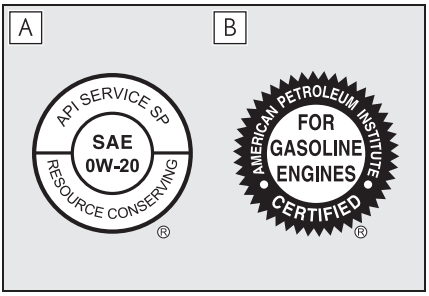
オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

■ 指定エンジンオイル

▶ RX500h

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

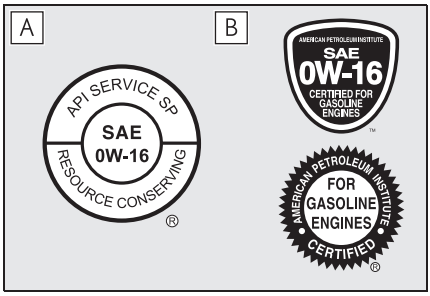


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

▶ RX350h

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

⚠ 注意

■ エンジンオイル（RX500h）

定期的なエンジンオイル交換を必ず行ってください。

定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、エンジンオイルが劣化してターボ装置の故障の原因になります。

ラジエーター

▶ RX500h

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　− 35°C	ガソリンエンジン	9.4
	インタークーラー / パワーコントロールユニット	5.3

▶ RX350h

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　－ 35°C	ガソリンエンジン	7.2
	パワーコントロールユニット	2.0

トランスミッション

▶ RX500 h

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS※	6.4

▶ RX350 h

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS※	4.0

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター「AWD」）（RX350h）

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS※	1.7

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤトランスアクスル（リヤ電動モーター「AWD」）（RX500h）

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
e- トランスアクスルフルード TE※	3.1

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤトランスアクスルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	134

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （ハイブリッドシステム始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.498 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/50R21 101W	21 × 8J	230（2.3）	230（2.3）

■ ホイールボルト締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
140（1428）

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
RX500h	TALH17	T24A-FTS（2.4L ガソリン）	フロント：1ZM リヤ：1YM	AWD（4 輪駆動）
RX350h	AALH10	A25A-FXS（2.5L ガソリン）	フロント：5NM リヤ：4NM	FF（前輪駆動）
	AALH15			AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。

設定を変更するには

■ で設定するには

1 センターディスプレイの を選択する
2 “車両カスタマイズ” または “運転支援” を選択する
3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、 （作動）・ （非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ で設定するには

1 センターディスプレイの を選択する
2 “運転支援” を選択する
3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動の設定は、選択するたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。

知識

■カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

■ について

一部の車両カスタマイズ設定は、 からも設定を変更することができます。

警告

■センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B レクサス販売店で設定変更可能

■ 先読みエコドライブ（RX350h）（→P.53）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先読みエコドライブ	●あり ●なし	○	—

■ セキュリティ（→P.64）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
侵入・傾斜センサー	●On ●Off	○	—

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.70, 74, 87）

言語や単位などの一部の項目は、センターディスプレイの設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メーター表示タイプ※1	●タイプ 1 ●タイプ 2 ●タイプ 3	○	—
タコメータ切りかえ	●自動切りかえ ●常時タコメーター ●常時ハイブリッドシステムインジケーター	○	—
EV インジケーター※1	●あり（自動点灯） ●なし	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
REV インジケーター ※2	●4000r/min※3 ●5000r/min※4 ●2000 ～ 6000r/min※3 ●2000 ～ 6200r/min※4 ●なし	○	—
REV ピーク ※2	●あり ●なし	○	—
提案サービス ※1	●あり ●あり（停車中のみ） ●なし	○	—
制動灯表示灯	●あり ●なし	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2F SPORT

※3RX350h

※4RX500h

■ ヘッドアップディスプレイ（→P.84）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	●あり ●なし	○	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	●ミニマム ●スタンダード ●フル	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングスイッチ（→P.87）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
右側ステアリングスイッチお気に入り機能※	●オーディオ ●エアコン ●画面切り替え／調整 ●カスタム	○	—
左側ステアリングスイッチお気に入り機能※	●オーディオ ●エアコン ●画面切り替え／調整 ●カスタム	○	—
スイッチセンサー高感度モード（防寒手袋モード）※	●あり ●なし	○	—
表示開始感度	●OFF ●標準 ●高感度	—	○
タイムアウト時間	●短 ●標準 ●長	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック（→P.106, 533）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ドアロックスイッチインジケーターの点灯時間	●30 秒 ●60 秒 ●600 秒 ●1200 秒	—	○
車内ドア開スイッチ作動の調整（ドアを開ける機能の調整）	●短 ●中 ●長	—	○
車内ドア開スイッチ操作時のマルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー吹鳴する機能の設定	●あり ●なし	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車室内外ドア開スイッチの操作方式設定	●スイッチ押下時 ●0.6 秒 ●車内からの操作：0.6 秒、車外からの操作：スイッチ押下時 ●車内からの操作：スイッチ押下時、車外からの操作：0.6 秒	—	○
メカニカルキーによる解錠	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）※	●あり ●なし	○	○
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ **パワーバックドア（→P.112）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
パワーバックドア機能	●あり ●なし	○	—
パワーバックドア開度調節	●1 ～ 5※	○	—
ブザー音量	●小 ●中 ●大	○	—
キックセンサー作動	●あり ●なし	○	—
キックセンサー確認ブザー	●あり ●なし	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ワイヤレスリモコンのバックドア解除ボタン操作（施錠時ボタン 1 回操作アンロック）	●あり ●なし	—	○
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能設定	●あり ●なし	—	○
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	●あり ●なし	—	○

※ バックドア下部のスイッチ操作でお好みの開度に設定することもできます。
（→P.126）

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
（→P.106, 127）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音量調整）※	●OFF ●レベル 1 ～ 7	○	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム
（→P.106, 127）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	●あり ●なし	○	—
解錠されるドアの選択	●運転席のみ解錠 ●全席解錠	○	—
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
全席解錠までのドアハンドル保持時間	●非作動 ●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	●あり ●なし	—	○
接近時オートアンロック機能	●あり ●なし	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.98, 106, 112）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
解錠時の操作 ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ポジションメモリー（→P.162）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート前後移動量 ※	●OFF ●少なめ ●標準	○	○
降車時の運転席シート上方移動量 ※	●OFF ●少なめ ●標準	○	○
降車時のステアリング移動	●OFF ●上下のみ ●前後のみ ●全て作動	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー（→P.152）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
オート電動格納作動	●OFF ●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動	—	○

■ パワーウインドウ、パノラマムーンルーフ★共通（→P.155, 158）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動開閉機能	●あり ●なし	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パノラマムーンルーフ★（→P.158）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動開機能の作動	●スライドのみ ●チルトのみ	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能の作動	●スライドのみ ●チルトのみ	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.205）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整 ※	●より暗い ●暗い ●標準 ●明るい ●より明るい	○	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける ●パワースイッチを OFF にする	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ（→P.205）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
LED デイタイムランニングランプ	●あり ●なし	—	○
おもてなし照明の制御	●あり ●なし	—	○

■ アダプティブハイビームシステム（→P.209）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アダプティブハイビームシステム	●ON ●OFF※	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	●15km/h ●30km/h ●80km/h	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	●ON ●OFF	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	●ON ●OFF	—	○
発進時のコーナーリングランプ点灯	●ON ●OFF	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	●ON ●OFF	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
上段配光の制御	●ON ●OFF	—	○
市街地用の配光制御	●ON ●OFF	—	○
マルチウェザーライトの作動	●ON ●OFF	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。(→P.212)

■ プリクラッシュセーフティ（→P.237）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ フロントクロストラフィックアラート（→P.265）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート	●ON ●OFF	○	—
注意喚起タイミング※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.255）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート（LDA）※	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング※	●標準 ●早い	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
警報手段※	●ハンドル振動 ●ブザー	○	—
低車速支援※	●ON ●OFF	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンチェンジアシスト（→P.251）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンチェンジアシスト※	●ON ●OFF	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール（DRCC）（→P.272）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
再発進可能時間延長※	●ON ●OFF	○	—
加速度設定※	●弱 ●中 ●強	○	—
速度設定（短押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—
速度設定（長押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—
ガイド文言表示※	●ON ●OFF	○	—
カーブ速度抑制※	●OFF ●弱 ●中 ●強	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ プロアクティブドライビングアシスト（→P.260）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）※	●ON ●OFF	○	—
支援感度 ※	●低い ●中間 ●高い	○	—
操舵アシスト（SA）※	●ON ●OFF	○	—
減速アシスト（DA）※	●ON ●OFF	○	—
障害物先読みアシスト（OAA）※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知（→P.267）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車 ※	●ON ●OFF	○	—
信号 ※	●ON ●OFF	○	—
告知タイミング ※	●早い ●標準 ●遅い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ロードサインアシスト（→P.269）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト※	●ON ●OFF	○	—
速度標識超過告知方法※	●無 ●表示 ●表示とブザー	○	—
その他告知方法※	●無 ●表示 ●表示とブザー	○	—
速度超過告知車速※	●10km/h ●5km/h ●2km/h	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案（→P.257）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	●ON ●OFF	○	—

■ ITS Connect（→P.293）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
支援タイミング	●遅い ●早い	○	—
信号情報	●ON ●OFF	○	—
道路環境情報	●ON ●OFF	○	—
緊急車両通知	●ON ●OFF	○	—
通信利用型クルーズ	●ON ●OFF	○	—

■ アドバンスト ドライブ（渋滞支援）（→P.289）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンストドライブ※	●ON ●OFF	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライバーモニター（→P.235）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
注意喚起※	●ON ●OFF	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.299）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ※	●暗い ●明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	○	—
ブザー警報※	●あり ●なし	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー（→P.318）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能※1	●あり ●なし	○	—
ブザー音量※1, 2	●小 ●中 ●大	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントセンターセンサーの検知開始距離	●近い ●標準	○ ※3	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離	●近い ●標準	○ ※3	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※3パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.326）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	●On ●Off	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●レベル 1 ～ 3	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.331）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD 機能	●ON ●OFF	○	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.334）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ Lexus Teammate Advanced Park（→P.344）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
Remote Park	●あり ●なし	○	—
音声案内	●あり ●なし	○	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—
優先駐車向き	●バック ●前向き	○	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
駐車進路調整	●－３（内側）～＋３（外側）	○	—
道幅調整	●狭い ●やや狭い ●標準	○	—
駐車位置調整（前向き）	●－３（後）～＋３（前）	○	—
駐車位置調整（バック）	●－３（後）～＋３（前）	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後部取付部品設定	●取付なし ●10cm ●20cm ●30cm ●40cm	○	—
登録した場所の消去	—	○	—

■ **後方車両接近告知（→P.304）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能※	●あり ●なし	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ **周辺車両接近時サポート（→P.306）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能※	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ **安心降車アシスト（→P.313）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	●On ●Off	○	—
ドアミラーインジケーター表示※	●あり ●なし	○	—
接近車両検知の感度※	●低い ●中間 ●高い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ASC（アクティブサウンドコントロール）（RX500h）（→P.204）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ASC（アクティブサウンドコントロール）の音量	●なし ●小 ●中 ●大	○	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.376）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタマイズモード時のパワートレーン制御	●NORMAL ●ECO ●SPORT	○	—
カスタマイズモード時のステアリング制御	●NORMAL ●SPORT	○	—
カスタマイズモード時のサスペンション制御★	●NORMAL ●SPORT	○	—
カスタマイズモード時のエアコン作動	●NORMAL ●ECO	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースイッチ（→P.183）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON ／ OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	○

■ ドライブスタートコントロール（→P.177）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後退速度の抑制制御	●あり ●なし※	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ リヤシートリマインダー（→P.108）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後席置忘れ防止の表示	●あり ●なし	○	—

■ エアコン（→P.399）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる ※	●する ●しない	○	○
排ガスセンサー感度調節 ※	●OFF ●-3 ～ 3	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.408）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
運転席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO 作動時の温度または風量調整 ※	●-2（すずしめ）～ 2（暖かめ）	○	○
助手席自動シートヒーター／ベンチレータ AUTO 作動時の温度または風量調整 ※	●-2（すずしめ）～ 2（暖かめ）	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター（→P.408）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ステアリングヒーター AUTO 作動時の温度調整 ※1、2	●-2（低め）～ 2（高め）	○	○

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2センターディスプレイには “ 作動時間 ” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

■ イルミネーション（→P.412）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間 ※	●OFF ●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	○	—
パワースイッチ OFF 後の作動	●あり ●なし	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
車室内足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアトリム照明、インサイドドアハンドル照明、インストルメントパネルオーナメント照明、センターコンソールランプの点灯	●あり ●なし	—	○
室外足元照明の消灯までの時間 ※	●OFF ●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	○	—
接近時の室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	●短い ●長い	—	○
施錠後の室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
照明色の選択※	●シルキーホワイト ●カスタム	○	—
輝度の調整※	●OFF ●9 ～ 1	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

知識

■車両カスタマイズについて

- “スマートエントリー＆スタートシステム” が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、“作動の合図（非常点滅灯）” ・ “作動の合図（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
クリアランスソナー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.318
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.338
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの空気圧を変更したとき	P.462
パワーバックドア	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.121

フリー／オープンソースソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 584
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 586
アルファベット順さくいん ….. 589
五十音順さくいん…… 591

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.533）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.533）

キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.480）

施錠・解錠できない

- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.182）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.128）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.110）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.180）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.127）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.532）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.538）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押さ

れていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.157）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.183）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.586）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.498, 506 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.522）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.550）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.64
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.506
	窓・パノラマムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.156 P.159
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.64
	後方から自動車・自転車が接近している	P.313
パワースイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.108
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.99
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.108
	電子キーを車内に置き忘れている	P.128

※ スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.108
	パーキングブレーキが解除されていない	P.201
	シートベルトを着用していない※1	P.500, 501
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.191, 196

状況	原因	詳細
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作をした※2	P.188，194
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.174
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.237
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.246
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.255
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.251
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）が作動した	P.265
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.267

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.269
進入禁止区域に進入したとき		
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.278
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.286
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.293
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.304

状況	原因	詳細
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.318
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.326
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.331

※1助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的にNポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 399, 407
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 379
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
..... 380
Advanced Park..... 344
操作 352
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
..... 209
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 380, 383
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 187
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 380
AWD
（オールホイールドライブ）.... 559
BSM
（ブラインドスポットモニター）299
DIRECT4
（電気式 AWD システム）..... 380
DRS
（ダイナミックリヤステアリング）
..... 380
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）..... 379
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 8
E-Four
（電気式 AWD システム）..... 380
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....380
EV ドライブモード.....184
FCTA
（フロントクロストラフィックアラート）.....265
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....559
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）....84
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....556
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....39
ITS Connect
通信利用型レーダークルーズコントロール.....279
LCA
（レーンチェンジアシスト）.....251
LDA
（レーンディパーチャーアラート）
.....255
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....205, 485
LED デイタイムランニングランプ206
Lexus Safety System +
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....209
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....265
LCA（レーンチェンジアシスト）
.....251
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....255

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 246
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 237
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 260
RSA（ロードサインアシスト）269
アドバンストドライブ（渋滞時支援）..... 289
オートマチックハイビーム 212
ドライバー異常時対応システム286
ドライバーモニター（どらいばーもにたー）..... 235
発進遅れ告知機能 267
レーダークルーズコントロール272
LTA
（レーントレーシングアシスト）246
PCS
（プリクラッシュセーフティ）.. 237
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 260
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 334
RCD
（リヤカメラディテクション）.. 331
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）..... 326
REV インジケーター 78
REV ピーク..... 79
RSA
（ロードサインアシスト）..... 269
S-Flow
フロント席集中送風モード 401
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）..... 31
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）.379
SYNC スイッチ
（シンクロスイッチ）.....399
TRC
（トラクションコントロール）380, 550
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）.....380
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....379

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 538
アームレスト..... 430
ITS Connect..... 293
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 326
安心降車アシスト 313
格納のしかた 153
操作..... 152
ブラインドスポットモニター（BSM）299
ポジションメモリー..... 162
ミラーヒーター 404
リバース連動機能 153
アクセサリーコンセント 434, 443
アクセサリーソケット 431
アクセサリーモード..... 183
アクティブコーナリングアシスト（ACA）..... 380
アシストグリップ..... 431
足元照明 412
アダプティブハイビームシステム... 209
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 380
アドバンストドライブ（渋滞時支援）..... 289
アラーム
オートアラーム 64
音さくいん 586
警告ブザー 498
安心降車アシスト..... 313
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 379
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 127

い

イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能..... 183
車両を緊急停止するには 490
ハイブリッドシステム始動のしかた... 180
モードの切りかえ 183
位置交換（タイヤローテーション）..459
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム.....63
インジケーター（表示灯）.....71
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....82
インテリアランプ 412, 413
インナーミラー 144
リヤカメラウォッシャー 219

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 485
方向指示レバー 198
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー 404
ウォッシャー.....215, 219
パワーウインドウ 155
リヤウインドウデフォッガー 404
ウインドウロックスイッチ.....157
ウインドシールドデアイサー.....404
ウォッシャー 215, 219
液の補給.....457
スイッチ.....215, 219
タンク容量.....559
冬の前の準備・点検 394
動けなくなったときは（スタック）..550
雨滴感知式ワイパー 215, 219
運転
雨の日の運転.....171

運転を補助する装置..... 379
寒冷時の運転 394
正しい運転姿勢 25
手順..... 171
ハイブリッド車運転のアドバイス 392
運転支援システム情報表示 89
運転席シートベルト非着用警告灯... 500

え

エアコン
曇り取り（フロントガラス）..... 403
ナノイー X..... 403
フィルターの清掃 474
フロントオートエアコン..... 399
フロント席集中送風モード（S-Flow）401
リヤエアコン 407
エアコン・デフォッガー 399
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 499
改造・廃棄 36
警告ブザー 499
作動条件 32
正しい姿勢 25
配置..... 31
エコ空調モード..... 402
エレクトリックパワーステアリング（EPS）..... 380
エンジン
イモビライザーシステム..... 63
エンジンスイッチ 180
オーバーヒート 545
タコメーター 74
ハイブリッドシステムが始動できない 531
ハイブリッドシステムの始動方法 180
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）..... 180
ボンネット 454
エンジンオイル
警告灯.....499
冬の前の準備・点検 394
メンテナンスデータ 554
容量 554
エンジン回転計（タコメーター）.....74
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能.....183
車両を緊急停止するには 490
ハイブリッドシステム始動のしかた...180
モードの切りかえ 183
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....454
エンジンルーム 454
エンジンルームから蒸気が出ている...545

お

オイル（エンジンオイル）.....554
オーディオシステム連携表示.....90
オートアラーム 64
オートドアロック・アンロック機能 111
オートマチックトランスミッション
オートマチックトランスミッション...186
オートマチックハイビーム.....212
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動 207
オーバーヒート 545
オープナー
給油扉.....222
ボンネット.....454
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）..424
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ 157
お子さまの安全のために 38
シートベルトの着用 27, 28
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....408

チャイルドシート 39
チャイルドシートの取り付け 39
チャイルドプロテクター..... 110
発炎筒の取り扱いに関する警告 490
バッテリーに関する警告..... 544
パワーウインドウに関する警告 156
“ODO TRIP” スイッチ..... 81
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 80
“ODO TRIP” スイッチ 81
表示項目 80

か

カーテシランプ
装着位置 412
カーテンシールドエアバッグ 31
カードキー..... 98
カーペット
洗浄..... 452
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示..... 74
回生ブレーキ..... 54
外装の電球（バルブ）
交換要領 485
買い物フック..... 420
過給圧表示..... 91
ガス欠になったとき 59
カスタマイズ機能..... 560
型式 559
カップホルダー..... 417
カメラ
前方カメラ（PCS) 228
ドライバーモニター..... 235
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... 404
ガレージジャッキ..... 456
冠水路走行..... 176
寒冷時の運転 394

き

キー
カードキー.....98
キーナンバープレート 98
キーの構成.....98
キーレスエントリー 101, 127
キーをなくした.....533
正常に働かない.....533
施錠・解錠ができない 533
電子キー.....98
電池が切れた.....480
ハイブリッドシステムが始動できない 531
メカニカルキー 101
ワイヤレスリモコン 101
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 127
ワイヤレスドアロック 101
給油
給油のしかた.....221
メンテナンスデータ 554
緊急時シートベルト固定機構.....29
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）.....532
緊急時の対処
オーバーヒートした 545
キーの電池が切れた 480, 533
キーをなくした.....533
警告灯がついた.....498
警告メッセージが表示された 506
けん引.....493
故障したときは.....488
車中泊が必要なときは 492
車両を緊急停止する 490
水没・冠水したときは 491
スタックした.....550

電子キーが正常に働かない..... 533
ハイブリッドシステムが始動できない 531
発炎筒..... 489
パンクした..... 522
補機バッテリーがあがった..... 538
緊急停止システム..... 61
緊急ブレーキシグナル..... 380

く

空気圧（タイヤ）
タイヤ空気圧警報システム..... 459
メンテナンスデータ..... 559
区間距離計（トリップメーター）..... 80
駆動用電池
警告メッセージ..... 62
充電について..... 55
搭載位置..... 58
冷却用吸入口..... 61
曇り取り
フロントガラス..... 403
ミラーヒーター..... 404
リヤウインドウデフォッガー..... 404
クラクション（ホーン）..... 143
クリアランスソナー..... 318
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ..... 205
電球（バルブ）の交換..... 485
クリップ
フロアマット..... 24
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール..... 272
グローブボックス..... 416
グローブボックスランプ..... 416

け

警音器（ホーン）..... 143
計器類（メーター）..... 74
警告灯.....498
運転支援情報表示灯.....503
ABS & ブレーキアシスト.....499
SRS エアバッグ.....499
LTA 表示灯.....502
LDA 表示灯.....502
エンジン.....499
クリアランスソナー OFF 表示灯.....501
クルーズコントロール表示灯.....502
高水温.....498
シートベルト非着用.....500, 501
スリップ表示灯.....503
タイヤ空気圧.....501
燃料残量.....500
パーキングブレーキ表示灯.....503
ハイブリッドシステム過熱.....498
パワーステアリング.....500
PCS.....501
PDA 表示灯.....502
ブレーキ.....498
ブレーキホールド作動表示灯.....504
ペダル誤操作.....500
油圧.....499
レーダークルーズコントロール表示灯 502
警告ブザー
ABS & ブレーキアシスト.....499
SRS エアバッグ.....499
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....502
LTA（レーントレーシングアシスト）..502
クリアランスソナー.....501
クルーズコントロール.....502
高水温.....498
シートベルト非着用.....500, 501
シフトダウン制限.....191, 196
衝突警報.....237
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....278

タイヤ空気圧 501
手放し運転警告（LCA） 252
手放し運転警告（LTA） 248
パーキングブレーキ 503
ハイブリッドシステム過熱 498
パノラマムーンルーフ開 159
パワーステアリング 500
半ドア 108
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 502
プリクラッシュセーフティシステム .. 501
ブレーキ 498
ブレーキホールド 504
ペダル誤操作 500
窓開 156
油圧 499
リバース 189, 195
レーダークルーズコントロール 502
警告メッセージ 506
傾斜センサー（オートアラーム） 66
化粧ミラー（バニティミラー） 432

こ

コインボックス 418
交換
キーの電池 480
タイヤ 467
電球（バルブ） 485
ヒューズ 483
航続可能距離 92
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール） 177
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 485
高電圧部位 58
後方車両接近告知 304
後方車両への接近警報 309
コーションラベル 58
コートフック 431
コーナリングランプ 208
子供専用シート 39
取り付け方 40
小物入れ 418
コンソールボックス 416
コンソールボックスランプ 416
コンライト（自動点灯・消灯装置） .. 205

さ

サービスプラグ 58
サイドエアバッグ 31
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 485
方向指示レバー 198
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 326
安心降車アシスト 313
格納のしかた 153
操作 152
ブラインドスポットモニター（BSM） . 299
ポジションメモリー 162
ミラーヒーター 404
リバース連動機能 153
先読みエコドライブ 56
サンバイザー 432

し

シート
正しい運転姿勢 25
チャイルドシート 39
調整 133, 134
手入れ 452
パワーイージーアクセスシステム 162
ヘッドレスト 140

ポジションメモリー..... 162
メモリーコール機能..... 164
シートヒーター..... 408
シートベルト..... 27
お子さまの着用 27, 28
緊急時シートベルト固定機構..... 29
正しく着用するには..... 28
着け方・はずし方 29
手入れ..... 452
妊娠中の方の着用 27
非着用警告灯 500, 501
シートベルト非着用警告灯 ... 500, 501
シートベルトプリテンショナー
機能..... 29
プリテンショナー警告灯..... 499
シートベンチレーター 408
シートポジションメモリー 162
G モニター 92
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）..... 60
室内灯（インテリアランプ）..... 412
始動のしかた..... 180
シフト照明..... 412
シフトポジション..... 186, 192
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ... 187, 193
シフトレンジの切りかえ..... 190, 196
操作..... 186, 192
リバース警告ブザー..... 189, 195
車中泊が必要なときは 492
ジャッキ
ガレージジャッキ 456
車幅灯
電球（バルブ）の交換..... 485
ランプスイッチ 205
車両型式 559
車両仕様（スペック）..... 554
車両接近通知装置..... 56
車両データの記録 6
車両を緊急停止するには.....490
充電用 USB 端子.....423
周辺車両接近時サポート.....306
瞬間燃費 88, 92
仕様（車両仕様）.....554
衝撃感知ドアロック解除システム ...108
衝突時の急加速抑制 381
初期化
パワーウインドウ.....155
初期設定.....581
助手席シートベルト非着用警告灯 ...500
侵入センサー（オートアラーム）.....66

す

スイッチ
EV ドライブモード 184
LTA.....248
RCTA 326
TRC OFF.....381
VSC OFF.....381
イグニッション.....180
インストルメントパネル照度調整.....82
ウインドウロック 157
ウォッシャー.....215, 219
“ODO TRIP” 81
シート調整.....133, 134
シートポジションメモリー 162
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....274
侵入・傾斜センサー OFF.....66
ドアミラー.....152
ドアロック.....109
ドライブモードセレクト 376
Trail Mode 378
パーキングブレーキ 199
パドルシフト.....190, 196
パノラマムーンルーフ 158

パワーウインドウ 155
パワースイッチ 180
ハンドル位置調整 143
フォグランプ 214
ブレーキホールド 202
方向指示レバー 198
ホーン（警音器）..... 143
ポジションメモリー..... 162
メーター操作 87
ランプ..... 205
リヤフォグランプ 214
レーダークルーズコントロール 272, 274
ワイパー 215, 219
スタック 550
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.. 379
ステアリングヒーター 408
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 143
ステアリングヒーター..... 408
パワーイージーアクセスシステム 162
ポジションメモリー..... 162
メーター操作スイッチ..... 87
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 380
電球（バルブ）の交換..... 485
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 394
スピードメーター..... 74
スペック（車両仕様）..... 554
スポーツゲージ..... 91
スマートエントリー&スタートシステム
アンテナの位置 127
カスタマイズ設定 560
緊急始動機能 532
作動範囲..... 127
正常に働かないとき..... 533
節電機能 128
電波がおよぼす影響について 132
ドアの解錠・施錠 106
ハイブリッドシステムの始動 180
パワーバックドアの解錠 113
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 485
ランプスイッチ..... 205
スリップ表示灯 381

せ

清掃
外装 448
シートベルト..... 452
内装 452
ホイール・ホイールキャップ 449
レーダー..... 228
制動灯
緊急ブレーキシグナル 380
電球（バルブ）の交換 485
セカンダリーコリジョンブレーキ .311, 380
積算距離計（オドメーター）..... 80
セキュリティインジケーター.....63, 64
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 278
センサー
雨滴感知センサー 217
LCA（レーンチェンジアシスト）..... 251
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 255
LTA（レーントレーシングアシスト）.. 246
侵入・傾斜センサー 66
デジタルインナーミラー 147
ライトセンサー..... 207
レーダー..... 228, 300, 315
洗車..... 448
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換 485
ライトセンサー..... 207

ランプ消し忘れ防止機能..... 207
ランプスイッチ 205

そ

走行時間 88
走行情報表示..... 88
走行モード（ドライブモード）..... 190, 196, 376
送信機（タイヤ空気圧警報システム）..... 459
速度計（スピードメーター）..... 74

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換..... 485
方向指示レバー 198
ダイナミックリヤステアリング（DRS）..... 380
タイヤ
空気圧 473, 559
空気圧警告灯 501
交換..... 467
チェーン..... 394
点検..... 458
パンク応急修理キット..... 522
パンクしたときは 522
冬用タイヤ 394
ホイールサイズ 559
ローテーション（位置交換）..... 459
タイヤが空まわりする（スタックした）..... 550
タイヤ空気圧
警告灯 501
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの切りかえ..... 466
ID コードの登録 464
機能について 459
空気圧バルブ／送信機について.....461
空気圧表示画面 459
警告灯.....501
タイヤ位置の登録 461
タイヤ空気圧の設定 462
タイヤチェーン 394
タコメーター 74
REV インジケーター 78
REV ピーク 79

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....394
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け.50
シートベルトでの固定 48
選択方法.....39
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）.....199
警告灯.....503
警告メッセージ.....200
操作 199
冬季の注意.....394
未解除走行時警告ブザー 201
メンテナンスデータ 558

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール.....279

て

提案サービス機能 94
ディスプレイ
センターディスプレイ 87
ヘッドアップディスプレイ 84, 87
マルチインフォメーションディスプレイ.....82, 87

レーダークルーズコントロール 274
デイタイムランニングランプ 206
ディファレンシャル
リヤディファレンシャル 557
手入れ
外装 448
シートベルト 452
デジタルインナーミラー 148
内装 452
ホイール・ホイールキャップ 449
レーダー 228
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 485
ランプスイッチ 205
デジタルインナーミラー 144
リヤカメラウォッシャー 219
デジタルキ 103
デッキアンダートレイ 422
デッキフック 420
デッキボード 422
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー） 404
電気式 AWD システム（DIRECT4） 380
電気式 AWD システム（E-Four） ... 380
電気モーター 53, 58
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ） 485
点検基準値（メンテナンスデータ） . 554
電子キー 98
作動範囲 127
正常に働かないとき 533
節電機能 128
電池が切れた 533
電池交換 480
電子制御ブレーキシステム（ECB） . 379
電池交換（キー） 480

と

ドア 106
オートドアロック・アンロック機能 ... 111
衝撃感知ドアロック解除システム 108
スマートエントリー＆スタートシステム 127
チャイルドプロテクター 110
ドアガラス 155
ドアロックスイッチ 109
ワイヤレスリモコン 106
ドアカーテシランプ
位置 412
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 326
安心降車アシスト 313
格納のしかた 153
操作 152
ブラインドスポットモニター（BSM） . 299
ポジションメモリー 162
ミラーヒーター 404
リバース連動機能 153
盗難防止装置
イモビライザーシステム 63
オートアラーム 64
時計 74
トップテザーアンカレッジ 51
トノカバー 421
ドライバー異常時対応システム 286
ドライビングポジションメモリー ... 162
ポジションメモリー 163
メモリーコール機能 164
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 177
後退速度の抑制制御 177
ドライブモードセレクトスイッチ ... 376
トラクションコントロール（TRC） .. 380

トランスアクスル
リヤトランスアクスル..... 558
トランスミッション
オートマチックトランスミッション .. 186
シフトダウン制限警告ブザー ... 191, 196
操作..... 187, 193
ハイブリッドトランスミッション 192
パドルシフトスイッチ..... 190, 196
メンテナンスデータ..... 557
トリップメーター..... 80
Trail Mode 378

な

内装
収納装備 415
手入れ..... 452
ナノイー X..... 403
ナビゲーションシステム連携表示..... 89

に

ニーエアバッグ..... 31
荷物
積むときの注意 178
荷室内装備 420
バックドア 112

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.... 550

ね

ネットフック..... 420
燃費
給油後平均燃費 92
瞬間燃費 88, 92
平均燃費 88, 92
燃料
給油 221
種類 554
燃料計.....74
燃料残量警告灯 500
容量 554
燃料計.....74

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....341
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....343
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）.....338
パーキングブレーキ 199
警告灯.....503
警告メッセージ.....200
操作 199
冬季の注意.....394
未解除走行時警告ブザー 201
メンテナンスデータ 558
パーソナルランプ 413
排気ガス 37
ハイビーム（ヘッドランプ）
アダプティブハイビームシステム.....209
オートマチックハイビーム 212
電球（バルブ）の交換 485
ランプスイッチ.....205
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 184
運転のアドバイス 392
オーバーヒート 545
回生ブレーキ.....54
ガス欠になったとき 59
緊急始動機能.....532
緊急時の停止方法 490
緊急停止システム 61

駆動用電池冷却用吸入口..... 61
警告メッセージ 62
高電圧部位 58
サービスプラグ 58
先読みエコドライブ..... 56
事故が発生したとき..... 60
始動できないときは..... 531
始動方法 180
車両接近通報装置 56
充電..... 55
注意..... 58
特徴..... 53
特有の音と振動 55
パワー（イグニッション）スイッチ .. 180
補機バッテリーがあがった..... 538
メンテナンス・修理・廃車するとき 56
ハイブリッドシステムインジケーター79
ハイブリッドトランスミッション
パドルシフト 196
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 485
ハザードランプ（非常点滅灯）
電球（バルブ）の交換..... 485
挟み込み防止機能
パノラマムーンルーフ..... 159
パワーウインドウ 155
パワーバックドア 118
発炎筒 489
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 485
バックドア..... 112
発進遅れ告知機能..... 267
バッテリー（駆動用電池）
充電について 55
搭載位置..... 58
冷却用吸入口 61
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯 499
搭載位置.....454
補機バッテリーがあがった 538
パドルシフトスイッチ.....190, 196
バニティ（化粧用）ミラー.....432
バニティミラーランプ
装備について.....432
パノラマムーンルーフ
操作 158
ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能 159
挟み込み防止機能 159
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....485
パワー（イグニッション）スイッチ
自動電源 OFF 機能.....183
ハイブリッドシステム始動のしかた...180
モードの切りかえ 183
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 157
閉めることができないときは 155
初期化.....155
操作 155
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...156
挟み込み防止機能 155
巻き込み防止.....155
パワーコントロールユニット.....58
パワーステアリング 380
警告灯.....500
パワーバックドア 112
挟み込み防止機能 118
ハンズフリーパワーバックドア.....116
パンク応急修理キット.....522
パンクした
タイヤ空気圧警告灯 501
タイヤパンク応急修理キット 522
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 485
ランプスイッチ.....205

ハンズフリーパワーバックドア 116
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 143
ステアリングヒーター..... 408
パワーイージーアクセスシステム 162
ポジションメモリー..... 162
メーター操作スイッチ..... 87

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）..... 379
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）..... 380
ヒーター
エアコン・デフォッガー..... 399
シートヒーター 408
ステアリングヒーター..... 408
ミラーヒーター 404
非常時給電システム..... 434
非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換..... 485
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換..... 485
ランプスイッチ 205
ヒューズ 483
表示灯 71
日よけ（サンバイザー）..... 432
ヒルスタートアシストコントロール 380

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 538
ブーストメーター..... 91
フォグランプ..... 214
スイッチ 214
電球（バルブ）の交換..... 485
輻射ヒーター..... 408
ブザー
シフトダウン制限警告 191, 196
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....278
手放し運転警告（LCA）.....252
手放し運転警告（LTA）.....248
ドライバーモニター 235
パーキングブレーキ未解除走行時警告 201
パノラマムーンルーフ警告 159
窓開警告.....156
リバース警告.....189, 195
フック
買い物フック.....420
けん引フック.....495
コートフック.....431
デッキフック.....420
ネットフック.....420
フロアマット固定フック 24
フューエルメーター 74
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた.....221
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....394
冬用タイヤ.....394
ブラインドスポットモニター（BSM）.....299
プラスサポート 387
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS 警告灯 501
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能 237
プリクラッシュブレーキ.....238
ブレーキ
回生ブレーキ.....54
緊急ブレーキシグナル 380
警告灯.....498
パーキングブレーキ 199
ブレーキホールド 202
メンテナンスデータ 558

ブレーキアシスト 379
ブレーキフルード 558
ブレーキホールド 202
フロアマット 24
フロントオートエアコン 399
フロントクロストラフィックアラート（FCTA) 265
フロントシート
シートヒーター 408
シートベンチレーター 408
正しい運転姿勢 25
調整 133, 134
手入れ 452
パワーイージーアクセスシステム 162
ヘッドレスト 140
ポジションメモリー 162
メモリーコール機能 164
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 485
方向指示レバー 198

へ

平均車速 88, 92
平均燃費 88, 92
ヘッドアップディスプレイ 84
設定 86
走行状況表示 84
ヘッドランプ
クリーナー 215, 219
電球（バルブ）の交換 485
ライトセンサー 207
ランプ消し忘れ防止機能 207
ランプスイッチ 205
ヘッドランプオートレベリングシステム 207
ヘッドレスト 140
ベンチレーター（シートベンチレーター）..... 408

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 467
メンテナンスデータ 559
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 485
方向指示レバー 198
ホーン（警音器）..... 143
補機バッテリー
搭載位置 454
補機バッテリーがあがった 538
ポジションメモリー 162
保証 9
ボトルホルダー 418
ボンネット 454
開け方 454

ま

マイセッティング 166
Max cool 402
Max heat 402
マルチインフォメーションディスプレイ 82
運転支援システム情報 89
オーディオシステム連携 90
Gear Position 92
警告メッセージ 506
G モニター 92
水温計 91
スポーツゲージ 91
走行情報表示 88
タイヤ空気圧 459
提案サービス機能 94
ナビゲーションシステム連携 89

表示項目 82
ブーストメーター 91
メーター操作スイッチ..... 87
油圧計 91
油温計 91
レーダークルーズコントロール 274
割り込み表示 82

み

ミラー
アウターミラー 152
デジタルインナーミラー..... 144
ドアミラー 152
バニティミラー 432
ミラーヒーター 404
リヤカメラウォッシャー..... 219

め

メーター
計器類 74
警告灯 498
警告メッセージ 506
照度調整 82
時計 74
ハイブリッドシステムインジケーター . 79
表示灯 71
マルチインフォメーションディスプレイ82
メーター操作スイッチ..... 87
メカニカルキー..... 101
メモリーコール機能..... 164
メンテナンスデータ 554

も

モーター（電気モーター）..... 58
モーターでの走行（EV ドライブモード）
..... 184

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....560
雪道ですべって動けない（スタックした）
.....550
油脂類.....554

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 485
ランプスイッチ.....205
ラゲージルーム 420
ラジエーター
オーバーヒート 545
メンテナンスデータ 556
ランプ
アダプティブハイビームシステム.....209
コーナリングランプ.....208
室内灯.....412
電球（バルブ）の交換 485
非常点滅灯（ハザードランプ）.....489
ヘッドランプ（前照灯）.....205
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウイ
ンカー）.....198
ライトセンサー.....207
ランプ消し忘れ防止機能 207
リヤフォグランプ.....214
ランプ消し忘れ防止機能.....207

り

リバース連動機能 153
リヤウィンドウデフォッガー.....404
リヤエアコン 407
RCTA（リヤクロストラフィックアラー
ト）.....326
リヤシート 135
ヘッドレスト.....140

リヤシートリマインダー機能 108
リヤ席シートベルト非着用警告灯... 501
リヤドアサンシェード 433
リヤフォグランプ..... 214
スイッチ 214
電球（バルブ）の交換..... 485
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 485
方向指示レバー 198

る

ルームミラー（インナーミラー）.... 144

れ

冷却水
冬の前の準備 394
メンテナンスデータ..... 556
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 545
メンテナンスデータ..... 556
レーダークルーズコントロール 272
警告メッセージ 277
接近警報 278
レーンチェンジアシスト（LCA）.... 251
レーンディパーチャーアラート（LDA）
..... 255
レーントレーシングアシスト（LTA）246
レクサスクライメイトコンシェルジュ
..... 398
レバー
シフト 186, 192
方向指示 198
ボンネット解除 454

ろ

ロードサインアシスト（RSA）..... 269
ロック
ウインドウロック 157
スマートエントリー＆スタートシステム
..... 127
チャイルドプロテクター 110
ドア 106
ワイヤレスリモコン 101

わ

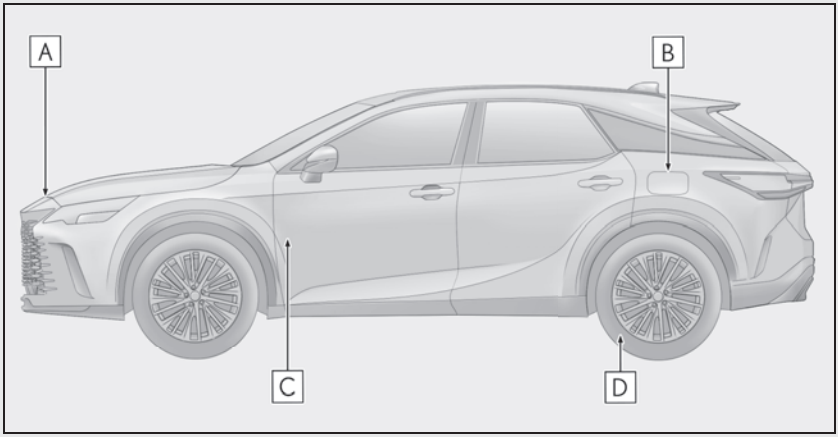
ワイパー＆ウォッシャー.....215, 219
ウォッシャー液の補充 457
ワイパー停止位置の切りかえ.....218
ワイパーブレード（寒冷地用）.....395
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）..424
ワイヤレスリモコン
作動の合図..... 108
操作 101
電池の交換..... 480
半ドア警告ブザー 108
ワックス 448

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- オーディオ
- パノラミックビューモニター
- ナビゲーションシステム
- 音声対話サービス
- ハンズフリー
- G-Link
- ETC2.0 システム
- ドライブレコーダー

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.454）

B 給油口（→P.222）

C ボンネット解除レバー（→P.454）

D タイヤ空気圧（→P.559）

燃料の容量（参考値）	65.0L	
燃料の種類	・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※1 ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2	P.554
タイヤが冷えているときの空気圧		P.559
エンジンオイル容量（参考値）		P.554
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.554

※1RX350h：無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※2エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

Publication No. M48Q38V
01-2610
RX500h / RX350h